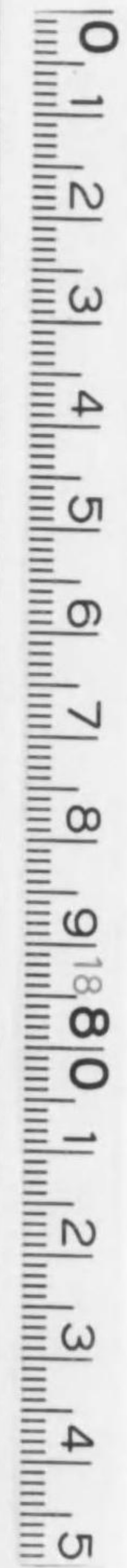


R780. 3-N777



1200500767611

R780.3
N777



始



R
7803
N77

昭和八年版



日本スポーツ人名辭典



日本スポーツ協會刊

以暢達
一郎

己年

真山

以暢達

貫日精誠震天下

秀雄



卷頭の辭

西紀一九三二年、昭和七年こそは吾人日本國民にとつて、有らゆる方面に於て感銘すべく、記憶すべき事柄の多い歳であつた。

就中ロスアンゼルスの第拾回オリムピック大會に於ける日本代表選手の空前の活躍こそは、其尤たるものゝ一であらねばならぬ、蓋し其健闘振りは眞に近來の痛快事にして帝國の威信發揚と國際親善に貢獻する所絶大なるものがあつたからである。

然も今其の華々しき戦跡を検討し、涙含ましき奮闘の迹を顧みる時、座るに明治末期以來幾多諸先輩並に先覺者の犠牲的努力を回想せざるを得ない、げに羅馬は一日にして成らずの感懐深きを覺ゆ。

於茲乎明治以降我スポーツ界の表裏に活躍し、心身捧げたる數多の先覺者並に現在斯界の第一線に雄躍しつゝあり、總ては次時代の名戦士輩出の動因ともなるべき現代スポーツマンの略歴及戦跡を一眸の下に蒐集し、以て梓に上し「日本スポーツ人名辭典」と名付けた、蓋し眇たる本書にして我國スポーツ界の過去を記念し、現在を闡明し、併せて將來を指南するの一助ともならば、編

者の所志の一端は酬いられたるものと言ふべきである。
若し夫れ内容装幀等の意に充たざる所は刊を重ぬるに従ひて完璧を期す
べし、以て諒せられん事を。

昭和八年十二月

編者識

日本スポーツ人名辭典

目次

一 題 字	鳩山文部大臣
一 題 字	横田秀雄博士
一 卷頭の辭	
一 氏名總索引	一七
一 凡 例	三
一 本 文	(五十音別)
一 附 錄 目 次	
一 各種競技記錄表	一三
一 各種運動競技場及球場	一四
一 全國的體育運動團體一覽	二
一 全國學生體育運動團體	一
一 府縣及植民地に於ける主なる體育運動團體	三

油井秋平	旭川吉市	合田登	粟屋謙	粟野正	有村家	有馬三	有馬賴	有富正	有津佳奈	有田富士	有川源太	有川源二	有賀長	有賀長	有新	新井	新井	新井	新井	荒木	荒木	荒木
井	川	田	屋	野	村	馬	馬	富	津	田	川	川	賀	賀	新	新	新	新	新	荒	荒	荒
秋	幸	太			家	三	賴	正	奈	士	太	二	長	長	井	井	井	井	井	子	榮	次
平	吉	市	登	謙	正	齊	寧	輝	馬	夫	清	郎	郎	美	文	茂	雨	彦	男	治	裕	操
井	川	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
口	喜	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
常	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
雄	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
井	川	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
口	喜	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
常	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
雄	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
井	川	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
口	喜	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
常	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
雄	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
井	川	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
口	喜	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
常	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太
雄	一	代	藏	郎	郎	郎	郎	郎	喜	郎	紀	治	一	雄	意	郎	夫	純	己	雄	一	太

赤城五郎	赤川壽太	青野金次	青野芳三	青山孝	青山由	青山幸	青地三	青木錦太	青木恭太	青木安	青木直	青木泰	青木家	青木修	青木良	青木辰	青木菊	青木武	青木雄	阿部治	阿部慶	阿部喜	阿部軍	阿部孝	阿部彦	
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

氏名總索引

奧田芳太郎	奧田正一郎	奧田二幸郎	奧田直虎	奧田新	奧田延次	萩野貞行	萩野力雄	沖野福夫	沖野芳勝	岡元助	岡本喜作	岡本恭茂	岡本利彌	岡本三平	岡本不二	岡本港一	岡村孝博	岡見吉景	岡部部長	岡部平太	岡部榮一	岡部惣内	岡部久義	
加月秋芳	加瀬喜一郎	加賀島辰四郎	加賀山辰四郎	加賀賀一之郎	恩田猛	表面谷	折内貞	鬼澤信	乙部融	落合慶四郎	落合幾	落合正	落合義	落合清	押川清	奧村安太郎	奧村勝	奧村廣	奧野文次郎	奧野小四郎	奧野豐	奧野清	奧野良	奧野吉
加藤伊三郎	加藤新次郎	加藤佐兵衛	加藤吉	加藤正	加藤治	加藤春	加藤彰	加藤鐵	加藤一	加藤喜	加藤芳	加藤重	加藤泰	加藤愛	加藤國	加藤寬	加藤正	加藤方	加藤恭	加藤武	加藤高	加藤茂	加藤廉	加藤茂
甲斐藏	掛下鐵	掛川マ	掛内	海手	海山	改野	嘉納治	嘉納五	嘉納健	嘉納文	鹿房	鹿正	鹿精	鹿西	賀川國	香山	香新	香之	香純	加茂武	加納友	加納陽	加納克	加納軍

氏名總索引

大塚金次郎	大塚松次郎	大塚速見郎	大塚精	大塚桂	大塚巖	大津麟平	大津助	大谷友右衛門	大谷豐太郎	大谷雪之助	大谷友之助	大谷信明	大谷岩松	大谷友三	大谷友壽	大谷義男	大谷一男	大谷力藏	大谷尊由	大谷武一	大谷光明	大谷明郎	大谷滋水	大湖清次郎	大島政之助
大村一藏	大村秀	大村町	大村成	大村勝	大村久	大林義	大林康	大橋新	大橋靜	大橋男	大橋吉	大橋雄	大橋勇	大橋也	大橋則	大橋廣	大橋規	大橋治	大橋九	大橋光	大橋八	大橋仲	大塚承五郎	大塚松太郎	
及川繁雄	織田雄	織田子	織田義	織田衛	太田兵衛	太田源	太田和	太田政	太田幸	太田富	太田元	太田義	太田博	太田輪	太田八	太田正	太田芳	太田金	大和田	大和田	大和田	大和田	大和田	大和田	大和田
岡野好太郎	岡野幹	岡野源	岡野三	岡野之	岡田一	岡田貴	岡田敏	岡田泰	岡田佐	岡田俊	岡田良	岡田幸	岡田英	岡田盛	岡田利	岡田孝	岡田忠	岡田一	岡田文	岡田泰	岡田庄	岡田五	近江久	及川良	

小泉正義	小泉親彦	小石川智藏	小磯下子	小池厚之助	小池禮三	小池之助	小形幸次郎	鐵形幸次郎	鐵形之助	紅林武男	申田萬藏	桑原二郎	桑原武夫	桑田武夫	桑島秀太郎	桑澤愛之助	桑江良藏	黑山高鷹	黑田上子	黑田忠司	黑田鎮夫	黑田健吾	黑田龍馬	黑田長吉	黑田保次	
.....
二七	二七	二二	一四	一一	一一	一〇	一九	一九	一九	一三	一一	二五	二六	二六	三〇	二九	二九	二八	二八	二九	二九	二七	二六	二五	二四	二四
小島利男	小島久壽郎	小島三弘	小島三雨	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉	小島三吉
.....
三三	三三	三三	三〇	二五	二二	一八	一五	一五	一八	二一	二六	二七	二九	三二	三三	三三	三四	三五	三五	三四	三三	三三	三三	三三	三三	三三
小林治	小林幹	小林喜二	小林宗三	小林作三	小林清三	小林秋三	小林雅三	小林定三	小林爲三	小林正三	小林悟三	小林英三	小林良三	小林政三	小林棟三	小林達三	小林幹三	小林利三	小林武三	小林清三	小林正三	小林世三	小林凱三	小林秀三	小林三三	
.....	
六九	一〇	二二	二五	二六	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	

久保新吉	久保正義	久保邦久	久保大助	久世賀之助	久世正行	工藤健一	工藤幸一	工藤大男	工藤之男	祇園少部	錦原兵藏	桐原真二	桐原光夫	切谷武夫	京谷武界	清谷太郎	清川正二	清川成透	清瀨三雄	清瀨三郎	清瀨二郎	清瀨二郎	清瀨二郎	清瀨二郎	公文盛義
.....
二七	二七	二七	二八	一八	一五	一〇	二二	二二	二二	二七	二八	二八	二九	二九	二八	二七	二七	二七	二六	二六	二七	二七	二七	二七	二二
國末造	國廣造	國友造	國田造	葛原造	楠本造	楠本造	楠本造	楠本造	楠本造	井野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造	草野造
.....
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
倉持雄	倉持仁	倉持幸三	倉持彌三	倉持多兵衛	倉持吉美	倉持美文	倉持盛文	倉持太盛	倉持浩一	倉持美信	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄	倉持信雄
.....
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
黑田敏郎	黑田武定	黑田長和	黑田吉二	黑田豐三	黑田正三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三	黑田三三
.....
四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三

佐藤政治	佐藤雄夫	佐藤義夫	佐藤建夫	佐藤新治	佐藤貞吉	佐藤登夫	佐藤匡雄	佐藤五郎	佐藤茂郎	佐藤孝孝	佐藤潔利	佐藤茂郎	佐藤利彦	佐藤野壽	佐藤竹壽	佐藤竹周	佐藤田金	佐藤田德	佐藤竹直	佐藤竹忠	佐藤田伴	佐藤木三	佐藤木善	佐藤木貞	佐藤木次	
三	四	四	七	三	三	二	二	五	八	四	二	六	一	五	四	九	五	三	四	四	二	三	三	一	三	三
佐藤與喜男	佐藤榮太郎	佐藤富太郎	佐藤喜太郎	佐藤德太郎	佐藤秀三郎	佐藤謙之助	佐藤嘉長	佐藤義江	佐藤昌介	佐藤幸三	佐藤東洋	佐藤龍男	佐藤惣八	佐藤正雄	佐藤次利	佐藤維孝	佐藤信一	佐藤義藏	佐藤房男	佐藤正夫	佐藤重雄	佐藤正男	佐藤嘉男	佐藤忠男		
〇	〇	〇	四	八	一	三	三	二	二	二	八	五	一	五	四	四	四	二	五	〇	九	九	九	四	四	
齊藤基義	齊藤泰雄	齊藤秀雄	齊藤建夫	齊藤盈夫	齊藤弘義	齊藤愛吉	齊藤武正	齊藤萌義	齊藤義造	齊藤康一	齊藤藏康	齊藤原三郎	齊藤原五郎	齊藤野浩三郎	齊藤安太郎	齊藤滿明	齊藤利器	齊藤達次郎	齊藤來四郎							
六	六	九	五	五	七	六	一	四	二	三	七	四	四	三	九	七	一	六	七	六	三	九	一	一	五	
坂本一角	坂野秀雄	坂戸淺一	坂田一格	坂田守全	坂田下三	坂田倉敏	坂田上安	坂田井一	坂田井重	坂田谷芳	坂田村五	坂田藤大	坂田藤春	齊藤藤一	齊藤藤德	齊藤藤完	齊藤藤重	齊藤藤政	齊藤藤一	齊藤藤茂	齊藤藤善	齊藤藤吉				
二	四	九	〇	六	五	四	五	二	〇	七	五	一	二	三	三	三	二	四	三	二	一	二	二	七		

古藤猪一	古藤館三	古藤在直	古賀浦茂	古賀三夫	古賀末次	古賀恒吉	木庭新雄	小安重平	小安又利	小安正進	小安丸勝	小山山吉	小山山善	小柳貫之	小室俊夫	小宮山三郎	小宮山四郎	小宮山四郎	小宮山一夫	小宮山盛夫	小松清一	小松安衛	小松仁郎		
〇	二	四	一	二	三	三	一	〇	四	四	二	五	一	六	三	三	四	三	二	一	七	四	七	三	
河野美代治	河野志夫	河野通和	河野通四	河野弘一	河野守道	河野春弘	後藤網直	後藤素長	後藤長一	後藤藤正	後藤川八太郎	五味代正	兒玉正忠	兒玉龍保	兒玉伊織	兒玉博助	兒玉俊之	兒島英一	古藤正夫						
七	一	五	六	六	四	四	一	五	四	三	二	五	二	六	五	八	七	四	三	四	二	八	二	二	
近藤治郎	近藤明郎	近藤朗男	近藤利男	近藤英逸	近藤茂吉	近藤二信	近藤知勝	近藤盛善	近藤彌一	近藤文磨	近藤野三郎	今野里東	駒野秀次	越ノ海幸次	越川助三郎	越川木壽太郎	國分國隆	興呂木盛	高野四方	高野禮治	河野岩三郎	河野喜造			
九	三	二	九	九	六	三	五	四	三	三	二	一	三	二	五	二	五	三	二	七	四	八	八	二	九
佐々木勝磨	佐々木久茂	佐々木義雄	佐々木道夫	佐々木重孝	佐々木健廣	佐々木五郎	佐々木了英	佐々木鐵郎	佐々木久吉	佐々木美等	佐々木間幸政	佐々木久間八郎	佐々木伯喜三郎	佐々木伯英四郎	佐々木幸之部	幸田二夫	九田福馬	昆正助	江利兵衛	近藤八郎	近藤利兵衛				
一	一	八	四	一	一	〇	〇	八	四	五	三	二	八	三	二	一	二	〇	二	二	五	二	四	四	

下川金次郎	下川捷二郎	島村吉夫	島村正男	島津金太郎	島津久敬	島谷八助	島田喜兵衛	島田新藏	島田秀一	島田晴	島田	島田	島田	島田	島田	島田	島田	柴田善兵衛	柴田忠兵衛	柴田卓三	柴田享一	柴田夕力	
.....
六	二	〇	〇	九	四	三	二	八	八	九	二	七	二	一	二	二	二	二	六	二	七	九	三
白勢三郎	白洲次郎	白石克己	白石昂	白石明	白石義夫	白石二	白石	徐次郎	莊田	莊田	莊田	莊田	莊田	莊田	莊田	莊田	莊田	下田	下田	下田	下田	下田	下田
.....
〇	二	二	六	二	二	二	三	〇	〇	二	二	一	七	五	八	一	四	二	七	四	一	八	三
末田敏雄	末田	諏訪太郎	須藤太郎	須藤太郎	須藤太郎	須藤太郎	須藤太郎	須藤太郎	神代	神代	神代	神代	神代	神代	神代	神代	神代	新庄	新庄	新庄	新庄	新庄	新庄
.....
八	四	九	六	六	四	九	八	四	一	七	九	七	七	九	七	九	四	一	二	六	一	九	八
鈴木浩	鈴木	江八重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重	江重
.....
一	一	四	二	一	四	二	五	八	一	一	四	三	二	九	四	六	一	三	八	七	六	七	一

征尾太	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭	櫻庭
.....
二	三	六	八	四	七	三	二	五	三	二	二	三	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
志道吉次	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道	志道
.....
五	八	〇	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田	鹽田
.....
七	二	〇	一	四	三	五	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
柴田隆	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田
.....
四	二	六	一	四	〇	九	八	五	八	五	八	四	三	八	三	八	一	二	六	三	二	四	二

田中秀雄	田中治郎	田中進一郎	田中修三	田中義一	田中慶雄	田中勝雄	田中工實	田中實傳	田中福龍	田中龍子	田中子雄	田中不末	田中代秀	田中代菊	田中代信	田中島愛	田中島五	田中島四	田中島錦	田中島豐	田中島堅	田中澤文				
九	八	〇	二	二	六	三	一	九	二	九	五	三	三	四	四	〇	三	三	五	六	一	四				
田野井豐吉	田中館愛橋	田中肥後太	田中喜左衛門	田中晴之輔	田中孝連	田中注之助	田中銀太郎	田中慶太郎	田中虎之助	田中芳太郎	田中彦三郎	田中房次郎	田中庄次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎	田中中次郎			
一	三	三	〇	四	七	五	四	五	四	一	三	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇			
多勢正一郎	多賀儀安	多賀山始	田山本	田村專之	田村安	田村順	田村豐	田村義	田村顯	田村義	田村德	田村良	田村秀	田村行	田村門	田宮惣左衛門	田宮宗正	田宮欣次	田丸慶治	田丸武夫	田部武郎	田畑昇太郎	田邊又右衛門	田邊輝夫	田邊宗英	田邊朝夕
四	二	六	八	八	五	二	〇	三	六	〇	二	三	三	六	〇	三	四	六	四	五	五	五	五	四	五	〇
高瀬信郎	高須賀直	高島靜子	高島音松	高澤智三	高砂浦五郎	高崎義男	高久義	高木恒次郎	高木正征	高木喜寬	高木進	高石眞五郎	高石確之助	高石勝男	高石文男	大門憲勝	大門憲勝	大門憲勝	大邱山十郎	伊達正男	伊達正男	伊達正男	伊達正男	伊達正男	伊達正男	伊達正男
一	四	四	〇	〇	三	四	二	五	〇	二	一	三	六	九	七	二	四	四	八	五	四	六	七	二	二	

鈴木健雄	鈴木平之	鈴木彪二	鈴木政太	鈴木西一	鈴木喜男	鈴木喜政	鈴木喜重	鈴木善重	鈴木鐵善	鈴木準一	鈴木貞一	鈴木武雄	鈴木高規	鈴木利治	鈴木島松	鈴木章之	鈴木傳明	鈴木清男	鈴木盛男	鈴木茂一					
七	七	六	六	五	五	三	三	二	二	二	二	二	二	一	六	一	一	九	九	八	五				
砂澤彌平	鈴木美正	鈴木光次	鈴木義太郎	鈴木彦三郎	鈴木松助	鈴木政治	鈴木虎助	鈴木祐助	鈴木嘉信	鈴木留次	鈴木政雄	鈴木重孝	鈴木幸藏	鈴木安丸	鈴木正次	鈴木正三	鈴木健之	鈴木貫一	鈴木幸三	鈴木仁童	鈴木太房	鈴木周			
八	一	七	七	六	六	六	五	四	二	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二		
關根信一	關根源吉	關根常三郎	關根三郎	關根明郎	關根慶一郎	關根孝五郎	關根沙萬	關根利河	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄	關根誠雄
二	一	一	二	二	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
田坂重光	田口一之	田口政吉	田口淺吉	田口一太	田口正人	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正	田口上正
七	九	五	四	六	二	九	六	八	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

辰馬	辰野	橋野	立浪	立中	立田	立川	立石	立石	唯萬	武村	武村	武滿	武津	武津	武部	武田	武田	武田	武石	武井	武井	竹村	竹村	竹馬
健	茂	右衛門	善	助	博	郎	榮	藏	雄	清	雄	彦	平	壽	義	之	一	雄	介	忠	孝	茂	榮	一
力	吉	保	作	助	博	郎	榮	藏	雄	清	雄	彦	平	壽	義	之	一	雄	介	忠	孝	茂	榮	一
二	六	五	八	六	七	七	一	八	三	七	二	二	三	三	九	六	九	七	五	四	六	六	八	八
玉	玉	玉	玉	玉	玉	玉	種	環	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷	棚	棚	碓	館	龍	龍	辰	
井	錦	島	川	井	井	井	子	之	本	城	澤	澤	崎	川	井	三	三	木	石	山	村	田	馬	
俊	壽	威	計	謙	良	秀	虎	勇	一	輔	一	雄	雄	助	夫	郎	五	治	操	夫	一	德	計	
次	喜	恭	司	延	一	操	穗	雄	一	輔	一	雄	雄	助	夫	郎	五	治	操	夫	一	德	計	
三	三	八	六	九	九	五	〇	三	八	三	二	四	二	六	三	七	五	六	三	八	九	〇	五	六
津	津	長	鏡	陳	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	平	檀	檀	園	丹	丹	依	爲	玉
崎	坂	曾	子	之	葉	葉	葉	葉	野	野	野	野	野	野	野	子	上	上	伊	野	野	積	成	利
象	新	我	瀨	內	敏	安	一	恒	四	正	直	信	一	夫	郎	之	幸	三	伊	野	野	積	成	利
敬	吉	部	仙	鹿	雄	吉	郎	及	雄	郎	人	之	夫	郎	部	昌	汎	能	郎	丹	雄	一	助	
一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	三	三	二	三	三	六	三	二
辻	辻	筑	塚	塚	塚	塚	塚	塚	都	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津
雄	波	本	本	田	田	田	島	越	築	山	村	峰	野	野	田	田	田	田	田	田	田	島	島	
雄	嶺	玄	正	正	良	正	武	正	武	秀	正	英	寬	隆	之	口	一	一	正	義	是	是	市	
二	三	四	二	五	四	六	五	五	一	四	一	六	六	六	六	三	六	二	一	三	五	五	二	

高橋	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野	高野
登	花	惣	孫	甲	佐	茂	百	重	爲	仁	奈	登	喜	榮	一	靜	三	時	健	勝	力	直	政	
武	太	二	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
明	涉	也	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
四	五	四	六	五	四	一	二	三	七	三	三	四	二	四	六	六	三	三	七	八	九	〇	九	二
高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋
廉	數	是	重	初	鉄	良	武	年	有	隆	國	忠	佐	俊	市	良	時	勝	相	俊	成	成	成	
司	良	賢	藏	治	雄	衛	夫	廣	一	三	清	見	吉	雄	雄	治	夫	司	信	子	夫	忠	誠	
七	六	六	四	二	〇	〇	九	九	六	五	四	七	三	三	七	三	三	三	三	七	七	五	九	二
高山	山	山	柳	柳	柳	柳	森	村	見	松	松	廣	濱	昌	喜	赴	和	勝	章	富	外	喜	濱	
卯	昌	一	榮	義	國	好	有	義	準	定	靜	三	德	二	三	太	多	利	郎	助	助	助	助	
郎	卓	雄	二	三	男	郎	吉	雄	一	一	男	郎	一	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	
九	八	二	二	九	〇	二	三	九	七	〇	一	三	四	二	四	四	五	三	三	二	二	二	四	八
竹原	竹原	竹野	竹之	竹永	竹中	竹谷	竹下	竹下	竹尾	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	竹內	
滿	入	內	照	馬	勝	太	義	義	澄	佐	虎	安	徹	愛	正	彦	勇	純	政	實	實	實	實	
志	弘	一	男	義	治	義	郎	章	胤	晉	一	士	一	二	一	勝	一	二	三	三	三	三	三	
二	三	八	四	九	三	七	三	七	四	六	三	六	三	四	七	三	五	四	九	三	二	一	八	三

山田平一	山田義信	山田五男	山田富衛	山田義理	山田義隆	山田義邦	山田三衛	山田利衛	山田憲一	山田康三	山田辰雄	山田啓吾	山田良三	山田行正	山田三吉	山田淳二	山田正榮	山田爲三	山田健三	山下又三	山下義三	山下友城	山下亦一	山下篤治	山下良雄	
.....	
三	四	四	三	三	三	三	九	六	六	〇	六	八	九	三	二	三	四	二	四	七	一	五	三	五	〇	
山本久繁	山本正雄	山本爲治	山本正壽	山本忠興	山本實鼎	山本實昇	山本博男	山村一助	山室宗文	山根福次	山根英定	山中良一郎	山中利敏	山中宗行	山中利次	山中要次	山地土男	山谷佐太郎	山田安次郎	山田三太郎	山田傳一郎	山田傳一郎	山田傳一郎	山田傳一郎	山田傳一郎	
.....	
三	四	二	〇	一	三	三	七	三	五	一	二	九	三	三	五	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八
山弓創德治	山弓館芳夫	山谷之茂	大和元衛	山分嘉右衛門	山脇正勝	山脇正吉	山本忠治	山本幸次郎	山本源十郎	山本鈴助	山本精太郎	山本秀兵衛	山本寬二	山本昇次郎	山本菊平	山本正治	山本欽治	山本義男	山本哲實	山本五郎	山本勇吉	山本東雄	山本松雄	山本松雄	山本松雄	
.....	
一	一	一	三	三	三	二	二	八	五	三	九	三	〇	四	三	三	三	三	三	九	二	二	二	二	三	
橫塚伯多	橫田義夫	橫澤憲雄	橫尾三郎	橫尾勝馬	橫尾仙吉	橫尾健藏	橫井野藏	與田春野	依田徹信	余島安次郎	余島正次郎	四谷之助	遊佐正憲	結城素松	結城明融	湯山謙三	湯本幸一	湯本幸一	湯本幸一	湯口正次	湯淺千代子	湯淺榮子	湯淺元男	湯淺元男		
.....		
六	一	二	四	七	八	二	六	四	三	五	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二		

八幡錦秀雄	八塚利三郎	八田野義三郎	八十川野三郎	八木澤德五郎	八木千代三郎	八木寅次郎	八木三男	八木徹夫	八百野唯之部	最上徳四郎	榎山又次郎	諸角計明	諸田康一	盛田喜平	森山常平	森山守正	森山繁義	森本忠勝	森本千吉	森本弘雅	森本市左衛門	森村義行	森村義行	森村義行
.....
三	七	二	二	七	四	三	六	四	三	四	三	五	六	二	一	四	三	一	一	二	一	二	一	一
安國幸左衛門	安川猪佐美	安川第五郎	安井曾太郎	安井重松	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作	安井金作
.....
四	〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮	山内亮
.....
三	四	一	三	〇	〇	二	九	〇	二	六	二	四	〇	六	六	六	四	四	三	三	二	一	三	三
山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實	山下武實
.....
一	五	八	三	三	九	二	四	三	八	四	三	七	二	七	八	〇	一	二	二	六	五	二	一	九

渡邊菊藏	渡邊誠藏	渡邊武藏	渡邊六郎	渡邊正三	渡邊敏一	渡邊直夫	渡邊哲治	渡邊敏雄	渡邊綱治	渡邊大造	渡邊榮吉	渡邊彌幸	渡邊保學	渡邊五郎	渡邊實孝	渡邊融孝	渡邊清融	渡邊巖正	渡邊近正	渡邊央夫	
.....
.....
.....

吉田五平	吉田住	吉田澤	吉田木	吉田川	吉田川	吉田岡	吉田岡	吉田浦	吉田池	吉田屋	吉田屋	吉田山	吉田山	吉田山	吉田山	吉田山	吉田山	吉田本	吉田道	吉田溝	吉田溝	吉田松	吉田濱	吉田五	
.....
.....
.....

凡例

- 一、本辭典は主として本協會の記者及編輯部員、數名の調査係が運動關係者に直接面會し自ら記事及記録を聴取して其事實を基礎として編纂したるものなり。
一、収録の一部分には本人と面接不能の爲め種々の文献參考書等に依りたりものもあり。
一、入念正確をモットーとして編輯したるも何分未曾有の事業にして且範圍の餘りにも廣汎なるを是を短日月に纏めたる關係上尙又抜者の多數なりし爲多少の粗漏過誤無きを保し難し。
一、最新調査に依り各方面に涉り能ふ限り正確完全を期せるも記録の更新、住所の移轉等變動殆んど常なし、是等は擧げて記事の誤謬と共に今後適當の機會に於て訂正せんとす。願はくば御氣付の點高教あらん事を。
一、本辭典編輯に當り幸に各運動團體、各學校及江湖の熱烈なる贊同と御援助を辱し只管感激に堪へず、唯ある運動團體關係の役員中本事業の趣旨に對し遂に理解を得ざりし向二三ありたるはスポーツ文章報國の爲め聊か遺憾とする所なるも、本書已に世に出づれば吾人の意の存する所も諒とせらる可く、本書の再版に方りては必ずや絶大の援助を寄されざる可きを今より信じて疑はず。
一、氏名總索引は(五十音別)とし編纂の都合上本文を調査順としたる爲め、雜然たる感あるは充分に寛恕を得るものと思惟す。
一、同一姓のもの例へば小山をコヤマ或はオヤマと呼ぶ如き疑はしきものは一般的の讀み方に従ひたり。
一、刊行豫定期日の切迫により重要な人物を遺漏したるもの抄しとせず、是亦改訂増補の際補足する事勿論なり。
一、本辭典の特色の一例。社交的辭典、各體育關係の參考資料、スポーツ關係者の氏名と其略歴及記録調査資料、スポーツマンの子孫に傳ふる不滅の家寶典。
一、本辭典はスポーツ紳士録として會社、銀行、學校、圖書館、諸官廳、各體育關係、各種團體、各青少年團、スポーツファン等には非一部宛常備し活用せられん事を切望して歎息す。

本文説明

- 1. 現住所
2. 生地
3. 生年月日
4. 身長及體重
5. 學校
6. 職業勤務先及資格(所屬團體)
7. スポーツ略歴
(12) 六大都市は「市」を地方町は「郡」を省略(56) 組版上の都合で省略した箇所もあり(7) スポーツ略歴中敬稱を除く。

朝吹常吉(籃球)

東京芝罘下高輪町五七
日本籃球協會顧問
明治十年に生る。三井の柱石故朝吹英二氏の男にて同二十六年慶大卒業英國に留學歸朝後日本銀行に入行、同三十九年辭し再び渡米歐州後千代田組を創設し大正七年三統黨務となり後帝國生命保險社長となる。前日本籃球協會會長として硬球界發達に盡す所甚大なり。又大日本體育協會監事の要職にあり。其他東京ゴルフクラブ所屬のゴルフアとして著名。

阿部彦郎(勲上)

東京牛込區矢來町一一二
東京中區區長
明治十四年八月十八日鶴岡市に出生。同四十二年東大法律科卒業。後辯護士開業今日に至る。現東京辯護士會會員たり。在學中は中距離選手として、同三十七年帝大運動會八百米(三分十秒五六)にて優勝其の健闘を揮ふ。我國陸上競技界の先驅者。

有田富士夫(野球)

門司市大久保海岸
門司鐵道局
明治三十三年關西縣に生る。小倉中學を経て大正十四年夏早大商學部卒業。中學時代より投手及一壘手として奮闘。同八年全日本中等學校野球大會に甲子園に出場。大正十年三田稻門戦復活及同年三月第四回米國遠征に投手として渡米。同十三年には其技術人格は推されて第十五代主將の印綬を帯ぶ。同年八月鮮滿各地に轉戦し其強打を以つて鳴る。因に大正十二年秋四割三分五厘にて首位打者となる。卒業後都市對抗戦に出場活躍す。

赤星四郎(ゴルフ)

東京渋谷區金王町二一
明治二十八年五月東京に生る。麻布中學を経て米國に渡り、フイラデルフィヤ大學經濟科卒業。本邦ゴルフ界の第一人者にて、大正十五年昭和三年同五年とに全日本アマチュア選手権を把握す。又乗馬を好み現日本國際馬術協會評議員の要職にあり、ゴルフは程ヶ谷カントリークラブ所屬のゴルフアたり。
新井米吉(ゴルフ)
東京芝罘區月島東通九ノ五
東京機工社代表社員
明治九年十一月二十日東京に生る。工手學校卒業後石川島造船、大阪鐵工所、東京砲兵工廠等に歷勤。又月島鐵工所に入りしも役之を辭し大正七年合資會社東京機工社を創立し機械商を營み今日に至る。獨立力行家として著名。又現在朝霞ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルフア。

荒井賢太郎(體育)

東京小石川區大塚仲町四一
福智館評議員
福智顧問官、文久三年新潟縣に生る。明治二十五年東大法律科卒業。奈良縣收稅長、大藏省主計官、參事官、同書記官、同主計局長、統監府參事官、朝鮮總督府支那部長官を経て加藤友三郎内閣に農商務大臣に歴任し、貴族院議員に勲遷せらる。大正十五年福智顧問官に就任。昭和六年會計検査官、懲戒裁判所長官に任ぜられ、其性格の堅實なる事は著名なり。

荒木寅三郎(體育)

東京芝罘區日白一學習院內
大日本武徳會商議員
慶應二年群馬縣に生る。明治二十年東大醫科卒業。醫化學研究の爲め獨逸に留學。第三高等學校京都帝大教授を経て京大總長となり、昭和四年總長を辭し、同年學習院長に任ぜられ現在に及ぶ。明治三十年醫學博士を授與さる。現在帝國學士院會員及京都帝大名譽教授にして武徳會の商議員たり。

淺野義夫(ゴルフ)

東京芝罘下高輪町五七
鶴見木工株式會社常務取締役
實業家故淺野徳一郎氏の四男。明治二十八年十月十五日東京に出生。大正八年小樽高商を経て直ちに渡米紐約ダレニス商會に勤務し同十年歸朝す。現在鶴見木工、尼崎藥港埋立各社の常務取締役、日下朝霞ゴルフクラブ會員として、アマチュアゴルフ界に健闘す。

安部成嘉(ゴルフ)

東京芝罘區柏木三三七七
横濱正金銀行
慶應二年二月二十四日石川縣に生る。夙に横濱正金銀行に入り、豊港倫敦各支店副支配人、神戸大阪各支店長に歴任す。曾て大阪支店長時代大阪商業會議所特別議員に擧げらる。現在同行監査役の重席にあり。又日下朝霞ゴルフクラブ會所屬のアマチュア

アノ部

一

秋山多吉郎 (剣道)

ユアゴルフアとして知らる。
秋山多吉郎 (剣道)
大日本武徳會剣道範士
大日本武徳會創立者

有馬頼事 (卓球)

東京杉並區上荻窪町八五
有馬頼事 (卓球)
日本卓球會總裁
明治十七年東京府に生る。同四十三

浅野總一郎 (ゴルフ)

東京芝罘田町五ノ一六
浅野總一郎 (ゴルフ)
浅野セメント會社社長
明治十七年七月出生。父總一郎氏歿

後昭和六年前名泰次郎を改め家督相
續をなす。早稲田大學を卒業後洋灰
業研究の爲め歐米各國を視察する事

浅野良三 (ゴルフ)

東京芝罘三田町一〇
浅野良三 (ゴルフ)
浅野セメント會社副社長
明治十七年八月出生。同四十五年米國

浅原昌治 (野球)

朝鮮京城府産産銀行内
浅原昌治 (野球)
朝鮮京城府産産銀行内
明治十九年朝鮮に出生。一高を經

秋元春朝 (ゴルフ)

東京神田區河津四ノ六
秋元春朝 (ゴルフ)
上毛電氣鐵道會社相續役
子爵貴族院議員。明治十四年九月十

浅野八郎 (ゴルフ)

東京麻布區永坂町
浅野八郎 (ゴルフ)
浅野セメント會社取締役
實業界の大立物故總一郎氏の三男。

麻生武治 (スキー)

東京麻布區島居坂町一〇
麻生武治 (スキー)
全日本スキー聯盟事務委員
早大出身。ウオッキンゲの日本記録

浅沼譽夫 (野球)

東京四谷區花園町八七
浅沼譽夫 (野球)
前六大學野球聯盟事務委員
明治二十七年東京に生る。立教中學

明石和衛 (陸上)

東京荏原區中延町一三三
明石和衛 (陸上)
大日本體育協會評議員
明治二十二年東京に出生。大正二年

新井信男 (水上)

東京都上京區吉田上河邊町二
新井信男 (水上)
て活躍し、早大に入りて乗馬クラブ

芦田公平 (野球)

東京小石川區大塚仲町三六
芦田公平 (野球)
東京大學野球聯盟理事
明治二十四年東京に生る。一高を經

青井鉞男 (野球)

西宮市下殿原九
青井鉞男 (野球)
栃木縣出身。宇都宮中學を經て一高

浅野一摩 (剣道)

福岡市東港町一三
浅野一摩 (剣道)
福岡市東港町一三

有賀長文 (體育)

東京麻布區飯倉片町三
有賀長文 (體育)
東京麻布區飯倉片町三
講道館評議員
慶應元年東京府に生る。故法學博士

荒木正次郎 (ゴルフ)

東京神田區東龍岡町八
荒木正次郎 (ゴルフ)
東京神田區東龍岡町八
洋服問屋
明治十年十月出生。夙に東京京橋洋

有馬忠三郎 (ゴルフ)

東京本郷區駒込西片町一〇ノ三
有馬忠三郎 (ゴルフ)
東京本郷區駒込西片町一〇ノ三
特護士

阿部キヨ子 (陸上)

東京世田谷區松原女子體育専内
阿部キヨ子 (陸上)
日本女子體育專門學校
大正五年一月九日秋田縣花輪町に生

有川二郎 (拳闘)

横濱市石川町大丸谷
有川二郎 (拳闘)
横濱市石川町大丸谷
東洋拳闘協會
前名ヤングゴッセン。明治四十二年二

青山孝雄 (馬術)

東京小石川區久堅町七四
青山孝雄 (馬術)
東京小石川區久堅町七四
共同印刷株式會社
明治四十年島根縣に生る。高師附屬

兩宮義信 (野球)

東京日本橋區日本生命内
兩宮義信 (野球)
東京日本橋區日本生命内
日本生命保險東京支店
舊姓水上。明治四十年東京に生る。

浅見淺一 (柔道)

大連市東公園三〇滿鐵本社内
浅見淺一 (柔道)
大連市東公園三〇滿鐵本社内
南滿洲鐵道株式會社
明治三十三年滋賀縣に生る。慶大在

栗屋謙 (體育)

東京小石川區龍町一四一
栗屋謙 (體育)
東京小石川區龍町一四一

日本學生馬術協會顧問
 明治十六年山口縣に出生。同四十年東大法律卒業。内務省に任官後文部省に轉じて宗教實業學務專門學務各局長に歴任し、昭和二年文部次官に陞り同年四月罷む。同六年大藏内閣成るや再び文部次官に任ぜらる。

赤星 陸治 (剣道)
 東京小石川區江戸川町十七丁目。大日本武徳會顧問。實業家明治七年熊本縣に生る。同三十四年東大法律卒業。三菱に入り小岩井農場長を経て三菱地所部長に就任。現在三菱合資會社理事の要職にあり。創設は順免許の隨前にして吾國武道隆盛に盡力す。又東京ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルファー。目下ハンデ一十八。

赤星 五郎 (ゴルフ)
 神奈川縣大磯町東小磯。朝鮮成教會合資會社代表。明治三十年東京に生る。大正十一年東大法律卒業。我國ゴルフ界の權威にして、ゴルフの赤星三兄弟として斯界に其名を博す。東京ゴルフクラブに所屬し、アマチュアゴルフに活躍す。

青木 恭太郎 (柔道)
 静岡市駿河町二丁目。大日本武徳會柔道教士。明治十六年六月静岡に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。現在同地方の子弟を養成及び武道の普及発展に努む。講道館六段。

足立 鐵之助 (蹴球)
 東京麹町區上六番町五五。日本蹴球協會監事。明治十四年九月東京に生る。同四十年京都帝大法律卒業。在學中より軟式界に活躍。大正元年足立太郎の養子となり、家督を相続す。前三年井物産社員たりしが、現三井信託に勤務。

阿部 喜十郎 (野球)
 長野縣南佐久郡榮村宿岩二二七。長野縣出身。長野中學を経て明治四十三年東大理財科卒業。初期早慶戦に(同三十九年秋季)中堅手として初陣。同部の強打者を以て鳴り、常に四五番打者たり。同四十一年布哇遠征に二番手として七勝七敗無効試合一の成績を挙げ、慶大野球部の先鋒者。

浅井 倍之助 (ゴルフ)
 東京芝區車町一。淺井保財社長。明治十八年六月東京に出生。鋼鐵問屋を営み傍らモーターボート商會取締役たり。又ゴルフを好み現に朝霞ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルファーとして健闘す。

浅井 貞吾 (柔道)
 大阪住吉區曙通一ノ六九。大日本武徳會柔道教士。明治三十一年長野縣に生る。武道專門學校出身。大正十二年六月武徳會より教士號を授與さる。六段。現に同地方に於いて斯道の發達に努力す。

浅沼 稻次郎 (漕艇)
 東京深川區三好町四、清砂アパト。市會議員。明治三十年東京に生る。大正末期時代に早大漕艇部の六番手として活躍。大正十二年早大漕艇科卒業。現在新東京市の市會議員にて全國大衆黨の新進政治家たり。漕艇艇友會會員。

厚川 正身 (漕艇)
 静岡縣富士町。富士身延電氣鐵道局長。明治三十五年埼玉縣に生る。大正末期早大漕艇部の整調手として活躍。同十三年早大電氣科卒業。目下富士身延電氣鐵道局長の要職にあり。主任技術者。漕艇艇友會會員。

天野 品一 (柔道)
 大阪東區川區三十四町一〇四。柔道教師。明治十七年島根縣に出生。講道館六段。多年斯道を研究の結果大正九年五月大日本武徳會より教士號を授與さる。昭和四年其技術は推舉され天寶御前試合に指定選手として出場す。

青木 武 (柔道)
 栃木縣足尾町渡良瀬社宅。大日本武徳會柔道教士。明治二十七年一月栃木縣に生る。昭和四年五月武徳會より教士號を授與さる。同年四月天寶武徳會試合に先鋒ある指定選手として出場。講道館五段。

相澤 巖夫 (陸上)
 大阪天王寺區堂ヶ芝町一丸山邊方。阪神銀行電氣會社。昭和六年京大法律科卒業。我國短距離界の名選手として、短中距離に強くアマチュアルダムのオリシヒツタ大會に日本代表選手として出場非常なる活躍をなす。我國短距離界の權威者にて前日本學生陸上競技聯合會の幹事たり。

赤星 鐵馬 (馬術)
 東京府武蔵野町吉祥寺一、八二三。千代田火災保險會社監査役。明治十五年二月鹿兒島縣に出生す。縣下の素封家として知られ、曾て奉昌銀行の頭取たりしが現在千代田火災保險の監査役たり。又馬術を趣み現に日本國際馬術協會評議員。

浅井 清利 (柔道)
 大日本武徳會柔道教士。明治三十三年八月二十九日出生。現電氣局柔道部の宿將にて三段。日下同局内庶務課に勤務。

安藝 清利 (柔道)
 大日本武徳會柔道教士。明治二十九年四月島取縣に生る。昭和三年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。武徳會五段。

朝日山 四郎右衛門 (相撲)
 大阪西區北堀江上通三丁目。大日本相撲協會検査役。本名井口惣三郎。明治二十一年二月大阪に生る。大阪相撲朝日山の弟子となり鐵甲二瀬川を名乗る。大阪相撲の大關となり、年寄となつて師名を繼ぐ。大阪派の重鎮たり。

荒木 榮一郎 (柔道)
 福岡市土手町二〇。大日本武徳會柔道教士。明治二十五年九月福岡縣に生る。昭和三年七月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

浅川 剛雄 (拳闘)
 東京芝區川區日暮里八ノ一四五。大正三年八月十一日青森縣に生る。フライ級プロフェッショナル拳闘選手。身長一七六センチ。體重一三三ポンド。最初アマチュア選手として活躍。現大伴拳闘會新選選手の高く將來を囑望さる。

秋山 誠 (野球)
 1 東京日本橋區藥研町二〇
 2 茨城縣稻敷郡生板村
 3 明治四十三年 七月八日
 4 一六七センチ 六四・六斤
 5 生板小學 龍ヶ崎中學
 6 關東中等野球會の龍ヶ崎中學の名捕手として縣下野球大會に出場優勝。東鐵に入りても依然捕手としてやまと新聞主催京濱實業野球大會及足利に於ける實業野球大會に参加優勝す。その他鐵道野球大會及昭和八年度都市對抗東京選に出場優勝す。

赤崎 喜八郎 (柔道)
 鹿兒島市大黒町六九。大日本武徳會柔道教士。明治十四年宮崎縣に生る。講道館に於て修行。昭和七年八月武徳會より教士號を授與さる。

赤山 利治 (柔道)
 東京牛區早稲田鶴巻町三〇八。早稲田大學學生。東京府出身。昭和六年早大商學部卒業。學生劍道界の巨豪として鳴る。昭和五年五月宮内省濟寧館主催武道大會に出場の榮譽に浴す。講道館三段。武徳會五段。

赤川 壽太郎 (柔道)
 松山高等學校内。大日本武徳會柔道教士。明治二十九年四月島取縣に生る。昭和三年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。武徳會五段。

阿部 功 (陸上)
 1 東京日黒區駒場町九一八
 2 北海道札幌郡丸山
 3 明治四十五年 二月十八日
 4 札幌師範附小 北海中 中大
 5 北海中學競技部選手として、砲丸投に北海道選手權を獲得す。現中央大學競技部の重鎮にて、對芬蘭戰にハンマー投に三位を得。(四一・米八二)其他インナーカレッジ及四大學對技(中明法日)戰に活躍。昭和七年度ランニング砲丸投に八位(十二・米七二)鐵砲投六位(四一・米八一)を獲得す。又同八年學生對一般大會に鐵

赤松 德明 (柔道)
 愛媛縣吉田中學校内。大日本武徳會柔道教士。明治二十九年愛媛縣に生る。武徳會に於て修行。昭和七年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。

青木 菊雄 (卓球)
 東京品川區大井町三、一六九。日本卓球會顧問。慶應三年奈良縣に生る。明治十五年東大法律卒業。三菱に入り銀行部理事、三菱合資會社理事等を経て合資會社理事となり三菱王國大黒柱として、三菱財團の功勞者たり。又日本卓球會顧問として我國卓球界に貢

浅野 彰太 (剣道)
 大阪府北河内郡住野島村。大日本武徳會劍道教士。弘化四年六月福岡に生る。澤田一傳清の大家。大正八年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

安藤 利男 (柔道)
 東京世田谷區太子堂町四五九。東京市電氣局。

青野 芳三郎 (柔道)
 今治市常盤町八丁目。大日本武徳會柔道教士。明治二十四年山口縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士號を授與

荒木 榮一 (柔道)
 福岡市土手町二〇。大日本武徳會柔道教士。明治二十五年九月福岡縣に生る。昭和三年七月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

浅野 彰太 (剣道)
 大阪府北河内郡住野島村。大日本武徳會劍道教士。弘化四年六月福岡に生る。澤田一傳清の大家。大正八年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

安藤 利男 (柔道)
 東京世田谷區太子堂町四五九。東京市電氣局。

穂投に第二位を占む。

天知俊一 (野球)

- 1 東京日原區三谷町九五四
- 2 兵庫縣今津町
- 3 明治三十九年 十二月三十日
- 4 一七〇番 六二・五冠
- 5 下野中學 明治大學
- 6 報知新聞社 設楽クラブ
- 7 前明大黄金時代の名捕手にて、湯淺投手の補佐役として、大正十二年秋リーグ加盟以來始めて覇権を握りたる時の選手。打撃投球共に、昭和二年同校卒業。又前六大学野球聯盟専断審判者として名譽を高む。現報知新聞社運動部記者にてスポーツ記事に敏筆を揮ふ。

安藤忍 (野球)

- 1 大連市三井物産會社内
- 2 東京市
- 3 明治二十九年
- 4 一六七番 七二・二冠
- 5 麻布中學 明治大學
- 6 三井物産會社
- 7 中學時代より投手にて、大正初期明大軍の投手兼遊撃手として、怪腕を揮ふ。同大布哇ホノルルに開催されし國際野球大會に投手の重任を完す。又早慶法の諸豪との對戦に常に健筆を揮ふ。同九年同校商科卒業。現大連實業野球隊の主將にて、昭和八年第七回都市對抗戦に二回日の出陣をなす。球界生活二十三年の長きに及ぶ強豪選手。

合田太市 (漕艇)

- 1 東京荏原區戸成町五三九
- 2 岡崎市琴平町
- 3 明治二十年 一月十三日
- 4 一六四番 五七冠
- 5 琴平小學 嶺西中學 明治大學
- 6 神田橋職業紹介所
- 7 嶺西中學柔道部部長として部下に知られ、明大入學後編艇部創設に多大の盡力を爲し、同部初期の名舵手としてレガッタに出場活躍す。又十三大學専門學校レガッタの考案者として斯界に知られ、卒業後東京市役所に入りて東京府知事及母校の嘱託に依りスポーツ研究の爲め歐米に歴遊す。現在神田橋職業紹介所に勤務。小瀬池水泳の大家としても有名。

相澤久孝 (蹴球)

- 1 東京小石川區小日向町三ノ七一
- 2 東京深川區佐賀町
- 3 明治三十九年 三月四日
- 4 一六八・五冠 六九・四冠
- 5 道分小學 京華中學 早稲田大學
- 6 安田銀行銀行庶務支店
- 7 京華中學蹴球部のナマイワランとして鳴らし、早大に入りては昭和初期のランニングプレイヤーとして全日本蹴球選手権大會ダブルス、東日主催トーナメント大會ダブルス、東日東支那大會ダブルス・シングル等に出場優勝し、關東關西四能谷五學等蹴球代表選手に選拔さる。第九回關東オリムピック日本代表として有名なり。現在稲門クラブメンバー。趣味は現在稲門クラブメンバー。趣味は

尺八 網野松雄 (拳闘)

- 1 東京京橋區京橋二ノ四日米俱樂部
- 2 青森縣盛岡市
- 3 明治四十一年 十月十日
- 4 一六五・五冠 一四五ボンド
- 5 日米拳闘俱樂部
- 6 昭和四年十一月明治神宮體育大會に於てウエルターウエイト選手権獲得。翌五年日比谷公會堂に於てミドルウエイト選手権獲得。同年十一月プロフェッショナルとなり昭和六年三月日比谷公會堂に於ける通信大臣カップ争奪戦に優勝。昭和八年五月日佛代表選抜拳闘選手権戦に出場活躍す。現在ウエルター級選手として知らる。

粟屋登 (體操)

- 1 神奈川縣中郡町小杉八三三
- 2 東京赤坂區
- 3 明治三十年 一月二十八日
- 4 一六八・五冠 六〇冠
- 5 麻布中學 慶應大學
- 6 日本書齋會社
- 7 麻布中學時代創設及體操部の主將にて各大学主催の創造大會及機械體操競技に出場活躍。慶大にては體操部員として大正十二・三年度の學生選手権大會等に出場數回入賞。又選手部員としてフィールド及十種に活躍。インターカレッジ及YMCA、早大等の對抗戦等に出場。大正九年オリムピック豫選に出場。大正九年

新井直治 (ラグビー)

- 1 東京日原區上日原五ノ二六三八
- 2 前橋市
- 3 明治三十四年 六月二十一日
- 4 一六七番 六九・四冠
- 5 前橋中學校 立教大學商學部
- 6 明電會
- 7 元前橋中學校野球部マネージャー。立大入學後ラグビー部創設に當り、早川部三郎、故小島幸雄、丹羽虎一郎氏等と幾多の苦心を嘗む。今日同部が都下各大学の骨成の的となる迄には同氏の盡力に依る所頗る多し。又鹿城スタークラブを設立總理の野球發達に努め、創立以來委員として盡力す。昭和二年同校卒業。現關東ラグビー蹴球協會副委員長たり。

新井堯爾 (陸上)

- 1 東京大森區新井二ノ一五八八
- 2 埼玉縣南埼玉郡藤沢村
- 3 明治十九年 五月十五日
- 4 一六四番 六五・五冠
- 5 藤津小學 船越中學 四高 東大
- 6 東京鐵道局長
- 7 四高を経て明治四十五年東大法科卒業。四高時代ジャムパーとして陸上競技部の第一人者にて東大に入り

赤間雅彦 (體操)

- 1 東京大森區入新井二ノ一〇八四
- 2 宮城縣黒川郡大谷村
- 3 明治二十九年 六月二十七日
- 4 一五八番 四九・四冠
- 5 大谷小學 宮城師範 日本體育會體操學校
- 6 日本體育會體操學校
- 7 師範在學中はマラソン選手として東京高師主催の同大會に出場活躍す。昭和四年體育遊藝研究のため獨逸に留學歸朝するや多年研究考案せる工業體操及體育民衆遊藝を發表する普及に専心努力す。現在母校教諭及内務省社會局嘱託として體育指導に盡力す。

芥田武夫 (野球)

- 1 東京大森區入新井六ノ五三
- 2 飯沼市元龜町
- 3 明治三十六年 十月二十日
- 4 一七六番 六四・六冠
- 5 飯沼師範小學 飯沼中學 早大
- 6 時事新報社 稲門クラブ
- 7 菊姓水室。中學時代投手及中堅手として、關西球界に鳴る。早大野球部にありては名中堅手と稱はれ球界

安藤三次郎 (柔道)

- 1 東京下谷區竹町二二一
- 2 千葉縣船橋町
- 3 明治十七年 十月二十四日
- 4 一五二番 五七冠
- 5 船橋小學
- 6 警視廳警察官 講道館
- 7 年少より柔道に志し、高木三五郎及警心館主中江早三郎に師事す。天神神流流を研鑽。壯年時代に海外に渡航。大正三年布哇ホノルルに於て道場を開き、我國の武士道を海外に普及す。歸朝後同七年巡査昇命。専ら警察柔道界の發達に志し、同八年四級の中を授與さる。目下下谷上野署に勤務。

赤萩龍郎 (漕艇)

- 1 東京澁谷區千駄ヶ谷町五四九
- 2 茨城縣結城郡新川村
- 3 明治四十三年 十一月十日
- 4 一七三番 七二・五冠
- 5 京城小學 龍山中學 慶大
- 6 中學時代には柔道部、庭球部、陸上競技部等の選手として、萬能選手の名を博し、慶大に入りてはボート

朝生要人 (蹴球)

- 1 東京四谷區南寺町三七
- 2 千葉縣君津郡小糸村
- 3 明治三十四年 九月二十二日
- 4 一七〇番 六九・四冠
- 5 木更津中學 水戸高校 東大
- 6 日本徴兵保險會社 帝大OB
- 7 水戸高等學校を経て東大に入る。帝大蹴球部選手として、大正十三・十四・十五年度インターカレッジリーグ等にF.Bとして活躍。卒業後は第一・二回東大蹴球部對抗戦に出場す。現在關東蹴球協會理事。趣味は劇。

安藝祝 (野球)

- 1 東京杉並區高圓寺四ノ六〇三
- 2 東京市
- 3 明治三十四年 四月十八日
- 4 一六五・五冠 九六・五冠
- 5 青山師範付小 麻布中學 早大
- 6 安田銀行 稲門クラブ
- 7 麻布中學野球部外野手として關東中等球界甲子園等に活躍。早大に入るとは谷口、久慈、渡邊時代の外野手として六大学リーグに奮闘し、大正十三・四兩度稲門OBとして滿洲に征戦す。現在稲門クラブ幹事、安田クラブ役員として斯界に貢献する處多大なり。昭和八年都市對抗東京

安部福次 (野球)

- 1 宇都宮縣鹽田町
- 2 宇都宮市
- 3 明治四十一年
- 4 一五五番 五七冠
- 5 下野中學校
- 6 宇都宮師範 宇都宮クラブ
- 7 宇都宮クラブの名三壘手。昭和五年福島に於ける東日本實業野球大會に優勝。同七年關東實業野球大會に出場し、都市對抗戦開催以來關東選抜木代表として屢々出場活躍す。

有津佳奈馬 (野球)

- 1 大阪市外千里山關西大學
- 2 今治市
- 3 大正元年
- 4 一六七番 五二・五冠
- 5 今治中學 關西大學
- 6 中學時代外野手。關大に入りては黄金時代の名二壘手として昭和七年關西六大学リーグに活躍優勝。昭和七年十一月末より八年一月にわたり冬季練習の爲四下せる東京六大学聯盟の各校と對戦、對慶大二回戦に一敗せるのみにて關西球界格に見る記録を作る。趣味は劇。

秋元牧 (庭球)

- 1 尼ヶ崎市西向島町二九二
- 2 大阪北區中ノ島
- 3 明治三十八年 三月九日

一六七〇 五八・九〇
 四 西学院高等部
 五 大阪商店大阪支店
 六 大正十二年より硬球界に入り活躍。昭和五年度ランキンゲンシヤンクス第四位、ダブルス第四位。同六年度ダブルス三位、シングルス八位を獲得。同六年度硬球協会の推薦により布哇に派遣され好成績を収め歸朝す。本邦硬球界の強豪にて、現神戸クラブ及甲子園クラブに所属す。

阿部善海 (野球)

一 福島市福島野球クラブ内
 二 福島市
 三 大正三年
 四 一六七〇 五七七〇
 五 福島中
 六 前福島中名内野手にて、現東北球團の新進福島クラブの三塁手を務め、多年の経験仙鶴軍を倒し、昭和八年第七回都市対抗戦に初出場神宮球場に輝き、同チームの強打者を以て鳴り、又其堅陣を誇る。

阿部梯甫 (ラグビー)

一 東京渋谷区水川町五八
 二 山口縣美濃郡大基村
 三 明治四十年 十月二十日
 四 一六四〇 五八・九〇
 五 荻小 荻中 山口高商 九州帝大
 六 王子製紙会社
 七 中學時代水泳部選手。高商時代及九大入學後ラグビー部選手として活躍。

一 昭和六年法學部卒業後神太工業ラグビー部創立。同部T.Bとして昭和八年度成績八勝二敗の好記録を収む。現王子製紙会社勤務。

赤澤四郎 (ラグビー)

一 東京小石川區東京高師寄宿内
 二 岡山縣都賀郡清音村
 三 明治四十三年 一月十六日
 四 一六七〇 六〇七〇
 五 朝鮮尚州小 京城師範
 六 京城師範時代陸上競技部及ラグビー部選手として、朝鮮神宮大會、全鮮中等學校競技大會、鮮滿中等ラグビー大會、京城ラグビーリーグ戦等に活躍す。又跳走高走幅跳二百メートル等に優勝す。現東京文理大ラグビー部サードローを勤む。

阿部收 (漕艇)

一 東京豊島區高田本町一ノ三三六
 二 札幌市
 三 大正二年
 四 一七二五 八〇・七〇
 五 札幌二中 早稲田大學専攻科
 六 中學時代柔道部の副将として活躍す。現在早大漕艇部五番漕手にて昭和七年度インターカレラチ及諸大會に出場活躍す。同八年第四回早慶戦には五番漕手として健闘す。趣味音楽。

荒川進一郎 (野球)

一 大正三年
 二 一五九五 五七七〇
 三 海草中
 四 大正四年
 五 紀和地方的古豪海草中學校の投手兼二塁手として中等球界に君臨す。現大磯吹田クラブの左腕投手として、昭和八年第七回都市対抗戦に好打快走は攻撃の主力をなす。同チーム新進の名選手。

青木良成 (野球)

一 富山縣野町富山紡績會社内
 二 福井縣
 三 明治四十一年
 四 一六七〇 六七五〇
 五 福井中 福井高工
 六 富山紡績會社
 七 北陸の俊英富山紡績チームの主將兼右翼手にて、昭和八年第七回都市対抗戦に第二回日の出場をなし健闘す。其他北陸實業野球大會に四ヶ年連続覇業を達成し、昭和八年春創立せし中部日本紡績競技大會に優勝す。好守好走の名手たり。

安部植 (蹴球)

一 東京品川區大井日本體操學校内
 二 朝鮮平南安州郡大尼面西里
 三 明治四十四年 十二月三十日
 四 一六七〇 六七五〇
 五 日本體育會體操學校
 六 大正十四年度朝鮮少年蹴球大會、關西蹴球大會に平南安州代表選手として出場優勝。昭和二年全鮮中等蹴球協理の要職にあり。

一 東京芝區白金三光町四三五
 二 同
 三 明治三十二年
 四 一七〇〇 七五七〇
 五 慶應普通部、慶應義塾大學
 六 東邦電力會社 講道館
 七 普通部當時より柔道部の猛者として斷然頭角を現はし、慶大に入りては「早大の淺岡、慶大の阿部」として關東學生柔道界に名を轟かす。當時講道館四段。慶大柔道部主將として早慶戦其他に出場活躍。現在講道館六段新界の大家として著名なり。

阿部大六 (柔道)

一 東京渋谷區代々木本町八三二
 二 山梨縣中野郡都府合村
 三 明治三十四年 十一月十日
 四 一六五五 六七五〇
 五 落合村小 成城中 早大
 六 東京電燈會社
 七 本邦中等蹴球界の先進チーム成城中學バスケット部の主將として鳴り、早大蹴球部初期の選手として大正十三年立教商大とリーグを組織、播磨時代のリーグ戦に出場活躍す。現在大日本體育協會理事、大日本バスケットボール協會常務理事、明治神宮體育會評議員として新界に貢献す。

淺野延秋 (蹴球)

一 東京品川區大井日本體操學校内
 二 朝鮮平南安州郡大尼面西里
 三 明治四十四年 十二月三十日
 四 一六七〇 六七五〇
 五 日本體育會體操學校
 六 大正十四年度朝鮮少年蹴球大會、關西蹴球大會に平南安州代表選手として出場優勝。昭和二年全鮮中等蹴球協理の要職にあり。

芦田萬壽夫 (ラグビー)

一 品川區大井坂下町二、七九二
 二 京都左京區下鴨宮河町
 三 明治三十七年 三月十七日
 四 一六四〇 六一・九〇
 五 明治大學
 六 東京日日新聞
 七 明大ラグビー部のチャンスマイカーであり、ライオンとして大いに活躍す。昭和五年商科卒業後東大に入り専ら運動界を擔當し多年の蘊蓄を傾注して新界を啓蒙指導す。明大ラグビーOBとして知らる。趣味寫眞。

秋田收藏 (野球)

一 東京世田谷區北澤五ノ七三一
 二 吳市
 三 明治三十八年 五月二十一日
 四 一五八〇 五二・五〇
 五 吳中學校 法政大學專門部
 六 東京中央放送局
 七 中學時代は二壘手。法政に入りては遊撃としてリーグに活躍。輕快なるプレーヤーとして滿都フアン湯仰の的たり。現在東京俱樂部に所属し東日主催の都市対抗戦に活躍す。趣味音楽。

足立卓夫 (ラグビー)

一 東京杉並區高圓寺三ノ二一九
 二 大阪市住吉區
 三 明治四十一年 十月五日
 四 一七〇〇 六一・九〇
 五 天王寺中學 大阪高校 京大法律事務所 學士ラガー
 六 法律事務所 學士ラガー
 七 高校時代ラグビー部FW選手として活躍す。

一 昭和三年度全國高等ラグビー大會に出場優勝す。黄金時代の京大ラグビー部FWとして關西ラグビー界に活躍す。現在伊藤法律事務所勤務。

阿部秀助 (柔道)

一 東京麹町區下二番町四七
 二 東京芝區三光町
 三 明治三十五年 九月二十三日
 四 一六八〇 七六・九〇
 五 慶應幼稚會 同普通部 同大學部
 六 東京海上火災保險會社 講道館
 七 普通部時代柔道初段。大學在學中四段に昇進學生柔道界にその怪腕を發揮す。又角力部選手として明治神宮大會及國技館に於ける學生角力大會の精銳として出場す。現在講道館五段。

秋山紅樹 (劍道)

一 東京大森區大森町五ノ一九七〇
 二 熊本市本町宮本
 三 明治三十四年 四月二十五日
 四 一五八〇 五二・五〇
 五 中學済々雙 明治大學
 六 安田銀行本店 明劍會
 七 中等學校時代劍道部主將として顯下に當時稀に見る名劍士として著名。又武徳會主催學生大會に於て優勝を獲得。大學時代劍道部の重鎮として都下に其の勇名を知らる。現在武徳會四段。趣味釣り。

安部民雄 (蹴球)

一 東京豊島區高田本町一ノ三四四
 二 同
 三 明治三十五年 九月二十九日
 四 一七〇〇 五八・九〇
 五 小石川明小 早大
 六 横濱東學院 船門クラブ
 七 紹介の要なき程有名な蹴球界の權威。早大蹴球部の大正十三・十四・十五年主將。自大正十一年至昭和二年全日本ダブルス選手権保持。昭和二年同リーグ選手権獲得。昭和二年同リーグ選手権獲得。昭和二年同リーグ選手権獲得。現在蹴球協理の要職にあり。

赤瀬多四郎 (柔道)

一 東京牛込區早稲田南町四
 二 奈良縣生駒郡
 三 明治三十五年 九月三日
 四 一七四〇 六九・四〇
 五 郡山中 六高 京大
 六 日本郵船會社 郵船俱樂部
 七 中學時代下中等學校柔道大會に出場。六高在學中全國高等柔道大會に六高代表選手として出場奮闘す。京大時代には柔道部部長として知られ、又ラグビー部員としても活躍す。現在五段。

淺川増幸 (ホッケー)

一 東京品川區大井金子町六二二
 二 門司市港町
 三 明治三十四年 七月八日
 四 一六四〇 六〇七〇
 五 門司師範小 下關商業 慶大 麒麟會社 三田クラブ
 六 商業時代陸上競技部及野球部選手として縣下各大會に優勝。慶大在學

青山幸敬 (馬術)

一 東京赤坂區青山南町六ノ四七
 二 東京京橋區
 三 明治四十三年 二月五日
 四 一六七〇 六四・六〇
 五 學府院中等部 東京帝大
 六 陸軍騎官
 七 東大馬術部主將として昭和七年全日本學生馬術選手權大會出場五等に入賞。東北、京大との三大學對抗賽

技にも活躍し昭和八年習志野馬大会には學生甲種競技に参加第二位を獲得す。現陸軍軍醫官たり。

荒井和男 (野球)

- 1 東京牛込區若松町一
2 東京牛込區早稲田鶴巻町
3 明治三十五年 二月十日
4 一六〇一 六七・五七
5 早稲田中學 立教大學
6 上野松坂屋
7 早稲田中學時代より、外野手として其俊足を顕はれ、立教大學野球部において、左翼手となり、其果敢なる走塁と堅實なる守備とは當時リダの花形同部の齊藤達男と共に其名譽噴々たり。常に同部のリード、オフ、マンとして第一陣に立つて健闘す。昭和二年同校商學部卒業。

浅川三郎 (野球)

- 1 東京日本橋區本石町三ノ二
2 銚子市
3 明治四十二年
4 一六二・五五 五七七
5 銚子小學校
6 リーガル商會
7 リーガル商會野球部二壘手。昭和七年時事新報主催全國野球選手権大会に東京第二支部より出場優勝。同年國民新聞主催野球大会に、出場優勝。其他同年東野球協會主催野球大会に出場又榮冠を獲得す。投打共に右。

安部登樹 (柔道)

- 1 東京牛込區上荻窪町五〇二
2 大分縣宇佐郡兩川村
3 明治三十二年 二月二十七日
4 一六四四 六七・七七
5 早稲田大學
6 早稲田中學
7 早稲田中學時代は柔道部の部長として早稲田其他に出場活躍しラグビー部マネージャーを務む。現在柔道三段東京電燈會社副部長勤務東京電燈會社代表選手として奮闘す。趣味ラグビー

安藤松吉 (柔道)

- 1 東京芝區下高輪町四五
2 茨城縣
3 明治二十七年 二月五日
4 一六一一 六七・五七
5 常磐村小學校
6 警視廳警務官
7 大正八年警務官昇命。所道研鑽に専ら務め、對稱試合に出場する事十三回。大正十五年の同試合には榮譽ある優勝を掌握。當時より各署中の強豪者として今以て著名。現在警視廳四級の上(四段相當)にて芝高輪署勤務。

阿久津康雄 (野球)

- 1 東京芝區千代田二丁目
2 足利市
3 明治四十年 八月十七日
4 一七一・五五 六一・九七
5 足利四小學校 足利中學
6 梅澤井一 梅澤チム
7 舊名東城界、中學時代野球部外野手として奮闘す。現新聞記者梅澤井野球部外野手。昭和七年全東京選抜野球に優勝、大隈を獲す。同八年五月讀賣新聞主催東都演劇野球大会に出場優勝す。

阿部吉治 (拳闘)

- 1 東京芝區日暮里町七ノ二七二
2 宮城縣鹽釜町
3 大正五年 十一月六日
4 一六四四 一一七・〇七
5 鹽釜小學校
6 太平洋商會
7 パンナム・ウエイト級職業選手。昭和六年アマチュア選手として三回出場。同七年職業選手となる。試合回数二十七回。昭和八年一月來朝以來全勝の戦績を収めし比人ドミナリに對戦六回戦に遂に破る。同年五月日佛代表拳闘選に新人として準決勝迄出場。同會の重鎮にて將來を囑望さる。

青木修平 (野球)

- 1 東京大森區新井九十九
2 丸龜市慶正町
3 明治三十二年 六月二十九日
4 一六八・五五 六〇・七
5 丸龜中學 慶應義塾大學
6 ヤリンビル 東京クラブ
7 丸龜中學時代は投手として四國中等の野球界に知られ、慶應に入るやその技術の精進と氣力は推されて第十二代主將の印綬を帯び、大正十五年春季リーグ戦には優勝よくその重責を果たす。又復活後の早慶戦にも活躍す。

阿部二郎 (山岳)

- 1 東京大森區大森四ノ二四二六
2 東京芝區
3 明治四十一年 二月二十七日
4 一六五五 五七七
5 築地小學校
6 東京電燈會社
7 アマチュア山岳家。昭和七年十一月富士第三回冬期登山に成功し、昭和八年一月南アルプス征服、冬季登山の輝しき新記録保持者として知らる。趣味ワイン・スキー

青木直喜 (野球)

- 1 東京芝區三番町二五
2 橋本市南千反町
3 明治三十九年 二月四日
4 一五八四 五二・三三
5 碩臺小學校 九州學院 青山學院
6 共保生命保險會社
7 九州學院時代捕手として大正十三年度選抜大会に優勝。又朝日主筆南九州選抜大会に出場す。青山學院に入りても捕手として對東北學院定期戦には大いに奮闘す。趣味讀書

浅井稜威夫 (蹴球)

- 1 東京世田谷區下代田町一一一
2 熊本縣宇土町
3 明治二十四年 二月一日
4 一五八四 四九・四七
5 宇土小學校 玉名中學 明大專門部
6 鐵道大臣官房研究所
7 玉名中學蹴球部選手として五高主催縣下中學蹴球大会に出場優勝し、明大を経て現在官房研究所に勤務。官房蹴球部選手として活躍す。趣味讀書

阿部軍太郎 (ラグビー)

- 1 東京大森區入新井三ノ一二九五
2 岩手縣釜石町
3 明治三十八年 十月二十一日
4 一六二・五五 五八・九七
5 岩手工業 日本大學高工
6 東京瓦斯電氣工業會社
7 岩手工業相模鐵道選手。日大高工を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に活躍す。

甘粕達雄 (野球)

- 1 東京日野區中目黒一ノ八〇〇安部
2 米澤市表町
3 明治四十二年 一月二十日
4 一七六四 六〇・七
5 米澤北小學校 米澤工業學校
6 鐵道大臣官房研究所

安藤三郎 (ラグビー)

- 1 東京小石川區原町十二
2 同
3 明治二十三年
4 一七〇四 六七・五七
5 慶應義塾大學
6 川崎銀行
7 慶大在學中はラグビー部キャプテン及び相模選手として活躍し、明治四十五年同校理財科卒業。現在川崎銀行ラグビー部長として同部の發展に努力す。趣味相撲

阿曾尙夫 (ラグビー)

- 1 東京芝區戸崎町四一八鈴木方
2 福島縣飯野町
3 明治三十八年 五月五日
4 一七三三 六九・四七
5 慶應義塾大學
6 太平洋火災海上保險會社
7 慶大經濟部を経て太平洋火災海上保險會社に入る。現在同社ラグビー部FW選手として東都實業ラグビー界に活躍す。

栗野正 (蹴球)

- 1 東京小石川區大塚高師寄宿會
2 山形縣東置賜郡漆山村
3 明治四十年 十一月十五日
4 一六四四 六三・五七
5 漆山小學校 山形師範 東京高師
6 山形師範時代競技部(蹴球)選手にて、縣下大会に優勝する事數回。現東京高師蹴球部選手としてゴールキ

浅羽七五三男 (野球)
 1 東京本所區香妻町二ノ二五
 2 東京小石川區小日向通町
 3 明治三十四年十一月十五日
 4 一六四號 五二・五五
 5 小日向小學 早稲田實業
 6 浅草松屋 松屋運動部
 7 早稲田代より捕手として奮闘、現在松屋野球部捕手として活躍し常に打撃も高率を示す。又スキーヤーとして著名。松屋浅草分店勤務。

阿部慶治郎 (柔道)
 1 東京深川區東森下町四四
 2 東京深川區東元町
 3 明治三十二年一月二十七日
 4 一六四號 六九・五五
 5 警視廳警察官 警視廳
 6 昭和三年七月講道館入門。同年十月二日初段、昭和五年七月二段。現西平野警察署柔道部中堅選手として、對署試合等に出場活躍す。

赤熊五郎 (ラグビー)
 1 東京中野區住吉町五六
 2 同
 3 大正二年十一月二十六日
 4 一六一號 五二・五五
 5 四谷第二小學 府立第一商業
 6 第一級兵隊協會
 7 府立第一商ラグビー部選手として、東都中等ラグビー界に活躍し、現在第一級兵ラグビー名FWとして

青木辰一 (卓球)
 1 東京荏原區戸越町一〇〇五
 2 同
 3 明治三十七年一月十七日
 4 一六七號 五一・三三
 5 中央商業 早稲田大學
 6 日清生命保險會社 日清卓球部
 7 早大在學中は卓球部選手として東西對抗賽各大会等に出場活躍。現在日本卓球會幹事として世界に貢献す。趣味旅行麻雀

綾錦由之丞 (相撲)
 1 東京本所區東兩國二ノ十
 2 青森縣津軽郡猿賀村
 3 明治二十五年五月二十五日
 4 一七七・五五號 八四・四四
 5 日沼高等小學校
 6 大日本相撲協會 國技館
 7 本名齊藤由之丞大正三年一月先代海川郡屋に入門大正八年一月入幕、昭和三年師匠海川を襲名現在年寄として門第十四名の指導養成に努む。趣味書畫尺八

荒木久吉 (柔道)
 1 東京日根區中目黒三ノ九五〇
 2 島根縣大森町
 3 明治三十八年五月二十五日
 4 二六七號 六〇
 5 慶應義塾大學
 6 帝國生命保險會社 三田柔友會
 7 慶大在學中は柔道部選手として學生柔道界に活躍。現在柔道二段。帝

有賀茂 (ラグビー)
 1 東京京橋區木挽町五ノ二
 2 甲府市
 3 大正二年一月十六日
 4 一五八號 五四・四四
 5 甲府市立湯川小學校
 6 木村屋本店 木村屋チム
 7 昭和五年創立せられたる木村屋ラグビー部TBとして同七年時事新報社主催實業ラグビー大会に出場優勝す。又野球部三塁手としても活躍す。

浅井増次郎 (野球)
 1 京都市河原町 立命館大學内
 2 神戸市
 3 明治四十四年
 4 一六七號 六六・五五
 5 關西學院中學部 立命館大學
 6 關西學院中學部 立命館大學
 7 中學時代捕手。現在立命館大學野球部一塁手として、昭和七年全國高等野球大会に出場優勝。關西六大學リーグに活躍す。趣味槍球

浅沼吉三 (漕艇)
 1 東京麹町區平河町四ノ八
 2 同
 3 明治四十三年十月九日
 4 一七〇號 七八・八八
 5 常盤小學 鳴尾中學 商科大學
 6 常盤小學 鳴尾中學 商科大學
 7 中學時代ラグビー選手。現東京商

赤坂義夫 (野球)
 1 吳市吳工廠内
 2 吳市
 3 明治四十二年
 4 一六七號 〇五七號
 5 吳英語學校
 6 吳工廠
 7 全吳軍外野手として、都市對抗戦に出場する事四回にて、其愉快なるプレーを以て、同軍多年の榮ある傳統を継守す。

青木錦太郎 (野球)
 1 横濱市東本運動具店支店內
 2 東京市
 3 明治三十七年
 4 一七三號 七二・二二
 5 本牧中學
 6 本牧運動具店
 7 中學時代投手、現全横濱軍の外野手として其健勝を以て鳴り、都市對抗戦に出場する事四回同軍の古豪選手。

麻生健吾 (庭球)
 1 東京中野區桃岡町二四
 2 同
 3 明治三十六年三月三十一日
 4 一六四號 七八・八八
 5 早稲田中學 早稲田大學
 6 古河電氣工業會社 稲門クラブ
 7 早稲田中學より早大に入る。在學

安藤敏雄 (漕艇)
 1 東京日根區下目黒一五六八
 2 和歌山市三筋町
 3 明治四十一年一月十九日
 4 一七六號 六四・六五
 5 和歌山小 同中學 大阪外語
 6 太陽生命保險會社
 7 和歌山中學創設及相模部選手として大いに奮闘し、大阪外語に入りては漕艇二番清手として京阪學生漕艇界に活躍す。現在太陽生命本社に勤務。趣味繪畫

安藤喜三 (ラグビー)
 1 東京牛込區改代町一一
 2 東京市
 3 明治三十五年一月十日
 4 一七四・五五號 六四・六五
 5 錦城中學 日本大學工科
 6 東京瓦斯電氣工業會社
 7 日大在學中は漕艇部選手としてイシタリカレラデレカワタに出場活躍す。現在東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部員であり又總務として同部の發展に盡力す。

赤羽根辰吉 (弓道)
 1 東京下谷區御徒町一ノ五九
 2 同
 3 明治十五年五月四日
 4 一五九・五五號 四六・五五

浅岡尚雄 (漕艇)
 1 東京芝區濱松町二ノ一一
 2 同
 3 明治四十三年十月二十四日
 4 一六四號 五八・九五
 5 神明小學 府立一中 早稲田大學
 6 神明小學 府立一中 早稲田大學
 7 在學中早大漕艇部主将として大いに活躍。現在日本漕艇協會關東支部維持員、早大漕艇部「ネジャー」にて、非凡なる手腕を發揮同部の隆昌に盡す。趣味讀書

安藤勝 (野球)
 1 大連市五葉商會内
 2 東京市
 3 明治三十二年
 4 一六七號 五七七號
 5 青山學院
 6 五葉商會
 7 大連實業野球團の三塁手にて、昭和三年第二回以來五年振りに、多年の宿敵滿洲クラブを一蹴して、同八年第七回都市對抗戦に出場準決勝戦に對東京に惜敗す。

浅井哲二 (庭球)
 1 東京豊島區駒込二ノ二〇二森川方
 2 神奈川縣中郡二宮山

赤城正 (拳闘)
 1 東京日根區下目黒一ノ八六町田方
 2 關島縣河沼郡川西村
 3 大正元年十一月二十六日
 4 一五八號 一二三・〇〇
 5 川西小學校
 6 東洋タイプライター株式會社
 7 昭和六年十月オールド日本アマチュア拳闘大会に出場優秀なる戦績を収む。昭和七年一月プロフェッショナルとなり日本拳闘俱樂部に所属現在フェザーリウエイト級選手。趣味キネ

安藤三二 (柔道)
 1 東京日根區下目黒町九六六
 2 愛知縣東春日井郡鳥居松村
 3 明治三十七年四月十八日
 4 一五九・五五號 六四・六五
 5 鳥居松小學 愛知一中 早大
 6 愛知電氣會社 講道館
 7 講道館三段。大正十年東京高師主催全國學生柔道大会に優勝。同十一年同大会に於て決勝戦に出場善戦す。同十二年初段昭和二年二段同三年三段に昇進す。趣味觀劇

綾櫻由太郎 (相撲)
 1 東京本所區東兩國一ノ一
 2 青森縣餘ヶ澤町
 3 明治三十一年
 4 一七〇號 一〇二・六五
 5 餘ヶ澤町小學校
 6 大日本相撲協會 出羽海部屋
 7 本名清野由太郎出羽ノ海部屋力士として大正六年一月初土俵入りを行

浅井藤一郎 (庭球)
 1 東京津野川區昭和町三ノ二北畑方
 2 愛知縣起町
 3 大正三年十一月一日
 4 一六四號 六一・一五
 5 南久屋小學 名古屋商業
 6 東京新宿
 7 全國中等庭球界の著名古屋商業時代は斯界の寵兒として知られ昭和六年度神宮大会に出場優勝す。又愛知電氣主催全國庭球大会にも榮冠を獲得。趣味音樂

蘆田中 (柔道)
 1 東京中野區上高田一ノ一九
 2 長野縣小縣郡神科村
 3 明治三十七年四月十七日
 4 一七〇號 六七・五五
 5 上田中學 福島高商
 6 東京電燈會社 東電柔道部
 7 中學時代より柔道部選手として縣下大会に出場奮闘し、福島高商に入りては柔道部の重鎮として活躍す。現柔道二段東電柔道部代表として知らる。

浅井藤一郎 (庭球)
 1 東京津野川區昭和町三ノ二北畑方
 2 愛知縣起町
 3 大正三年十一月一日
 4 一六四號 六一・一五
 5 南久屋小學 名古屋商業
 6 東京新宿
 7 全國中等庭球界の著名古屋商業時代は斯界の寵兒として知られ昭和六年度神宮大会に出場優勝す。又愛知電氣主催全國庭球大会にも榮冠を獲得。趣味音樂

昭和五年五月八日。左四ツ寄切りを得意とし角界の古豪として知らる。趣味小説

秋山登 (ラグビー)

- 1 東京小石川區東京高等寄宿内
2 新潟縣西頸城郡青海町
3 明治四十一年 八月十四日
4 一六七〇 六四・六冠
5 青海小學校 赤魚川中學校 高師
6 中學時代競走水泳及柔道部選手として懸下に其名聲を高む。現文理大ラグビー部スタラム・ハーブとして活躍。趣味繪畫

旭川幸吉 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國三ノ九ノ一旭川市常野通り
2 明治三十八年
3 一七六〇 八〇・七冠
4 大日本相撲協會
5 本名宮坂幸吉。立浪部屋所屬の力士にして、現四方前頭の中堅力士として健腕を揮ひ活躍す。

秋元玉信 (柔道)

- 1 東京豊島區長崎町二ノ一九九二
2 岐阜縣郡上郡島郷村
3 明治三十一年 四月一日
4 一六四〇 七二・二冠
5 日本大學法科 神視道
6 大正七年警視廳巡査科員。京橋柔道場代表として、對業試合に出場。

日下同署巡査部長。

青野金次郎 (ラグビー)

- 1 東京大森區入新井二ノ一〇八
2 同
3 明治四十五年 四月二十日
4 一六二五 五四・四冠
5 東京工業專修學校高等科
6 東京瓦斯電氣工業會社
7 工業學校在學中は相撲部選手。現在東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部FWとして都下實業ラグビー界に活躍す。

秋本辰次郎 (弓道)

- 1 東京神田區龜住町一
2 同
3 明治十三年 六月二十一日
4 一六四〇 五九・五冠
5 牛込宮比町小學校
6 材木商 大日本弓道會
7 家業に精勵する傍大日本弓道會に入門弓道を修め現在同會練達の士として知らる。趣味盆裁

阿部晋作 (弓道)

- 1 東京下谷區入谷町
2 同
3 明治二十四年
4 一五六〇 五七冠
5 實業 大日本武徳會
6 家業(洋服店)に精勵する傍ら弓道を修め努力精進小笠原流の射手として知らる。尙武會會員。

青木安雄 (庭球)

- 1 東京品川區大井町三六一六九
2 同上
3 明治四十三年 十一月九日
4 一七〇〇 六七・五冠
5 慶應普通部 慶應大學
6 昭和七年慶應大庭球部主將として、早慶戦及各庭球大會に参加出場其重任を全うす。同八年同校卒業。

青地三郎 (馬術)

- 1 東京淀橋區早稲田大學内
2 駒町區平河町
3 明治四十二年
4 一六七〇 六四・六冠
5 鳴屋中學校 早稲田大學
6 前早大馬術部マネージャーとして馬術部の發展に盡力し、現在同部選手として習志野乗馬大會に出場活躍す。

阿曾沼政男 (庭球)

- 1 廣島市大手町七丁目
2 廣島市
3 明治四十五年 二月十日
4 一六四〇 五四・四冠
5 廣島商業 山口高商
6 山口高商庭球部の精銳。昭和六年全國高專大會九州ゾーンに於て、決勝に大分高商を破り優勝す。趣味スポーツ

新井祐 (漕艇)

- 1 東京本郷區第一高等學校内
2 東京目黒區下目黒三ノ五三三
3 大正三年 五月十三日
4 一六四〇 五二・五冠
5 日黒油面小學 巢鴨中學校 一高
6 現一高ボート部舵手として、インターカレッジ校内對科レース等に出場活躍す。

秋山光男 (野球)

- 1 東京中野區法政野球部會所
2 香川縣
3 明治四十四年
4 一五八〇 六四・六冠
5 九龜中學校 法政大學
6 中學時代より右翼手。現法政大學野球部右翼手として六大學リーグに出場活躍す。

有村家齊 (野球)

- 1 東京豊島區長崎立大合宿所内
2 鹿兒島縣
3 大正三年
4 鹿兒島一中 立教大學
5 立教大學外野手として、昭和八年秋季リーグより出場。同部の新進選手にて其強弱を誇る。
6 阿武殿夫 (陸上)
7 東京荏原區上神明町一〇五
8 山口縣阿武郡大井村

- 5 明治四十二年 十二月二十二日
6 一七一〇 六一・九冠
7 鴻城中學校 慶應大學 中央大學
8 短距離界の雄者。師大時代早慶戦及極東大會等に出場健足を揮ひ昭和六年度ベストテン第三位。(十秒七)一時赤松百貨店に奉職す。同七年度ベストテン(十秒八)二百米八位(二十二秒)を占む。現中央大學競走部の顧問として活躍す。同年春季關東選手權大會には二百米二等(十一秒)二百米二等(二十二秒)を獲得。

阿左見リヨ子 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體育専内
2 群馬縣新田郡打村
3 大正五年 四月二十一日
4 一五六〇 五一・三冠
5 群馬縣立太田高等女學校
6 高女時代より毎回縣下女子體技大會に出場其快足を誇る。當時五十米(六秒八)百米(十三秒三)走幅跳(四米八十)等の記録を有す。現我國女子スポーツ界の高峯日本女子體專の新人選手。昭和八年春季關東選手權大會には走幅跳に入賞健闘す。趣味圖書音樂

荒子操 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體育専内
2 富山市外堀川町太郎九
3 大正四年 六月二十六日
4 一五三〇 五四・四冠
5 富山縣立高等女學校

安部時夫 (陸上)

- 1 樺太豊原町
2 北海道苫小牧町
3 明治四十三年 四月十日
4 一六一〇 五四・四冠
5 苫小牧中學校
6 三機商會東京支店
7 樺太陸上大會一萬米(三三分四五秒)千五百米(四分二四秒五)にて何れも優勝す。昭和八年十一月第七回明治神宮體育大會の千米健走に出場奮闘す。

有田清 (陸上)

- 1 福岡縣糸島郡小富士村
2 同
3 大正二年 五月三日
4 一五五〇 五二・五冠
5 小富士小學
6 農業
7 縣下有数の長距離選手。昭和八年全縣陸上大會一萬米に一着(三五分一六秒)。同年五月海軍記念日陸上大會九哩マラソン二着を占む。昭和八年十一月第七回明治神宮體育大會

安藤二平 (陸上)

- 1 福岡縣信夫郡鎌田村
2 同
3 明治四十三年 十二月二日
4 一五六〇 五五冠
5 鎌田小學 福岡學事塾
6 農業
7 縣下長距離界の精銳。昭和六年伊達郡保坂町に於ける明大選手との對抗戦の千五百米に一着。昭和八年縣下陸上大會神宮健走に一着(三五分一五秒六)。同八年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團一萬米選手として出場奮闘す。

足立爲成 (陸上)

- 1 鳥取縣西伯郡中濱村有田方
2 同
3 明治四十四年 一月二十五日
4 一七〇〇 六一・九冠
5 中濱小學校
6 農業
7 縣下長距離界巨星。昭和六年西伯體協主催中朝オリムピック大會十哩二着。昭和七年全山陰陸上大會の十哩番外に一着。同年縣下青年團大會千五百米優勝。昭和八年縣青年團大會一萬米に一着。同年十月中國オリムピック十哩一着。同八年十一月第七回明治神宮體育大會縣青年團一萬米選手として健闘す。趣味スポーツ音樂

安部庄次 (陸上)

- 1 山形縣東置賜郡大塚村
2 同
3 明治四十三年 十月三日
4 一七三〇 七二・二冠
5 大塚小學校
6 農業
7 昭和八年第七回明治神宮體育大會に我國體技界の新種目にて、純日本式農村特味の依擔健走に出場奮闘す。

安部庄吉 (陸上)

- 1 山形縣東置賜郡大塚村
2 同
3 明治四十一年 十二月五日
4 一六七〇 八〇・七冠
5 大塚小學校
6 郵便局員
7 縣下砲丸投の雄者。昭和六年第六回明治神宮大會に出場。常に縣下青年團大會には毎回入賞。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團砲丸投選手として力闘す。

油井秋平 (劍道)

- 1 福島縣本宮町
2 同
3 明治四十二年 十月二十五日
4 一六四〇 五四・三冠
5 本宮小學
6 本宮實科高女教諭
7 昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團劍道選手として出場力闘す。

- 麻生正男 (陸上)**
- 1 石川縣利市町
 - 2 同
 - 3 大正元年 十二月十七日
 - 4 一七一・五種 七四・一五
 - 5 羽咋小學校
 - 6 實業
 - 7 毎回縣下青年團大會の砲丸投に怪腕を揮ふ。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團砲丸投選手として出場優勝す。
- 明石清二 (陸上)**
- 1 秋田縣山本郡藤澤村
 - 2 同
 - 3 大正三年 二月二十日
 - 4 一六四種 四九・四五
 - 5 藤澤小學校
 - 6 實業
 - 7 縣下陸上大會短距離界の精鋭。常に縣青年團大會に健闘を揮ふ。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場す。
- 青山由松 (陸上)**
- 1 秋田縣山本郡藤澤村
 - 2 同
 - 3 明治四十四年 十一月十二日
 - 4 一五九・五種 六四・六五
 - 5 藤澤小學校
 - 6 實業
 - 7 昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場優勝す。
- 有賀輝美 (陸上)**
- 1 長野縣南佐久郡大日向村
 - 2 同
 - 3 大正二年 一月一日
 - 4 一六四種 五四・五五
 - 5 大日向小學校 野澤中學
 - 6 銀行員
 - 7 縣下中距離界の強豪。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團四百米及千米競走選手として活躍す。
- 赤島英司 (陸上)**
- 1 岡山縣那珂郡飯岡村王子
 - 2 同
 - 3 大正二年 五月二十三日
 - 4 一七三種 七一・五五
 - 5 飯岡小學校
 - 6 福原山所
 - 7 縣下陸上大會走高跳に出場。第三回神宮體育大會走高跳に出場。第三回神宮體育大會走高跳に出場。第三回神宮體育大會走高跳に出場。
- 安東吾朗 (陸上)**
- 1 岡山縣見町
 - 2 同
 - 3 大正二年 六月十四日
 - 4 一六四種 五二・八五
 - 5 江見小學校 津山中學校
 - 6 通信事務員 岡山體育協會
 - 7 縣下短距離及走高跳の強者。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團走高跳選手として出場す。
- 荒木重雄 (陸上)**
- 1 岡山縣厚狭町
 - 2 同
 - 3 明治四十三年 一月十二日
 - 4 一六四種 六四・六五
 - 5 厚狭小學校
 - 6 會社員
 - 7 縣下短距離界及相撲選手として知られ。昭和八年第七回神宮體育大會に縣青年團選手に推薦され、我國特有の競技新種日儀擔ぎ走に健闘。趣味演藝
- 有富正輝 (柔道)**
- 1 山口縣佐波郡中關町
 - 2 同
 - 3 明治四十二年 三月六日
 - 4 一五八種 六六・五五
 - 5 中關高等小學校
 - 6 商業
 - 7 縣下青年團柔道界の精鋭。元防府中學高見先生の修道館にて修行。昭和四年武徳會より二段に允許す。常に縣體育大會に屢々入賞す。昭和八年第七回神宮體育大會に縣青年團柔道選手として出場す。
- 青木家夫 (陸上)**
- 1 鳥根縣江津町
 - 2 同
 - 3 明治四十四年 一月十六日
 - 4 一七〇種 六四・五五
 - 5 中西小學校 鳥根師範
 - 6 江津町小學校
 - 7 縣下青年團柔道界の精鋭。元防府中學高見先生の修道館にて修行。昭和四年武徳會より二段に允許す。常に縣體育大會に屢々入賞す。昭和八年第七回神宮體育大會に縣青年團柔道選手として出場す。
- 秋葉梅子 (陸上)**
- 1 山形市小橋町
 - 2 同
 - 3 大正五年 二月十二日
 - 4 一五三・五種 四八・五五
 - 5 山形第四小學校 山形第二高女
 - 6 同
 - 7 縣下女子短中距離の花形。昭和八年九月全縣女子中等體育聯盟大會の二百米(二八秒二)一着。同年全縣女子選手権八百米三着。昭和八年十一月第七回神宮體育大會に山形第二高女選手として八百米出場健闘を揮ふ。最高記録八百米二分四秒四。
- 安藤義夫 (陸上)**
- 1 岡山縣那珂郡中洲村古水江
 - 2 同
 - 3 大正二年 七月十七日
 - 4 一六四種 五八・五五
 - 5 中洲小學校
 - 6 食穀組會社本社工場
 - 7 縣下中距離界の精鋭。第三回神宮體育大會短距離選手権大會に出場活躍す。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選手として健闘。倉敷オムニヒヤクラブ所屬。

- 市岡忠男 (野球)**
- 東京大森區池上町千東三四八
讀賣新聞社運動部長
京都一商を経て、大正九年早大商科卒業。名捕手として譽れ高く、第十一代主將の印綬を帯ぶ。大正初期早大黄金期を建設。第二回比律賓、第三回米國遠征等に征戦。後其剛直なる氣風は推されて監督に就任。名選手を熱と力に依り指導。野球王國早大の名を輝かす。現讀賣運動部長として運動記事の完備に努め、其統制良く現今同社の隆昌を見る。其他昭和六年十一月日米野球戦にオール日本軍の監督となり、同八年日佛對抗學園試合に佛人三強家を招聘す。我國スポーツ界の大なる功績者。
- 伊藤次郎左衛門 (馬術)**
- 名古屋市四區茶屋町三ノ三
日本乗馬協會相談役
明治十一年名古屋市に出生。三百年来の舊家伊藤家を大正十三年相續す。現今中京實業界に於ける第一人者百貨店松坂屋主人たりしも昭和八年引退と同時に名古屋市社會事業に百萬圓寄附社會事業發展に多大の貢獻を盡す。名古屋商工會議所會頭の職も同時に引退す。
- 伊藤精司 (劍道)**
- 富山縣陸軍司令部
- 石井鶴三 (體育)**
- 東京板橋區板橋町三ノ二六六
大日本體育協會委員
洋畫彫刻界の權威者にて、明治二十年東京に生る。柏亭氏の弟にて、小山正太郎の不同舎にて洋畫を學び加藤景雲に彫刻を學ぶ。同四十三年東京美術學校彫刻科を卒業。大正六年より美術院同人となり、最近挿繪を描き特色ある作品を示す。
- 飯塚國三郎 (柔道)**
- 東京澁谷區惠比壽通一ノ一七
大日本武徳會柔道範士
明治八年初木縣に生る。小學校を卒業し、東京上野大に學び、傍ら嘉納範に師事して修行。東京高師、二高、慶大、其他の柔道教師を歴任。現澁谷區に至則館を開き子弟を教導す。昭和二年範士號受領。同四年御大禮記念武道天覽試合には榮譽ある審判員仰付らる。現講道館八段。
- 岩原拓 (體育)**
- 東京四谷區新堀江町三一
文部省學校衛生官
明治十二年一月東京に出生。同三十二年東京醫學講習所本科卒業。後同所講師に就任。大正三年九州帝大卒業。同年東京高等裁縫學校教授に任命さる。スポーツの發展及向上に盡力する所多く、現明治神宮體育會事務及大日本體育協會理事、全日本體操聯盟理事兼理事等々の要職にあり。趣味園藝旅行
- 入江稔夫 (水泳)**
- 東京澁谷區早稻田大學内
明治四十四年大阪府三島郡に出生。天木中學時代に背泳の世界の選手。國際遠東各競技大會には常に日本代表として出場。第九回國際遠東大會に百米背泳(一・三六秒六)四着。二百米背泳(二・三七秒八)に世界記録。又四百米背泳の日本記録保持者。昭和七年ベストテン二位。同年第十回國際遠東大會に出場第二位を占め、清川選手と共に水上日本の面目を發揮す。其他早慶及各選手権大會に毎回出場好記録を収む。本邦背泳界の第一人者。
- 石原忍 (漕艇)**
- 東京中野區宮里町三五
スポーツ醫學研究會役員
明治十二年東京に出生。同三十九年東大醫科科を卒業。陸軍二等軍醫となり、東京第一研究病院帝國大學院等に於て眼科學研究の後、大正元年獨逸に留學を命ぜられ研究中歐洲戰亂に依り歸朝。同八年醫學博士の學位を受領す。東京第二研究病院長、陸軍軍醫學校教官等に任ぜられたる事有り。日々母校の教授として研究及指導の任に當る。學生時代漕艇部
- 井上勝純 (ゴルフ)**
- 東京赤坂區板根町
子爵貴族院議員
明治七年七月出生。井上勝の養子となり同四十二年家督相繼をなす。夙に海軍兵學校卒業進んで大佐に陞る。其間海軍大學を卒へ海軍軍令部參謀、駐獨大使館附武官たりし事ありしも昭和六年退命被仰付。現朝霞ゴルフクラブ員(東京ゴルフクラブ)にしてハンデ一十六。昭和八年八月貴族院子爵議員に當選す。
- 井口新次郎 (野球)**
- 大阪北區堂島大阪朝日新聞社内
大阪朝日新聞運動部長
和歌山縣出身。昭和四年早大商學部卒業。早大野球部第三三手及第十九代主將の印綬を帯ぶ。和歌山中學三疊手として第五回(大正八年)全國中等學校優勝大會に出場す。又十一年の大會に投手及主將を兼ね中等球界最大難關を突破榮冠を獲得。同部の超等級選手にて壓巻を死守すると共に其打撃は實に堂々たるもので屢々自軍の四因に當る。因に昭和三年春季打撃率四割の高率を以て第二位を獲得。現大朝運動記者として健筆を揮ふと共に關西球界の指導者を以て鳴る。
- 稻田昌植 (スキー)**

東京滋谷青葉町十五
全日本スキー聯盟會長
前姓佐藤明治二十三年東京に生る。
男爵昌介氏(前北海道大廳長)の
二男、稻田男爵家の嗣子となり大正
九年襲爵。大正四年札幌農學校(北
大前身)を卒業。同八年東大法科を
卒へ東京外語教授を経て同十四年貴
族院議員に當選。學生時代よりスキ
ー選手として活躍す。現在全日本ス
キー聯盟會長及大日本體育協會理事
の要職にあり。

岩崎小彌太 (體育)

東京神田區河原三ノ十七
大日本體育協會贊助員
明治十二年東京に生る。先代岩崎彌
之助氏(三菱創業者岩崎彌太郎實弟
舊土佐藩士)の男にして英國留學明
治四十一年男爵を襲爵す。大正六年
以來從兄久彌男爵の後を受けて三菱の
社長となり三菱五國の事業を總攬
す。其の後引退し前副社長長瀬彌大氏
之を承繼す。現在大日本武徳會商議
員たり。又東京ゴルフクラブ所屬の
メンバー。

池田豊 (野球)

東京牛込區中町
東京大學野球部監督
明治二十八年東京に生る。前早大野
球部三壘手にて大正六年十二月早大
野球部マニラ遠征に参加同地の野肉
祭野球競技に優勝東選手権獲得十
勝二敗の好成績を挙げ、卒業後六次
學リーグ専屬名譽判員として知ら

れ、辭して聯盟書記に就任球界に盡
力す。現在明治神宮體育會評議員た
り。

伊知地虎彦 (ゴルフ)

東京麻布區材木町二二
液化炭酸會社社長
明治十一年三月十四日東京に生る。
同三十七年東京高商卒業直ちに三井
物産に入り、上海倫敦各支店に歴勤。
後辭し神戸に海運業を經營す。次いで
液化炭酸會社を創立し現社長たり。
其他太平洋海運會社取締役。又
日下東京ゴルフクラブ會員にして、
アマチュアアマチュア選手権等にも屢
々出場優勝す。日下ハンデラー九の巨
星ゴルフ。

井上匡四郎 (野球)

東京芝區高輪南町二八
貴族院議員
明治九年四月熊本に生る。子爵井上
毅氏の養嗣子となり、同三十二年東
大工學部卒業。向後時代本邦野球界
の擔當時に卒業して、野球の發展
に志し二壘手として強肩無双の猛打
を揮ふ。後米に留學歸朝後母校の
教授となる。後更に海軍政務次官に
就任し、大正十五年鐵道大臣に任ぜ
られ昭和二年之を辭す。現貴族院議
員にて研究会に屬す。又日下東京ゴ
ルフクラブの主宰にして(ハンデー
十四)アマチュアアマチュアとして
活躍す。

今村次吉 (陸上)

東京本郷區曙町十六
大日本蹴球協會會長
明治十四年東京に生る。一高を経て、
同三十七年東大法科卒業。陸上競技
發祥時代の選手にて、同三十二年、
池の端周走十三哩マラソンに一時間
三十五分四十九秒を以て優勝。翌年
我國競技界黎明期の東大陸上運動會
二百米に二十八秒にて優勝獲得。學
生時代には非常に活躍す。現に大日
本體育協會監事として斯界の發達に
貢獻する所多し。又日露實業會社顧
問。

井上賢太郎 (清艇)

朝鮮忠清南道安南縣道會宅
温陽電氣 大川電氣代表取締役
明治十四年東京に生る。早大編修部
創立者として知られ初期選手として
活躍す。明治三十九年早大専法科卒
業。朝鮮實業界に腕を揮ふ。日下温
陽電氣、大川電氣會社の各代表取締
役に。朝鮮中央鐵道監査役の要職に
あり。稻門艇友會員。

伊藤十郎 (野球)

三縣縣宮町東宮田一七二八
名古屋鐵道局 三重縣出身。大正九年
早大商科卒業。大正初期早大の投手、
同四年投手として第二回比律賓に遠
征、同五年第三回米國遠征にも依然
投手の重任を帯び遺憾なく其の怪腕
を揮ふ。其他マニラ及大正六年第三

岩永美澄 (陸上)

山形市旅籠町
山形縣師範學校
島根縣出身。昭和六年東京高師體育
科卒業。同五年學生代表選手として
ダルムシュタットに遠征し、高障礙に
四着を占む。同年四月關東陸上競技
大會に低障礙(二四秒七)に優勝す。
同年第九回東京に舉行された植木大
會に代表選手として活躍。其他高障
碍の個人最高記録一五秒三、中障礙
五八秒を有す。

今村雅信 (馬術)

東京京橋區京橋一ノ五
洋服商
明治十九年鳥取縣に生る。鳥取中學
三年にして退學上京刻苦勤學洋服商
として今日の地位を築く。元來趣味
として狩獵を好むも、大正十四年頃
より身體保健の意味より馬術を修練
す。東京乗馬クラブ員となり研鑽精
進好んで障馬術を試み、又習志野
乗馬大會には紳士甲班に屢々出場活
躍す。

石井光次郎 (ゴルフ)

東京大森區新井宿二八七九

東京朝日新聞社
明治二十二年八月福岡縣に生る。
同三十年家督を相續す。日下東京朝
日新聞社取締役兼營業局長及藤澤ゴ
ルフクラブに取締役にて、又東京ゴ
ルフクラブ員にして、昭和七年第二
十五回全日本アマチュア大会に出
場優勝す。日下ハンデラー七にて斯界
の猛者たり。

伊藤文吉 (ゴルフ)

東京芝區三田小山町二七
貴族院議員
男爵故伊藤博文の養子。明治十八年
十二月十五日山口縣に生る。山口高
校を経て同四十一年東大法科卒業。
直ちに農商務省に入り後歐洲各國を
巡遊す。大正元年總理大臣秘書官と
なり、同八年農商務省商務局商工課
長を最後として退官。現在東京海航
汽船海洋社社長の外語會社の重役
たり。日下朝霞ゴルフクラブ(東京
ゴルフクラブ)會員にてハンデー十
八。

伊東二郎丸 (ゴルフ)

東京芝區車町四二
貴族院議員
勳王の志士伊藤祐磨子爵の二男。明
治十六年八月二十九日出生。同四十
三年東大法科卒業。大正十年貴院
に列す。同十四年海軍參謀官に任ぜ
られ、昭和五年陸軍政務次官となる。
同六年十二月之を辭す。先是東京貯
藏銀行取締役を勤む。現朝霞ゴルフ

クラブ員(東京ゴルフクラブ)にて日
下ハンデー二十四。趣味讀書畫書

伊澤多喜雄 (ゴルフ)

東京豊島區四馬場二ノ二五一七
貴族院議員
明治二十一年十一月二十四日長野縣に生
る。同二十八年東大法科卒業。各府
縣事務官、書記官、知事等を經て警
視廳に歷任す。大隈内閣瓦解と共に
下野せしが後勸進せられ貴族院議
員となる。大正十三年臺灣總督に任
ぜられ、同十五年東京市長に就任せ
しも同十月此を辭す。現在朝霞ゴ
ルフクラブ會員(東京ゴルフクラブ)日
下ハンデー二十五。

伊木常誠 (野球)

東京大森區北千束町五二五
東京帝國大學教授
明治五年九月鹿兒島縣に生る。一高
を経て同三十年東大工科卒業。一高
時代野球部捕手として馳名を馳せ、
向後野球部黄金時代の基を作りし強
肩剛打者たり。東大卒業後農商務省
技師となり歐米に出張す。大正九年
東大教授に任ぜられ、現工學部に勤
務し、傍ら商工省技師を兼任す。同
十四年工學博士の學位を受く。昭和
二年再度米國に出張す。

池田勇八 (體育)

東京瀧野川區田端町五二一
大日本體育協會審査員
明治十九年八月香川縣に生る。同四
十年東京美術學校彫刻科卒業。

各展覽會に受賞する事數回、又文部
省美術展覽會に出品し、特選褒狀入
選各數回に及ぶ。大正九年帝國美術
展覽會委員となる。又古美術研究の
爲め數度支那朝鮮を遊歴す。趣味書
樂旅行樂馬

石本己四雄 (水上)

東京小石川區丸山町六
東大教授地質研究所員
故石本新六男爵四男。明治二十六年
九月十七日東京に生る。大正六年東
大理學部卒業後三菱造船研究所に勤
む。同十五年地質研究所に入り、傍
ら母校教授となる。昭和三年理學博
士の學位を受く。此間佛國に留學す。
現在明治神宮體育會總務委員及日本
水上競技聯盟評議員たり。

磯貝一 (柔道)

京都吉田中大路町三三
大日本武徳會柔道範士
明治四年宮崎縣に生る。明治十四年
講道館に入門。後段位累進武徳會教
師となる。其後八段に昇進し、關西
柔道界開拓に殊勳あり、大正二年範
士に列す。昭和四年御大禮天覽試合
には審判員を仰付けらる。昭和五年
四月講道館九段に果進す。

岩永裕吉 (ゴルフ)

東京品川區上大崎四ノ三三二ノ二
新聞聯合通信社
明治十六年九月東京に生る。同四十
二年京大法科卒業。後滿鐵及鐵道省
に奉職し、又國際通信社事務取締役

に就任す。現在新聞聯合の事務理事
の重層にあり。又ゴルフは朝霞ゴ
ルフクラブ財務委員(東京ゴルフク
ラブ)にして、同クラブ發達に盡力す。

稻畑勝太郎 (馬術)

大阪南區扇町通二ノ五一
日本國際馬術協會評議員
實業家。文久二年京都に生る。佛國
に於て染織業を研究し、京都染織講
習所教授京都織物會社技師となり、
後獨立して染料商經營。歐洲大戦に
際して巨富を得關西實業界の重鎮。
又陸軍カーキ色染の創業者。現大阪
商工會議所會頭に於て大正十五年貴族
院に列す。

石川兼吉 (弓道)

東京小石川區下宮坂町二〇
弓道範師
萬延元年九月靜岡縣興津町に生る。
身長(一六四釐)。體重(七五斤)。現
在高千穂商業同高商の弓道範師とし
て、壯者を凌ぐ元氣を以て、多數
學生の指導變成に精進。佛敎を信じ
書道に巧なり。我國弓道界の功績者
として知らる。

石井光雄 (ゴルフ)

東京日根區上日根一ノ一一〇
日本勸業銀行
明治十四年二月十四日三重縣に生
る。同三十九年京大法科卒業同時
に朝鮮銀行に入り、果進して主事た
りしが後朝鮮殖産銀行理事を経て現
日本勸業銀行副總裁たり。現在朝霞

ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)總務委員にて日下ハンデ一十九。

岩崎隆彌(ゴルフ) 東京本郷區湯島切通一 東京農事株式會社 岩崎岩崎久彌氏の二男。明治二十九年十一月出生。大正十年東大工科を卒業す。ゴルフを好み現在朝霞ゴルフクラブ總務委員(東京ゴルフクラブ)にして、日下ハンデ一十九。アマチュアゴルフファイとして活躍す。

今村幸男(ゴルフ) 四宮市南郷町三五 住友信託取締役會長 明治七年十一月奈良縣に生る。同三十二年東大法律科卒業後住友銀行に入り、横濱支店支店長及常務取締役等に歴任今日に至る。其他住友系各會社の重役を兼任す。現在朝霞ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)にて日下ハンデ一二十。

一宮鈴太郎(ゴルフ) 東京本郷區阿佐ヶ谷六ノ二三〇 横濱正金銀行 明治三年一月福岡縣に生る。同二十五年國道協會學校専修科を卒業。後横濱正金銀行に入り、倫敦支店支店長を経て後同行副頭取に擧げらる。現同行取締役たり。又朝霞ゴルフクラブ財務委員(東京ゴルフクラブ)として同クラブの發達に盡力す。日下ハンデ一十八。

一宮鈴生(ゴルフ) 東京澁谷區青葉町四 大日本製菓株式會社 明治十七年二月二日福岡縣に出生す。同三十九年東京高商卒業後米國ワイスコニン大学に經濟學を研鑽す。大正十二年三井物産に入り後大日本製菓に轉ず。現在同社専務取締役たり。又朝霞ゴルフクラブ會員(東京ゴルフクラブ)にして日下ハンデ一二十三。

一色虎兒(ゴルフ) 東京牛込區神樂町二ノ一六 信川鐵道株式會社 明治八年十一月十一日東京に生る。明治學院を経て倫敦大学に留學、歸朝後三井物産に入り主任及部長等に歴任す。後日本製菓取締役となる。現信川鐵道の社長たり。又現在朝霞ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)會員にて日下ハンデ一十六。

井野英一(ゴルフ) 東京澁谷區代々木宮ヶ谷町一四五 大法院判事 明治十七年六月二十四日大阪に生る。同四十二年東大法律科卒業翌年同職に留學す。東京地方裁判所判事及東京地方裁判所檢察官に東大講師等に歴任す。現在大法院判事。又朝霞ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)會員にしてハンデ一十九。

岩岡保作(野球) 關四市島崎字支丹三三五 九州帝國大學名譽教授 長野縣出身。一高を経て明治二十六年東大(工科大学)卒業。本邦野球界の發祥校とも云ふべき向後野球部の投手として兩腕投手の職名を膾炙す。野球史で有名なインプリー外人事件當時の名投手。現工學博士。

井藤半彌(ホッケー) 東京市外武藏野町吉祥寺五二〇ノ八 東京商科大学教授 明治二十七年九月東京都に生る。大正九年東京高商専攻部卒業。同十一年國道に留學、歸朝後東京商大専門部教授兼大學助教に任命。昭和二年商大教授に就任。本邦ホッケー界の權威者にて現大日本ホッケー協会の理事として、斯界の普及發展に盡力す。

伊藤武彦(體育) 大津市東浦官舎 明治神宮體育會評議員 明治二十四年岐阜に生る。大正四年東大法律科卒業。内務省に入り富山縣警視を経て、同八年朝鮮總督府秘書官に轉じ、更に内務事務官となる。後警保局長木島課長に歴任し、衛生局保健課長に就任。大正十三年歐米に出張す。現在滋賀縣知事たり。

井手伊吉(陸上) 神奈川縣厚木町九五三 安田銀行 東京出身。大正二年慶大理財科卒業。明治末期より大正初期の長距離界の權威者。同二年十一月山崎山崎に開催されし、第一回全國陸上大會に、千五百米(四分四八秒二)、五千米(十六分五四秒)の記録保持者。我國競走會極盛期の猛者。

伊藤二郎(ラグビー) 大阪東淀川區國太町六〇〇 大阪出身。昭和六年慶大法學部卒業。在學中東都ラグビー界の強豪慶大チーム、フルバックとして、昭和六年一月來朝せる対カナダ戦に我國の精鋭全日本代表選手に擧げられ大いに健闘瓦礫カナダチームを破り凱歌を擧ぐ。

伊藤金太郎(陸上) 札幌市南一條四七ノ一三武蔵方 北海道出身。昭和六年早大商科卒業。北海道陸上投擲王國を形成した人。最高記録六十二米五十四を保持し、國道競技の活躍は第九回關東大會に六十米〇九にて二等、第四回關東學生投擲に六十二米〇二にて六位を獲得す。

井土敏慧(野球) 關四市春日寺町四〇四 九州鐵道會社 明治二十九年福岡縣出身。大正九年早大政治科卒業。大正六年十二月臺灣及マニラ遠征に参加、マニラに於ける關東野球大會に榮冠を擧り榮譽ある捕手として活躍。因に當時の記録は十勝二敗の好成績たり。

飯田光太郎(水上) 東京本郷區西片町十肆ノ四號 日本水上競技聯盟評議員 明治二十三年東京に出生。種東大會萬國オリムピック大會等に水泳軍監督として遠征す。現水上聯盟役員にて斯界の普及發展に専ら努め、又水泳に關して健筆を揮ふ。

伊勢寅雄(拳闘) 東京豊川區日暮里町六ノ一七五 太平洋拳闘會總務 明治三十三年東京に生る。身長(一六七割)體重(一七七ポンド)前大日本拳闘會選手にて拳闘界黎明期に活躍。現太平洋拳闘會總務の要職にあり更に監督及レフェリーとして子弟の教養斯界の進歩發展に貢献す。

猪瀬順(野球) 栃木縣上三川町上蒲生 明治十四年栃木縣出身。宇都宮中學を経て明治三十七年早大卒業。本邦野球史に一代時代を劃せし明治三十七年第一回早慶戦に同部の右翼手にて二番打者として活躍せる我球界の大先輩にして早大野球部の功勞者たり。

伊黒正治(スキー) 札幌市北海道帝大スキー部内 大正二年北海道小樽市に出生。小樽中學を経て昭和六年四月北大に入學す。同七年一月第五回學生大會ジャンプ三位、同年二月第十回全日本大會ジャンプ四位、同八年一月第六回學生大會ジャンプ四位、同年二月第十一回全日本大會ジャンプには見事榮位を獲得し複合には第十位を占む。我國スキー界躍進の雄者に占む。我國スキー界躍進の雄者に占む。

伊藤精司(劍道) 東京牛込區下戸山町十二 明治神宮體育會評議員 明治十五年三月新潟縣に生る。今井常國の門に入り、直心影流を學ぶ。昭和四年御大禮記念武道天覽試合には榮譽ある指定選手として出場す。現に武徳會劍道教士にて又陸軍戸山學校教官の職にあり。

碓山享(陸上) 横濱中區本牧町原一ノ九五 神奈川縣陸上本部調査課 鹿兒島出身。大正十五年早大獨法科卒業。在學中大正十三年十一月神宮外苑に於て、全日本選手權大會に低障礙に二十六秒六の好記録にて優勝獲得。低障礙の一人者として知らる。

稻垣重徳(野球) 神奈川縣鎌倉町小町 明治三十二年神奈川縣に出生。大正十三年法政大學經濟科卒業。法政時代遊撃手として活躍し、多量に雄の役となり同十四年六大學リーグ設立と同時に監督に就任後を辭す。

飯塚鏡作(漕艇) 高崎市榮町二ノ一 日清生命高崎支店長 明治二十八年群馬縣に生る。大正初

井上啓一郎(漕艇) 横濱市千歲町五八 漕艇會社取締役 明治二十三年静岡縣に生る。早大在學中は水泳、漕艇部の選手として活躍す。大正五年早大政治科卒業後實業界に入り現在漕艇會社取締役たり。稲門徒友會員。

石田秀之介(劍道) 大阪市住吉區共立通二ノ一〇九 大日本武徳會劍道教士 明治二十八年五月茨城に生る。武徳會本部に於て北辰一刀流を修む。昭和二年五月本部より教士の稱號を授與さる。

井上正夫(野球) 大連市轉山屯水試橋 南滿洲鐵道會社 明治二十五年關西縣に生る。小倉中學を経て大正十五年早大商學部卒業。明治三十九年早大中止以來二十年間兩校の軌程が復活し大正十四年秋季に我國一大行事早慶戦當時早大の内野手を努む。

岩田春男(野球) 東京四谷區北伊賀町一九 成田中學を経て大正十年法政大學卒業。在學中同校野球部の外野手兼第

飯田光太郎(水上) 三代主將として、同部の新興時代に活躍す。又同部の強打者として、四大學リーグ(早慶明法)に其強打を揮ふ。

伊藤恭之助(馬術) 秋田縣仙北郡南橋岡村 日本國際馬術協會評議員 明治三年二月秋田縣に生る。曾て代議士に當選して、民政黨秋田支部長たり。現在秋田縣代表取締役、同縣酒造組合聯合會長及畜産組合長等の重務にあり。趣味乗馬、盆栽。

生島五三郎(馬術) 神戸灘區西灘岩屋 日本乗馬協會相談役 神戸草分の舊家にて、明治元年二月大阪に生る。同二十七年家督を相続し金融業を營む。現在日本國際馬術協會評議員及社団法人乗馬術研究會會長の要職にあり。縣下多額納税者。

井上縫太郎(柔道) 東京本郷區湯島同朋町七 大日本武徳會柔道教士

明治八年一月東京に生る。所屬講道館。大正十四年六月武徳會より教士の稱號を授けらる。斯道の大先輩であり、門下には財界方面の名士多数を擁するを以て知らる。

法政大學卒業。同校野球部新興時代第二代会長兼二塁手として、同部の苦節時代に奮闘す。

磯島卯之助 (柔道) 大阪東淀川區豊崎町二〇二 大日本武徳會柔道教士 明治二十五年大阪府に生る。所屬武徳會。大正十五年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。資格五段。

今井壽男 (柔道) 臺北市中町 臺北高商 大日本武徳會柔道教士 明治二十九年九月大分縣に生る。講道館に於て修行。昭和七年五月武徳會より教士號を授けらる。

飯塚儀内 (劍道) 群馬縣群馬郡白井村上白井 大日本武徳會劍道教士 明治九年一月群馬に生る。明信館に於て小野派一刀流及薙木流の兩派を修む。大正九年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

今井安太郎 (劍道) 大阪市南區安堂寺橋通一ノ三六 大日本武徳會劍道教士 明治十八年九月佐賀に生る。武徳會支部、高尾鐵道に就き鐵道、大石神陰流武徳會試修を修む。昭和三年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

市川字門 (劍道) 弘前市住吉町一七 大日本武徳會劍道教士 明治十六年二月青森に生る。武術教員養成所に於て武徳會流派の劍道を修む。大正十五年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。

石野基恒 (柔道) 京都左京區永觀堂町 大日本武徳會柔道教士 明治三十六年二月京都に生る。昭和四年五月武徳會より教士の稱號を受く。五段。

飯塚儀内 (劍道) 群馬縣群馬郡白井村上白井 大日本武徳會劍道教士 明治九年一月群馬に生る。明信館に於て小野派一刀流及薙木流の兩派を修む。大正九年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

井上彌三郎 (野球) 東京牛込區神保町二五 東京出身。成城中學を経て大正八年

伊藤正良 (柔道) 高松市宮島町五三七 大日本武徳會柔道教士 明治二十五年九月香川縣に生る。武専及び講道館に於て斯道を専修。大正十四年六月武徳會より教士の稱號を授けらる。

居藤高季 (柔道) 東京澁谷區代々木町幡ヶ谷三八 大日本武徳會柔道教士 明治三十年三月東京に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。

入間川七五郎 (相撲) 東京本所區元町六 大日本相撲協會理事事務取締本名中田源次郎。明治十年四月千葉縣に生る。相撲年寄にて、行司名木村宗四郎。長く春日野と言つた年寄で、技藝部長を務めし事あり。

池上徹哉 (劍道) 三重縣一身町上津田 大日本武徳會劍道教士 明治元年四月三重に生る。森護三郎に就き神刀一刀流を修行す。大正十四年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

石井辰巳郎 (柔道) 滋賀縣八幡町北元 大日本武徳會柔道教士 明治三十年四月秋田縣に生る。武徳會及び講道館に於て斯道を専修。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。五段。

今泉來藏 (劍道) 東京市神田區西小川町二ノ二 大日本武徳會劍道教士 明治十五年八月佐賀に生る。有信館本部にて神道無念流を修む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

井上彌三郎 (野球) 東京牛込區神保町二五 東京出身。成城中學を経て大正八年

井上平太 (劍道) 熊本縣鹿野郡池上村字谷隱 大日本武徳會劍道教士 嘉永元年九月熊本に生る。建部青一郎に就き雲弘流を修む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

井上舜一 (柔道) 福岡市大名町 大日本武徳會柔道教士 明治七年十二月福岡縣に生る。所屬

岩越正 (劍道) 關井市寶永下町 大日本武徳會劍道教士 明治二十三年二月關井に生る。武徳

會福井支部に於て心形刀流を修む。昭和二年五月本部より教士の稱號を授けらる。

大日本ホッケイ協會評議員 明治二十一年九月東京に生る。大正二年東大工科造船學科卒業。通信局技師を経て、同六年東大工科助教に任命さる。同十一年教授に就任。現工學博士たり。

飯田新七 (馬術) 京都市下京區本町二一 日本國際馬術協會評議員 實業家。高島屋社長。高島屋は天保二年江州高島より出ず。安政六年出生。實兄三代目新七の隠退後家督相続。近時益々業務擴大し東京大阪京都に支店を設く。趣味乗馬。

伊藤寛 (陸上) 横濱中區大岡町一七九三 横濱中區最戸町 明治三十八年 四月三十日 一七三號 六七・五號 櫻丘小學 横濱一中 早大商學部 東京朝日新聞 早大A.C. 舊姓笠原。大正十三年第二回早慶戦に槍投(五三米七三)の日本新記録を作る。一九二七年上海に於ける遠東大會には日本代表として、棒高跳第二位を占む。昭和四年早大卒業と同時に巴里に開かれた國際インテリカレッジに出場。ゴールハイジャンプ(三米八〇)の新記録を出す。現東朝運動部少壯記者として、運動批評に筆を揮ふ。

五十嵐九兵衛 (柔道) 山形縣東田郡山形村上山添 大日本武徳會柔道教士 明治二十七年十月山形縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。講道館五段。

石田信三 (柔道) 臺北市武徳會臺灣地方本部内 大日本武徳會柔道教士 明治十四年十月宮城縣に生る。大正九年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。柔道教師として斯界に名あり。講道館六段。

伊藤勝三 (野球) 東京芝區田村町六ノ九ノ七號 秋田市川端 五月十四日 一七三號 六九・四號 秋田中學 慶應義塾大學 大正生命保險 東京クラブ 中學時代より捕手。其の強肩を以て鳴り響き入りては、岡田捕手と共に、大投手宮武のバツテリとして活躍。昭和三年秋季同四年春季リーグに優勝す。現在三田クラブ東京クラブメンバー。都市對抗戦には東京クラブ捕手を勤め本壘を固守す。

市口房子 (水上) 東京芝區新橋四ノ二六 大正二年 三月十五日

稲葉太郎 (柔道) 京都市高倉松原 大日本武徳會柔道教士 明治二十年一月岐阜縣に生る。所屬武徳會。大正九年五月武徳會より教士の稱號を授けらる。

石井博 (馬術) 神奈川縣中郡成瀬村石田 日本國際馬術協會理事 明治九年八月神奈川に生る。同三十八年中央大學法科卒業。同三十八年石川虎之助の養子となる。現神奈川縣多額納税者及退職列事にて農業を營む。

伊藤寛 (陸上) 横濱中區大岡町一七九三 横濱中區最戸町 明治三十八年 四月三十日 一七三號 六七・五號 櫻丘小學 横濱一中 早大商學部 東京朝日新聞 早大A.C. 舊姓笠原。大正十三年第二回早慶戦に槍投(五三米七三)の日本新記録を作る。一九二七年上海に於ける遠東大會には日本代表として、棒高跳第二位を占む。昭和四年早大卒業と同時に巴里に開かれた國際インテリカレッジに出場。ゴールハイジャンプ(三米八〇)の新記録を出す。現東朝運動部少壯記者として、運動批評に筆を揮ふ。

岩地外松 (劍道) 金澤市泉野町十三 大日本武徳會劍道教士 明治二十二年十二月石川に生る。武徳專門學校に於いて武徳會派の劍道を専攻す。昭和二年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

池田仲誠 (弓道) 東京蒲田區羽田本町二二六 子爵 大日本弘徳會會長 弓道精進を有し昭和元年大日本弘徳會會長に就任以來斯界の發展に貢献す。華胄界務に見る弓道の大家として有名なり。

伊藤寛 (陸上) 横濱中區大岡町一七九三 横濱中區最戸町 明治三十八年 四月三十日 一七三號 六七・五號 櫻丘小學 横濱一中 早大商學部 東京朝日新聞 早大A.C. 舊姓笠原。大正十三年第二回早慶戦に槍投(五三米七三)の日本新記録を作る。一九二七年上海に於ける遠東大會には日本代表として、棒高跳第二位を占む。昭和四年早大卒業と同時に巴里に開かれた國際インテリカレッジに出場。ゴールハイジャンプ(三米八〇)の新記録を出す。現東朝運動部少壯記者として、運動批評に筆を揮ふ。

石山熊彦 (劍道) 高知市小高坂村四町 大日本武徳會劍道教士 明治十四年七月高知に生る。父範士石山孫六に就いて小野派一刀流を修む。大正九年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

飯塚理吉 (劍道) 東京豊島區巢鴨三ノ六 東京市電氣局 明治三十三年十二月九日出生。現電

石津光恵 (陸上) 東京世田谷區松原女子體專内 廣島縣廿日市町 大正三年 四月十六日 一六八・五號 六四・六號 廣島私立山中高等女學校 我國女子投擲界の第一人者。昭和

市口房子 (水上) 東京芝區新橋四ノ二六 大正二年 三月十五日

井口常雄 (ホッケイ) 東京小石川駕籠町一三二

飯塚理吉 (劍道) 東京豊島區巢鴨三ノ六 東京市電氣局 明治三十三年十二月九日出生。現電

石津光恵 (陸上) 東京世田谷區松原女子體專内 廣島縣廿日市町 大正三年 四月十六日 一六八・五號 六四・六號 廣島私立山中高等女學校 我國女子投擲界の第一人者。昭和

市口房子 (水上) 東京芝區新橋四ノ二六 大正二年 三月十五日

岩田清太郎 (水上)

- 1 東京品川区大井日本體操學校
- 2 静岡縣安部郡長田村
- 3 大正二年 三月二十日
- 4 一六二・五五五 五八・九
- 5 荏原中學 日本體育會體操學校
- 6 水泳界の巨人高石を生める茨木中學水泳部主將として昭和四年静岡青年體操大會、同六年大阪中學水上體操大會に出場奮闘、體操學校に入りては昭和七年六月都下十二校水上體操大會に活躍す。現在同校水泳部委員。

池田明篤 (野球)

- 1 東京中野區住吉町一〇
- 2 同山市山下
- 3 明治二十四年 八月二十五日
- 4 一六四四 五四・四
- 5 明治大學
- 6 昭和銀行 職工クラブ
- 7 同山縣出身前明大野球部三壘手として、大正二年第一回東大合会に日本代表となり比洋に遠征、四戰三勝一引分的好成绩を以て編東選手を把持す。同三年六月明大空手の社舉第一回米國遠征に参加。同五年商科卒業。現在職工俱樂部所屬。昭和銀行四谷支店に勤務。

稲葉秀造 (野球)

- 1 東京澁谷百人町二ノ一五一
- 2 同

井沼清吉 (陸上)

- 1 本郷區十軒木町一四海老澤方
- 2 青森縣北津輕郡中里村
- 3 明治四十年 七月二十七日
- 4 一六五・五五五 六一・一
- 5 弘前中學 早稲田大學
- 6 松坂屋 早大アスレチック
- 7 昭和六年度神宮大會四百米リレー出場(井沼、佐々木、阿武、吉岡)日本記録四一秒六獲得。第九回オリムピック大會には四百米リレーに日本代表として参加、百五十秒六の記録を獲得す。我國スプリングスターの第一人者として知らる。

板橋政次郎 (陸上)

- 1 東京日本橋區三越本店内
- 2 茨城縣太田町
- 3 明治四十年 八月三日
- 4 一七〇〇 七三・三
- 5 慶應義塾大學
- 6 三越本店
- 7 我國圓盤投の第一人者。日本圓盤投(四十四米五四)の記録保持者。早慶戦及神宮大會、編東大會、其他公認競技場に於ける圓盤投記録を獨占するの感あり。昭和七年度ベストテン第一位獲得。又短距離にも健闘を揮ふ。

市川段四郎 (野球)

- 1 東京京橋區明石町三一
- 2 東京市
- 3 明治四十一年
- 4 一六一・一 六四・六
- 5 立教中學 明石屋クラブ
- 6 歌舞伎座 明石屋クラブ
- 7 本名喜蔵斗政則。明石屋クラブ捕手及強打者として、昭和七年十月文

井田金作 (ゴルフ)

- 1 埼玉縣朝霞町東ゴルフ場内
- 2 東京世田區深澤町
- 3 大正二年 四月二十八日
- 4 一五九・五五五 五一・三
- 5 深澤小學校
- 6 朝霞ゴルフクラブ
- 7 職業ゴルフ選手。東京ゴルフクラブ専属コーチヤリとして、昭和六年の普及発展に尽力す。昭和六年程ヶ谷ゴルフリンクに於ける、編東選手権大會を最初として、大数多の大會に出場職業選手の新鋭にて、現在朝霞ゴルフリンクコーチヤリ。

岩崎三郎 (柔道)

- 1 東京小石川區小日向町二ノ八
- 2 栃木縣藤岡町
- 3 明治三十八年 四月十一日
- 4 一六五・五五五 六七・五
- 5 慶應普通部 慶應大學法學部
- 6 三愛商會社 三田柔友會
- 7 普通部時代柔道部主將として、京都武徳會主催全國中等學校柔道大會に出場。同大會柔道部にありても昭和三年同部の主將として學生柔道界に雄飛す。關東東北各地に遠征。現在五段にて、三愛柔道部に屬し、農産部に勤務。

今田保壽 (柔道)

- 1 東京澁谷區美竹町一三
- 2 鳥根縣通津郡大家村
- 3 明治四十年 九月四日
- 4 一七〇〇 七二・二

岩田清太郎 (柔道)

- 1 東京品川区大井日本體操學校
- 2 静岡縣安部郡長田村
- 3 大正二年 三月二十日
- 4 一六二・五五五 五八・九
- 5 荏原中學 日本體育會體操學校
- 6 水泳界の巨人高石を生める茨木中學水泳部主將として昭和四年静岡青年體操大會、同六年大阪中學水上體操大會に出場奮闘、體操學校に入りては昭和七年六月都下十二校水上體操大會に活躍す。現在同校水泳部委員。

池田明篤 (野球)

- 1 東京中野區住吉町一〇
- 2 同山市山下
- 3 明治二十四年 八月二十五日
- 4 一六四四 五四・四
- 5 明治大學
- 6 昭和銀行 職工クラブ
- 7 同山縣出身前明大野球部三壘手として、大正二年第一回東大合会に日本代表となり比洋に遠征、四戰三勝一引分的好成绩を以て編東選手を把持す。同三年六月明大空手の社舉第一回米國遠征に参加。同五年商科卒業。現在職工俱樂部所屬。昭和銀行四谷支店に勤務。

稲葉秀造 (野球)

- 1 東京澁谷百人町二ノ一五一
- 2 同

岩田清太郎 (柔道)

- 1 東京品川区大井日本體操學校
- 2 静岡縣安部郡長田村
- 3 大正二年 三月二十日
- 4 一六二・五五五 五八・九
- 5 荏原中學 日本體育會體操學校
- 6 水泳界の巨人高石を生める茨木中學水泳部主將として昭和四年静岡青年體操大會、同六年大阪中學水上體操大會に出場奮闘、體操學校に入りては昭和七年六月都下十二校水上體操大會に活躍す。現在同校水泳部委員。

池田明篤 (野球)

- 1 東京中野區住吉町一〇
- 2 同山市山下
- 3 明治二十四年 八月二十五日
- 4 一六四四 五四・四
- 5 明治大學
- 6 昭和銀行 職工クラブ
- 7 同山縣出身前明大野球部三壘手として、大正二年第一回東大合会に日本代表となり比洋に遠征、四戰三勝一引分的好成绩を以て編東選手を把持す。同三年六月明大空手の社舉第一回米國遠征に参加。同五年商科卒業。現在職工俱樂部所屬。昭和銀行四谷支店に勤務。

稲葉秀造 (野球)

- 1 東京澁谷百人町二ノ一五一
- 2 同

- 5 産地小學 濱田中學 法政大學
- 6 東京市電氣局
- 7 濱田中學時代は編東部主將として知られ法政に入りては柔道部主將として東都學生柔道界に活躍す。北陸、關東、關西對抗柔道大會開催に盡力す。又講道館學生聯盟委員たり。柔道三段現在市電氣局勤務。又市役所ラグビー部の一員として活躍す。

- 1 東京赤坂區青山南町四ノ一
- 2 東京赤坂區水川町
- 3 明治三十七年 十二月十一日
- 4 一七六 六七・五
- 5 青山師範附屬小 丸龜中學 商大
- 6 帝國海上火災
- 7 丸龜中學時代底球部及清艇部員として、同校の爲め非常に活躍す。商大在學中全國高商レースに四番手として出場。昭和二・三年の校内H・C・S 競技大會等にも出場奮闘。商大を経て帝國海上火災保險會社に勤務。

- 1 東京中野區上高田二ノ三四八
- 2 山形縣最上郡小日向町
- 3 明治三十八年 三月十一日
- 4 一六五・五五五 六六・五
- 5 東京小日向小學 新庄中學 明大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 前明大柔道(三段)部主將。後轉じてラグビー部に入る。東大大學との對戦に、名FWとして其名を馳せる。後其技術及氣魄は推されて主將となる。昭和三年法科卒業、東鐵に入り、現東鐵ラグビー部及明大OB主將を兼任す。又目下關東ラグビー蹴球協會競技委員たり。

- 1 東京品川区大井日本體操學校
- 2 静岡縣安部郡長田村
- 3 大正二年 三月二十日
- 4 一六二・五五五 五八・九
- 5 荏原中學 日本體育會體操學校
- 6 水泳界の巨人高石を生める茨木中學水泳部主將として昭和四年静岡青年體操大會、同六年大阪中學水上體操大會に出場奮闘、體操學校に入りては昭和七年六月都下十二校水上體操大會に活躍す。現在同校水泳部委員。

- 1 東京品川区大井日本體操學校
- 2 静岡縣安部郡長田村
- 3 大正二年 三月二十日
- 4 一六二・五五五 五八・九
- 5 荏原中學 日本體育會體操學校
- 6 水泳界の巨人高石を生める茨木中學水泳部主將として昭和四年静岡青年體操大會、同六年大阪中學水上體操大會に出場奮闘、體操學校に入りては昭和七年六月都下十二校水上體操大會に活躍す。現在同校水泳部委員。

七年十一月關東學生體操聯盟主催第一回關東學生マラソン、神宮體操場六郷川間コースに六位を獲得。文理大長距離選手として活躍す。

今野 重雄 (剣道)

- 1 東京豊島區高田本町一ノ三〇七 宮城縣飯野川町
- 2 明治二十八年 一月十五日
- 3 一六八・五五 六六・五五
- 4 飯野川尋常小學校
- 5 警視廳警務官
- 6 大正十年より新道を練磨し、武徳會より昭和五年五月精練證を授けらる。現五段にて又柔道は同八年より研鑽現在警視廳四段の下位たり。劍道は現警視廳四段の下位たり。劍道柔道の猛將にて日々警視廳警務部警術課に勤務す。趣味馬術。
- 7 井上 進 (野球)

井上 進 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡績會社内
- 2 大坂市
- 3 明治四十四年
- 4 一六七 五七
- 5 富山紡績會社
- 6 北陸の明星富山紡績チームの外野手。昭和八年第七回都市對抗戦に同チーム第二回日の出陣をなす。又北陸實業野球大會に四年連続征覇を占め、其他昭和八年春創立せし中部日本紡績選抜野球大會に優勝す。
- 7 石井 健 祐 (野球)

石井 健 祐 (野球)

- 1 東京日本橋區本石町三ノ二 茨城縣太田町

明治四十四年

- 1 一六四 五七
- 2 太田町小學校
- 3 リーガル商會
- 4 帝都軟式野球界の雄リーガル商會野球部の名一擧手。昭和七年度時事新報主催全國選手権大會に東京第二部より出場優勝。同年國民新聞及城東野球協會主催の大會にも出場榮譽ある勝利を獲得す。投打共に右。
- 5 池田 大 助 (剣道)

池田 大 助 (剣道)

- 1 東京中野區沼袋南二ノ二五 廣島縣山縣郡高賀村
- 2 明治三十六年 二月十一日
- 3 一六四 六六・五五
- 4 高賀小學校 修道中學 六高 東大 東京警務局 農林省劍友會
- 5 中野時代劍道部の猛將として縣下大會に出場優勝し、六高在學中は全國高専劍道大會に出場すること二回強剛を以て鳴らし、東大に入りては對京大戰に劍道部の重鎮として出場活躍す。大正十五年農學部卒業現在農林省劍友會メンバー。
- 6 伊藤 大 二 (野球)

伊藤 大 二 (野球)

- 1 東京大森區馬込町東三ノ五六八 静岡市
- 2 明治三十九年 五月二十一日
- 3 一六四 六〇
- 4 静岡中學 濱松高等工業 東京電氣會社
- 5 静岡中野球部中堅手及投手として、東海の強剛チームを以て知らる。東海野球大會に二回優勝、其他各大

會に出場活躍。濱松高工にては依然中堅及投手を務め、高専大會には三回出場す。昭和二年度同大會には、關東の剛雄を破り關東代表となり、同部の黄金時代を建設す。投打共に右。

岩井 樹太郎 (柔道)

- 1 東京下谷區二長町二二四
- 2 同
- 3 明治十六年 三月十五日
- 4 一五八 六一・九
- 5 洋服商 講道館
- 6 幼少より武道に精勵し拾九歳にて劍道日録を得。後柔道を修め現柔道四段講道館の開將として知らる。昭和五年七月精練證授與。現在家業に努力する傍ら後進の指導に盡力新道の篤志者として知らる。趣味読書。
- 7 井出 多米夫 (ラグビー)

井出 多米夫 (ラグビー)

- 1 東京牛込區喜久井町十水野方 静岡縣原部郡柳井村
- 2 明治四十一年 十一月二十九日
- 3 一六八 六四・六
- 4 静岡中學 早稻田大學 稻門クラブ
- 5 早大在學中は蹴球部選手H及びF Bとして、東西對抗戦インターカレッジ等に出場活躍す。昭和二年同五年兩度の極東大會には代表選手として参加大に活躍し同六年推された同部主將の印を帯ぶ。趣味観劇。
- 6 飯田 榮 夫 (清艇)

飯田 榮 夫 (清艇)

- 1 東京日野區工業大學内 茨城縣高麗郡里子村
- 2 明治四十二年 十月二十三日
- 3 一六七 六四・六
- 4 中妻中學 東京高工 工業大學 中學時代柔道及劍道選手。東京高

1 東京小石川區大塚町七一 本郷區湯島天神町

- 1 明治三十四年 十二月十日
- 2 一六七 六〇
- 3 明治大學
- 4 大會商會社
- 5 明大蹴球部創立者にて初代自主將。第六回極東大會には我國最初の蹴球代表選手として活躍。又都下各大學蹴球聯盟の創立に盡力す。大正十四年明大商科學部。大會商會社に勤務。現明大蹴球部監督として非凡なる手腕を發揮す。
- 6 石川 正文 (ラグビー)

石川 正文 (ラグビー)

- 1 東京中野區昭和通二ノ四四 酒田市
- 2 明治四十一年 二月二十二日
- 3 一六一 五七
- 4 水戸中學 水戸高校 東大 三妻商會社 學士クラブ
- 5 中學時代サッカークラブ選手として知らる。水戸ラガビー部初期のHとして活躍し東大に入りては名Hとして京大との對抗戦都下各大學リーグ等に出場大いに奮闘す。現在三妻クラブ及學士クラブとして健闘す。
- 6 泉 谷 祐 勝 (野球)

泉 谷 祐 勝 (野球)

- 1 東京杉並區上荻窪町四二八 神戸市
- 2 明治十五年 三月十五日
- 3 一七〇 五七
- 4 神戸小 神戸一中 早大 東邦電力會社 稻門クラブ
- 5 神戸一中當時捕手及二塁手として活躍。早大野球部監督時代の名二塁手として早慶第一、三回戦に出場快走と強打とを以て鳴る。早大野球部の大先鋒として知らる。
- 6 石川 基 (野球)

石川 基 (野球)

- 1 東都杉並區高圓寺七一〇

工在學中は編艇部選手。現東京工大編艇部七番手として昭和六、七年インターカレッジに出場活躍し、七年尾久に於ける折大、文理大、工大、三校レースに優勝す。趣味園藝尺八。

市川 三郎 (清艇)

- 1 東京下谷區竹町一 静岡縣大宮町
- 2 明治三十九年 四月三十日
- 3 一七六 六七・五五
- 4 御徒町小學 沼津中學 折大
- 5 長島塗料製品所 劍道部、陸上競技部等に關係し萬能選手として知られ、折大に入りては編艇部七番手としてインターカレッジが活躍す。出場活躍す。現在コーチャイとして母校編艇部發展に貢献す。趣味讀書。
- 6 伊藤 佐 (剣道)

伊藤 佐 (剣道)

- 1 東京荒川區日暮里鶯谷アパート 愛知縣愛知郡豊明村
- 2 明治三十六年 五月三十一日
- 3 一七一・五五 七五
- 4 静岡附小 京都一中 三高 京大 農林省 大日本武徳會
- 5 中學時代劍道部選手として奮闘し三高に入りてはラガビー選手として活躍す。京大劍道部開將として關西劍道界に雄飛し東大との對抗戦合に出場。得意の剛小手を用ふるを以て知らる。現在農林省未練課に勤務。

池 津 藤 松 (柔道)

- 1 東京下谷區龍泉寺町四〇四 新潟縣三島郡玉寺川村
- 2 明治三十二年 十二月七日
- 3 一六二・五五 六〇
- 4 王寺川村小學校
- 5 警視廳警務官
- 6 青年時代相撲選手として、東都青年相撲界に雄飛。大正八年巡査昇命後、錦町署代表となり對署試合創設以來出場活躍。現下谷本署に勤務。警察柔道界の古豪。趣味角力。
- 7 池田 正 人 (ラグビー)

池田 正 人 (ラグビー)

- 1 東京赤坂區青山北町六ノ四七山口 方 東京市
- 2 明治四十年
- 3 一六五・五五 六〇
- 4 東京商科大學
- 5 第一生命保險會社
- 6 商大在學中は蹴球部選手として大いに鳴らし、現在關東ラグビー蹴球協會に所屬し第一生命保險會社ラグビー部選手として活躍す。趣味スキー、讀書。
- 7 石川 鑑 作 (野球)

石川 鑑 作 (野球)

- 1 濱松高等工業學校内 静岡市
- 2 明治四十五年
- 3 一六五・五五 六〇
- 4 静岡中學校 濱松高等工業學校
- 5 東海の古豪静岡中學校の三擧手とし

て甲子園に同地方代表となり出場奮闘す。現濱松高工名三擧手として、毎回高専大會に出場其の好守健勝を以てて聞ゆ。

石神 澄子 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體育専内 茨城縣
- 2 大正四年 十二月十五日
- 3 一五三・五五 五・三
- 4 土浦高等女學校
- 5 女子ハードルの花形。高女時代より其能足を以てて鳴り、現日本女子體育に學び斯界の研鑽に勤む。昭和八年春關東選手権大會には八十米障礙に入賞奮闘す。
- 6 伊藤 俊 夫 (ゴルフ)

伊藤 俊 夫 (ゴルフ)

- 1 東京世田谷區三軒茶屋町二〇七 千葉縣
- 2 大正三年 二月十日
- 3 一六七 五四
- 4 駒澤小學校
- 5 駒澤ゴルフ場
- 6 アマチュアゴルフプレイヤー。現在駒澤ゴルフリンクに於て斯界の普及發展に盡力し、傍ら指導研鑽に努む。趣味武道水泳観劇。
- 7 色川 正太郎 (柔道)

色川 正太郎 (柔道)

- 1 東京浅草區四仲町二六 同
- 2 大正元年 十二月二十五日
- 3 一五五 五九
- 4 葛城小學校

4 鮮魚商 講道館

- 1 昭和七年講道館二段昇進。新進柔道家として知られ相撲にも秀いで森下若良會に明石山として入門東都青年相撲大會に出場大いに活躍す。趣味麻雀、擲球。
- 2 岩 切 盛 行 (水上)

岩 切 盛 行 (水上)

- 1 東京世田谷區代田町七一八 鹿兒島縣薩摩郡今和泉村
- 2 明治四十四年 十一月十六日
- 3 一六四 五二・五五
- 4 東京市立第二中學 明治大學
- 5 明大水泳部飛込選手として昭和二年極東オリムピック混合競技に出場、高飛込に優勝獲得。昭和七年インターカレッジ、高飛込第二位、同部の重鎮として知らる。趣味スケート。
- 6 泉 谷 祐 勝 (野球)

泉 谷 祐 勝 (野球)

- 1 東京杉並區上荻窪町四二八 神戸市
- 2 明治十五年 三月十五日
- 3 一七〇 五七
- 4 神戸小 神戸一中 早大 東邦電力會社 稻門クラブ
- 5 神戸一中當時捕手及二塁手として活躍。早大野球部監督時代の名二塁手として早慶第一、三回戦に出場快走と強打とを以て鳴る。早大野球部の大先鋒として知らる。
- 6 石川 基 (野球)

石川 基 (野球)

- 1 東都杉並區高圓寺七一〇

飯村 資吉 (野球)
 1 東京王子区上十條町九六一
 2 秋田縣大館町
 3 明治二十六年 四月六日
 4 一六八・五五 六〇冠
 5 大館小 大館中
 6 東京市役所 市役所野球部
 7 中野時代野球部選手として縣下中
 學野球界に活躍。市役所に入りては
 野球聯盟創設に盡力し同部の功勞者
 として知らる。現在市役所河津運動
 場。

庵原 順一 (漚艇)
 1 東京江戸川區小岩町三ノ一九二五
 2 兵庫縣會根町
 3 明治三十年 十月二十八日
 4 一七一・五五 五八・九冠
 5 會根小 豊岡中 水産講習所
 6 水産講習所
 7 中野及水産講習所時代は野球及
 球部選手として活躍し、後漚艇に轉
 向水産講習所練習船ヒフにて練習
 す。母校漚艇部の創設に盡力し現同
 部長の要職にあり。

石田 光彦 (野球)
 1 東京日本橋區本石町三ノ二
 2 神戸市
 3 大正五年 二月二十日
 4 一七〇冠 五八・五冠
 5 神戸小 會
 6 リーガル會
 7 同商會野球部中堅手。昭和七年時
 事新聞主催、全國大會に東京第二支
 部に優勝、出場権を掌握す。同年國
 民新聞並に城東野球協會主催野球大
 會に於て優勝栄冠を獲得。同野球部
 の強打者を以て知らる。

井上 辰雄 (野球)
 1 東京豊島區日白町一ノ一二〇
 2 同
 3 明治三十八年 三月十二日
 4 一六五・六六 六〇冠
 5 早稲田工手學校
 6 鐵道省監督局 鐵道省野球部
 7 早工を経て鐵道省に入り現在監督
 局に勤務。鐵道省野球部主將として
 全國鐵道大會に出場大いに活躍す。
 現同チームの重鎮として知らる。趣
 味讀書、觀劇

石井 小一郎 (蹴球)
 1 東京品川區大井庚塚町四九五

磯部 茂樹 (ラグビー)
 1 東京大森區新井宿二ノ二三七〇
 2 同
 3 明治三十八年
 4 一七〇冠 五七冠
 5 東京帝國大學
 6 第一生命保險會社
 7 東大在學中は水泳及びスキー部選
 手として傑出し第一生命に入りては
 關東ラグビー蹴球協會に所属し同社ラ
 グビー部FWとして活躍す。趣味演
 書

稲田 照夫 (野球)
 1 東京中野區法大野球部合宿所
 2 臺灣
 3 明治四十二年
 4 一六一冠 五七冠
 5 平安中學 法政大學
 6 中野時代遊撃手。現法政大學野球
 部遊撃手及二壘手として六大學リ
 ーグ戦に活躍。打擊投球共に右。輕快
 敏足なるプレーヤーとして知らる。

石井 清 (柔道)
 1 東京深川區清澄町二ノ二
 2 香川縣三豊郡比地二村
 3 明治四十二年 二月二十七日
 4 一五八冠 六七・五冠
 5 比地二小學校
 6 警視廳警察官 警視廳
 7 幼少より講道館に於て柔道を修
 行。十七歳にて初段。現四段。日本
 橋新橋講道代表選手として對講試合

伊藤兼太郎 (ラグビー)
 1 東京京橋區木挽町五ノ三
 2 松本市
 3 明治四十三年
 4 一六四冠 六〇冠
 5 安曇郡堀金小
 6 木村屋雜木店 木村屋チーム
 7 昭和五年創設せられたる木村屋ラ
 グビー部TBとして昭和七年時事新
 報社主催實業團ラグビー大會に出場
 優勝す。又野球部投手として強肩と
 強打とを以て知らる。

石野省吾 (ラグビー)
 1 東京中野區橋場町七ノ三
 2 千葉縣
 3 明治三十七年 七月六日
 4 一七三冠 七五冠
 5 大多喜中學校
 6 川崎第一銀行京橋支店
 7 中野時代野球部投手として縣下に
 鳴らし現在東京實業ラグビー界の雄
 川崎第一銀行ラグビー部のスターム
 センターとして活躍す。趣味讀書

今井雄四郎 (野球)
 1 東京豊島區池袋三ノ一四八〇
 2 米澤市
 3 明治三十八年 十一月二十七日
 4 一六四冠 六〇冠
 5 米澤中學校 早稲田大學
 6 東京火災保險 東京クラブ
 7 中野時代名外野手として縣下に知
 られ、早大に入りては左翼手となり

今道 勇吉 (ラグビー)
 1 東京市外務村成城學園
 2 岡山縣笠岡町
 3 明治三十八年 十月一日
 4 一七〇冠 六一・九冠
 5 臺北一中 慶應大學
 6 東京海上火災 慶應OB
 7 中野時代陸上競歩部選手として知
 られ、慶大入學後ラグビー部の名マ
 ネジャーとして昭和五、六年同部の
 發展に奮闘努力す。趣味歌舞伎

今田 武雄 (野球)
 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
 2 岡山縣
 3 明治三十八年
 4 一六七冠 六七・五冠
 5 四山二中
 6 大阪鐵道局
 7 中野時代より一壘手にて、現在も
 大鐵吹田クラブ一壘手として、昭和
 八年第七回都市對抗戦に神宮球場に
 奮戦す。因に同年の個人打率(五割
 七分一厘)の高率を示す。

猪瀬 正 (野球)
 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
 2 福井縣敦賀町
 3 明治四十三年
 4 一六七冠 六四・六冠
 5 敦賀商業
 6 大阪鐵道局
 7 商業時代より一壘手にて、現大鐵
 吹田クラブ一壘手として、近畿代表
 クラブとなり、昭和七年第六回及第

飯田三郎 (野球)
 1 函館市北海製糖會社内
 2 函館市
 3 明治三十六年
 4 一六七冠 六四・六冠
 5 北海製糖會社 函館太平洋俱樂部
 6 北海製糖會社 函館太平洋俱樂部
 7 高商時代投手三壘手外野手等を守
 り北海球界を風靡す。現太平洋クラブ
 右翼手として、昭和八年第七回都市
 對抗戦に其強肩を以て活躍せる同
 クラブの重鎮。

伊豫田文三 (野球)
 1 函館市函館水電會社内
 2 函館市
 3 大正四年
 4 一六二・五冠 五四・四冠
 5 函館商業
 6 函館水電會社 函館太平洋俱樂部
 7 商業時代より遊撃手にて昭和八年
 第七回都市對抗戦に大洋クラブ遊撃
 手として同部の第一打者の面目を示
 す。又其廣範圍の守備及俊足を以て
 鳴る。

石井三郎 (蹴球)
 1 東京品川區表参道町四
 2 神奈川縣
 3 明治十八年 五月十四日
 4 一五八冠 五八・九冠
 5 豊田村小學校

泉谷岩松 (野球)
 1 神戸市神戸海上火災保険會社
 2 神戸市
 3 明治三十八年
 4 一六七〇 六〇近
 5 神戸商業 關西學院
 6 神戸海上火災保險會社
 7 全神戸軍の外野手にて、昭和七年第六回都市對抗戦に諸都の剛雄を一蹴して覇權を握り、翌八年第七回同大會にも出場準々決勝對八幡戰等に奮戦す。

石原喜一 (野球)
 1 京都市河原町立命館大學内
 2 京都市
 3 明治四十四年
 4 一七四・五〇 六九・四近
 5 京都第二商業 立命館大學
 6 商業時代より投手。現立命館大學野球部投手として昭和六、七年全國高専野球大會に出場連続優勝。諸然たる強味を示して斯界に君臨し、剛球投手として知らる。趣味、読書。

井上純一 (野球)
 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
 2 和歌山縣新河町
 3 大正三年
 4 一六二・五〇 六〇近
 5 和歌山商業
 6 大阪鐵道局
 7 前和歌山商業捕手として、甲子園に出場活躍す。現大阪吹田クラブ捕手にて、昭和八年第七回都市對抗戦に強肩を以て本塁を固守す。

岩田富郎 (籠球)
 1 東京品川區大井操學校
 2 岡山市天瀬實神町
 3 大正二年 七月十一日
 4 一六五・五〇 五八・九近
 5 西南學院 日本體育會體操學校
 6 福岡縣西南學院籠球部Rにて、二ヶ年主將の重任を帯ぶ。現體操學校籠球部Rとして活躍。又ラグビーマラソンにも長ず。趣味、音樂、舞踊。

井上敬治 (東京)
 1 東京池田區中里町四六〇
 2 千葉縣安房郡主基村
 3 大正五年 三月十三日
 4 一六四〇 五二・五近
 5 池田第五小學 錦城中學
 6 東都中等學校陸上競技部のナムバワン 現在錦城中學在學中にて晴れの神宮競技には常に二百米競技に優勝。タイム十一秒二のレコードホルダー。趣味、スキー。

一ノ瀬久 (野球)
 1 東京芝區三田簡保保險局
 2 長崎縣
 3 明治四十一年
 4 一六七〇 五八・九近
 5 福岡縣簡保保險局
 6 福岡縣簡保保險局
 7 簡保保險局の主戦投手及主將にて、其の武器とする曲球は試合毎に相手の強打者を苦しめ、守備の責任の大事を背負つて居る感あり。昭和八年度第七回都市對抗戦には、東京選に出場活躍す。

石岡晃武 (柔道)
 1 東京小石川區大塚高等寄附會内
 2 埼玉縣浦和町
 3 大正三年 三月二十六日
 4 一七三〇 七六・九近
 5 浦和小學 浦和中學 東京高師
 6 中學時代柔道部主將を務む。又縣下柔道試合等に屬々優勝。其他浦和高校主催北關東中等柔道試合に毎回出場常に好成績を収む。現東京高師柔道部主將。趣味、三曲、圍碁。

井上聰 (庭球)
 1 名古屋區東區山口町一八溝口方
 2 山口縣徳島郡海野村
 3 明治四十五年一月二十四日
 4 一六七〇 六一・九近
 5 明倫中學 名古屋高商
 6 中學時代より名テニスマンとして、第一回中等學校選手權大會に出場活躍す。又現在名高庭球部の重鎮にて、高専大會及對抗戦に常に出場活躍す。

飯田覺二 (ラグビー)
 1 東京大森區北千束町五〇九
 2 東京市
 3 大正三年 十月四日
 4 一六四〇 四九・四近
 5 明治學院高商部
 6 明治學院ラグビー部Tとして、全國高専ラグビー大會、昭和九年對水高戰同七年十一月對專修大學戰等に出場活躍す。趣味、讀書。

猪狩五郎 (陸上)
 1 東京中野區沼袋南二ノ六五宮野入方
 2 福島縣石城郡草野村
 3 明治四十三年 二月二十四日
 4 一六八・五〇 六六・五近
 5 明治大學
 6 明大競技部
 7 明大中距離選手。各競技大會に出場活躍。昭和七年度四百米ランキンが第九位を獲得。又八百米(二分三秒)の記録を保持す。趣味、キネマ。

入谷富三郎 (ラグビー)
 1 盛岡市岩手縣寄附會内
 2 北海道札幌郡白石村
 3 明治四十三年 三月十三日
 4 一六二・五〇 五七・七近
 5 岩手縣專
 6 岩手縣專ラグビー部Hとして全國高専ラグビー大會に奮闘。昭和七年十月對東北學院戰秋田鎮專との對

磯淵之助 (漕艇)
 1 東京杉並區馬橋四二〇
 2 山梨縣南都留郡谷村町
 3 明治四十四年 七月十五日
 4 一六四〇 五二・五近
 5 谷村小學 明治中學 慶大
 6 中學時代陸上競技部選手。慶應に入りては隅田クルースカール選手として昭和七年尾久に於ける關東スカール選手權大會に出場選手權獲得。又同八年インターカレッジに活躍す。

猪股恒之助 (野球)
 1 宇都宮運輸事務所
 2 宇都宮市
 3 明治三十七年
 4 一六七〇 五四・四近
 5 宇都宮商業
 6 宇都宮縣
 7 宇都宮クラブ捕手。昭和五年關島に於ける東日本實業野球大會に出場優勝。昭和七年大館に於ける關東實業野球大會に出場優勝。都市對抗戦開始以來栃木縣代表として關東選に出場。

石井幸藏 (野球)
 1 東京芝區區瓦町二八
 2 東京市
 3 明治四十二年
 4 一六四〇 五七・七近
 5 東京電燈會社
 6 東都軟式野球の俊豪、トンボクラブ名二番手。同クラブ切つての剛打者。昭和七年度第六回淺草野球聯盟主催全東京野球戦に見事諸巨將を破り優勝。投打共右。

稲葉充 (山岳)
 1 東京牛込區矢來町三
 2 長野縣小縣郡
 3 明治三十二年 十二月二十日
 4 一七〇〇 六八・八近
 5 大久保小學 早大 中央大學
 6 東京市役所 Y.M.C.A.
 7 少年時代より登山を好み、各地名山高山を踏破遊歩すること二十餘年。本邦山岳界の權威者として知らる。現在市役所に勤務。日本登高會會員。

伊東梅次郎 (野球)
 1 東京蒲田區新宿町五九七
 2 同
 3 明治二十二年 二月五日
 4 一六五・五〇 八〇・七近
 5 常盤小學 大成中學 明大
 6 大福海上火災保險會社

井戸義夫 (漕艇)
 1 東京澁谷區豊澤町六九慶應寮
 2 神戸須磨區戸取町
 3 大正三年 三月三日

池田良雄 (弓道)
 1 東京芝區豊岡町一
 2 同
 3 明治二十二年 十月四日
 4 一六一〇 六七・五近
 5 長野縣片桐小學
 6 金物商 武徳會
 7 家業に精勵する傍ら弓道を修め、大正七年大日本弓會聯合會に出場し入賞す。現在武徳會弓道二段、老巧の士として知らる。趣味、釣魚、読書。

伊藤武虎 (柔道)
 1 東京本郷區本富士警察署
 2 岩手縣岩手郡田頭村
 3 明治四十年 五月二十五日
 4 一五九・五〇 六四・五近
 5 田頭小學 盛岡中學
 6 警視廳警察官 警視廳
 7 中學時代既に三段を受け、柔道部主將として東北中等柔道界に鳴らす。現在本富士警察署特高課に勤務。傍ら武道に精進す。趣味、スキー。

岩脇和吉 (陸上)
 1 盛岡市岩手警察寄附会
 2 長野縣南安曇郡温村
 3 明治四十一年 四月二十八日
 4 一六八・五種 六一・九種
 5 松本中學 岩手警察
 6
 7 中學時代柔道部の精銳として健闘す。岩手警察に入りてはラグビー部名セクレタリーとして昭和七年十月對東北學院及對秋田鎮専科に優勝す。

泉 (柔道)
 1 東京神田區小川町三ノ二六
 2 高知縣安藝郡吉良川村
 3 明治三十五年 十二月二十三日
 4 一七〇種 六九・四種
 5 吉川小學校
 6 警視廳警察官 警視廳
 7 昭和六年七月柔道三段昇進、錦町警察署柔道代表選手として對署試合に出場優秀なる成績を収む。自派術に於ても知らる。趣味音楽

板橋健二郎 (野球)
 1 仙臺鐵道局經理課
 2 宮城縣
 3 明治四十三年
 4 一六七種 六〇種
 5 一ノ蘭中學
 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部
 7 中學時代投手。仙臺野球部に入りては投手として昭和六年全國鐵道野球大會に出場優勝し、第六回都市對抗戦には仙臺代表に選抜さる。

伊吹希三 (陸上)
 1 東京小石川區東京高師寄宿内
 2 岡山縣高梁町
 3 明治四十五年 一月三十日
 4 一七九種 六九・四種
 5 高梁小學 高梁中學 高師
 6
 7 文理大農学部二百米及走幅跳選手。神宮大會及インターカレッジ等に出場活躍。昭和七年度走幅跳順位十位、二百米九位を獲得。

今江信義 (馬術)
 1 東京下谷區池之端七軒町三八
 2 同
 3 明治三十七年 一月十七日
 4 一六一種 五・四種
 5 忍ヶ岡小 京華中 大倉高商
 6 第一火災海上保險會社
 7 京華商業野球部三疊手及中堅手として、奮闘し、大倉高商に入りては馬術部主將及卓球部選手として活躍

井上政紀 (野球)
 1 東京澁谷區百人町三ノ二六九
 2 鹿兒島市
 3 明治三十七年 八月二十八日
 4 一六四種 六九・四種
 5 慶應義塾大學
 6 三越本店
 7 慶大より三越に入る。現在三越野球部選手として東都實業野球界に活躍す。軽快なるプレイと強打とを以て知らる。趣味音楽

池田作太 (柔道)
 1 東京澁谷區日暮里町四ノ一〇二
 2 山形縣東田川郡榮村
 3 明治三十五年 一月二十日
 4 一六一種 六〇種
 5 榮村小學校
 6 上野講道館
 7 昭和五年十二月、講道館二段昇進。第一回全國鐵道局對抗試合に東鐵代表として出場、優秀なる成績を収む。趣味音楽

伊藤拾吉 (剣道)
 1 東京澁谷區東田町二八〇
 2 長岡市
 3 明治四十年 八月十日
 4 一七〇種 五八・九種
 5 長岡中學 明治大學
 6 太陽生命保險會社 武徳會
 7 中學時代より剣道部選手として部下大會に奮闘し、明大に入るや同部の精銳として都下學生劍道界に活躍す。現在三段。趣味音楽

石川雅造 (ラグビー)
 1 東京澁谷區木挽町五ノ二
 2 山形縣
 3 明治三十九年
 4 一六一種 五八・七種
 5 山形市第一小學校
 6 木村屋總本店 木村屋チーム
 7 昭和五年創設せられたる木村屋ラグビー部FWとして昭和七年時事新報社主催實業ラグビー大會に出場優勝す。又野球部選手としても知らる。

岩城山多作 (相撲)
 1 東京本所區龜澤町二ノ二
 2 青森縣大野町
 3 明治三十七年 一月四日
 4 一七三種 九一・九種
 5 三ツ日小學校
 6 大日本相撲協會 國技館
 7 本名渡邊多作。假分部屋力士。大正十年一月初土俵。現在幕内力士として、昭和八年春場所成績七勝四敗。得意の手左四ツ。趣味音楽

井上三男藏 (野球)
 1 東京澁谷區瓦町二八
 2 東京澁谷區
 3 大正三年
 4 一六一種 五二・五種
 5 京北實業學校
 6 トンボ鉛筆會社
 7 帝都軟式野球の俊星トシボタクラブ聯盟主催全東京城に剛眉を以て健闘

石田安太郎 (弓道)
 1 東京下谷區入谷町一七二
 2 同
 3 明治三年 九月二日
 4 一五九・五種 五四・四種
 5 静岡縣松崎町
 6 材木商 武徳會
 7 家業に精勵する傍ら小笠原流弓術を修め努力精進の結果斯界の古豪を以て知らる。前向武會員として斯道の普及発展に貢献す。趣味釣

伊藤十郎 (庭球)
 1 東京本所區業平町三ノ八
 2 佐賀市
 3 明治三十八年 二月二十日
 4 一六七種 六〇種
 5 佐賀第二小學 佐賀中學
 6 大日本庭球會
 7 佐賀中學庭球部選手として北九州庭球大會に出場奮闘す。現在サツボロビル野球部三疊手として東都實業野球界に活躍す。趣味音楽

石田健太郎 (野球)
 1 東京澁谷區日暮里町三ノ一五〇
 2 秋田縣土崎町
 3 大正二年十二月七日
 4 一七〇種 五七種
 5 土崎小學 秋田商業
 6 淺草松屋 松屋運動部
 7 秋田商業時代同校野球部の三疊手及遊撃手として奥羽實業大會には遊撃手として活躍。現在松屋野球部の内

猪苗代馨 (ラグビー)
 1 盛岡市岩手警察寄附会
 2 仙臺市河原町
 3 明治四十二年 五月十五日
 4 一七〇種 六九・四種
 5 仙臺第一中學 岩手警察
 6
 7 岩手警察ラグビー部主將兼TBとして、昭和七年十月對東北學院戦及對秋田鎮専科に優勝し、華々しき戦跡を印す。

石井健之助 (馬術)
 1 東京澁谷區早稲田大學内
 2 神戸市山手通り
 3 明治四十四年 一月八日
 4 一六七種 六四・六種
 5 御影御籠小學・神戸二中 早大
 6
 7 早大馬術部障得物選手として、早帝慶三大學對抗馬術競技、關東學生馬術トーナメント等に出場活躍。現在同部マネージャー。

石飛清範 (ラグビー)
 1 東京品川區大井水神町二〇六七
 2 松江市
 3 明治四十二年 三月二十七日
 4 一七〇種 六一・七種
 5 松江中學
 6 東京瓦斯電氣工業會社
 7 松江中學を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社ラグビー部TB選手として東都實業ラグビー界に活躍す。

猪熊保 (柔道)
 1 東京牛込區若松町一三八
 2 大分縣下毛郡葛城村
 3 明治三十九年 七月五日
 4 一六八・五種 六一・九種
 5 福岡三井田小學 法政工業
 6 東京市役所 講道館
 7 幼時より武道を好み柔道に精進。昭和七年十二月講道館二段昇進。現在三段。市役所柔道部代表選手として活躍す。趣味尺八

岩崎惣助 (野球)
 1 仙臺鐵道局運輸課
 2 盛岡市
 3 明治四十三年
 4 一七〇種 六四・六種
 5 盛岡商業
 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部
 7 商業時代捕手。仙臺野球部に入りては捕手として全國鐵道野球大會に出場活躍し第六回都市對抗戦には仙

井上一郎 (ラグビー)
 1 東京大森區入新井一丁目鈴木木方
 2 東京市
 3 明治四十年 十一月二十六日
 4 一六七種 五四・四種
 5 早稲田工手學校商工部
 6 東京瓦斯電氣工業會社
 7 早稲田工手學校を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社ラグビー部TB選手として東都實業ラグビー界に活躍す。

井川喜代一 (野球)
 1 東京澁谷區慶大野球部會所
 2 高松市
 3 明治四十一年
 4 一七三種 七二・二種
 5 高松商業 慶應大學
 6
 7 商業時代投手。慶大野球部に入りては左翼手として早慶戦六大學リーグに出場健闘。同軍の重鎮にて文好走強打を以て知らる。

石澤義春 (野球)
 1 東京豊島區立大野球部會所
 2 北海道
 3 明治四十五年
 4 一七〇種 六四・六種
 5 北海中學 立教大學
 6
 7 中學時代投手。立教大學投手として六大學リーグに活躍。真球を知て知られ將來を囑目せらる。新進投手

岩野幸良 (ラグビー)
 1 東京大森區新井宿四ノ一〇三八
 2 金澤市店坂通り
 3 明治四十二年 八月二十三日
 4 一七一・五種 六〇種
 5 日本大學中學 日本大學
 6 東京瓦斯電氣工業會社
 7 中學時代野球部三疊手として知られ日大を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社ラグビー部TB選

石田真七 (馬術)

- 1 東京渋谷区代々木山谷二八九
- 2 山口縣吉敷郡西岐波村
- 3 明治十四年 十一月十三日
- 4 一六七七番 六一・九七
- 5 陸軍士官學校
- 6 陸軍馬術協會
- 7 大阪騎兵第四聯隊長及習志野騎兵第十四聯隊長等に歴任、現在國際馬術協會主事として本邦馬術界に多大なる貢獻をなす。

射水川成吉 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國三ノ五
- 2 愛媛縣温泉郡桑原村
- 3 明治三十九年 二月十日
- 4 一六四四番 九一七
- 5 桑原村小學校
- 6 大日本相撲協會 高砂部屋
- 7 本名八木成吉。高砂部屋抱へ力士。大正十三年初土俵昭和七年一月幕内力士となる。押し出しを得意とす。趣味は相撲、舞踊。

池田一郎 (ラグビー)

- 1 神奈川県鎌倉市松崎寺尾谷
- 2 同
- 3 明治四十年 六月三十日
- 4 一六八・五番 六〇七
- 5 府立一中 横濱高工
- 6 東京瓦斯電氣工業會社
- 7 横濱高工ラグビー選手として活躍し、現在東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部員として東都實業ラグビー界に知らる。趣味音楽。

家本 潔 (ラグビー)

- 1 蒲田區蒲田町七六三久松方
- 2 神奈川県小田原町
- 3 明治四十二年 六月三日
- 4 一六五五番 五八・九七
- 5 小田原中學 横濱高工
- 6 東京瓦斯電氣工業會社
- 7 横濱高工在學中は四百米水泳選手として活躍し、現在東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部員として東都實業ラグビー界に活躍す。

伊藤正雄 (蹴球)

- 1 東京王子區稻付町五ノ七六六
- 2 仙臺市杉山通り
- 3 明治二十二年十一月十二日
- 4 一六四四番 六〇七
- 5 仙臺中學 中央大學
- 6 東京鐵道局 東鐵蹴球部
- 7 仙臺中學蹴球部主将として鳴らし中央大學を経て東鐵に入り現在東鐵蹴球部委員として活躍す。趣味音楽。

石井律造 (柔道)

- 1 東京品川區大井瀧王寺町四ノ六七
- 2 同
- 3 東京本郷區駒込神明町
- 4 明治十六年 四月十一日
- 5 一六一一番 六六・五七
- 6 神奈川縣田奈村小學校
- 7 上野松坂屋 松坂屋クラブ

市川鶴之助 (野球)

- 1 東京本所區向島島地一・二二
- 2 東京市
- 3 明治十七年 五月三日
- 4 一五二七番 四九・四七
- 5 大阪北區富島小學校
- 6 觀音劇場主
- 7 鶴之助チーム監督。昭和八年五月隅田公園に於ける東都演劇リーグに同軍の統帥として健闘す。現淺草觀音劇場を經營す。

市川鶴司 (野球)

- 1 東京淺草區觀音劇場内
- 2 東京市
- 3 大正二年 十二月六日
- 4 一五八八番 四九・四七
- 5 淺草區海小學校
- 6 觀音劇場 鶴之助クラブ
- 7 市川鶴之助野球部三疊手。昭和八年五月隅田公園に於ける東都演劇リーグ戦に出場奮闘す。

市川鶴七 (野球)

- 1 東京淺草區觀音劇場内
- 2 福島縣
- 3 明治三十五年 十一月十日
- 4 一七〇七番 六四・六七
- 5 福島商業
- 6 福島商業
- 7 觀音劇場鶴之助クラブ東都演劇團の新市川鶴之助野球部捕手。昭和八年五月隅田公園に於ける東都演劇リーグ戦に出場奮闘す。

岩本虎男 (拳闘)

- 1 東京淺草區角一ノ一
- 2 朝鮮水浦府南海
- 3 明治四十四年 二月十一日
- 4 一七四・五番 一六〇・ギンド
- 5 木浦商業
- 6 木浦商業
- 7 ミドル・ウェイト・クラス拳闘選手。昭和七年度各種拳闘試合に出場優勝。重畳選手として將來を囑ひせらる。趣味讀書。

因藤正喜 (野球)

- 1 大連市國際運送會社内
- 2 大連市
- 3 大正元年
- 4 一六一一番 五七七
- 5 大連商業
- 6 國際運送會社
- 7 商業時代より投手として、現大連實業野球部投手として、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場し其曲球を以て誇る。

岩崎角之進 (ラグビー)

- 1 小石川區小日向臺町二ノ八
- 2 小石川區藤町
- 3 明治三十六年 二月一日
- 4 一六四四番 六四・六七
- 5 赤坂中學 早稲田大學
- 6 川崎第百銀行 稲門OB
- 7 早大在學中はラグビー部選手フツカイとして早慶戦、早明戦選手ラッガイ等に出場大いに活躍す。現在川崎第百銀行に勤務。趣味讀書。

石川達彦 (ラグビー)

- 1 東京芝區高輪南町六五
- 2 東京市
- 3 明治四十二年 六月六日
- 4 一六一一番 五七七
- 5 芝中學
- 6 常磐生命保險會社
- 7 關東ラグビー連球協會所屬。現常磐生命ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に奮闘す。

伊藤隆次 (柔道)

- 1 東京小石川區仲富坂町四
- 2 宮城縣加美郡小野田村
- 3 明治三十四年
- 4 一六四四番 六七・五七

石井秋男 (野球)

- 1 大連市國際運送會社内
- 2 千葉縣
- 3 大正四年
- 4 一七三三番 六七・五七
- 5 千葉中學
- 6 國際運送會社
- 7 中學時代より投手として、現大連實業野球部投手として、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場大いに活躍す。

伊藤善之丞 (柔道)

- 1 東京麻布區今井町五
- 2 福井縣坂井郡御岳村
- 3 明治二十四年 八月二十二日
- 4 一六一一番 七四・二七
- 5 警視廳警察官
- 6 大正十一年より新道に練習、昭和二年警視廳四段の下位に達す。警察柔道界の闘士にて、現警視廳警察部警衛課に勤務。

伊東正夫 (水上)

- 1 東京淺草區上落合六三八
- 2 大連市
- 3 大正三年 一月二十四日
- 4 一六四四番 五七七
- 5 大連二中 早稲田大學
- 6 同
- 7 中學時代アイスホッケー選手。早大に入りてはスケート部選手として昭和八年全日本選手権大會に出場優勝す。

今成克己 (弓道)

井上正喜 (蹴球)

- 1 東京小石川區東京高等寄宿會
- 2 福岡縣朝倉郡宮野村
- 3 大正二年 二月二十七日
- 4 一六五・五番 六五七
- 5 朝倉中學 東京高師
- 6 朝倉中學 文理大蹴球部
- 7 中學時代より蹴球部選手として縣下に活躍。現東京高師蹴球部プレイヤーとして活躍す。趣味音楽マイジャーン。

石川文雄 (蹴球)

- 1 東京中野區住吉町六
- 2 札幌市南區西六丁目
- 3 明治四十四年 五月十三日
- 4 一七六六番 六一・九七
- 5 早稲田大學
- 6 早稲田大學
- 7 早大蹴球部の宿將。關東學生蹴球選手権、全日本蹴球選手権大會に毎回出場健闘す。趣味スキー。

伊藤順吉 (蹴球)

- 1 兵庫縣武庫郡住吉村牛神樂
- 2 同上

飯田富男 (陸上)

- 1 東京世田谷區明大競技部合宿所
- 2 栃木縣芳賀郡市羽村
- 3 大正三年 四月十八日
- 4 一七〇七番 七二・二七
- 5 明大
- 6 明大
- 7 明大競技部蹴球部の地。昭和八年第二回四大學對抗戦(明法中日)に出場第三位を獲得大いに健闘。趣味散步。

伊藤次郎 (野球)

- 1 東京中野區法政野球部合宿所
- 2 臺灣
- 3 明治四十三年
- 4 一七三三番 六〇七
- 5 平安中學 法政大學
- 6 中學時代投手。法政野球部に入りては中堅手として、六大學リーグに出場。其誠實の如き愉快なるプレイヤーを以て鳴る。

伊藤鋼一 (野球)

- 1 京都市上京區同志社大學内
- 2 名古屋市
- 3 明治四十四年

岩崎角之進 (ラグビー)

- 1 小石川區小日向臺町二ノ八
- 2 小石川區藤町
- 3 明治三十六年 二月一日
- 4 一六四四番 六四・六七
- 5 赤坂中學 早稲田大學
- 6 川崎第百銀行 稲門OB
- 7 早大在學中はラグビー部選手フツカイとして早慶戦、早明戦選手ラッガイ等に出場大いに活躍す。現在川崎第百銀行に勤務。趣味讀書。

石川達彦 (ラグビー)

- 1 東京芝區高輪南町六五
- 2 東京市
- 3 明治四十二年 六月六日
- 4 一六一一番 五七七
- 5 芝中學
- 6 常磐生命保險會社
- 7 關東ラグビー連球協會所屬。現常磐生命ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に奮闘す。

伊藤隆次 (柔道)

- 1 東京小石川區仲富坂町四
- 2 宮城縣加美郡小野田村
- 3 明治三十四年
- 4 一六四四番 六七・五七

5 警視廳警察官 警視廳
 6 京橋警察署柔道代表選手として、對署試合等に出場、常に優秀なる成績を収む。

石山平作 (籠球)

1 東京小石川區大塚高師寄宿舎
 2 四山縣矢掛町
 3 大正二年 六月二十六日
 4 一七〇號 六一・九冠
 5 矢掛小學 同中學 東京高師
 6
 7 矢掛中學籠球部選手として活躍し、現在東京高師籠球部の宿將たり。趣味讀書

伊東力夫 (野球)

1 東京陸橋區早稲田大學野球部
 2 長崎縣
 3 明治四十五年
 4 一六一號 六〇冠
 5 長崎商業 早稲田大學
 6
 7 長崎商業時代中堅手。現早大野球部中堅手として早慶戦六大學リーグ戦に活躍。投打共に右。

石川次男 (漕艇)

1 東京府北多摩郡國立商科大學
 2 茨城縣多賀郡國分村
 3 大正四年 三月三十日
 4 一七四・五號 六七・五冠
 5 平町小學 水戸中學 東京商大
 6
 7 現商大船艇部三番手として、

インターカレッジに出場活躍す。唐手の研究家。趣味讀書、音楽

市川喜三之助 (野球)

1 東京本所區向島須崎町一五二
 2 福島縣
 3 大正四年 五月十九日
 4 一七一號 五七冠
 5 日本大學中學部
 6 歌舞伎座 明石屋クラブ
 7 本名佐々光男。昭和八年五月東都演劇團野球リーグに明石屋クラブ外野手として出場活躍す。

伊藤薫 (野球)

1 東京荏原區戸越町一三二二ノ一
 2 豊橋市
 3 明治四十四年 六月八日
 4 一六四號 五二・五冠
 5 豊橋中學校 國學院大學
 6
 7 中學時代投手及外野手。現在國學院野球部三壘及二壘手として、五大學リーグに健闘。

生駒繁雄 (野球)

1 神戸市鈴鹿商會本店内
 2 神戸市
 3 明治三十七年
 4 一六四號 六〇冠
 5 國西學院中學部 國西學院
 6 鈴鹿商會
 7 全神戸軍投手兼外野手として昭和八年第七回都市對抗戦に出場其健闘と共に同軍の闘將たり。

井崎明 (ラグビー)

1 東京小石川區東京文理大學内
 2 旭川市四區四條
 3 明治四十五年 九月十四日
 4 一六八・五號 六七・五冠
 5 北嶺小學 小樽中學 東京高師
 6
 7 中學時代備前選手。昭和三年全國高草大會に出場優勝。現在文理大ラグビー部FW。趣味登山

池田光政 (籠球)

1 東京麻布區日ヶ窪町一
 2 東京渋谷區羽根町
 3 大正二年 七月十八日
 4 一六八・五號 六〇・五冠
 5 府立一中 東京高師
 6
 7 府立一中時代より籠球部選手を勤め、現東京高師籠球部選手として健闘す。

伊藤眞光 (野球)

1 京都市上京區同志社大學内
 2 名古屋市
 3 大正三年 一月二日
 4 一七〇號 六〇冠
 5 熱田中學 同志社大學
 6
 7 中學時代捕手。現同志社大學野球部捕手として關西六大學リーグ戦に活躍す。

稻見義夫 (陸上)

1 柳太留多加町

山梨縣

1 明治四十四年 四月三十日
 2 一六四號 五八・九冠
 3 日原區赤松小學 同補習學校
 4
 5
 6
 7 柳太留多加町出身にして、昭和八年第七回明治神宮體育大會に柳太留多加青年團千五百米選手として活躍す。

稲田敏文 (陸上)

1 鹿兒島縣伊集院町
 2 同
 3 大正二年 十二月一日
 4 一六七號 五七冠
 5 郡山村小學 鹿兒島第一師範
 6 伊集院町小學
 7 昭和八年第七回明治神宮體育大會聯合青年團千五百米選手に推さる。總得點二八點を獲得し連続二年覇權を振り凱歌を擧ぐ。

入江實 (陸上)

1 京都府守町
 2 同 府加佐郡河東村
 3 明治四十五年 十一月二日
 4 一六八・五號 六六・五冠
 5 河東小學 京都師範
 6 河守町小學 紫雲クラブ
 7 前京都師範競技部の闘將として、四百米競走、八百米競走千五百米競走等に大賞或は優勝をなす。其他走高跳、砲丸投等にも奮闘す。昭和六年第六回明治神宮體育大會及昭和八年第七回同體育大會に府聯合青年團競走選手として連続出場奮闘す。趣

味運讀書

岩橋將夫 (陸上)

1 和歌山縣海草郡西和佐村
 2 同
 3 明治四十二年 九月十三日
 4 一六七號 六〇冠
 5 西和佐小學 和歌山師範
 6 和歌山中之島小學
 7 昭和六年第六回明治神宮大會百米に(一・秒九)六着となる。昭和七年關西陸上大會百米に(一・秒一)一着を占む。縣下有数のスプリンターにて昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場。趣味スポーツ讀書

岩切才二 (陸上)

1 鹿兒島縣鹿屋町
 2 同縣肝付郡羽月村
 3 明治四十一年 十一月十六日
 4 一五九・五號 五四・四冠
 5 羽月小學 鹿兒島第一師範
 6 鹿屋町小學
 7 縣下短距離界の闘將。昭和六年第六回明治神宮青年團大會に八百米競走(一分三二秒二)にて各縣對抗陸上團體に優勝。昭和八年第七回明治神宮體育大會には再度縣聯合青年團選手として出場、千五百米競走に(一分二秒九)百米に四着を獲得なし、連続覇權を掌握して陸軍軍人の意氣を示す。(總得點二八點第一位)

池添光春 (柔道)

高松市

1 明治四十二年 十二月四日
 2 一六七號 七二・二冠
 3 高松小學 高松中學
 4
 5
 6
 7 縣下青年團柔道界の猛者として常に諸試合に輝き戦績を収む。昭和八年第七回明治神宮體育大會に香川縣青年團柔道選手として出場。現在三段。

伊藤國次 (陸上)

1 秋田縣山本郡八森村
 2 同
 3 明治四十四年 九月二十五日
 4 一六四號 五二・五冠
 5 八森小學
 6 工業
 7 縣下長距離界に活躍なし、昭和八年全縣陸上大會に於て千五百米に一位を占む。同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手となり健闘す。

伊藤稔 (相撲)

1 堺市北濱
 2 堺市香妻橋通り
 3 明治四十二年 十二月四日
 4 一七三號 七四・一冠
 5 堺商業學校
 6 南海合同運送會社 堺商業協會
 7 昭和八年第七回明治神宮體育大會に大阪府聯合青年團相撲選手として怪腕を揮ひ善戦す。趣味園藝書道

今泉庄藏 (陸上)

1 佐賀市柳町
 2 同
 3 大正三年 一月二日
 4 一六一號 五八・九冠
 5 循禮小學 佐賀商業
 6 米穀商
 7 商業時代競技部高得選手。昭和八年縣下神宮大會競走高跳(一・米七〇)一位となり、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場。

岩崎一郎 (柔道)

1 直方市上新入
 2 同
 3 大正二年 五月二十一日
 4 一七三號 七五冠
 5 直方小學 東筑中學
 6 門司鐵道局
 7 中學時代相撲部柔道部主將として、第一回全國中等學校柔道選手權大會、九州學生柔道大會、全九州有段者大會等に出場栄位を占め、全國中等學校相撲大會に相撲部主將として怪腕を揮ふ。昭和八年全滿州軍對全鐵道軍試合、全國鐵道柔道大會等に優勝なし、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團柔道選手として個人優勝戦等に奮闘す。現門鐵柔道部主將にして三段の猛將。趣味撞球音楽

伊藤清 (陸上)

1 奈良市東阪町九二

今福彌朝 (柔道)

1 奈良縣高市郡天満村菅原
 2 同
 3 大正四年 八月二十四日
 4 一六四號 六四・五冠
 5 天満小學 誠徳中學
 6 農業
 7 中學時代柔道部主將にて、全縣中等柔道大會、武徳會主催全國中等柔道大會等に出場活躍し、同志社大學主催柔道大會には先鋒七人を抜き日登しき戦績を印す。昭和八年全縣柔道大會に二位を占め、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團柔道選手として力闘。趣味園藝投機械操

石原秀男 (陸上)

1 岡山縣笠岡町大磯
 2 同縣上道郡浮田村北方
 3 明治四十三年 十月二十三日
 4 一七〇號 七二・二冠

5 浮田小学 岡山縣師範
 6 教員
 7 師範時代競技部投擲選手として、昭和四、五年度インペリアル及同和、五、六年度四中等學校選抜大会、昭和四、五、六年度四中等學校選抜大会に出場。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として出場。趣味體育競技

石田 克己 (剣道)
 1 佐賀市松原町
 2 同
 3 大正三年 七月三十一日
 4 一六八・五釐 六〇釐
 5 鍋島小学
 6 同
 7 縣下青年剣道界の宿將として毎回縣青年團選抜大会に優秀なる成績を以つて副権を握る。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として出場。現剣道三段

伊藤 郁郎 (柔道)
 1 岐阜縣土岐町七二七〇ノ一
 2 同
 3 明治四十二年 六月八日
 4 一七〇釐 七二・正釐
 5 土岐小学 中津商業
 6 酒類醸造業
 7 昭和六年第六回明治神宮體育大會、其他關西府縣對抗試合等に出場。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團柔道選士として出場活躍す。

岩田 馨 (相撲)
 1 宮崎縣東臼杵郡門川村
 2 同
 3 大正三年 四月二十五日
 4 一七四・五釐 八二・五釐
 5 草川小学
 6 海産物商
 7 縣下相撲界の強星。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團相撲選士として奮闘。

岩田 清 (相撲)
 1 岐阜市神田町
 2 同
 3 明治四十二年 二月六日
 4 一七四・五釐 八四釐
 5 岐阜商業
 6 實業家
 7 昭和六年第六回明治神宮體育大會、昭和八年第七回同體育大會に連続縣聯合青年團相撲選士として奮闘を揮ふ。

ウノ部

内村 祐之 (野球)
 札幌市北十二條東二丁目
 北海道帝大教授
 明治二十六年東京に生る。一高を経て大正十二年東大醫學科卒業。一高野球部中興時代の名投手にて、明治三十七年以來副権早慶の手に移りてより十有五年副権早慶のみを通過し、早稲田三高及順天早大醫學院慶大にインドロの最高武器を以て之等諸豪を軽く退け向後健兒宿望を見事獲得せし當時の怪投手なり。現北海道帝大教授の要職に有り醫學博士。

梅田 三太郎 (野球)
 大阪東區石町一ノ八
 大阪電氣鐵道會社
 明治三十年大阪に生る。明星商業を経て大正十五年明大商科卒業。商業時代捕手として鳴らし、大正末期の明大軍の明大軍の宿將一壘手及強打者を以て知らる。同十二年秋季明大

ウノ部

上野 徳太郎 (陸上)
 東京下谷區坂本町二ノ二七
 東京日日新聞
 明治三十五年東京に生る。早稲田實業を経て大正十三年早大經濟部卒業。在學中運動王國早大競走部選手として健闘し後現在の東京日日新聞運動部に勤務し陸上競技記事及總てのスポーツ記事に愉快なる敏腕を以つて筆鋒を揮ひスポーツ批評家として著名なり。

内田 信也 (體育)
 東京麻布區三河臺町二八
 講道館評議員
 明治十三年茨城縣に出生。同三十八年東京商學卒業。歐洲戰爭に際し海軍に於て一躍巨萬の富を得。水戸高學校創立に當り百萬圓を寄附す。大正十三年以來茨城縣選出代議士にて政友會の閣僚。昭和二年田中閣一内閣成立に際し海軍政務次官。同六年十二月大變組閣に當り逓信政務次官となる。

上田 精一 (陸上)
 東京王子區上十條町一二七四
 學習院助教

梅川 巳之四郎 (剣道)
 茨城縣石岡町
 大日本武徳會劍道範士
 安政二年石岡藩に生る。明治六年神道無念流侍傳を受く。同三十二年早稲田專門學校教師、同年十二月早稲田に雙演館を經營子弟の歡樂に努む。同四十年陸軍戸山學校教師を勤む。大正三年八月教士號受領。同十四年六月範士に列擧せらる。

内田 勝 (野球)
 臺北市福住町一〇
 臺灣總督府
 東京出身。成城中學を経て大正十年明大法科卒業。同校野球部中興時代二壘手として活躍し、又體操を以て當時球界に鳴る。因に同七年春季個人打撃率三割三分三厘の好率を挙げ、後推されて第十一代主將の印綬を帯び同部發展に盡力す。

鴻澤 吾老 (陸上)
 鹿兒島市
 鹿兒島第一中學校教諭
 大阪出身。大正十三年東京高師體育科甲組卒業。大正十年第五回及同

ウノ部

梅川 吉三郎 (野球)
 函館市西川町一〇八
 函館貯蓄銀行辨天町出張所主任
 明治三十二年北海道出身。大正十三年早大政治科卒業。大正九年前後の早大野球部の強打者として知られ、同十年の三田精門職の復活當時非常活躍す。

内山 信一 (野球)
 東京大森區北千束町六〇九戸村方
 東京府農工銀行
 明治四十一年靜岡縣に出生。身長(一七〇釐)體重(六〇釐)靜岡高校時代中堅手として健闘す。昭和五年前後帝大軍にありても外野手にて打撃も同軍の中堅として帝大軍の爲めに大いに奮闘す。現在東京府農工銀行勤務。

植村 陸男 (野球)
 東京麹町區有樂町朝日新聞内
 東京朝日新聞社
 明治二十四年東京に出生。第二高等學校中途退學以來東京朝日新聞社に勤務し、氏獨特の愉快無比なる批評を執筆。スポーツ記者團中の白眉。

純出身。大正十四年六月武徳會より
教士の稱號を授けらる。現在五段。

上野八十吉 (柔道)

東京下谷區本町二ノ二七
大日本武徳會柔道教士
明治十三年九月東京府に生る。戸塚
流及び揚心流の大家。昭和三年十一
月武徳會より教士の稱號を授けらる。

氏家誠太郎 (剣道)

三重縣一志郡久居町
大日本武徳會剣道教士
明治元年十一月熊本に生る。山崎雷
梅軒に就き心形刀流を究む。大正十
五年五月武徳會本部より教士の稱號
を授けらる。

牛島辰熊 (柔道)

東京芝區三田臺町一ノ六
大日本武徳會柔道教士
明治三十七年熊本に生る。昭和三年
五月武徳會より教士の稱號を授けら
る。講道館五段。

内川貫一 (柔道)

東京品川區大井町二六九九
大日本武徳會柔道教士
明治二十六年六月佐賀縣に生る。講
道館に於て修行。昭和七年五月武徳
會より教士の稱號を授けらる。

内山千太郎 (剣道)

東京蒲田區御園町三一
大日本武徳會剣道教士

明治九年十月佐賀に生る。明信館に
於て小野洪一刀流を修む。昭和四年
八月武徳會本部より教士の稱號を授
けらる。

梅川熊太郎 (剣道)

東京牛込區原町三ノ三九
大日本武徳會剣道教士
明治十四年四月茨城に生る。武術教
員養成所に於て北原一刀流及神道無
念流を修む。大正九年五月武徳會本
部より教士の稱號を授けらる。

梅田佛吉 (剣道)

津市岩田山中
大日本武徳會剣道教士
嘉永五年十二月東京に生る。生地及
福山に於て淺山一傳流を究む。大正
七年九月武徳會本部より教士の稱號
を授けらる。

湖田勢吉 (ゴルフ)

東京麻布區芥町一七五
三菱航空會社
明治三十一年九月二十七日東京に生
る。米國コネル大學工科卒業。現
三菱航空會社技師。又東京ゴルフ
クラブ所屬のゴルファー。

上野祝二 (ラグビー)

1 東京中野區水川町三六
2 岡山縣高屋町
3 明治四十年十一月二十六日
4 一六一號 六〇點
5 高屋小學 同志社中學 慶大
6 東京海上火災 慶應OB

7 同志社中學ラグビー選手として關
西ラグビー界に雄飛し、全國中學學
校ラグビー大會神宮競技等に出場優
勝す。慶大に入りては名Hとして
早慶戦リーグ現日本ラグビー協
會競技員。趣味観劇。

鶴原謙造 (庭球)

1 大阪東淀川區東ノ町二ノ六
2 アメリカ、ロサンゼルス
3 明治四十三年十二月十四日
4 一六七號 六〇點
5 豊中中學 關西學院
6 中學時代より庭球部の英才として
活躍。昭和四年全日本庭球大會に當
時の花形布井泰原組を破る。同五年
度ランキンダブルズ第五位。同六
年度ランキンダブルズ第十一位及ダブル
五位を獲得。現關西學院同部の重鎮選
手。趣味音楽。

浮田務 (野球)

1 大阪市外千里山關西大學内
2 神戸市
3 明治四十五年
4 一六一號 六〇點
5 甲陽中學 關西大學
6 中學時代外野手。黄金時代の關大
野球部外野手として昭和七年終期關
西六大學リーグに優勝。同年十一月
より昭和八年一月にわたり冬期練習
の爲に四下せる東京六大學リーグの各
校と對戦對應の二回戦に一敗せる
のみにて、關西球界の爲に萬丈の氣
吐く。趣味キネマ。

薄葉啓男 (柔道)

1 東京麹町區富土見町農林省官會
2 福島縣石城郡錦村
3 明治十八年十一月十七日
4 一六四號 七四・二點
5 警視廳警務官
6 大正四年以來昭和元年迄師範佐藤
運吉先生及河野先生等につき専心斯
道を研鑽す。現在警視廳四級の中心
(二段相當)に達す。目下警視廳警
務部警務課に勤務し、傍ら農林大臣
隨衛を務む。

内富宏 (野球)

1 富山縣野町富山紡績會社内
2 山口縣徳山市
3 明治四十二年
4 一六四號 四九・四點
5 徳山中學 關井高工
6 富山紡績會社
7 甲信越の大家富山紡績チームの一
員。北陸實業野球大會には連続四
ヶ年優勝の記録を保持し、昭和八年
春創立せし中部日本紡績技大會に
覇權を握る。同年第七回都市對抗戦
に出場善戦す。

海野篤之 (野球)

1 福島市五月町二〇
2 福島市
3 明治三十六年
4 一六七號 六四・六點
5 福島中學 早稲田大學

浦田和 (庭球)

1 東京品川區大井町日本體操學校内
2 金澤市芳野町
3 明治四十三年 十月三十一日
4 一七三號 六七・五點
5 朝鮮山中學 日本體操學校
6 中學時代庭球部主將として昭和五
年石川縣下庭球大會シンドルス、六
年同ダブルスシンドルス北陸庭球選
手權大會に出場優勝す。日本體育會
體操學校に入りては庭球部主將。昭
和七年關東大庭球大會に活躍優勝
す。

内田義男 (ゴルフ)

1 埼玉縣朝霞町東武ゴルフ場内
2 静岡縣田方郡小室村
3 大正二年
4 一六四號 五一・三點
5 小室小學校
6 職業ゴルフ選手にて、昭和八年六
月相模リントに於ける、新進プロフ
エツシヨナルトーナメントに出場活
躍す。現朝霞ゴルフ場専屬アツシス
メントにて、新界の明星選手として
期待さる。

内田賢 (陸上)

1 東京世田谷區松原町
2 岡山縣都窪郡福田村
3 大正四年 一月七日
4 一七三號 六一・九點
5 明治大學
6 明大競技部中距離選手。昭和八年
7 一月大學選抜選手に出場。同年第二
回四大學對抗戦(中日明法)に千
五百米に出場第一位の榮位を把握す
(四分一秒六)趣味運動に關する讀
書、シネマ。

上原正一郎 (野球)

1 東京麹町區丸ノ内中央亭本店
2 東京牛込區市ヶ谷本村町
3 大正五年一月二日
4 一五九・五號 五一・三點
5 四谷第三小學
6 中央亭
7 小學校當時少年剣士として東都小
學劍道選手權大會に出場し又野球選
手として四谷軟式野球大會に参加連
続二回優勝す。現在中央亭野球部名
義として東都軟式野球界に活躍
す。

内山季明 (庭球)

1 東京下谷區谷中坂町二五
2 群馬縣佐渡郡上陽村
3 明治三十三年 一月四日
4 一六一號 五八・九點
5 上陽村小學 商橋中學 中大
6 鐵道省 鐵道省庭球部
7 中央大學在學中は庭球部選手とし
て知られ、昭和二年關東庭球選手權

宇田俊雄 (野球)

1 東京日本橋區本石町三ノ二
2 熊本縣
3 明治四十四年
4 一六四號 六〇點
5 熊本工業學校
6 リーガール商會
7 東都軟式野球の強明、リーグ商
會野球部左翼手。昭和七年時事新報
主催、全國選手權大會に、東京第二
支部に優勝。其他國民新聞及城東野
球協會の各大會に榮冠を掌握す。投
打共に右。同家の四番打者として、
常に強打を以て鳴る。

梅澤定則 (馬術)

1 東京中野區桃岡町二
2 東京市
3 明治三十四年 五月八日
4 一七一・五號 五二・五點
5 開成中學 慶應義塾大學
6 三妻海上火災保險會社 愛時會
7 慶大在學中馬術部の重鎮として第
一回關東學生乘馬大會、第一第二回
神宮大會、昭和四年騎兵學校乘馬大
會に何れも第二位獲得。昭和五年東
北乘馬大會障礙飛越競技に優勝す。
現在愛時會幹事。趣味音楽。

宇野庄治 (ラグビー)

1 東京杉並區阿佐ヶ谷一七九二

1 兵庫縣明石郡豐原村
2 明治三十六年 八月三日
3 一七四號 九五・六點
4 一七四號 九五・六點
5 豊原小學 神戸二中 三高 京大
6 讀賣新聞社 學士ラグビー
7 中學及高校時代は野球部左翼手と
して奮闘す。京大に入りては庭球部
主將として同チームのチャンスメ
イヤーでありトライアゲッターであつて
昭和二、三、四年と連續的に全日本の
覇權を掌握し斷然たる強味を示して
境界に君臨す。卒業後讀賣新聞社に
入り専ら運動界を擔當す。新界の第
一人者であり同時に其研究者として
ラグビーに關する著書多量あり。趣
味音楽。

上原増雄 (庭球)

1 兵庫縣魚崎町横屋七二六ノ二
2 同
3 明治四十一年 八月十三日
4 一六七號 五二・五點
5 關西學院
6 大澤商會
7 關西學院中學部庭球選手として、
神戸高商主催兵庫縣中等庭球大會に活
躍し、後硬球に轉じ關西ジュニア
トーナメントに出場關西庭球界に榮
輝す。昭和五年ランキンダブルズ
第四位。シンドルス第十四位。同六
年ダブルス第三位。シンドルス第十
位獲得。現在大澤商會議事幹事。
趣味音楽。

内山康 (野球)

1 臺北市臺北交通局鐵道部内

2 鹿兒島縣
明治三十九年 一七二・五 六四・六 近
4 一七二・五 六四・六 近
5 臺南一中
6 臺北交通局
7 中學時代投手。一時早大に入學せしも家事の都合にて退學。當時名手富永杉田屋等と活躍す。現臺北交通局野球部の名手として、屢々都市對抗戦に臺灣代表となり出場。其強弱は同大會中隨一の稱ある名手。目下同局鐵道部經理課に勤務。

上原五郎 (ホッケー)
1 東京赤坂區青山町五ノ九六
2 同
3 明治三十四年 四月二十九日
4 一六二・五 五四・四 近
5 攻玉社中學 明治大學
6 美松 駿臺ホッケー
7 明大ホッケー部FWとして大正十三、四、五年日本選手權大會、神宮競技場に出場し、其他外人チーム横濱YCAC等との對抗試合に参加活躍。常に優秀なる成績を収め、明大ホッケー部の名譽を高めし人として有名なり。現在美松經理課長。駿臺ホッケークラブメンバーとして努力す。趣味音楽。

内川留治 (野球)
1 新潟市上大川前通九丁目
2 新潟縣
3 明治四十一年 六〇 近
4 一六七 六〇 近
5 新潟商業 早稻田大學

漆山一 (水上)
1 東京牛込區戸山町三〇
2 東京四谷區内藤町
3 明治三十五年 四月五日
4 一六四 五四・四 近
5 小樽花園小學 明治中二高 東大
6 三井物産會社
7 二高時代スキー部選手。又同校アイスホッケー部創立者として名譽あり。氏の努力に依り對松本高校との定期戦を創始す。東大に於ては、明大インデペンデントに於ては、昭和三年東大工科卒業。現在我孫子ゴルフ正會員として健闘。

内田友正 (馬術)
1 東京麻布區龍土町一五
2 同
3 明治三十九年 二月二十五日
4 一六八・五 五七 近
5 青山學院中學部 同高等科
6 常盤生命保險會社
7 青山學院馬術部の選手として第三回神宮馬術競技に出場三等に入賞。昭和二年以來連續四年間關東學生馬術選手權を掌握。技藝の技倆と氣魄は推されて昭和五年同部主將の印綬を帯び、昭和六年卒業と共に常盤生命に入社。關東O.B.馬術俱樂部メンバーとして六、七年關東馬術大會に出場活躍す。趣味ゴルフ観劇。

上野孝三 (野球)
1 東京下谷區入谷町十三
2 東京神田區雄子町
3 大正三年 九月十日
4 一六一 六六 近
5 日本大學中學
6 逓信省 松葉屋チーム
7 中學時代投手として東都中等學校野球部に属し、現在逓信省保險局に勤務。保險局チーム及松葉屋チーム投手として實業野球大會に出場その剛球と健將とを以て知らる。

上田幸一 (水上)
1 東京日本橋區吳服橋三ノ一
2 同
3 大正二年 一月一日
4 一五八 五四・二 近
5 城東小學 日本大學附屬中學
6 白米商 Y.M.C.A.
7 中學時代より游泳選手として知らる。昭和六年東京青年團水泳大會。同玉川、隅田、荒町神宮奉納大會等に出場優勝の榮冠を屢々獲得。プレイストも得意とす。

梅村元之助 (漕艇)
1 東京澁谷區原宿町二〇一
2 麹町區元園町

上野正 (野球)
1 吳市吳工廠内
2 廣島縣
3 大正三年
4 一七〇 六〇 近
5 廣島松本商業
6 吳工廠
7 商業時代投手を務め、現不學の王國の傳統を誇る全吳軍の中堅手として、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場なし日曜し初降板をなす。

宇治原兼一 (漕艇)
1 東京大森區馬込町東二ノ一〇九四
2 宇治島市橋新町
3 明治三十八年 四月二十七日
4 一七〇 六四・六 近
5 宇和島第二小 宇和島中學 南大
6 東京朝日新聞 スイダクラブ
7 前東京商大船艇部選手及二番手たり。卒業前三年連続ストロークとして奮戦し、第五回インペリアルカップ、及第七回同大會に同部選手として出場覇權を占む。

内田藤吉 (馬術)
1 東京大森區馬込町東二ノ一〇九四
2 宇治島市橋新町
3 明治三十八年 四月二十七日
4 一七〇 六四・六 近
5 宇和島第二小 宇和島中學 南大
6 東京朝日新聞 スイダクラブ
7 前東京商大船艇部選手及二番手たり。卒業前三年連続ストロークとして奮戦し、第五回インペリアルカップ、及第七回同大會に同部選手として出場覇權を占む。

1 仙臺市東北帝國大學内
2 仙臺市
3 明治三十三年 二月十日
4 一六七 六〇 近
5 仙臺商業 東北帝大
6 東北帝大職員 青葉クラブ
7 仙臺青葉馬術俱樂部代表選手として昭和六年青葉馬術大會障礙物競技に出場四等入賞。翌年同大會には第二位獲得。昭和八年同大會にも参加紳士班障礙競技に活躍す。

浦岡偉太郎 (漕艇)
1 東京麹町區元園町二ノ二
2 同
3 明治四十二年 八月十五日
4 一七一・五 六一・九 近
5 麹町小學 府立六中 早稻田大學
6 同
7 中學時代水泳選手。早大に入りては、編艇部二番手としてインペリアルカップ、ロンドン五レニスに出場活躍。府立六中水泳教師として母校水泳部發展に貢献す。趣味歌舞伎義太夫。

上田忠康 (野球)
1 吳市吳工廠内
2 吳市
3 明治三十七年
4 一六七 六〇 近
5 吳海城中學
6 吳工廠
7 中學時代投手にて、現中國の古豪全吳軍の主將兼中堅手として、都市對抗戦に十九年の榮ある傳統を負ひ出場する事五回、其老練無比の好守

好攻を以て同軍の重鎮たり。
宇田典夫 (野球)
1 川崎市東京電氣會社内
2 鹿兒島縣
3 明治四十年
4 一六七 六〇 近
5 横濱高工
6 東京電氣會社
7 元横濱高工の投手として鳴らし、現全横濱軍の投手兼左翼手として現今専ら其剛打を以つて外野手として名譽を博す。都市對抗戦には全横濱軍として五回出場同軍の古豪たり。

白田金太郎 (拳闘)
1 東京大森區市野倉町四三〇
2 同
3 明治四十年
4 一七一・五 百三十八ポンド
5 明治大學
6 國際拳闘俱樂部
7 我國最初のオリムピック遠征拳闘選手。アントワープに開催せられたる第八回萬國オリムピックにアマチュア拳闘選手として出場善戦し、後米國に渡り多年米國拳闘界に奮闘し、歸朝後國際拳闘俱樂部に所属。昭和八年五月日佛對抗日本代表選抜準決勝拳闘試合にウエルター級選手として出場優勝す。ウエルタークラスの第一人者として斯界に著名なり。

上原隆雄 (拳闘)
1 東京四谷區南寺町帝帝内

津山市
明治四十四年 八月三日
一五九・五 一一〇ポンド
岡山市立實業學校
帝國拳闘會
二十一歳より帝帝に入門、斯道を修行。今日迄三十回對戦、内十九勝引分六負の好記録にて、同會中堅選手として知らる。現フライ級選手。

内田春三郎 (籠球)
1 東京牛込區若宮町十
2 同
3 明治四十一年 三月一日
4 一五九・五 五二・五 近
5 筑土小學 成城中學 立教大學
6 近藤貿易會社 立教OB
7 立教籠球部ガードとして、昭和三年四年東都大學籠球リーグに出場優勝し、神宮大會に於ても二回優勝。然たる強味を示して斯界に君臨す。同五年同校商學部卒業。

植田茂 (野球)
1 宇都宮運輸事務所
2 前橋市
3 明治四十三年
4 一六一 六〇 近
5 前橋中學
6 宇都宮縣
7 宇都宮野球部右翼手。昭和七年大館に於ける關東實業野球大會に出場優勝す。又都市對抗東關大會に栃木縣代表として毎回出場なし、第六回同大會には決勝戦に貢献す。

牛尾千年 (籠球)
1 東京品川區大井橋學校
2 西宮市池田町
3 大正三年 九月二十四日
4 一六四 五八・九 近
5 伊丹中學 日本體育會體操學校
6 前伊丹中學野球部選手。昭和五、六年全國中等學校野球大會、兵庫縣豫戰に出場大いに奮戦す。現體操學校籠球部選手として活躍。

上野一 (漕艇)
1 東京澁谷區豐澤町六七慶應寮
2 廣島縣御調郡四野村
3 明治四十五年 三月五日
4 一六二 五一・三 近
5 三原女師附小 忠海中學 慶大
6 同
7 中學時代よりボート部選手として活躍。慶大に入りては法學部ボート部選手となり昭和八年度分科レニスには舵手として力漕す。趣味園藝讀書。

植谷萬芳 (レスリング)
1 東京牛込區戸塚町文化寮内
2 津市矢知町
3 大正二年
4 一六七 六〇 近
5 矢知小學 津中學 早大學院
6 武徳會柔道初段にて、現早大レスリング選手として、新興スポーツレッシングを専心研鑽。又布哇に遠征す。趣味スポーツ。

浦田健二 (野球)
 1 東京豊島区立大野球部合宿所
 2 兵庫縣
 3 明治四十四年
 4 一六一一 五七冠
 5 臺北一中 立教大學
 6
 7 立大野球部二壘手としてリーグに活躍。昭和七年秋には九割の守備率と八本の安打を飛ばして三割二分の打率を挙げ、ベストテン第三位を獲得。昭和八年新制度最初の優勝をなし、春より十一勝七割六分六厘の好率を以て昭和六年秋以来再度のリーグの覇権を達成す。

内倉不二雄 (柔道)
 1 東京世田谷区若林町六六一
 2 鹿兒島縣肝野郡新井村
 3 明治三十四年 八月二十日
 4 一六四四 六六・五冠
 5 日本大學
 6 警視廳警務官 講道館
 7 大正四年以来新道を修め、昭和六年十一月講道館二段に列し、同七年十二月警視廳四級の地位に列せらる。現通信大臣官邸に勤務す。

宇畑淺一郎 (柔道)
 1 東京中野区千光前町四八
 2 千葉縣匝房郡豊畑村
 3 明治二十七年 十一月十六日
 4 一六二五 六六・五冠
 5 豊畑小學 佐倉中學
 6 東京新習塾 講道館

内田肅雄 (野球)
 1 東京豊島区立大野球部合宿所
 2 廣島縣
 3 明治四十三年
 4 一六四四 五八・九冠
 5 廣陵中學 立教大學
 6
 7 廣陵中學遊撃手として甲子園に活躍。中學球界に名譽を博す。現立大野球部名二壘手及名遊撃手として最盛の活躍を奏し、昭和八年新制度リーグ最初の優勝を以て昭和六年秋再度リーグの覇権を達成す。

薄井榕一 (野球)
 1 東京豊島区立大野球部合宿所
 2 松本市
 3 明治四十三年
 4 一六一一 五七冠
 5 第一高校 東京帝國大學
 6
 7 一高時代名外野手にて、對三高戦に出場健闘。現東京大野球部外野手として、東京大野球リーグに活躍す。

浮島勳 (野球)
 1 函館市水力電気會社内
 2 函館市
 3 明治三十九年

上野善雄 (野球)
 1 函館市東比須町五五久盛方
 2 岩手縣
 3 明治四十四年
 4 一七一五 六七・五冠
 5 盛岡中學
 6 久盛運動具店 函館大洋俱樂部
 7 中學時代より捕手。現在北海の強豪大洋クラブ捕手として、第六回及昭和八年第七回都市對抗戦に出場健闘を揮ふ。

宇部勇 (柔道)
 1 東京豊島区下落合町四ノ一五六〇
 2 岩手縣九戸郡宇部村
 3 明治三十年 三月二十一日
 4 一五八八 六七・五冠
 5 宇部村小學

牛尾晴行 (漕艇)
 1 東京豊島区尾久町八ノ二七八〇
 2 神戸市
 3 明治四十二年
 4 一七三三 六九・四冠
 5 東京工業大學
 6
 7 東京工業大學漕艇部主将、四番漕艇としてインターカレッジロンドン盃レース等に出場活躍す。趣味座禪。

植田稔 (野球)
 1 函館市函館師範學校内
 2 函館市
 3 大正元年
 4 一七一五 六〇冠
 5 函館師範
 6 函館師範學校 函館大洋俱樂部
 7 函館時代捕手を勤め、現北海の強豪大洋クラブ投手として、昭和八年第七回都市對抗戦に名勝負にマラソンに立ち健闘す。

宇多村俊一 (野球)
 1 東京豊島区立大野球部合宿所
 2 山口縣
 3 明治四十三年
 4 一七〇〇 六四・六冠
 5 福岡多々良中學 立教大學
 6
 7 多々良中學の投手として中學野球界に活躍。打撃も鋭く立教に入りては右翼手に轉じリーグに奮闘す。昭和八年新制度最初のリーグの覇権を十一勝七割六分六厘の好記録を以て、同六年秋以来再度リーグ球界最高栄位を獲得す。

内田二郎 (馬術)
 1 東京麻布區本村町一七
 2 東京市
 3 明治四十一年
 4 一七一五 六〇冠
 5 荏原中學 農業大學
 6
 7 幼少時代より乗馬を好み後山本盛重氏の指導を受く。荏原中學を経て昭和六年農大を卒業。在學中馬術部員として、各種競技會等に參加出場なし、學生馬術界に一流の地歩を占め常に好記録を収む。

卯瀧功 (劍道)
 1 京都府北桑田郡弓削村
 2 同 郡周山村

植田一 (劍道)
 1 香川縣高松市内町一六
 2 同
 3 大正二年 十月一日
 4 一六七〇 五七冠
 5 高松中學
 6
 7 前高松中學劍道部長將にて、全國で劍名を轟かせし植田平太郎氏の息。昭和六年同校卒業。現二段。昭和八年第七回同校卒業。現二段。年團選士として出場。府縣對抗戦に對岡山との決勝に優勝。又青年團個人選士権にも榮譽ある強腕を揮ひし少壯氣鋭の劍士。

牛島福一 (陸上)
 1 佐賀縣杵臼郡大町村
 2 同
 3 明治四十三年 十月三十日
 4 一六七〇 六〇冠
 5 大町小學校
 6 農林
 7 縣下中距離界の雄。昭和七年全縣青年團大會四百米一着。同八年全縣神宮大會四百米に二着を占め、同十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選走士として出場健闘を揮ふ。

浦川恒一 (陸上)
 1 福岡縣山門郡西宮村
 2 同
 3 明治四十一年 十一月十二日
 4 一五三三 五二・五冠
 5 西宮小學校
 6 工業
 7 昭和六年六月縣下都市對抗戦に千五百米五千米共に二着。同八年五月福岡市主催十哩マラソン三着。同八年筑後オリムピック大會八百米千五百米五千米の三種目に選手権を獲得。昭和八年神宮選走士大會に千五百米(四分二九秒)一位を占め同縣下長距離界を風靡す。同年十一月第七回明治神宮體育大會千五百米縣聯合青年團選走士として出場。

工ノ部

◎遠藤柳作(柔道)

滿洲國新京總務廳官舎
講道館評議員
明治十九年埼玉縣に出生。同四十三年東大法律科卒業。初め朝鮮總督に入り後千葉縣内務部長に任ぜられ、更に青森三重各縣知事に就任。昭和三年の總選舉に郷里より代議士に當選す。又辯護士をも開業。同六年十二月大隈内閣組閣に際し、神奈川縣知事に復活す。其後愛知縣知事となり、昭和八年八月滿洲國總務廳長に歴補す。學生時代より武道を好み常に母校柔道部等の猛者たり。

◎遠藤洋吉(野球)

東京本郷區西片町十は一二本間方大倉土木會社建築部
明治三十八年北海道に出生。三高投手より東大に入り依然投手としてマウンドに立つ。帝大軍至費投手東氏の後を受け主戦投手の重任を遺憾なく發揮す。昭和五年工科卒業現在大倉組に勤務。

◎江藤小一郎(剣道)

福岡縣戸畑市猪ノ坂町
大日本武徳會劍道教士
明治二十五年五月福岡に生る。武術専門學校に於て武徳會流を修む。昭和三年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

江口卯吉(劍道)

東京陸軍戸山學校内
大日本武徳會劍道教士
明治十七年三月熊本に生る。陸軍戸山學校に於て新陰流を究む。大正十五年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

遠藤力雄(陸上)

鹿兒島市藥師町一三七五
鹿兒島縣體育主事
宮崎縣出身。大正六年東京高師體操科卒業。第三回(大正六年)種東大會に代表選手として推舉され競技界の黎明期に非常に活躍す。

江頭仁三(柔道)

大連市日ノ出町一四番ノ二九
大日本武徳會柔道教士
明治三十四年四月佐賀縣に生る。昭和三年五月武徳會より教士號を授與さる。日下講道館五段。

江川定夫(柔道)

札幌市圓山三丁目北大通り
大日本武徳會柔道教士
明治二十三年島根縣に生る。大正九年五月武徳會より教士號を授與さる。現に同地方に於て柔道の普及に努力す。日下講道館六段。

江崎眞澄(ゴルフ)

名古屋南區熱田東町外土居八ノ一
明治十一年十一月福岡縣に生る。同三十六年東大法律科卒業。後臺灣銀行

榎本吉夫(漕艇)

理事たりしも後之を辭す。現在東京ゴルフクラブ所屬のゴルフアータリ。日下ハンデー二十五。
1 東京淀橋區瀧町二〇九田中
2 瀨田市千歲町
3 明治四十四年 七月三十日
4 一七四・五種 七二・二種
5 柏樹小學 小樽中學 早大
6 中學時代瀧橋部選手として昭和三年、四年と連続オール日本中等學校選手權獲得に出場。現早大ボート部四番手として昭和五、六年インターカレッジに出場活躍。同年早慶對抗レースには優勝し、榮ある第十回國際競技大會の代表に選拔さる。昭和八年第一回フオアインターカレッジには三番手を受持大いに力漕せる。漕艇は選手として知らる。趣味音楽劇。

◎遠藤吉兵衛(柔道)

1 東京淀橋區柏木五ノ一〇五〇
2 福島縣河沼郡若宮村
3 明治三十八年 九月十三日
4 一六七種 八四・四種
5 早稲田大學政經學部
6 帝國生命保險會社
7 早大柔道部の重鎮として都下各大學に其の怪腕を知らる。昭和四年三月米國遠征に際し、彼地のレスラーと隨戦十數回に及び我國の武道の神技を彼地に示せる人として著名。現在丸ノ内早大柔道會員。

遠藤高義(馬術)

1 東京芝區土手跡町六
同
2 明治四十年 十一月十六日
3 一五九・五種 四六種
4 錦城中學
5 時事新報 若葉騎友會
6 中學時代より馬術選手として知られ、習志野に於て毎年開かる、一般紳士馬術大會に出場すること四回障礙物飛越選手として活躍す。現在時事新報記者。趣味スキー。

江木盛雄(ホッケー)

1 東京品川區北品川三ノ七一八
2 東京神田區淡路町
3 明治三十二年
4 一六七種 六一・九種
5 高師附屬小 同附屬中學 慶大
6 大日本製糖會社
7 中學時代陸上競技部選手として活躍。慶大にありてはホッケー部捕手時代の同部H.D.として、YMCA及神戸外人チーム等と對抗奮闘す。本邦最初の學生ホッケーチームの選手として著名。趣味演劇。

江橋力(柔道)

1 東京杉並區高圓寺六ノ六九五
2 東京市
3 明治三十二年 二月十日
4 一六八・五種 六〇種
5 東京開成中學 早稲田大學
6 東京電燈會社 講道館
7 前早大柔道部の強剛として學生柔

道界に鳴らし、東電に入社後大正十三年四月東電體育會を創設す。講道館五段。同社柔道部重鎮として活躍。昭和六年十二月東電最初の名譽賞を受授せらる。又水術協會水府流免許保持者として著名なり。現在同社體育會主任、早稲田柔道會丸ノ内早大柔道會員たり。趣味相撲観劇

江口胤顯 (スキー)

- 1 埼玉縣浦和町五二〇
2 佐賀縣杵島郡大町村
3 明治二十八年 一月三十一日
4 一六一種 五八・九種
5 東京帝國大學
6 鐵道省
7 我國スキー界の元老。昭和三年アマリカ、メホレーキに於けるスキー大會及昭和四年スイス、サンモリツに開催せられスキー大會に出場大いに活躍す。大正十年法學部卒業。現在鐵道省國際觀光局事業課長。趣味ゴルフテニス

戎肇 (庭球)

- 1 大阪市此花區下福島一ノ六四
2 同山市藤野町
3 明治四十一年 二月二十七日
4 一六七種 五七種
5 關西商業 關西大學經濟學部
6 カジマヤ
7 前關西大學庭球部の部長にて、關西庭球界を風靡す。昭和六年度ランキンングブルス十位を獲得。又現在も依然其強豪振りを發揮し、同七年關西庭球選手權大會に出場健闘す。

海老原市郎 (水上)

- 1 東京豊島區荒川町二ノ三五
2 千葉縣安房郡四所村
3 明治四十年 七月二十日
4 一七三種 六四・六種
5 明治大學
6 警視廳警察官
7 上海に於ける博東大會に自由形中距離選手として出場、我國水泳界の爲め氣を吐く。又創造にも進す。昭和四年同校政治科卒業。現在本郷本富士學務部。趣味讀書

遠藤寬 (柔道)

- 1 東京荒川區尾久町一ノ一〇七〇
2 宮城縣桃生郡
3 明治二十八年 九月二十一日
4 一六二・五種 六四・六種
5 中津山小學校
6 警視廳警察官
7 二十一歳より斯道を修行。巡査昇命後、對峙試合には創立以來副將及大將として出場奮闘す。現警視廳四級の上 講道館三段相當にて、下谷坂本署に勤務。

江籠榮之助 (弓道)

- 1 東京渋谷區山手町四八
2 鹿兒島縣薩摩郡永野村
3 明治三十六年 四月六日
4 一六一種 五七種
5 中央大學
6 鐵道省
7 中央大學弓道部選手として知ら

江尻容 (陸上)

- 1 東京小石川區東京高師寄宿内
2 千葉縣君津郡小森村
3 明治四十一年 十一月十一日
4 木更木中學 東京高師 文理大
5 昭和七年度三段跳躍位七位。十四米五九。又大阪に於ける全日本インカレラッヂ三段跳(十四米六〇)の記録を作る。又同八年第一回慶大との對抗戦に出場活躍す。

江橋庄助 (剣道)

- 1 東京江戸川區四一ノ江
2 茨城縣鹿島郡沼前村
3 明治三十年 五月二十三日
4 一六四種 六七・五種
5 沼前小學校
6 警視廳警察官
7 大正十二年三月創造二段昇進。現在神田區町警察署會計係を勤め同署創造代表選手として對峙試合に活躍す。趣味園芸

越前直道 (ラグビー)

- 1 東京大森區新井宿五ノ一四
2 秋田市
3 明治四十五年 三月十三日
4 一七一・五種 六〇種
5 秋田工業 日本大學

遠藤正義 (野球)

- 1 東京日野區東大野球部寄宿所
2 仙臺市
3 明治四十三年
4 一七三種 六四・六種
5 山形高等學校 東京帝國大學
7 山形高校時代より一壘手。現東大野球部一壘手として六大學リーグに活躍、強打を以て知らる。投打共に右。

江橋正隆 (陸上)

- 1 秋田縣土崎町
2 同
3 大正二年 二月七日
4 一六八・五種 六一・九種
5 土崎小學校 大館中學
7 縣下有数のスプリンター。中學時代より競技部選手として活躍し、昭和八年縣下神宮大會獲選百米二位となり、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團百米千米競走選手として出場。

衛藤逸馬 (陸上)

- 1 大分市南大分
2 同
3 大正四年 十月二十七日
4 一六一種 五四・四種

- 5 南大分小學校
6 縣下新造長距離選手。昭和六年縣大會一萬米に入賞。同七年關川大分同十一哩競走に二着、同八年同競走二着、昭和八年縣下神宮大會獲選に入賞し、同十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場活躍す。趣味スポーツ
遠藤久雄 (柔道)
1 福岡縣喜多方町
2 同
3 明治四十二年 三月十五日
4 一五四種 六〇種
5 喜多方小學校 會津工業
6 漆器商
7 縣下青年團柔道界の強豪にして、昭和八年縣大會神宮獲選に入賞し、同十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場活躍す。趣味弓道、馬術、野球
遠藤恒雄 (剣道)
1 延岡市朝日ペンベルグ會社内
2 同
3 明治四十二年 九月八日
4 一六二・五種 五七種
5 延岡小學校 延岡中學
6 朝日ペンベルグ會社
7 縣下青年團劍道界に活躍なし。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として善戦す。現創造二段。

- 1 鳥取市吉方村三四七
2 鳥取縣八頭郡山形村
3 明治四十五年 一月一日
4 一七六種 六九・四種
5 日進小學校 鳥取師範
6 教員 鳥取創友會
7 前鳥取師範劍道部主將。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣青年團選手として健闘す。現二段を有し鳥取市日進青年團、鳥取創友會に屬す。趣味居合刀、剣尺八
遠藤孝之助 (陸上)
1 秋田縣平鹿郡會合村
2 同
3 大正二年 三月十九日
4 一六四種 六〇種
5 會合小學校 秋田師範
6 會合小學校
7 昭和六年度インカレ百米二百米に入賞なし。師範競技部主將として奮闘す。全縣中等學校大會には毎回短距離に入賞。下の名スプリンターとして知らる。昭和八年第七回明治神宮體育大會には縣聯合青年團選手として出場。

江阪茂三 (陸上)

- 1 大阪市市岡南
2 愛知縣海部郡依佐美村
3 大正三年 一月二十五日
4 一六二・五種 五七種
5 依佐美第四小學校 岡崎商業
6 住友生命保險會社 住友俱樂部
7 前岡崎商業競技部選手。昭和八年第七回明治神宮體育大會には大阪府聯合青年團選手として出場力闘す。最高記録百米(一一秒五)二百米(二二秒)。

遠藤金壽 (陸上)

- 1 那覇市外眞和志村
2 那覇縣
3 明治三十三年 十二月三十日
4 一六四種 六一種
5 相馬郡石神第二小 兩師 東高師
6 那覇師範
7 前那覇師範柔道部選手(二段)。高師時代競技部棒高跳及ラグビー部H、F、Wとして活躍なし。昭和三年同校體育科卒業。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手監督に就任。現那覇縣體育運動主事の要職にありて同縣の體育指導發達に盡力す。

オノ部

織田幹雄 (陸上)

大阪北區大阪朝日新聞社内
全日本陸上競技聯盟委員
明治三十九年廣島に生る。昭和六年
早大商學部卒業。本邦陸上界の第一
人者にて、又三段跳の世界的覇者。
日本代表陸上選手の主將として數度
國際大會に出場し、殊に第九回アメ
スタルダムの國際大會には衆望を
負ふて遠征し、三段跳に世界の強剛を
屈倒して優勝し、日本陸上界に一大
榮光を齎らす。尙昭和六年神宮御技
に於て三段跳に世界新記録(一五米
五八)を作る。又同七年第十回國際
大會に依然日本陸上選手主將として
茂米奮戦す。現大朝運動部記者とし
て健筆を揮ふ。

小野三千磨 (野球)

大阪毎日新聞社内
大阪毎日新聞運動部
明治二十九年神奈川縣に生る。慶大
卒業。大正十年前後の球界の名投手
にて同十一年米國大リーグ選手來朝
するや芝浦球場に於ける對三田俱樂部
部戦に投手として出場遂に九對三に
て此の大敵を破る。勿論此試合は當
時の世評の如く米軍全實力を擧げて
戦つたものと思はれぬが然し此の
日の同氏の功績は本邦球史に絶體忘
却出来ぬものである。其剛球を以つ
て慶大黄金期を形造る。其盛名を馳

大塚惟精 (劍道)

東京滋谷區千駄ヶ谷三ノ四九六
全日本學生劍道聯盟顧問
明治十七年十二月十一日熊本縣に生
る。同四十二年東大法科卒業。後警
視廳及各縣警察部長を歴て内務省書
記官、栃木縣島各知事に歴任す。昭
和四年警保局長に就任す。(民政黨)
傍ら警察講習所所長たりしことあり。
現貴族議員にして又劍道は大日
本武徳會精練維持者。目下東京ゴ
ルフクラブに屬しハンデ一二十三。
趣味乗馬

押川清 (野球)

東京日黒區富士見臺一五四七
明治十四年東京に生る。徳文館中學
を経て同四十年早大法科卒業。第三
代日主將にて二疊手として初期早大
戦我國球界の草創期に活躍。明治三
十八年本邦球界空前の壯舉たる第一
回米國遠征に参加し日本球界が科學
的に覺醒し今日の野球術に大なる貢
獻の因を作る。卒業後稻門俱樂部の
主將として早大野球部の大先驅とし
て球界の發展に努む。

大谷光明 (ゴルフ)

東京赤坂區青山高樹町一二の一六
眞宗保協會々長

岡本喜作 (陸上)

青森市新町一三〇
全日本陸上競技聯盟代表議員
青森縣出身。昭和三年中央大學卒業。
陸上界の一人者として知らる。大正
十三年十一月神宮外苑に於て開催さ
れたる全日本選手權大會三段跳に十
三米十を獲得。同年十月十三大學對
抗競走競跳に六米五十一の好記録
を保持す。昭和八年第七回明治神宮
體育大會に青森縣聯合青年團選手監
督に就任。運動具店經營。

岡田源三郎 (野球)

東京牛込區高田町一四
早大野球部監督
明治二十九年東京に生る。早稲田實
業を経て大正十一年明大商科卒業。
明大野球部中興時代の萬能選手であ
り特に名捕手として鳴り第十二代主
將の重任を擔ふ。其怪腕を以て都下
各大學との對抗試合に活躍。在學中
上海及各地に遠征。卒業後同十二年
母校の監督に就任今日に及ぶ。同野
球部を今日あらしめた恩人。曾て數
度チームを引率して米國及英國等に
遠征職戦す。

小川正太郎 (野球)

東京澁谷區早稲田大學内
明治四十一年和歌山縣に生る。和歌
山中學を経て早大に入る。中學時代
より既に中學球界の麒麟兒と稱さ
れ、屢々甲子園原頭を馳せ進め榮冠
をも擲る。早大にても投手として六
大學リーグの花形と稱はれ非常なる
名聲を博し、早大軍の至寶投手とし
て將來を囑望されしも途中病を得て
球界を隱退す。

大久保利定 (體育)

東京四谷區南伊賀町五
侯爵全日本體操聯盟顧問

慶應元年鹿島に生る。維新の元勳
大久保利通の三男牧野伸顯伯爵の
弟。昭和三年兄利通の養嗣子となり
爵襲。明治二十年第一高等學校卒業、
米國・獨逸に留學。歸朝後内務省に入
り、鳥取・大分・埼玉・大阪、各府縣
知事となり、大正六年辭職。同時に、
貴族院議員に勅選せられ、爵襲と共に
貴族院議員に列す。

大江季雄 (陸上)

東京芝區慶應大學陸上部内
棒高跳の第一人者。舞鶴中學を経て
慶大に入る。昭和七年度ベスト三位
(三米九五)を占む。同八年度早慶戦
に早大の四回選手に内簿し、遂に四
米を越えて(四米〇五)日本で二人目
の記録を出す。又更に同年全日本イ
ンターカレッジには遂に世界の強豪
である四田を破り優勝(四米二〇)。
同年夏南米遠征日本代表選手に選抜
され健闘す。

岡庄五 (ゴルフ)

東京世田谷區深澤町四ノ一七三七
日本ビクター蓄音器會社
明治二十五年三月二日東京に出生。
早稲田慶應兩大學に學び、米國に留
學す。大正四年セイルフレザリ商會
に入り、後歐洲を視察し昭和二年歸
朝す。同もビクター蓄音器會社に
入社し各部長に歴任し現支那人社
り。目下東京ゴルフクラブ員にして
ハンデ一十三。趣味スゴーツ

岡部長景 (ゴルフ)

東京赤坂區丹後町一〇
貴族院議員
明治十七年八月二十八日出生。學習
院高等科を経て同四十二年東大法律
卒業。直ちに外務省に入り英米各大
使館及外務省政務局等に勤務す。後
支那に出張し、本省文化事業部長に
就任し大臣秘書官長兼式部次長に任
ぜらる。昭和五年貴族院議員となる。
目下朝霞ゴルフクラブ員(東京ゴ
ルフクラブ)にてハンデ一二十一。

奥新一 (野球)

廣島市福地町二六
廣島縣出身。大連商業遊撃手及二壘
手として、大正十二年第九回全國中
等野球大會に、甲子園原野に駒を遣
む。同十五年明大入學。内野手とし
て昭和初期リーグ等に活躍。後マネ
ジャーに推され、事務的方面の衝
に當り、内外地遠征に敏腕を揮ふ。
同六年商科卒業。

大木圓治 (柔道)

新廣市吉野町一
大日本武徳會柔道範士
明治六年千葉縣に生る。年少より武
道を修行。十二歳にて東上し各派の
師に就き劍術、水泳、薙刀等の奥義
を究め後劍豪山岡健舟に師事し無刀
流劍法を究む。明治三十九年渡瀨道
普及に努む。同四十二年教士號、昭
和二年範士號を授與せらる。現講道

大橋新太郎 (體育)

東京麹町區上六番町四三
講道館監事
文久三年新潟縣に出生。明治三十四
年博文館經營を承継す。實業の傍ら
東京瓦斯會社専務たり。同三十五年
東京市選出代議士に當選以後専心實
業界に活躍し東京商業會議所副會
たり。京成電氣會社社長及數多の會
社重役を歴任し大正十五年貴族院議
員に勅選せらる。現に大日本麥酒會
社社長とし馬越翁亡きビール界に貢
獻す。

大隈信常 (體育)

東京赤坂區青山町六ノ一一五
大日本軟式野球協會總裁
侯爵貴族院議員早稻田大學名譽總
長。明治四年東京に生る。舊佐賀藩
士大隈重信の養嗣子で、伯爵松浦厚の
實弟大正十一年襲爵。明治三十二年
東大法律科卒業。大正四年前橋市及外
務省副參政官となり翌年罷む。後報
知新聞社長となり現に同社顧問の要
職にあり。

太田芳郎 (庭球)

大連市大連商業學校
大連商業學校
明治三十四年新潟縣に生る。大正十
四年東京高等文藝科(英語)を卒業。一
九二七年より引續きデグイス壘球に
日本代表として征戦。一九二九年リ
ンブルトン大會後英國各地のトー
ナメントを殆んど風靡した斯界の古
豪にて庭球界の權威者、現大連商業
に教鞭を執り子弟の調育に務む。

太田正隆 (水上)

東京赤坂區新町一ノ一五
太田醫院長
舊名子太郎。明治二十一年十二月辭
馬に生る。大正七年東大醫學部卒業。
直ちに同大學附屬病院精神科に入り
て鑽研を積む。後太田病院を開業。
同十三年醫學博士の學位を授けら
る。又文部省運動協會等に參與す。
現在日本水上競技聯盟理事員にし
て、スゴーツ醫事研究會員たり。

奥村安太郎 (馬術)

京都東山區今熊野南日吉町
日本國際馬術協會評議員
明治九年八月二十四日京都に出生。
同三十六年立命館大學卒業。後奥村
合名會社を創立す。又京都市會議員
衆議院議員に舉げられ、歐米並に南
米等を視察す。現在京都多額納税者
にて、御國土地會社社長京都火災保險
常務取締役の要職にあり。又京都乘
馬協會會長代理副會長たり。

岡部平太 (陸上)

大連星ヶ浦水明正二
滿鐵地方部事務課
福岡縣出身。東京高等大正五年體操
専修科及同六年五月研究科卒業。柔
道六段。在學中水陸萬能選手として
名聲あり。第七回マニラに舉行され

大久保謙治 (陸上)

東京大森區山王一ノ二七二〇
日本活動寫真會社營業部
大分縣出身。大正十一年早大商科卒
業。早大競走部先輩にて、同九年十
一月駒場に於ける第八回全國陸上大
會に於て、百十米高障礙十七秒二で
榮冠を掌握す。當時早大競走部重鎮
として力戰す。

岡崎忠雄 (ゴルフ)

神戸市東須磨水野六
神戸商工會議所會頭
明治十七年兵庫縣に出生。同三十九
年慶大理財科を卒業す。夙に實業界
に活躍なし、岡崎銀行頭取、神戸海
上運送火災保險及朝日海上火災各保
險會社の社長を兼任す。現在朝霞ゴ
ルフクラブ員(東京ゴルフクラブ)に
してハンデ一十八。

大久保利賢 (ゴルフ)

東京澁谷區向山町一
横濱正金銀行
明治十一年十月出生。同三十六年東
大國法科卒業。直ちに横濱正金銀
行に入社教育支店長を経て目下同
銀行取締役たり。因に伯爵大久保利
知、牧野伸顯、侯爵大久保利武の令
弟。現在朝霞ゴルフクラブ員(東
京ゴルフクラブ)たり。

乙部融 (ゴルフ)

東京大森區新井宿一ノ二三七〇三
菱銀行

大谷武一 (體育)

東京世田谷區北澤九〇二
文部省學校衛生官
明治二十年五月兵庫縣に生る。大正
三年高等師範科卒業。後廣島東京兩
高師助教授に任じ、同七年體育研究
の爲め歐米視察。歸朝後東京高師教
授に任命され、現在體育研究所講師
として、専ら國民體育の普及向上に
盡瘁す。趣味スゴーツ

奥野小四郎 (馬術)

北海道帶廣市東一條
日本國際馬術協會評議員
明治十三年四月兵庫縣に生る。三高
に學びしが親父に従ひ渡道牧場を経
營す。大正六年帶廣町會議員、十勝
牛馬組合長等に當選す。大正十三年
衆議院議員に選ばれる。現在十勝無盡
會社長、北海道種畜會社取締役の要
職にあり。

沖田芳夫 (陸上)

東京神田區神保町三省堂内
三省堂書店
廣島縣出身。我國投擲部世界の權威
者。昭和六年度團體投擲ベストテン三
位。(四一米一五)鐵槌投五位(四三

小川金之助 (劍道)

京都仁王門通川端長妙寺内
大日本武徳會劍道範士
明治十七年五月愛知縣岩倉町に出生。
幼少より北辰一刀流を修む。初
め舊藩加賀一の門に入り後武徳會
本部に轉属。大正八年教士號を受け
武道専門學校教師に就任。昭和二年
範士の稱號を授與せらる。同四年御大
禮記念武道天覽試合に指定選手並に
審判員として出場。現武徳會常議員。

小澤愛次郎 (劍道)

東京澁谷區代々木山谷町四五七
大日本武徳會劍道範士
文久三年埼玉縣に出生。小野誠一刀
流及神影流の奥義を究め何れも免許
皆傳。壯年時代政治に志し縣會議員
當選四回衆議院議員五回。現今各學
校に於て劍道を正科と課せしむるに
至るは専ら氏の盡力に依る。大正十
五年武徳會より範士號を授與せらる。

大澤徳太郎 (馬術)

京都市中區河原町三條上ル
日本國際馬術協會評議員

明治七年十月兵庫縣に生る。三十二年東大法律科卒業。直ちに三菱に入り同社銀行部副理事及神戸支店長を経て、日下同行業務監査役の重席に有り。又現在朝霞ゴルフクラブ員(東京ゴルフクラブ)にてハンデ二十二。

大 麻 勇 次 (剣道)

佐賀市松原町六九
大日本武徳會創道教士
明治二十年一月熊本に生る。武徳會本部に於て新隆流を究む。大正十一年五月本部より教士の稱號を授けらる。明治神宮第一回武徳大會に最優勝を獲り。昭和四年武徳大會に指定選手として出場の光榮に浴す。

小 野 木 敏 雄 (米上)

東京芝罘白金塚町六一
逓信省管船局船員
神奈川縣出身。昭和二年東京帝大工科卒業。スケート界の強豪。大正十四年一月上野公園に開催された選手権大會ノイギアースケート選手権大會に一等五百米(二分五秒三)に何れも榮冠を獲り。

尾 車 文 五 郎 (相撲)

東京浅草區上落合六二五
大日本相撲協會年寄
本名阿部吉太郎。明治二十二年宮城縣に出生す。力士名大戸平と稱し十八歳の時先代尾車の弟子となり同四十五年春場所に入幕。大正六年一月關脇に昇進初め金の花とも稱す。元

協會本戸部長を勤む。
近 江 佐 久 郎 (剣道)

徳島市伊月町
大日本武徳會創道教士
明治二年二月徳島に生る。山根正雄氏に就き貫心流を専究す。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。昭和四年武徳大會に指定選手として出場す。

小 野 川 辰 藏 (相撲)

大阪北區曾根崎新地一ノ五〇
大日本相撲協會監事
本名大西福松。明治十七年二月兵庫縣加古川に出生。力士名も加古川と稱し大正二年京阪合併相撲に梅ヶ谷、風、四の海等の東京の名力士等と對戦其勇名を馳せ大關として大阪角界の一偉材として知らる。

太 田 八 郎 (野球)

横濱中區日ノ出町三ノ一一一
横濱火災海上保險會社
長野縣出身。大正九年慶大理財科卒業。大正三年スタンフォード大學の招聘にて慶大第二回米國遠征を試み投手として参加。十四勝十五敗二分の戦績にて歸朝。慶大野球部に盡す所多し。

岡 崎 孝 平 (野球)

廣島南竹屋町七三〇別荘通
中國製紙會社
明治三十四年岡山縣に生る。一高を経て大正十四年東大法律科卒業。東大

野球部草創時代の二塁手として同大野球部最初の主將の印綬を帯び都下各大學との對戦に奮戦す。

大 津 麟 平 (體育)

京都上京區等持院北町二ノ一
大日本武徳會理事
慶應元年十月大阪に生る。明治二十三年東大法律科卒業。各府縣參事官及知事等に歴任す。後東亞同文書院理事長に推され、尙大日本武徳會武徳專門學校長たりしも後之を辭す。現武徳會理事。

大 林 義 雄 (馬術)

大阪東區今橋町五ノ一六
日本學生馬術協會顧問
明治二十七年大阪府に出生。大林組創立者芳五郎氏の長男にて大正五年家督相続し大林組社長各種土木建築請負の大立者として所界に知らる。日本國際馬術及日本乘馬協會各理事の要職にあり。

織 田 妙 子 (陸上)

廣島市廣島高等女學校內
廣島市廣島市に出生。廣島高女を経て、昭和八年日本女子體專を卒業。三段跳に十米六二の記録を持つと共に、世界的選手織田幹雄選手の令妹として著名。日下母校女學校の教諭となり後進の指導に盡力す。

大 横 田 勉 (水上)

東京神田區駿河臺明大水泳部

大正二年廣島縣に生る。修道中學を経て現明大水泳部のナンパワソン。自由型中距離選手権保持者。昭和七年第十回國際競技大會に日本水上代表としてロスアンゼルスに水上王國日本の面目を發揮す。同大會四百米米ベストテン第一位を占む。

大 谷 岩 松 (陸上)

神奈川縣高座郡田名村一ノ一六
農業者
明治四十二年神奈川縣に生る。我國中距離界の中堅で昭和六年度全日本一萬米ベストテン第五位を占め、同コース(三三分三六秒六)の記録保持者。同八年第二回學生對一般對抗競技大會一萬米に出場す。同七年度ベストテン第九位。

岡 本 恭 茂 (剣道)

東京世田谷區太子堂町四〇
東京市電氣局
明治三十五年二月八日出生。新道に志し専心修業遂に修成館三段に昇位す。現在電氣局劍道部の顧問たり。日下東京市電氣局運輸課廣尾支部に勤務。

岡 田 英 夫 (陸上)

大阪港區八幡屋町一ノ二三二
住友生命保險會社本店
昭和五年慶大法學部卒業。中距離界の精銳にて昭和六年度全日本八百米ベストテン第五位を占め同コース二分一秒の個人記録の所有者なり。

岡 部 榮 一 (野球)

東京牛込區矢來町四七
東京電燈株式會社
明治二十一年三月東京に生る。東電調査課長として夙に社員の體育を重んじ、大正十三年四月東電體育會創設に多大の盡力をなす。現在同社野球部及弓道部の重鎮として知らる。

岡 野 幹 雄 (柔道)

京城府明治町二ノ一〇〇
講道館
明治三十一年廣島縣に出生。幼少より新道を練磨し現講道館五段に昇進す。昭和四年天覽試合には指定選手として榮譽有る出場をなし大いに奮戦す。

岡 本 港 (野球)

岐阜市高砂町鐵道省建設事務所
鐵道省岐阜建設事務所
明治三十八年出生。四高を経て東大工科昭和三年卒業。四高時代三壘手。東大にありては外野手より轉じて内野手となり帝大初期の野球部に奮闘す。

尾 形 源 治 (柔道)

山形市宮町
大日本武徳會柔道教士
明治二十六年山形縣に生る。武專にて修行。大正十年九月武徳會より教士の稱號を受く。昭和四年天覽試合には指定選手として出場。現在柔道大段。

太 田 茂 (野球)

東京京橋區西銀座國民新聞社內
國民新聞社
明治十四年東京に出生。初期早慶戦當時より四洲と號し運動記者として健筆を揮ふ。現在國民新聞社スポーツ記者中の先覺者にてスポーツ記者の先覺者。

大 越 幸 太 郎 (剣道)

東京市池谷區常盤松町五二
東京市電氣局
明治十九年出生。幼少の頃より新道に志し専心修行の結果、武徳會より精練證を授けられし劍豪。日下東京市電氣局運輸課大塚營業所に勤め、電氣局劍道部の重鎮たり。

大 竹 與 四 郎 (剣道)

東京荒川區三河島町六ノ五七
東京市電氣局
明治二十七年四月十四日出生。現東京市電氣局劍道部の重鎮にて(三段)各大會及對抗試合等に出場剣技を揮ふ。日下神明町市電營業所に勤務す。

大 島 鐘 吉 (陸上)

大阪府千里山關西大學競技部
明治四十一年出生。日本陸軍界の雄者で昭和六年度世界三段跳五體の第二位を占む。同七年第十回國際競技大會には三段跳(五米一二)で三等に入賞。南部選手と共に跳躍日本の名を高めるに功があつた。同八年夏南米遠征に日本代表となる。走幅跳

大 澤 藤 四 郎 (剣道)

札幌市北四條四ノ二
大日本武徳會創道教士
明治十二年二月群馬に生る。明信館及大澤善三郎に就き直心影流を究む。大正八年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

奥 村 寅 吉 (剣道)

岡山市三番町五
大日本武徳會創道教士
明治十一年二月岡山に生る。武徳會に於て直心影流を究む。大正十一年五月本部より教士の稱號を授けらる。

大 津 大 助 (馬術)

鹿兒島縣鹿兒島郡岩川町
日本國際馬術協會評議員
明治二十二年二月鹿兒島に生る。夙に實業界に入る。現在鹿兒島農工銀行、岩川農會社各監査役の要職にあり。

大 楠 哲 夔 (剣道)

長崎市立山町一ノ二
大日本武徳會創道教士
明治二十年五月福岡に生る。武徳會本部に於て武徳會流を修む。大正十一年五月本部より教士の稱號を授けらる。

大 塚 松 次 郎 (剣道)

岐阜縣安八郡中川村林東
大日本武徳會創道教士
明治二十年十月岐阜に生る。清水剛氏に就き神道無念流を究む。大正十二年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

大 木 健 次 郎 (剣道)

埼玉縣與野町大戸四四二
大日本武徳會創道教士
明治十五年八月福岡に生る。美真館に於て神道無念流を究む。昭和二年五月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

大 長 九 郎 (剣道)

新潟市富士見町一
大日本武徳會創道教士
明治八年六月岡山に生る。武徳會本部に於て力流流を修む。大正十一年五月本部より教士の稱號を授けらる。

奥 田 芳 太 郎 (剣道)

埼玉縣浦和町三〇
大日本武徳會創道教士
明治十六年十二月埼玉に生る。浦和明信館に於て小野派一刀流を究む。昭和二年七月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

大 關 滋 水 (剣道)

岐阜市沖見町
大日本武徳會創道教士

明治二十五年山形縣に生る。幼少より武道を研鑽し剣道教師として多年兼磨。昭和四年五月武徳會より剣道教師の稱號を受く。

緒方武(剣道)

熊本縣菊池郡四合志村
大日本武徳會剣道教師
明治六年一月熊本に生る。範士内藤高治に就き新陰流を究む。昭和四年五月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

岡文雄(剣道)

静岡市三番町五五
大日本武徳會剣道教師
明治二十四年八月岡山に生る。武徳會本部に於て武徳會流を修む。昭和三年五月本部より教師の稱號を授與さる。

岡田良平(剣道)

濱松市鴨江町
大日本武徳會剣道教師
明治二十年五月静岡に生る。武術教員養成所に於て力信流を修む。昭和四年五月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

尾崎七郎(剣道)

名古屋市中區南辰巳町七七
大日本武徳會剣道教師
明治三年一月福岡に生る。原勝馬氏に就き聖徳太子流を究む。大正十五年七月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

大賀美隆利(柔道)

京城府漢江通三ノ五
大日本武徳會柔道教師
明治二十三年島根縣に生る。武徳會に於て修行。大正十三年五月武徳會より教師の稱號を授與さる。武徳會五段。

大場権三郎(柔道)

函館市本町六
大日本武徳會柔道教師
明治二十四年十月山形縣に生る。講道館に於て修行。昭和三年六月武徳會より教師の稱號を授與さる。五段。

大島耐二(柔道)

名古屋市中區大曾根町精武館
大日本武徳會柔道教師
明治三十四年四月岡山縣に生る。昭和三年七月武徳會より教師の稱號を受く。昭和四年天覽試合には指定選手として出場の光榮に浴す。現在講道館五段。

大賀三喜(柔道)

熊本市花園町一ノ六三
大日本武徳會柔道教師
明治十九年熊本縣に生る。大正十三年五月武徳會より教師の稱號を授與さる。講道館六段。現在同地方に於ける新界の重鎮たり。

大澤保三郎(柔道)

京都市相國寺東門前町
大日本武徳會柔道教師

明治十六年九月京都に生る。武徳會及び講道館に於て修行。大正九年六月武徳會より教師の稱號を受く。六段。

尾崎剛毅(陸上)

濱松市
濱松師範講師
千葉縣出身。昭和二年東京高師體育科丙組(劍道)卒業。第七回マニラ(大正十四年)に舉行されし極東大會日本代表に選出され大いに奮闘す。

大洞恒雄(野球)

東京麹町區下二番町二九
山崎鐵工所
昭和二年東大農科卒業。大正十四年秋季東大野球リーグに加盟當初同部外野手として奮闘し、又打撃は同部の中堅にて、東大軍の権威時代に健闘す。

大岩圭二(剣道)

東京淀橋區戸塚町二ノ一五五
東京市電氣局
明治三十九年二月五日出生。現東京市電氣局劍道部部長にて、各種大會及對抗試合に豪傑を揮ふ。日下市電早稲田警察所に勤務。

岡田俊彦(剣道)

尾道市久保町四國寺下
大日本武徳會剣道教師
明治二十五年五月岐阜に生る。武徳會専門學校に於て武徳會流を修む。昭和四年五月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

大谷尊由(ゴルフ)

京都下區堀川通花屋町
貴族院議員
伯爵大谷光章の男。明治十九年八月京都に出生す。夙に僧籍に身を置き昭和六年貴族院議員に勅選さる。現在朝霞ゴルフクラブ員(東京ゴルフクラブ)にしてハンディー十七。

小野十生(剣道)

東京市世田谷區宮ノ坂二四三七
大日本武徳會剣道教師
明治二十九年五月佐賀に生る。武徳會本部に於て武徳會流を修む。昭和三年五月本部より教師の稱號を受く。

緒方久人(柔道)

奥市四原町一
大日本武徳會柔道教師
明治二十八年福岡縣に生る。多年新道に鑽磨。其結果昭和二年五月武徳會より柔道教師の稱號を授與せらる。講道館五段。

落合慶四郎(剣道)

東京市市役所内
東京市助役
明治十五年島根縣に生る。同四十二年日本大學法科卒業。後山梨縣理事官、大分長野三重各縣警察部長となり、愛知神奈川各内務部長を経て昭和六年徳島縣知事に就任す。同八年東京市第一助役に歴任。學生時代より剣道の猛者にして現五段の劍豪。其他蹴球野球滑艇相撲に長じ、萬能スポーツマンとして知らる。昭和八年十月對大阪市役所とのOJ野球戦に出場健投す。趣味園藝。

大和田金明(剣道)

横濱磯子町五八一
大日本武徳會剣道教師
明治十四年五月茨城に生る。水戸東武館に於て北辰一刀流を究む。大正十三年十一月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

緒方助次郎(剣道)

大阪市南區難波小田町一一一七
大日本武徳會剣道教師
明治三年十月鹿児島に生る。本郷利平治及中條直廣に就き柳川流を究む。昭和二年七月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

大平勝平(剣道)

武徳會初木支部
大日本武徳會剣道教師
萬延元年十一月栃木に生る。下江恒則に就き小野派一刀流を修む。昭和四年五月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

大島要三(馬術)

東京下谷區仲御使町三ノ四四
日本國際馬術協會評議員
實業政治家。安政六年福島縣に生る。夙に土木建築に従事して大成す。衆議院議員に當選し民政黨に所属す。現在福島商工會議所會頭たり。趣味乗馬。

大久保金次(剣道)

東京世田谷區玉川奥澤町六二七
大日本武徳會剣道教師
明治八年十二月茨城に生る。小澤一郎に就き北辰一刀流を究む。昭和二年五月武徳會本部より教師の稱號を授與さる。

岡田佐六(柔道)

廣島縣立三次中學校内
大日本武徳會柔道教師
明治二十五年八月和歌山縣に生る。所屬武徳會。昭和三年五月武徳會より教師の稱號を受く。五段。

小野誠(柔道)

愛媛縣新居郡新居町
大日本武徳會柔道教師
明治二十二年十二月愛媛縣に生る。昭和二年五月武徳會より教師の稱號を授與さる。講道館五段。

太田輪一(柔道)

神戸市御屋敷通六ノ九一
大日本武徳會柔道教師
明治十八年兵庫縣に生る。昭和三年六月武徳會より教師の稱號を受く。武徳會五段。

岡野好太郎(柔道)

名古屋西區仲町一ノ四ノ五
大日本武徳會柔道教師

大島保造(柔道)

岐阜市御津町一三
大日本武徳會柔道教師
明治三十一年群馬縣に生る。講道館に於て修行。昭和七年五月武徳會より教師の稱號を授與さる。

落合幾造(柔道)

松江市北區町
大日本武徳會柔道教師
明治二十三年島根縣に生る。昭和三年七月武徳會より教師の稱號を授與さる。講道館五段。

岡崎利正(野球)

1 東京芝區西大久保廣町二九
2 岡山市古京町
3 明治三十七年十一月三十日
4 一五八種 五七種
5 岡山一中 六高 東大
6 東京市電氣局
7 岡山一中左翼手として山陽豫選大會に優勝し關西鳴尾に出場す。六高時代は全國高等野球大會に連續三回出場奮闘す。東大を以て市電共済組合に入り現在東京市役所體育會幹事及ラグビー部幹事として盡力す。又ラグビー部名スリーコーナーとして知らる。

大木正幹(陸上)

1 東京日原區駒場町七八九

小畑年太郎(陸上)

1 東京芝區谷松港町二七
2 東京芝區白金臺町
3 明治三十八年五月三十日
4 一七六種 六九五種
5 學習院初等 府立一中 水高 東大
6 北海道拓殖銀行 學士ラガー
7 府立一中時代よりスプリングとして知られ、水高に入りてはハンドル及中距離選手として大正十五年東大主催全國高校リレー大會に出場三二〇米リレーに優勝す。又同校ラグビー部創設に多大の盡力をなしたる。初期のサイドローのフランカーたり。東大農科を経て現在北海道拓殖

銀行東京支店に勤務。趣味登山、曲

小口 孫六 (スケート)

- 1 東京杉並區高円寺五ノ八六八
- 2 長野縣下諏訪町
- 3 明治三十五年 二月十七日
- 4 一六七〇 七二二〇
- 5 諏訪中學 早稲田大學
- 6 三菱海上火災保險會社
- 7 諏訪中學柔道部副將及スケート選手として信越柔道スケート界に活躍し、早大に入るや柔道部の重鎮として、早大ハッケー部の創設者として知られ、大正十三年第一回早慶スケート對抗競技に参加活躍す。現大日本スケート競技聯盟常務委員たり。

岡田 郁之助 (漕艇)

- 1 農林省水産講習所化学教室
- 2 横濱市保土ヶ谷區神戶大町
- 3 明治三十四年 九月三十日
- 4 一七六〇 六七・五〇
- 5 保土ヶ谷小學 横濱二中 水産
- 6 水産講習所
- 7 水産講習所在学中は柔道部選手として知られ(初段)京大農学部に入りては編艇部四番漕手として關西端艇界に活躍す。現在水産講習所に勤務し同所編艇部創設者として有名なり。趣味スキー

奥野 良 (水上)

- 1 東京澁橋區落合町二ノ五四九

小川 勝次 (スキー)

- 1 東京本郷區駒込町三〇八
- 2 高田市
- 3 明治三十二年 四月十六日
- 4 一七〇〇 五七〇
- 5 高田中學 早稲田大學
- 6 安田銀行
- 7 高田中學校野球部投手として信越に活躍し、又各地スキー大会に出場入賞す。早大に入るや大正九年早大スキー部創設に多大の力をなす。同部今日の隆盛は氏の貢献に負ふ所頗多し。現在安田銀行本店に勤務。大日本體育協會理事及名譽會計、全日本スキー聯盟庶務委員として本邦スキー及體育界に努力す。

小川 文章 (剣道)

- 1 福島市紅葉山
- 2 和歌山縣田邊町
- 3 明治三十九年 六月一日
- 4 一六四〇 五八・七〇
- 5 田邊中學 早大商學部
- 6 明治生命保險會社 稲津會
- 7 前田邊中學水泳部主將。大正十年濱寺に於ける全國中等學校水泳大会に、四百米一等、二百米二等、千五百米二等の好成績を以て早大水泳部に入る。後同水泳部總務員となり、第七回(大正十四年)マニラに於ける極東大会に出場。日本代表選手の實績を示す。同十四年インターカレッジ、二百リレーに選手権を掌握。日々稲津會委員、日本水泳競技聯盟常務理事及競技委員の要職にある。

大森 哲 (漕艇)

- 1 東京市本郷區駒込町二八
- 2 東京市
- 3 明治二十四年 六月二十四日
- 4 一六一〇 五七〇
- 5 三善製菓會社 一高 東大
- 6 三善製菓會社
- 7 幼時より水泳を習得、明治四十四年小堀流免許を得。昭和七年八月神宮グランドに於て小堀流漕艇水泳を公開するの大家として知られ、一高時代は整隊手兼大に入りては名選手としてレガッタに出場活躍す。卒業後三善に入社。大正六年三善三井船社三社對抗レースに舵手として奮闘優勝す。従来昭和四年迄三善船艇部の幹事たり。

小川 弘之 (野球)

- 1 東京市本郷區駒込町二八
- 2 東京市
- 3 明治二十四年 六月二十四日
- 4 一六一〇 五七〇
- 5 三善製菓會社 一高 東大
- 6 三善製菓會社
- 7 幼時より水泳を習得、明治四十四年小堀流免許を得。昭和七年八月神宮グランドに於て小堀流漕艇水泳を公開するの大家として知られ、一高時代は整隊手兼大に入りては名選手としてレガッタに出場活躍す。卒業後三善に入社。大正六年三善三井船社三社對抗レースに舵手として奮闘優勝す。従来昭和四年迄三善船艇部の幹事たり。

大岡 虎雄 (野球)

- 1 八幡市八幡製鐵所内
- 2 戸畑市
- 3 大正元年
- 4 一七六〇 七八・八〇
- 5 豊國中學校
- 6 八幡製鐵所
- 7 中學時代捕手を務め、現九州地方及全國實業野球團の強豪八幡製鐵軍の主戦投手にて、都市對抗戦に出場する事三回、其互體より操出す剛球は球界の白眉たり。昭和八年第七回の都市對抗戦に、同七年度の覇者全神戶軍との對戦に本塁打を飛ばし、其猛打は同大会の花形選手の稱を得。

岡田 泰洲 (剣道)

- 1 東京東區大島町一ノ七四
- 2 群馬縣勢多郡敷島村
- 3 明治二十一年 四月十八日
- 4 一六五〇 五九〇
- 5 敷島小學校
- 6 陸軍中將。騎兵監字部宮第十四師團長に歴任。現在國際馬術協會副會長。日本學生馬術協會會長。日本騎道少年團團長。日本軍用大協會會長。體育協會理事。本邦馬術界の功勞者として知らる。趣味狩獵

大野 友規 (剣道)

- 1 東京牛込區原町三ノ三八
- 2 福島縣石川郡中谷村
- 3 明治二十一年 八月二十五日
- 4 一五八〇 六〇〇
- 5 中谷村小學校
- 6 警視廳警務署 武徳會
- 7 幼少より柔道を學ぶ。警視廳に入りては梅川純士につき神道無念流を修め對峙試合等には劍道助手として活躍。大正十五年五段に昇進。又柔道も大正十三年第四段に昇進す。同年武徳會より劍道精進を授けられ、現警視廳劍道教師として後進を指導す。柔劍兩道の大家として著はる。趣味園藝將棋

大井 派太郎 (漕艇)

- 1 東京下谷區仲根岸町一六〇
- 2 同
- 3 明治二十五年 十二月十三日
- 4 一七七・五〇 六一・九〇
- 5 京華中學 早稲田大學
- 6 稲門藝文會

大橋 龜吉 (庭球)

- 1 廣島市十日市町二六
- 2 廣島市
- 3 明治三十四年 四月一日
- 4 一六一〇 五七〇
- 5 廣島縣立商業 早大
- 6 大橋商店
- 7 學生時代庭球部選手として、東都學生庭球界に活躍。大正十五年早大専科卒業。昭和五年ラケット部第三十三位。同七年には十八位を占む。現廣島ローンテニスクラブに屬し、又動運具店を經營す。趣味グアイオリン

扇 海 (陸上)

- 1 東京世田谷區大原町昭和館
- 2 新潟市橋七番町
- 3 明治四十五年 六月十九日
- 4 一六七〇 六〇〇
- 5 明治大學
- 6 昭和七年第一回及翌第二回四大學對抗競技會(明中法日)に四百米繼走レースに何れも優勝。同部のスプリングスターとして快足を誇る。百米記録(十一秒)二百米(二二秒六)。趣味散

小原 孝一 (陸上)

- 1 東京麹町區中六番町四六 八方方
- 2 明治四十一年 二月二十九日
- 3 一五八〇 四九・四〇
- 4 一五八〇 四九・四〇
- 5 橋谷小學 矢掛中學 早大
- 6 早大健走部長距離選手。一萬米及マラソンを得意とし、昭和八年度報知主催東京箱根間驛傳レースに優勝。又同七年十一月關東學生マラソンレースに優勝(二時間三九分四四秒)同年陸上ラケット部(マラソン)七位。

大内 桂介 (ラグビー)

- 1 東京澁橋區上落合一ノ四〇二
- 2 山形縣東村山郡出羽村
- 3 明治四十一年 七月十三日
- 4 一六七〇 六九・四〇
- 5 出羽高等小學 立正中學 山大
- 6 中央大學ラグビー部セカンド
- 7 昭和七年十一月大關工業大學及大阪外語等と對戦。又關西ラグビークラブとも對抗戦す。同年全國高專大會に出場健闘。同部の重鎮として活躍。趣味旅行

大島 又彦 (馬術)

- 1 東京澁橋區松濤町一
- 2 佐賀市
- 3 明治五年 九月二十日
- 4 一六七〇 六七・五〇

越智 繁雄 (野球)

- 1 大阪市外千里山 關西大學内
- 2 今治市
- 3 明治四十四年
- 4 一五八〇 五八・九〇
- 5 今治中學 關西大學
- 6 中學時代投手。黄金時代の關西大學野球部主戦投手として、昭和七年關西六大學リーグ戦に好投活躍。同年十一月末より昭和八年一月にわたる冬季練習の爲四下せる東京六大學リーグの各校と對戦、對戦應の二回戦に一敗せしめ、對に全部を逆倒し關西球界の爲萬丈の氣を吐く。趣味音楽

大井 守男 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡織内
- 2 福井縣敦賀町
- 3 大正二年
- 4 一五八〇 五二・五〇
- 5 敦賀商業
- 6 富山紡織會社
- 7 富山紡織チーム投手。北陸實業團野球大會に連続四年優勝し、又中部日本紡織選抜野球大會(昭和八年

春創立)に優勝なし、同年第七回都
市対抗戦には甲信越代表となり第二
回目的出場たり。短艇ながら漢球が
あり曲球と直球を武器とし、又同軍
の好打者として健闘す。

小 高 義 一 (柔道)

- 1 東京杉並区上井草町一四五六
- 2 埼玉縣入間郡富岡村
- 3 明治二十六年 四月二十七日
- 4 一七一・五五 七八・八七
- 5 早稲田大学商学部
- 6 東京護国會社 講道館
- 7 元早大柔道部相撲部各選手とし、東京學生界に其兩名を擧はれ、大正六年早大相撲部創設に多大の努力をなす。今日同部の隆盛の基礎を作りて同部の功績者たり。大正六年同校商学部卒業直ちに實業界に入り活躍す。現講道館四段

大 島 正 夫 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡績會社内
- 2 高岡市
- 3 明治四十二年
- 4 一七〇〇 六四・六七
- 5 高岡中學 高岡高商
- 6 富山紡績會社
- 7 甲信越實業球果の俊豪。北陸實業野球大會に四ヶ年連続優勝し、又昭和八年春創立せし中部日本紡績選抜大會に覇権を握る。同年第七回都市対抗には投手兼二塁手として第二回目的出場ながら大豪對大阪戦に力闘す。

岡 田 貴 一 (野球)

- 1 大阪此花區住友電線會社内
- 2 大阪市
- 3 明治三十九年
- 4 一六七七 五七七
- 5 甲陽中學 慶應大學
- 6 住友電線會社
- 7 中學時代より名捕手にて、大正十二年第九回全國中等野球大會に出場見事覇権を握る。慶大にありてもリーグ中當時隨一の捕手として稱讃され、後推されて第二十一代主將の印綬を帯び、慶大黄金時代を築く。昭和六年同校卒業。現大阪軍の捕手として都市対抗戦に三回出場奮戦す。

小 田 常 胤 (柔道)

- 1 東京芝區新橋七ノ八ノ二
- 2 山梨縣南都留郡船津村
- 3 明治二十五年 三月十日
- 4 一五九・五五 六一・九七
- 5 船津小學 沼津中學 國學院大學
- 6 不動貯金銀行 講道館
- 7 中學時代より柔道の猛者として知られ、大正三年講道館柔道教員養成所を卒業す。現在不動貯金銀行に勤務柔道六段所道の大家として有名なり。大正八年「柔道はかうして勝て」昭和五年「柔道はかうして勝て」最近保健體操を研究し發表計畫中。

小 川 定 四 郎 (野球)

- 1 東京王子區下十條町一七七三
- 2 埼玉縣羽生町

大 久 保 泰 (ホッケー)

- 1 東京澁谷區松濤町一
- 2 豊橋市南新川町
- 3 明治三十八年 三月二十八日
- 4 一六七七 六七・五七
- 5 群馬富岡小學 富岡中學 早大
- 6 第一銀行 箱門クラブ
- 7 中學時代陸上競技部走幅跳選手として、縣下大會に出場五米九〇記録保持。早大に入ると陸上及水上ホッケー選手として早慶戦に活躍すること數回。大正十五年大日本ホッケー選手権獲得。第一回インターカレッジに優勝し五大リーグに出場奮闘上海香港臺灣等に遠征優秀な成績を収む。現在箱門ホッケークラブメムバリーとして知らる。趣味讀書旅行

岡 村 孝 一 (相撲)

- 1 東京四谷區麹町二一〇
- 2 石川縣鹿島郡金ヶ崎村
- 3 明治三十九年 八月二十三日
- 4 一七六〇 七四・二七
- 5 金ヶ崎小學 七尾中學 拓大

小 野 篁 平 (柔道)

- 1 東京品川區大井藪下町三六七九
- 2 岡崎市
- 3 明治三十七年 七月三十日
- 4 一六五・五五 五七七
- 5 岡崎中學 早稲田大學
- 6 東京電氣會社
- 7 前早大スケート部主將として同部發展に非常なる努力をなし、昭和五年コーチャリに就任、後輩を指導し今日同部の隆昌を見る。又ホッケー部員Gとして學生選手権大會及昭和二年香港、上海、遠征に轉戦す。現在同社のラケット部のパツコロイ及スケート部幹事たり。

岡 田 敏 郎 (柔道)

- 1 東京澁谷區下落合二丁目
- 2 和歌山縣東牟婁郡四向村
- 3 明治三十八年 四月二十一日
- 4 一六七七 五七七
- 5 四向小學 新宮中學 早大
- 6 北樺太石油會社 箱門ホッケー
- 7 早大在學中はスケートホッケー部選手として、インターカレッジ神宮

大 谷 豊 太 郎 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡績會社内
- 2 富山縣
- 3 明治四十三年
- 4 一六七七 六四・六七
- 5 富山紡績會社
- 6 富山縣古豪富山紡績チームの外野手。昭和八年第七回都市対抗戦に甲信越代表として、第二回目的出場。其他北陸實業野球大會に四ヶ年連続優勝。又昭和八年春創立せし中部日本紡績選抜野球にも覇権を握る。

太 田 義 一 (ラグビー)

- 1 東京牛込區馬場下町三九
- 2 京都市
- 3 明治四十一年 十二月二十四日
- 4 一七一・五五 七二・二七
- 5 貞教小學 京都一商 早大
- 6 大倉火災保險會社 早大ROB
- 7 京都一商ラグビー部FWとして京阪中等ラグビー界に雄飛し、早大に入りてはラグビー部の重鎮としてリーグに活躍。技師の技術と氣魄は推されて同部主將の印綬を帯び、カナダに遠征優秀なる成績を収む。現在早大OBとして各大学Oの戦に名FWとして健闘し、日本ラグビー蹴球協會役員として新界に貢献す。

岡 元 勝 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡績會社内
- 2 岡山縣
- 3 明治四十一年
- 4 一六四〇 五七七
- 5 富山紡績會社
- 6 北陸の大豪富山紡績チームの外野手。昭和八年第七回都市対抗戦に甲信越代表として第二回目的出場をなす。其他北陸實業野球大會に四ヶ年連続覇権を掌握し、又昭和八年度春創立せし中部日本紡績選抜野球大會に優勝す。

太 田 幸 兵 衛 (柔道)

- 1 東京大森區田調布三三二
- 2 岩手縣前澤町
- 3 明治三十九年 二月十二日
- 4 一六七七 六〇七
- 5 盛岡中學 慶應大學
- 6 日本勸業銀行 三田スケート
- 7 慶大在學中はスケート選手として、大正十四年以來數年間連続全日本スケート選手権大會に出場。又ホッケー選手としても早慶戦に出場奮闘。昭和四年經濟部卒業。現在三田スケート俱樂部所屬。趣味ゴルフ

沖 津 海 福 雄 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國一ノ六
- 2 福岡縣宗像郡南郷村
- 3 明治四十三年
- 4 一八二〇 一一四・五五
- 5 南郷村小學

岡 本 不 二 (拳闘)

- 1 東京荏原區小山町三八五
- 2 東京牛込區馬場下町
- 3 明治三十八年 七月四日
- 4 一七〇〇 一四一・一〇
- 5 東京商業學校
- 6 日本拳闘俱樂部
- 7 一九二六年より一九三〇年迄の全日本拳闘フェザー級選手権保持者として知られ、一九二八年アマステルダムに於ける萬國オリズムヒツク大會に日本代表選手として活躍し、一九三〇年種東オリズムヒツク大會フェザー級大試合に見事優勝の栄冠を獲得す。現在日本拳闘俱樂部顧問。又新界の名審判者として著名なり。

小 澤 豊 (陸上)

- 1 東京王子區豊島町八〇八
- 2 静岡縣田方郡戸田村
- 3 明治四十年 一月十二日
- 4 一六七七 五二・七七
- 5 東京日新新聞
- 6 東京法學部政治學科
- 7 東大陸上競技部選手として對京大戦インターカレッジに出場大いに活躍し、卒業後東大に入り競技の眼識を以て常に新界を啓蒙指導す。東大

大 谷 友 右 衛 門 (野球)

- 1 東京下谷區御徒町二ノ五九
- 2 東京市
- 3 明治十九年 六月一日
- 4 一六八・五五 五八・九七
- 5 淺草藤塚小學
- 6 歌舞伎座 明石屋クラブ
- 7 本名青木廣悦。明治二十六年初舞臺。大正九年現名に襲名。老役立役を得意とし、當り役「矢口の渡」の「彌次喜多」の彌次郎兵衛等である。梨園のスター化を計り、率先して明石屋野球園を創設す。昭和七年金五郎、文士、漫畫家チームのリーグ戦に優勝。同八年東都演劇リーグに出場健闘。梨園球界の強剛チーム。趣味麻雀魚釣

大 井 齊 (野球)

- 1 東京杉並區天沼三ノ六九八
- 2 水戸市大町
- 3 明治二十年 八月十七日
- 4 一七三〇 七五七
- 5 水戸小學 水戸中學 早大
- 6 大寶鏡會社 箱門クラブ
- 7 水戸中學野球部に於て、古今無双の剛球投手の名を志し、早大入學後も依然主戰投手の重任を負ふ。明治四十二年東京俱樂部對慶應戦に、東京俱樂部投手として出場、得意の剛球を以て、三振十をとつて、斷然比類なき投球を示す。後顧みとする

肩を著し、一疊手として大成す。同四十三年布哇、同四十四年早大第二回米國遠征、大正元年比律賓等にも征戦。後飛田主將の後を受け、第六代主將となる。

太田 富士男 (拳闘)

- 1 東京荒川區日暮里町八ノ一四五
- 2 東京淺草區
- 3 大正四年 九月十三日
- 4 一六七種 一三五ボンド
- 5 日暮里小學校
- 6 太平洋學會
- 7 ライトウエイト級職業拳闘選手。昭和七年八月日比谷に於ける新入選抜、KO五等拳闘に於て、千代田學問クラブの豊田實君と對戦、KO勝を最初とし、同年十二月横濱公園體育會主催拳闘大會に出場健闘す。入部以來未だ日淺きに拘らず優秀なる戦績を収め、大いに將來を囑ひたる。

荻野 貞行 (拳闘)

- 1 東京四谷區南寺町一〇
- 2 群馬縣高崎町
- 3 明治三十三年 一月十一日
- 4 一六八・五種 六一・九種
- 5 富岡中學 立教大學
- 6 帝國拳闘會副總裁
- 7 中學時代野球部主將及二疊手を務む。立教大學にありては、ラグビー部創設に際し、非常に盡力す。今日同部の隆昌は同氏の努力に依る所多し。又在學中我國最初のパンダム級拳闘選手を獲得。大正十二年上海に本邦鳴矢の遠征をなす。同十四

年米國太平洋岸各地に轉戦、好記録を収む。同十三年帝國拳闘會創立と同時に、師範として子弟の教養に盡し、幾多名選手を輩出。レフェリー及斯界の普及者として著名。尙拳闘に關する著書多し。現立教拳闘部顧問並に師範。

小原 辰三 (野球)

- 1 東京本郷區四片町一〇
- 2 米子市
- 3 明治三十七年 一月二十二日
- 4 一六七種 六〇種
- 5 米子中學 二高 東大醫學部
- 6 帝大附屬病院
- 7 米子中學内野手及陸上部員として、縣下中學學校大會に活躍。二高時代野球部捕手及中堅手として、第一回東北高等野球大會に奮闘。又東大正十四年秋六大學に加盟當時東大の右翼を守り、今日帝大野球部の基礎を築きし人。投打共右。昭和四年同校卒業。目下青山外科に勤め、スポーツ醫學を研鑽しつゝあり。

大澤 逸郎 (野球)

- 1 東京杉並區上井草町一三八四
- 2 牛込區早稲田町
- 3 明治二十五年 七月十六日
- 4 一六七種 六四・六種
- 5 大成中學 明治大學
- 6 日本大學講師 職業クラブ
- 7 中堅時代より投手として鳴らし、明大に入るや抜群の技術と氣魄は推

されて第七代主將の印綬を帯ぶ。大正三年米國遠征には右翼手として出場同部草創時代に非常に活躍したる同部の先輩にして現在日本大學野球部監督。

鬼澤 信夫 (野球)

- 1 東京瀧野川區田端町六一三
- 2 水戸市上市泉町
- 3 明治四十三年 九月十九日
- 4 一五九・五種 五七種
- 5 瀧野川小學 立教中學
- 6 東京鐵道局 東鐵野球部
- 7 立教中學野球部投手として、東都中等學校野球界に其名を轟かす。現東鐵野球部名投手にて、全國鐵道大會に出場する事四回。昭和八年六月、都府對抗東京遠征には、東都の諸豪チームを破り、東京俱樂部に挑戦、東都の強剛を向ふに懸して、脚々奮迅の活躍をなす。趣味キネマ

岡島 盛一 (柔道)

- 1 東京芝區白金台町一四
- 2 富山縣
- 3 明治三十九年 三月六日
- 4 一五八種 六四・六種
- 5 魚津中學
- 6 警視廳警務官 講道館
- 7 中學時代より柔道部職員として、縣下各試合に出場健闘。大正十五年講道館に入門。入門一ヶ年にして三段に昇進。其技を認められ目下四段。東京市復興祭には芝區代表選手に推舉され、日比谷公會堂に於て、各區

の強豪と對戦大いに力戦す。現芝高輪署勤務。

大島 滿一 (庭球)

- 1 東京淺草區百人町三ノ二八五
- 2 東京麹町區下二番町
- 3 明治二十二年 六月三日
- 4 一六七種 六六・五種
- 5 四崎大村中學 五高 東大
- 6 東京電燈會社
- 7 五高在學中はボート部一番及五番清手又庭球部主將として活躍す。東大に入りては庭球部の精鋭として關東庭球界對京大戦に出場快なるプレイヤーとして知らる。又趣味園芸二段及スポーツに多才な人として知らる。

大國 恭一 (ラグビー)

- 1 東京日風區中日黒四ノ一二八〇
- 2 島根縣松江町
- 3 明治三十五年 四月一日
- 4 一六四種 六〇種
- 5 長野中學 松江高校 東大
- 6 住友信託會社
- 7 松江高校を経て東大に入る。東大ラグビーの比喩期大正十三年十三會を組織し種々練習を積み東都六大學ラグビーリーグに六ヶ年連勝の黄金時代を作る。東大ラグビー部マネージャーとして盡力し其の功勞を知らる。現在住友信託東京支店勤務。

大町 清 (ラグビー)

- 1 東京品川區大井廣町四八六六
- 2 廣島市

大谷 力藏 (野球)

- 1 東京淺草區駒形町五〇
- 2 千葉縣
- 3 明治二十四年 五月五日
- 4 一五八種 五七種
- 5 瀧町小學校
- 6 歌舞伎座 明石屋チーム
- 7 本名藤平留吉。聖園球界の宿將明

大久保 武雄 (柔道)

大塚 承五郎 (劍道)

大塚 松太郎 (ゴルフ)

太田 政次郎 (柔道)

- 1 東京神田區小川町二ノ六
- 2 栃木縣石橋町
- 3 明治四十年 一月一日
- 4 一七〇種 七二・二種
- 5 石橋小學 宇都宮農學 中央大學
- 6 東京市電氣局 講道館
- 7 宇都宮農學校柔道部の花形として縣下に知られ、中央大學に入りては柔道部委員として同部の發展に貢献す。又東京學生柔道部對オールド満洲軍との對戦には學生軍の精鋭として出場大いに奮闘す。現在講道館四段。趣味讀書散步

- 1 東京本郷區弓町二ノ一一
- 2 静岡縣
- 3 明治十八年 十一月
- 4 一六一種 六六・五種
- 5 大正五年より有信館中山博道師範に就き斯道を修め、困苦奮勉昭和三年轉練を受く。爾來絶えず同道場に通ひ後進の指導及斯道の研鑽に努め、他面武士道精神の鼓吹普及に勵む。

- 1 東京日風區下日黒五七八
- 2 同
- 3 明治二十九年 二月二十五日
- 4 一六二種 六四種
- 5 小石川町小學 京北中學
- 6 Y.M.C.A.主事
- 7 北海道札幌に於て牧場經營の傍ら馬術を習得。習志野騎兵隊隊入營中は成績抜群のため馬術徽章を受。現Y.M.C.A.在に勤め、高障礙飛越競技の記録保持者として有名なり。趣味園藝

- 1 東京芝區白金台町四四三
- 2 津市仲新町
- 3 大正三年 一月七日
- 4 一六一種 四九・四種
- 5 北海道八雲小學校
- 6 駒澤ゴルフ場
- 7 アマチュアゴルフア。現在駒澤ゴルフリンクに於て斯道の普及發揚に専心す。趣味觀劇

大谷 信明 (野球)

大島 政之助 (野球)

緒方 哲夫 (拳闘)

- 1 東京中野區新井法大合宿所内

- 1 東京牛込區喜久井町四三
- 2 新潟市寄居町
- 3 明治四十一年 三月十七日
- 4 一六四種 五四・四種
- 5 新潟商業 早稲田大學
- 6 日清生命保險會社 稻門クラブ
- 7 新潟商業時代已に名捕手として甲信越遠征に優勝。鳴尾の全國中等學校野球大會に出場す。早大に入りては外野手として早慶戦復活當時の新入試合に出場リーグ戦等に活躍す。趣味讀書

- 1 東京四谷區南寺町帝學内
- 2 東京神田區松枝町
- 3 明治三十八年 十二月二十六日
- 4 一六一種 一三三ボンド
- 5 帝國拳闘協會

7 昭和初期のライト級選手として、日比谷公會堂、同音樂堂、園技館等に活躍し常に素晴らしい成績を挙げ、昭和八年五月日佛對抗日本選抜試合の名審判者として知られる。

太田和三郎 (剣道)
 1 東京池袋區榎木四ノ九一〇
 2 栃木縣
 3 明治三十九年 六九・四冠
 4 一六七冠 六九・四冠
 5 大倉高商
 6 日本銀行
 7 舊姓秋元。前大倉高商劍道部部長として、都下學生劍道界に活躍す。大正十四年同校卒業。昭和三年武徳會より其技藝進せし故を以て三段の認定を授けらる。

小田切武昌 (ラグビー)
 1 東京品川區五反田六ノ一九一
 2 芝區白金三光町
 3 明治三十一年 五月二十二日
 4 一六七冠 六七・五冠
 5 鴨屋小 同中 一高 東大
 6 三井合名會社 帝大OB
 7 一高野球部全盛時代選手として對三高戦に健闘。東大ラグビー部創立當時のHBとして活躍す。大正十二年帝大法科卒業後三井合名會社に勤務。東大OBラグビーメンバーとして奮闘す。

大 林 康 造 (馬術)
 1 東京在原區下神明町七六
 2 福山市

7 明治三十二年 三月八日
 4 一六七冠 五二・五冠
 5 誠之小學 京北中學 専修大學
 6 東京市電氣局 東京市馬術部
 7 中學時代より馬術選手として障壁物飛越競技に妙を得。専修大學を経て市電工務課に入り昭和四・五年度習志野馬術大會に於ける紳士班障壁競技に出場入賞す。趣味音楽

小野ヶ嶽徳松 (相撲)
 1 東京本所區藤町二ノ一
 2 宮城縣瓦町
 3 明治四十五年 三月十五日
 4 一六七冠 一一五冠
 5 瓦町小学校
 6 大日本相撲協會
 7 本名小野徳松。二十山部屋力士。初土表昭和三年十月。五年十兩に昇進し、昭和八年一月場所成績六勝五敗。右四ツ釣出しを得意とす。體格偉大新進強豪力士として將來を期待す。

小野芳雄 (野球)
 1 東京神田區多町二ノ三及川方
 2 新潟市町一丁目
 3 明治四十四年 三月七日
 4 一六七冠 六一・九冠
 5 關立新潟商業學校
 6 鐵道省鐵道局調査課
 7 新潟商業野球部選手、三壘、右翼手として甲信越大會に出場優勝す。現在鐵道省野球部投手及遊撃手として全國有鐵道野球大會に出場活躍。強肩と強打を以て知られる。趣味

多 島 滿 一 (庭球)
 1 東京池袋區百人町三ノ二八五
 2 東京池袋區下二番町
 3 明治二十二年 六月三日
 4 一六七冠 六六・五冠
 5 長崎大村小 同中學 五高 東大
 6 東京電燈會社
 7 五高庭球部主将及鐵道部一番及六番選手として全國高專庭球大會、九州鐵道界に活躍。東大を以て東電に入る。現在朝鮮體育協會理事として新界に貢献す。團扇も素人の域を越へ現在二段。

小寺三郎 (ラグビー)
 1 東京池袋區西大久保四一〇
 2 同
 3 明治四十一年 四月二十四日
 4 一六七冠 五七冠
 5 本郷小 高千穂中學 早大
 6 鐵道省 早大OB
 7 早大在學中はラグビー、TB選手として早慶戦五大學オフインシャルゲーム等に出場活躍す。現在鐵道省工務局建築課に勤務早大OB選手として奮闘す。同ラグビー協會に所属

大原光則 (陸上)
 1 東京芝區櫻川町一五
 2 埼玉縣北埼玉郡蓮田川村
 3 大正二年 十月一日
 4 一六七冠 五四・四冠
 5 三越本店 關東陸上聯盟
 6 三越鐵道部短距離選手として、關東陸上競技聯盟主催の第五回關東實業團對抗陸上競技大會に出場、オリムピックリレーに優勝。記録(二分五秒八)趣味スゴーツ一級

小野純吉 (庭球)
 1 神奈川県小田原町十字
 2 同
 3 明治四十四年 十二月二日
 4 一五五冠 六〇冠
 5 小田原第一小學 小田原中學
 6 新宿
 7 小田原中學時代は、現慶大庭球部新選手西村君のパートナーとして中學界に見る名選手として知られる。昭和二年度全國中等學校庭球大會に、二回連続優勝す。趣味キネ

緑 茂 信 義 (野球)
 1 神奈川県鎌倉郡小坂村宮川方

2 高崎市弓町
 3 明治四十四年 二月十五日
 4 一五九・五冠 五四・五冠
 5 高崎商業
 6 東京鐵道局 東鐵野球部
 7 高崎商業野球部二壘手として、昭和三年金澤市に於ける、中部中等學校野球大會に活躍。現在東鐵野球部二壘手として、鐵道團及東都實業團中の古豪チーム。投打共右。趣味文學

大 内 甲 (弓道)
 1 東京豊島區西尾橋二ノ二〇九〇
 2 福島縣安積郡穂積村
 3 明治三十九年 三月十八日
 4 一六一冠 五一・三冠
 5 穂積小學 安積中學 慶大
 6 東京電燈會社 軍馬生弓會
 7 中學時代より弓道部選手として奮闘。慶大に入りても關東學生弓道界に活躍。大正十二年法科卒業。現在東電に勤務し同社弓道部及生弓會の名選手として知られる。趣味音楽

大 村 一 藏 (相撲)
 1 東京芝區二本根元町二二
 2 鳥取市片原
 3 明治十八年 二月十五日
 4 一六八・五冠 八七・四冠
 5 鳥取一中 五高 東大
 6 日本石油會社
 7 東大相撲部先輩。五高時代は野球部選手として活躍。東大にありては相撲部に大成をなし名聲を博し卒業後もスゴーツの普及發達に努力。日

7 昭和十三年 三月八日
 4 一六七冠 五二・五冠
 5 誠之小學 京北中學 専修大學
 6 東京市電氣局 東京市馬術部
 7 中學時代より馬術選手として障壁物飛越競技に妙を得。専修大學を経て市電工務課に入り昭和四・五年習志野馬術大會に於ける紳士班障壁競技に出場入賞す。趣味音楽

小野ヶ嶽徳松 (相撲)
 1 東京本所區藤町二ノ一
 2 宮城縣瓦町
 3 明治四十五年 三月十五日
 4 一六七冠 一一五冠
 5 瓦町小学校
 6 大日本相撲協會
 7 本名小野徳松。二十山部屋力士。初土表昭和三年十月。五年十兩に昇進し、昭和八年一月場所成績六勝五敗。右四ツ釣出しを得意とす。體格偉大新進強豪力士として將來を期待す。

小野芳雄 (野球)
 1 東京神田區多町二ノ三及川方
 2 新潟市町一丁目
 3 明治四十四年 三月七日
 4 一六七冠 六一・九冠
 5 關立新潟商業學校
 6 鐵道省鐵道局調査課
 7 新潟商業野球部選手、三壘、右翼手として甲信越大會に出場優勝す。現在鐵道省野球部投手及遊撃手として全國有鐵道野球大會に出場活躍。強肩と強打を以て知られる。趣味

多 島 滿 一 (庭球)
 1 東京池袋區百人町三ノ二八五
 2 東京池袋區下二番町
 3 明治二十二年 六月三日
 4 一六七冠 六六・五冠
 5 長崎大村小 同中學 五高 東大
 6 東京電燈會社
 7 五高庭球部主将及鐵道部一番及六番選手として全國高專庭球大會、九州鐵道界に活躍。東大を以て東電に入る。現在朝鮮體育協會理事として新界に貢献す。團扇も素人の域を越へ現在二段。

小寺三郎 (ラグビー)
 1 東京池袋區西大久保四一〇
 2 同
 3 明治四十一年 四月二十四日
 4 一六七冠 五七冠
 5 本郷小 高千穂中學 早大
 6 鐵道省 早大OB
 7 早大在學中はラグビー、TB選手として早慶戦五大學オフインシャルゲーム等に出場活躍す。現在鐵道省工務局建築課に勤務早大OB選手として奮闘す。同ラグビー協會に所属

大原光則 (陸上)
 1 東京芝區櫻川町一五
 2 埼玉縣北埼玉郡蓮田川村
 3 大正二年 十月一日
 4 一六七冠 五四・四冠
 5 三越本店 關東陸上聯盟
 6 三越鐵道部短距離選手として、關東陸上競技聯盟主催の第五回關東實業團對抗陸上競技大會に出場、オリムピックリレーに優勝。記録(二分五秒八)趣味スゴーツ一級

小野純吉 (庭球)
 1 神奈川県小田原町十字
 2 同
 3 明治四十四年 十二月二日
 4 一五五冠 六〇冠
 5 小田原第一小學 小田原中學
 6 新宿
 7 小田原中學時代は、現慶大庭球部新選手西村君のパートナーとして中學界に見る名選手として知られる。昭和二年度全國中等學校庭球大會に、二回連続優勝す。趣味キネ

緑 茂 信 義 (野球)
 1 神奈川県鎌倉郡小坂村宮川方

下日本石油會社の技師を勤め傍ら文部省體育審判委員の要職にあり。

岡 眞 一郎 (ラグビー)
 1 東京深川區平野町三ノ六一一本方
 2 和歌山市北新元屋町
 3 明治四十年 四月二十五日
 4 一六一冠 五七冠
 5 和歌山中學 早稲田大學
 6 正路會社
 7 和歌山中野球部主将として、鳴尾球場に輝き、早大を以て正路喜社に入社。現在同社ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に活躍す。關東實業ラグビー球協會に所属。

小 俣 繁 雄 (柔道)
 1 東京本所區菊川町二ノ七〇
 2 同
 3 明治三十五年 十月十五日
 4 一六二・五冠 六七・五冠
 5 北海道登別小學校
 6 警視廳警務官 警視廳
 7 昭和二年二月初段、三年六月二段、四年一月三段に昇進す。現在警視廳警務課柔道部代表選手として對署試合に度々優勝。深川敬壽館顧問、整服術の免許状を有す。趣味讀書

岡 本 正 之 助 (剣道)
 1 東京中野區沼袋北町九八五
 2 東京日本橋區通町
 3 明治四十一年 一月一日
 4 一六二・五冠 五七冠
 5 都立館中學 早稲田大學

7 帝國生命保險會社
 7 早大在學中は劍道部の重鎮として、早慶戦全國高專大會等に出場大いに妙技を著し、朝鮮滿洲等にも遠征活躍す。現在三段。帝國生命保險俱樂部代表選手として奮闘す。趣味讀書

岡 本 和 彌 (野球)
 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
 2 松山元年
 3 大正元年 六〇冠
 4 一六七冠 六〇冠
 5 松山商業
 6 大阪鐵道局
 7 前中等球界の後星松山商業捕手として、現大鐵吹田クラブ捕手として、昭和七年第六回都市對抗戦より出場活躍し、捕球と各壘への正確なる送球に意味あるプレーを見せる。

大 島 秀 一 (野球)
 1 東京芝區田村町三ノ八
 2 東京市
 3 明治四十三年
 4 一六七冠 六〇冠
 5 東京大開中學校
 6 日本蓄音器會社
 7 實業野球團の宿將コロンビヤ野球部の投手兼一壘手。昭和七年第六回同八年第七回都市對抗戦より全川崎軍として神宮球場に出場奮闘す。横濱實業野球大會には覇者の権を握る。

小野守道 (野球)
 1 横濱市役所内
 2 横濱市
 3 明治四十二年
 4 一六七冠 六四・六冠
 5 横濱一中 神戸高工
 6 建築技師
 7 一代の名投手小野道磨氏の令弟として、神戸高工投手として關西球界に活躍す。現全横濱軍の投手として、昭和八年第七回都市對抗戦に出場する事二回、其強肩を以て知られる。

奥 野 豊 二 (野球)
 1 函館市函館小學校内
 2 旭川市
 3 明治四十一年
 4 一七九冠 六七・五冠
 5 旭川師範
 6 函館小學校 函館大洋俱樂部
 7 旭川師範時代より投手として北海に其勇名を轟かす。昭和七年第六回同八年第七回都市對抗戦に北海の雄大洋クラブ投手として出場し主戦投

手の貫録を示す。

- 岡田 一雄 (籠球)**
- 1 東京品川區大井體操學校
 - 2 和歌山縣粉河町
 - 3 明治四十二年 七月四日
 - 4 一七六號 六一・九號
 - 5 粉河中學 日本體育會 體操學校
 - 6 粉河中學 籠球部選手として、明治神宮籠球選手権大會に出場。以後慶應大學籠球部FCを移す。昭和八年體操學校に入り、籠球部員として活躍。
 - 7 折内 貞雄 (庭球)

- 折内 貞雄 (庭球)**
- 1 東京澁谷區大久保一ノ一〇
 - 2 秋田市横山南新町
 - 3 明治三十七年 十二月二十五日
 - 4 一六一號 四九・四號
 - 5 廣島一中 法政大學經濟部
 - 6 上野松坂屋 松坂屋クラブ
 - 7 前法政大學庭球部選手。在學中各試合等に母校代表として活躍す。昭和三年同校經濟科卒業。現松坂屋庭球部マネージャーに就任。専ら同部の發展に努む。

- 大越 丈千四 (柔道)**
- 1 東京小石川區大塚高師寄宿舎
 - 2 福島縣田村郡津村
 - 3 明治四十三年 九月二日
 - 4 一六四號 七四・一號
 - 5 三春小學 福島師範 東京高師 講道館
 - 6 福島師範時代柔道部主將を勤め、
 - 7 小川 年安 (野球)

- 大下 健一 (野球)**
- 1 東京澁谷區早大野球部寄宿内
 - 2 八戸市六日町
 - 3 明治四十四年 七月十一日
 - 4 一七〇號 六九・四號
 - 5 小中野小學 八戸中學 早大
 - 6 八戸中學投手として神宮球場に二回、甲子園に三度出場し華々しき戦跡を印す。早大野球部投手として活躍す。因に早大監督大下氏の令弟。趣味讀書
 - 7 尾割 公道 (野球)

- 小川 年安 (野球)**
- 1 東京澁谷區早大野球部寄宿所
 - 2 廣島縣
 - 3 明治四十四年
 - 4 一六七號 六四・六號
 - 5 廣陵中學 慶應大學
 - 6 慶應大學
 - 7 中學時代より捕手。現慶大野球部捕手として早慶戦六大学リーグ戦に出場活躍。強肩と強打を以て知られ、又名捕手としてリーグに君臨す。
 - 8 大塚 金太郎 (弓道)

- 大内 攻 (ラグビー)**
- 1 盛岡市岩手醫專寄宿舎内
 - 2 仙臺市北六番町
 - 3 明治四十二年 九月九日
 - 4 一七〇號 六四・六號
 - 5 東北學院 岩手醫專
 - 6 大塚 金太郎 (弓道)
 - 7 尾割 公道 (野球)

- 尾割 公道 (野球)**
- 1 八幡市八幡製鐵所内
 - 2 大分縣
 - 3 大正三年
 - 4 一六五・五號 六〇號
 - 5 大分工業
 - 6 八幡製鐵所
 - 7 大分工業時代よりの外野手にて、現八幡製鐵所の外野手として、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場をなし、同チームの新鋭として健闘す。
 - 8 大町 侃 (米上)

- 大岡 武 (野球)**
- 1 仙臺鐵道局改良課
 - 2 福島縣本宮町
 - 3 明治三十八年 十一月三日
 - 4 一六一號 五七號
 - 5 東北學院 仙臺鐵道局
 - 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部
 - 7 東北學院時代左翼手。仙臺野球部に入りては中堅手として昭和六年全國都市對抗大会に出場優勝し、第六回都市對抗大会には仙臺代表に選拔され昭和七年度同部の主將として知らる。
 - 9 大野 邦廣 (ラグビー)

- 大塚 金太郎 (弓道)**
- 1 東京神田區和泉町一番地五號
 - 2 同
 - 3 大野 邦廣 (ラグビー)
 - 4 大町 侃 (米上)

- 大町 侃 (米上)**
- 1 東京赤坂區青山南町二ノ六七
 - 2 同
 - 3 明治四十二年 一月八日
 - 4 一六四號 五四・四號
 - 5 赤坂中學 慶應大學
 - 6 銀座松屋 三田スケート
 - 7 前慶大スケート部選手として活躍し、各地大會に出場優秀なる成績を収む。昭和二年より三田スケートクラブに所屬。現在同部代表選手として新界に知らる。趣味讀書
 - 10 小川 武 (弓道)

- 大野 邦廣 (ラグビー)**
- 1 東京品川區大井坂下町二六九八
 - 2 同
 - 3 明治四十四年 十月六日
 - 4 一六四號 五八・八號
 - 5 早工 日本大學高工
 - 6 東京瓦斯電氣工業會社
 - 7 日大高工を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社野球部員又ラグビー部FW選手として東都實業野球界及ラグビー界に活躍す。

- 小川 武 (弓道)**
- 1 同
 - 2 同
 - 3 明治四十一年 八月十五日
 - 4 日白中學 立教大學
 - 5 白木屋本店 白木屋クラブ
 - 6 中學時代は遊撃手。立大に入りては二壘手としてリーグに出場す。現在白木屋クラブ三壘手として昭和六年度百貨店對抗戦に参加優勝す。
 - 11 大橋 勇 (野球)

- 大龜 重徳 (野球)**
- 1 東京都官立運輸事務所内
 - 2 栃木縣馬頭町
 - 3 明治四十五年
 - 4 一六四號 六〇號
 - 5 鳥山中學
 - 6 東京都官立
 - 7 字都官立運輸の捕手にて、昭和七年大館に於ける關東實業野球大會に出場優勝す。又都市對抗戦栃木縣代表として、關東選に屢々出場活躍す。
 - 12 大越 康守 (ラグビー)

- 大越 康守 (ラグビー)**
- 1 東京澁谷區木野町五ノ二
 - 2 千葉縣印旛郡白井村
 - 3 明治四十年 十二月二十五日
 - 4 一六四號 五八・九號
 - 5 白井小學
 - 6 木村屋本店 木村屋チーム
 - 7 昭和五年創立せられたる木村屋ラグビー部FWとして、同七年時事新報主催實業團ラグビー大會に出場優勝。軽快なるプレイヤーとして
 - 13 小谷 浩太郎 (野球)

- 小谷 浩太郎 (野球)**
- 1 東京在原區戸越三三二
 - 2 門司市唐橋町
 - 3 明治三十四年 八月二十六日
 - 4 一七〇號 七四・一號
 - 5 明倫小學 京城中學 青山學院
 - 6 共保生命保險會社
 - 7 京城中學野球部捕手として活躍し、青山學院に入りては捕手となり全國高等野球大會に出場大いに活躍す。強肩と強打を以て知らる。趣味讀書
 - 14 大橋 仲雄 (馬術)

- 大橋 仲雄 (馬術)**
- 1 東京澁谷區四ヶ原町七九九
 - 2 名古屋市
 - 3 明治三十九年 五月三十一日
 - 4 一七〇號 六〇號
 - 5 東京商工學校
 - 6 東京鐵道局
 - 7 國有鐵道馬術聯盟に所屬し、昭和六年以來習志野馬術大會に連続出場活躍す。昭和八年度團體騎士代表選手権大會には大いに奮闘す。現在新橋保險事務所勤務。
 - 15 大村 秀雄 (スケール)

- 大村 秀雄 (スケール)**
- 1 東京澁谷區宮下町三五
 - 2 靜岡縣安倍郡大谷村
 - 3 明治三十九年 二月二日
 - 4 一六七號 六〇號
 - 5 靜岡中學 靜岡高校 東大
 - 6 農林省水産局
 - 7 靜岡陸上競技部選手として全國高
 - 16 大内 又三郎 (野球)

- 大橋 仲雄 (馬術)**
- 1 東京澁谷區馬込町東二丁目
 - 2 愛媛縣越智郡下朝倉村
 - 3 明治三十年 九月十九日
 - 4 一七六號 六一號
 - 5 下朝倉小學 今治中學 早稻田大學
 - 6 鐵道省 早大OB
 - 7 大正十年早大在學當時井上・石丸・大町氏等と共に早大ラグビー部を創設し、同部初期の選手として横濱外人クラブとの對抗戦に出場活躍す。趣味スケール
 - 17 大内 又三郎 (野球)

- 大内 又三郎 (野球)**
- 1 東京澁谷區百人町二ノ八〇
 - 2 同
 - 3 越智 佐加衛 (ラグビー)
 - 4 大平 成美 (ラグビー)
 - 5 大塚 金太郎 (弓道)
 - 6 尾割 公道 (野球)
 - 7 大町 侃 (米上)
 - 8 大野 邦廣 (ラグビー)
 - 9 小川 武 (弓道)

- 越智 佐加衛 (ラグビー)**
- 1 東京大森區馬込町東二丁目
 - 2 愛媛縣越智郡下朝倉村
 - 3 明治三十年 九月十九日
 - 4 一七六號 六一號
 - 5 下朝倉小學 今治中學 早稻田大學
 - 6 鐵道省 早大OB
 - 7 大正十年早大在學當時井上・石丸・大町氏等と共に早大ラグビー部を創設し、同部初期の選手として横濱外人クラブとの對抗戦に出場活躍す。趣味スケール
 - 18 尾 高竹三郎 (陸上)

- 大平 成美 (ラグビー)**
- 1 東京澁谷區原宿三ノ三〇八
 - 2 同
 - 3 明治四十年 八月十日
 - 4 一七四號 六四・六號
 - 5 成蹊中學 成蹊高校 東大
 - 6 三愛鐵業會社 學士ラガー
 - 7 我蹊高校時代はラグビー部HBとして、一高水高浦高等の關東高校定期ラグビー戦に出場大いに奮闘東大に入りてはHBとして東大ラグビー部等に活躍す。現在三愛ラグビー部マネージャーとして知らる。
 - 19 尾 高竹三郎 (陸上)

- 尾 高竹三郎 (陸上)**
- 1 東京中野區住吉町一八
 - 2 千葉縣長生郡日吉村
 - 3 明治四十四年 七月十六日
 - 4 一六二・五號 五一・三號
 - 5 三越本店 關東陸上
 - 6 三越鐵道部八百米及千五百米選手として上井草に於ける關東陸上競技會主催の第五回關東實業團對抗戦大會に出場大いに活躍す。當時得點四一點にて三越鐵道部の優勝。
 - 20 大谷 一行 (野球)

- 大谷 一行 (野球)**
- 1 同
 - 2 同
 - 3 明治四十一年 八月十五日
 - 4 日白中學 立教大學
 - 5 白木屋本店 白木屋クラブ
 - 6 中學時代は遊撃手。立大に入りては二壘手としてリーグに出場す。現在白木屋クラブ三壘手として昭和六年度百貨店對抗戦に参加優勝す。
 - 21 大橋 勇 (野球)

- 大橋 勇 (野球)**
- 1 東京下谷區長者町一ノ十四加藤方
 - 2 栃木縣栃木町
 - 3 明治四十年 十一月十九日
 - 4 一六二・五號 五四・二號
 - 5 栃木町立第一小學 Y.M.C.A
 - 6 三越本店
 - 7 小學當時より軟式野球選手として健闘し、現在三越野球部二壘手として東都實業野球界に活躍。軽快なるプレイヤーと強打を以て知らる。
 - 22 尾 高竹三郎 (陸上)

- 尾 高竹三郎 (陸上)**
- 1 東京中野區住吉町一八
 - 2 千葉縣長生郡日吉村
 - 3 明治四十四年 七月十六日
 - 4 一六二・五號 五一・三號
 - 5 三越本店 關東陸上
 - 6 三越鐵道部八百米及千五百米選手として上井草に於ける關東陸上競技會主催の第五回關東實業團對抗戦大會に出場大いに活躍す。當時得點四一點にて三越鐵道部の優勝。
 - 23 大谷 一行 (野球)

<p>1 東京淀橋區戸塚二ノ七 山口縣阿武郡田島村 大正元年 九月十七日 一六一一 五二一 戸塚第一小學校</p> <p>2 三越本店 7 小學當時より軟式野球選手として 健闘し、現在三越野球部二番手として 東都實業野球界に活躍。軽快なる プレイと強打とを以て知らる。</p> <p>大 浪 三 治 (相撲)</p> <p>1 東京本所區横町一ノ六 2 秋田縣南秋田郡戸賀村 3 明治四十一年 九月一日 4 一八七・五 一〇二・六 戸賀村小學校</p> <p>5 大日本相撲協會 國技館 6 本名石川三治。高島郡屋力土。大 正十五年五月初土俵、昭和八年一月 入幕。上手投げを得意とす。現西方 前頭として將來を嚮望されてゐる新 鋭力士。</p> <p>大 塚 桂 (野球)</p> <p>1 千葉縣八幡町六三五 2 東京四谷區 3 明治四十年 十月十日 4 一六二・五 四九・四 神田錦華小 早稲田中 青山學院</p> <p>5 東京會館 6 中學時代野球及陸上部選手たり。 7 青山學院在學中ラグビー部員として 活躍す。現在東京會館野球部選手 手を務む。趣味映画</p>	<p>1 岩手縣土澤町 2 同 3 明治四十四年 七月二十九日 4 一六四 五二・五 5 岩手醫專 6 7 岩手醫專ラグビー部FWとして、 全國高等ラグビー大會に健闘。昭和 七年十月對東北學院戰又秋田鐵專と の對戦に優勝し輝き記録を印す。</p> <p>尾 崎 尙 文 (ラグビー)</p> <p>1 東京日黒區金町二八二七 2 同 3 明治三十七年 4 一六四 六〇 5 早稲田大學英法科 6 早稲田大學 第一生命クラブ 7 早稲田大學ラグビー部選手として 活躍す。卒業後第一生命ラグビー 部TBにて、實業ラグビー界に往年 の意氣を示す。趣味讀書</p> <p>大 谷 義 男 (ラグビー)</p> <p>1 東京東區區銀座八ノ八番九號 2 同 3 明治四十九年 三月十六日 4 一六四 四九・四 5 明治學院高等部 6 7 明治學院ラグビー部HBとして、 全國高等ラグビー大會、昭和六年九 月對水高戰、昭和七年十一月對專修 大學戰等に出場活躍す。趣味讀書</p>	<p>1 東京日黒區自由ヶ丘一三一 2 東京市 3 明治四十年 4 一七〇 五八・九 5 早稲田大學 6 第一火災保險會社 7 早稲田大學ラグビー部FWとして早 慶戰、神宮體育大會等に出場活躍す。 第一火災保險入社後甲府歩兵第四十 九聯隊に入營す。</p> <p>大 久 康 (柔道)</p> <p>1 仙臺市東三番丁 2 同 3 明治四十三年 一月三日 4 一七一・六 六四・九 5 東二番丁小學校 6 養老商 7 縣下柔道界の猛者。十六歳より新 道を研鑽現三段。昭和八年第七回明 治神宮體育大會に縣聯合青年團代表 柔道選手として出場力戦。趣味圖書 を獲得。(四八米一四)</p>	<p>1 東京本郷區日本醫科大學内 2 松阪市 3 明治四十二年 三月二十五日 4 一七〇 六九・四 5 松阪第一小學校 松阪商 日醫大 6 7 松阪商業時代サッカー選手。現日 本醫大編纂部選手として、インター カレッジに出場活躍す。</p> <p>岡 泰 藏 (野球)</p> <p>1 東京蒲田區慶大野球部合宿所 2 和歌山縣 3 大正三年 4 一六七 六〇 5 和歌山中學 慶應大學 6 中學時代より一壘手。現慶大野球 部一壘手として、早慶戰六大學リ グビーに活躍。同部の名一壘手の稱あり。</p> <p>奥 田 二 郎 (漕艇)</p> <p>1 東京府下國立東京商科大學内 2 京府東水洞 3 明治四十二年 4 一七三 七二・二 5 京城第一中學 東京商大 6 7 高大漕艇部員組主將として第十 一回インターカレッジ及ロンド ン至學等レース等に出場活躍す。</p> <p>大 澤 正 人 (蹴球)</p> <p>1 東京小石川區大塚高師合宿舎 2 長野縣下伊那郡松尾村</p>
---	---	---	---

<p>3 大正元年 九月十八日 4 一五八 五七 5 松尾小學校 飯田中學 東京高師 6 7 小學時代野球。中學時代陸球及蹴 球部選手として、各大會に毎回出場 數度優勝。現東京高師蹴球部マネ ージャーを勤む。</p> <p>面 谷 英 (柔道)</p> <p>1 東京小石川區東京高師合宿内 2 鳥取縣境町 3 明治四十三年 十一月六日 4 一六七 七二・二 5 境小學校 米子中學 東京高師 6 7 前米子中學柔道部副將として、縣 下中等學校試合に屢々優勝す。現文 理大柔道部將にて日下四段。</p> <p>岡 見 吉 博 (野球)</p> <p>1 東京淀橋區早大野球部合宿内 2 高松市 3 明治四十五年 4 一六七 六四・六 5 高松中學 早稲田大學 6 7 早大野球部外野手として早慶戰六 大學リグビーに活躍。強打強足を以て リグビー中の名外野手として鳴る。</p> <p>大 川 潤 (陸上)</p> <p>1 東京小石川區大塚高師合宿舎 2 茨城縣潮來町 3 大正元年 九月二十四日 4 一七〇 六一・九 大正二年</p>	<p>5 潮來小學校 佐原中學 東京高師 6 7 文理大競技部新選選手。昭和六年 青年大會に於て走高跳に優勝(一米 七五)同八年九月對慶大第一回對抗 戰に新高跳に出場活躍す。趣味音楽 鑑賞</p> <p>大 濱 靜 男 (野球)</p> <p>1 東京中野區法大野球部合宿内 2 廣島縣 3 明治四十二年 4 一六四 六〇 5 廣陵中學 法政大學 6 7 中國の雄。廣陵中學右翼手として、 第十三回全國中等學校野球大會に出 場活躍。現在法大野球部外野手とし て健闘す。</p> <p>大 木 小 三 郎 (陸上)</p> <p>1 東京下谷區西町三九 2 同 3 大正四年 4 一五八 四九・四 5 鎌倉師範 6 7 鎌倉師範在學中陸上部中距離及マ ラソン選手として活躍。昭和八年 報知主催驛傳競争に出場優勝。同部 の副將として知らる。</p> <p>萩 野 力 (野球)</p> <p>1 大阪府日本生命保險本店内 2 京都府福知山市 3 大正二年</p>	<p>4 一七一・五 六四・六 5 福知山商業 6 日本生命保險會社 7 商業時代よりの投手にて、現全大 阪軍の新選氣鋭の速球投手として、 昭和八年第七回都市對抗戰に初出場 す。</p> <p>大 島 幸 吉 (野球)</p> <p>1 仙臺鐵道局運輸事務所 2 仙臺市 3 大正二年 4 一七〇 六〇 5 宮城工業 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部 7 工業時代投手。仙臺野球部に入り ては捕手として全國鐵道野球大會に 出場活躍。第六回都市對抗戰は仙臺 代表に選ばれる。</p> <p>岡 部 久 義 (ラグビー)</p> <p>1 東京小石川區大塚高師二四 2 名古屋東區千種町 3 明治四十四年 六月二十八日 4 一六七 六六・五 5 千種小學校 愛知一中 東京高師 6 7 中學時代競技部選手にて、愛知縣 下中等學校大會に出場活躍す。現東 京高師ラグビー部FWとして各對抗 戰に奮闘す。</p>	<p>4 一六二・五 五二・五 5 高輪中學校 6 歌舞伎座 明石屋クラブ 7 本名平野太郎。梨園球界の強剛明 石屋クラブ投手として昭和八年五月 東都演劇野球リグビーに力戦す。</p> <p>大 谷 友 之 助 (野球)</p> <p>1 東京淺草區區富町二九 2 東京市 3 明治三十八年 十二月十九日 4 一五九・五 四九・四 5 淺草田邊小學校 6 歌舞伎座 明石屋クラブ 7 本名外川清。梨園野球團の巨星明 石屋クラブ二壘手として、昭和八年 五月東都演劇リグビーに活躍す。</p> <p>大 坪 惠 八 (柔道)</p> <p>1 東京淺草區區神吉町四三 2 佐賀縣佐賀郡南川村 3 明治三十三年 十月九日 4 一五九・五 六〇 5 川副小學校 法政大學 6 警視廳警察官 7 昭和五年講道館五段に昇進。對署 試合には、東京下谷上野署柔道部代 表選手として活躍。趣味圖書</p> <p>大 谷 友 三 (野球)</p> <p>1 東京下谷區御徒町二ノ五九 2 靜岡縣 3 明治四十四年 四月十五日 4 一六四 五二・五 5 靜岡縣尋常小學校 6 歌舞伎座 明石屋クラブ</p>
--	---	--	--

7 本名櫻井豊次郎。明石屋野球部左翼手として、昭和八年五月東京都演劇野球リーグに出場奮闘す。

小笠原惣平 (弓道)

- 1 東京下谷區竹町一
2 同
3 明治二十二年 四月一日
4 一五八號 六〇冠
5 下谷小學校
6 大日本教化會
7 幼時より弓道に精進努力し、大日本武徳會及大日本弓道會有段者に列す。現在大日本教化會幹事として新界に貢献す。

大戸 光 (野球)

- 1 川崎市宮本町六一
2 同
3 大正二年 三月二十五日
4 一六四號 五四・四冠
5 宮本小學校 東京電機學校
6 浅草松屋
7 松屋野球部捕手及投手として實業野球界に活躍、其他陸上短距離選手として知らる。趣味浪曲

及川 繁雄 (ラグビー)

- 1 東京墨谷區代々木西町九六七
2 同
3 明治四十四年 三月十九日
4 一六七號 五九冠
5 日自商業
6 東京瓦斯電氣工業會社
7 日自商業野球部捕手として知られ、東京瓦斯電氣工業會社に入りて

は野球部捕手ラグビー部T選手として活躍す。

恩田 陽 (ラグビー)

- 1 東京澁谷區西大久保一五四
2 鳥取縣
3 明治三十六年
4 一七三號 七二・二冠
5 東京帝國大學
6 第一生命保險會社
7 昭和四年東京帝國大學卒業。關東ラグビー部F.Wとして東都實業ラグビー界に活躍す。

大森 一郎 (ラグビー)

- 1 神奈川県中郡第一生命寄宿舍
2 岡山縣
3 明治三十九年
4 一七九號 七六・九冠
5 名古屋高商
6 第一生命保險會社
7 名古屋高商時代には、陸上競技部選手として、中京に其の名を轟かせる。現在關東ラグビー部F.Wとして奮闘。同社ラグビー部F.Wとして奮闘。

大谷雪之助 (野球)

- 1 東京浅草ノ山ノ宿町一五
2 東京市
3 明治四十二年 十一月二十五日
4 一五六・五號 五二・五冠
5 坂本小學校
6 歌舞伎座 明石屋チーム
7 本名山田健二郎。明石屋チームの三塁手として、昭和八年五月東京都演

劇リーグに、梨園球界の強剛として大いに奮闘。

及川太一郎 (野球)

- 1 東京荏原區戸越町一八二
2 岩手縣鹽瀨郡佐倉河村
3 明治三十九年 五月三日
4 一六八・五號 五七冠
5 日本大學商學部
6 明電會
7 實業野球團の同將明電會野球部左翼手。昭和八年度都市対抗東京第一選に出場チャンスマーカーとして奮闘す。趣味音楽撞球

太田 元信 (野球)

- 1 東京日本橋區本石町三ノ二
2 富山縣
3 明治四十四年
4 一六五・五號 六〇冠
5 日本大學第三商業學校
6 リーガル商會
7 東都軟式球界の同將リーグ野球部投手。昭和七年時事新報の全國選手權大會、國民新聞及城東野球協會野球大會に何れも覇權を握る。投打共々。

大湖清次郎 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國三ノ三八
2 福岡縣三浦郡田口村
3 明治三十三年 三月二十八日
4 一八〇・五號 一一五冠
5 田口村小學校
6 大日本相撲協會 國技館
7 本名石橋清次郎。陸奥郡屈力士。

初土俵大正八年一月、入幕昭和七年一月。得意の手右四ツ。現東方前頭三枚目。趣味浪花節

尾家 壽雄 (野球)

- 1 東京杉並區阿佐ヶ谷三二五
2 宇都宮市
3 明治三十年 三月八日
4 一七〇號 六四・六冠
5 慶應普通部 慶應大學
6 滿鐵支社
7 慶大時代柔道部の同將として、各對抗戦等に奮闘す。現三段。滿鐵入社後實業球界の古豪大連クラブの捕手を務む。

及川 良平 (柔道)

- 1 東京神田區多町二ノ三
2 岩手縣和賀郡立花村
3 明治三十八年 七月二十四日
4 一五九・五號 五八・九冠
5 黒岩小學校
6 警視廳警察官
7 大正十四年警視廳選査拜命。柔剣兩道を修業。築地署に勤務し、同署代表選手として、對峙試合等に出場奮闘。

大川虎之助 (漕艇)

- 1 東京府下國立東京商科大学内
2 静岡縣
3 大正二年
4 一七三號 七二・二冠
5 下田中學 東京商科大学
6 東京商科大学漕艇部五組三番漕手

としてインターカレッジ及ロンドン盃等レース等に出場活躍す。

岡本 三平 (漕艇)

- 1 東京麹町區中六番町四七山中
2 静岡縣静岡市東淺羽村
3 明治四十二年 五月十日
4 一七四・五號 六七・五冠
5 淺羽小學校 且附中學 東京商大
6 中學時代剣道選手。現東京商大漕艇部〇組七番手として對峙レースに出場活躍す。

太田 弘 (野球)

- 1 東京澁谷區早稲田大學野球部
2 松山市
3 明治四十五年
4 一六七號 六〇冠
5 松山商業 早稲田大學
6 松山商業時代外野手。現早大野球部一塁手として早戦戦六大学リーグに活躍す。

大内 豊富 (剣道)

- 1 東京向島區隅田町一ノ一二九二
2 宮城縣玉造郡眞山村
3 明治十九年 一月一日
4 一六四號 六七・五冠
5 眞山小學校
6 警視廳警察官 警視廳
7 明治四十四年警視廳選査拜命。大正十三年より對峙試合等に出場。警察界の最古参選手として著名。

小俣 太郎 (陸上)

- 1 東京芝區三田南寺町二四
2 大分縣杵築町
3 大正二年 三月二十五日
4 一七三號 六一・九冠
5 杵築小學校 杵築中學 慶大
6 中學時代より競技部選手として縣下に活躍す。現慶大競走部短距離及陸上選手。趣味読書

大城 勇 (柔道)

- 1 東京目黒區駒場町七七七
2 大分縣大分郡尾尾村
3 明治三十二年 六月二十七日
4 一六二・五號 六四冠
5 警視廳警察官
6 警察柔道部の同將にして、昭和六年十一月警視廳四級の下位に選抜す。現警視廳に勤務す。

小倉 秀男 (陸上)

- 1 千葉縣佐原町
2 同
3 明治四十三年 六月十二日
4 一七〇號 六〇冠
5 山武郡豊浦小學校 千葉師範
6 佐原小學校
7 師範時代より競技部選手にて、インターミッドル等に出場活躍す。昭和七年關東青年大會に於て四百米に優勝す。又同年日芬對抗戦にも出場奮闘。同八年四月關東選手權大會四百米に四位に入位。同年第七回神宮大會には陸聯合青年團選士の主將として

大久保重雄 (剣道)

- 1 鹿児島縣日置郡串木野村
2 同
3 大正四年 七月一日
4 一六七號 六〇冠
5 串木野小學校
6 農業
7 昭和八年縣下剣道大會に優勝なし。同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として出場活躍す。現剣道二段

奥井 虎茂 (陸上)

- 1 岡山縣児島郡味野町本村
2 愛媛縣越智郡岩城村
3 大正二年 七月二十八日
4 一六四號 六六・八冠
5 味野小學校
6 鹽田業
7 山陽長門縣界の精銳。常に縣體育大會等に出場活躍し、昭和八年第七回明治神宮體育大會には岡山縣聯合青年團選士として一萬米に出場奮闘す。趣味音楽

大賀 二郎 (柔道)

- 1 岡山市相生町支武館中央道場
2 岡山縣児島郡瀬崎村産崎
3 明治四十三年 一月二日
4 一六一號 六三・五冠
5 瀬崎小學校
6 同
7 昭和五年五月初段、同年十一月支武館二段に昇段、同七年八月講道館

大澤 虎三 (陸上)

- 1 宇治山田市神部
2 同
3 大正三年 七月一日
4 一七三號 六七・五冠
5 山田小學校 宇治山田商業
6 第十八回全國中等學校陸上競技大會團體投に優勝。昭和七年全國中等學校陸上競技大會砲丸投に優勝し團體投に四等に入賞。同八年第七回明治神宮體育大會には縣聯合青年團選士として砲丸投に出場奮闘す。趣味スホーン

大久保音治 (陸上)

- 1 長野縣東筑後郡眞島村
2 同
3 大正三年 三月十六日
4 一七一・五 六七・五冠
5 眞島小學校 更級農學校
6 同
7 昭和八年神宮選査に縣下大會の百米に二着、依續に三等を占む。同年第七回神宮體育大會には縣聯合青年團選士として、千米瑞典選査に出場活躍す。

落合 清 (陸上)

- 1 四日市市東町
2 四日市市北條町

3 大正四年 四月七日
 4 一六二・五種 五一・三種
 5 四日市第六小學校
 6 紡績従業員
 7 昭和六年縣體育大會百米に四着。同七年名古屋に於ける關西府縣對抗大會に三重縣代表繼走メンバーとして出場活躍す。同八年第七回明治神宮大會縣聯合青年團千米瑞島繼走選手として出場力闘す。趣味スボーツ

小澤利平治 (陸上)

1 長野縣東筑摩郡赤松村
 2 同
 3 明治四十四年 九月二十八日
 4 一五六・五種 四九・四種
 5 赤松小學校
 6 農業
 7 縣下長距離界の宿將。昭和六年全縣大會及同八年の全縣陸上大會等に優勝し、同年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團代表選手に推挙され一萬米に出場活躍す。

尾形淺水 (陸上)

1 熊本縣球磨郡同原村
 2 同
 3 明治四十二年 一月五日
 4 一五八種 五二・五種
 5 同原高等小學校
 6 農業
 7 長距離界の猛者。昭和四年第五回神宮大會千五百米に出場。同五年九州縣縣立三着。同七年九州都市對抗縣聯合青年團代表選手として出場活躍す。同八年第七回神宮體育大會に再度縣聯合青年團選手として出場活躍す。

して一萬米に出場(三十二分五十秒)を以つて第三位を占め、四點を獲得。全縣青年團對抗位十九點を以つて第二位となる

太田義雄 (陸上)

1 福島縣相馬郡飯登村
 2 同
 3 明治四十三年 四月十日
 4 一六二・四種 五四・五種
 5 福島師範
 6 相馬郡中村小學校
 7 昭和七年縣下陸上選手権大會に於て四百米に優勝(五四秒)。同八年第七回神宮大會に縣聯合青年團選手として出場し健闘を揮ふ。

奥崎直幸 (相撲)

1 新宮市三輪崎町四六一
 2 同
 3 明治四十五年 五月十五日
 4 一六七種 七八・八種
 5 和歌山師範
 6 農業小學校
 7 小學時代より相撲を究め、師範時代大毎主催全縣中等學校相撲大會に三回出場。昭和六年全縣中等學校選抜相撲選手として米國に遠征す。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團代表選手として出場奮戦す。趣味スボーツ旅行

奥田正一 (相撲)

1 滋賀縣滋賀郡小松村
 2 同
 3 大正三年 七月十三日

4 一六五・五種 七四・一種
 5 小松小學校
 6 漁業
 7 縣下相撲界の宿將。昭和七年名古屋相撲大會に出場。同八年第七回明治神宮大會に縣聯合青年團代表選手として出場力闘す。趣味スボーツ

奥野清 (劍道)

1 三重縣小俣町
 2 大坂市四貫島
 3 大正四年 六月九日
 4 一六一種 六〇種
 5 小俣小學校 宇治山田商業
 6 實業
 7 商業時代劍道部副將として縣下中等學校劍道界に活躍。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團代表選手として選出され健闘す。趣味俳句

大塚速見 (相撲)

1 佐賀縣佐賀郡四川郡村
 2 同
 3 明治四十四年 七月二十六日
 4 一七三種 七五種
 5 四川小學校
 6 農業
 7 縣下青年團相撲界の俊豪。昭和八年第七回明治神宮體育大會には縣聯合青年團代表選手として出場奮戦す。

岡田幸治 (劍道)

1 富山市諏訪川原一六

2 同
 3 大正五年 一月十九日
 4 一六一種 五七種
 5 神通中學校
 6 神通中學校
 7 神通中學劍道部の副將として全縣下中等學校劍道界に活躍す。昭和七年三月劍道初段を允許される。同年十月高岡高商主催近畿中等學校劍道大會に於て二等となる。昭和八年第七回明治神宮體育大會には榮譽ある縣代表選手として出場青年團選手標準決勝に健闘す。趣味繪畫

太田弘 (陸上)

1 新潟縣水原町中島
 2 同
 3 大正四年 二月八日
 4 一六四種 六四・六種
 5 水原小學校 水原農學校
 6 材木商 新潟縣協
 7 農學校時代縣下中等學校大會百米(二二秒)の新記録を作る。昭和五年四都府對抗技に百米(二二秒)。昭和七年第一回縣下青年團選手権大會に二百米(二二秒六)の自己最高記録を作る。昭和六年第六回明治神宮體育大會に縣代表として出場。同八年第七回大會にも縣聯合青年團代表選手となり千米瑞島繼走に出場活躍す。

太田博邦 (陸上)

1 茨城県明倫小學校内
 2 山口縣阿武郡吉野村

3 明治四十三年 十二月十四日
 4 一五八種 五四種
 5 吉野小學校 山口師範
 6 明倫小學校
 7 昭和五年西日本中等陸上大會瑞島繼走(三米五〇)に九州新記録を作る。同六年縣選手権大會に個人優勝し又翌年同大會にも優勝。同八年にも連戦連勝を挙げす。昭和六年第六回明治神宮體育大會には縣聯合青年團代表選手として十種競技に出場。同八年の大會にも再度出場走幅跳及繼走にその健闘を揮ふ。

奥村勝見 (陸上)

1 岐阜縣廣見町
 2 同
 3 明治四十四年 二月五日
 4 一五八種 四九・四種
 5 廣見町小學校
 6 農業
 7 昭和七年九月名古屋に於ける日芬競技大會八百米(二分一五秒)に一着。又縣下選手権千五百米(四分三秒八)の記録保持者にて其他東海千五百米(四分三〇秒)及東海都市對抗(四分二五秒二)の記録保持者。又近畿青年團競技大會八百米(二分八秒)を以て優勝。長距離界の開拓者として昭和八年第七回明治神宮大會に縣青年團代表選手として千五百米に出場健闘を揮ふ。趣味讀書スボーツ

大久保芳一 (陸上)

1 和歌山縣四牟郡上秋津村
 2 同

3 大正元年 十二月十九日
 4 一六一種 五二・三種
 5 上秋津小學校
 6 農業
 7 縣下青年團長距離界の宿將。昭和六年縣青年團大會に千五百米に優勝し、同年縣下青年團大會にも出場。同七年縣大會に一着となり縣下青年團大會に四着を占む。同八年縣下青年團大會に四着及郡青年團大會に善戦す。昭和八年十一月一日第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團千五百米選手となり出場健闘を揮ふ。趣味スボーツ音楽

大森忠雄 (劍道)

1 仙臺市榴岡町
 2 仙臺市
 3 大正三年 九月二十四日
 4 一五八種 六六・八種
 5 仙臺第一中學
 6 毛利屋運動具店 六劍會
 7 十四歳より劍道に親しみ中學時代劍道部の副將として縣下中等學校劍道界に活躍し、五年生の際米澤に於ける劍道大會に優勝す。昭和六年宮城支部演武大會にも副將の榮冠を握る。同八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團代表選手として出場活躍す。趣味彫刻

大久保奉 (陸上)

1 高知市下高坂六一四
 2 同
 3 大正六年 一月十八日
 4 一六一種 五四種

5 高知師範小學校 高知第一高女
 6 縣下女子短距離界の精華。昭和六年全縣女子大會走幅跳(四米一五)三位四〇リレー二着。同七年同大會走幅跳(四米二八)四百米繼走に何れも一着を占む。同八年同大會百米(二二秒四)二着、四百米繼走(五四秒九)一着。同年神宮大會四〇種選走二百米繼走二着四百米繼走二着となり、同年十一月第七回明治神宮體育大會に二百、四百米繼走に出場健闘を揮ひ活躍す。趣味音楽

太田源兵衛 (相撲)

1 滋賀縣神崎郡能登川村
 2 同
 3 明治四十二年 三月三十一日
 4 一六八・五種 七五種
 5 能登川小學校 八幡商業學校
 6 商業
 7 商業時代編組部及相撲部選手にて、全縣中等學校選抜大會に二回出場。又相撲部選手として堺大濱に於ける、全縣中等學校相撲大會に五回出場常に目撃しき奮闘をなす。昭和八年縣聯合相撲大會に優勝し、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團代表選手として出場力闘す。

小澤賢治郎 (陸上)

1 鶴岡市新土町甲拾三番地
 2 山形縣藤島町仲町
 3 明治四十二年 一月五日
 4 一七〇種 六四・八種

5 鶴岡中學 山形師範
 6 東田川郡泉小學校
 7 大正十四年第一回東北中學陸上競技大會に鶴岡中學主將として出場優勝し、翌年第一回庄内中學陸上大會にも主將となり優勝す。縣下短距離界の雄者にして、現在庄内體育大會一般の部百米(二二秒八)山形縣青年團百米(二二秒三)二百米(二二秒四)の記録を保持す。昭和八年十一月第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選手として百米及繼走に出場健闘を揮ふ。

大類八郎 (陸上)

1 山形市六月町庄司彦兵衛方
 2 川形縣尾花澤町
 3 明治四十三年 八月二十七日
 4 一七三種 六一・九種
 5 尾花澤小學校 山形師範
 6 山形市第三小學校
 7 師範時代より競技部選手として鳴り、大正十四年東北中學陸上競技大會に出場棒高跳に入賞。昭和五年山形縣選手権大會高欄得優勝低欄得二着。同六年同縣選手権大會高欄得低欄得に何れも二着。同年明治神宮第六回體育大會に十種競技に出場第九位を占む。同七年縣選手権大會高欄得優勝(一七秒)低欄得二着。同年全日本選手権大會十種競技に出場活躍す。昭和八年第七回神宮大會に縣聯合青年團監督に就任し、一般十種競技に出場健闘す。趣味體育

岡野勇 (陸上)

1 同
 2 同

- 1 宮崎市朝日ペンベルグ会社内
- 2 延岡市
- 3 明治四十二年 十二月二十三日
- 4 一六五・五種 六〇近
- 5 延岡市恒高小学校
- 6 日本朝日ペンベルグ会社
- 7 四百米の雄。第六回神宮體育大會には二着を占む。昭和八年度第七回神宮大會には縣聯合青年團代表選士として四百米に出場健闘す。又千米瑞典走に入賞し大いに其健闘を知らる。

表 猛雄 (陸上)

- 1 北海道空知郡美瑛町
- 2 同
- 3 明治四十三年 十一月十日
- 4 一六七種 七七近
- 5 運送業
- 6 昭和八年第七回神宮體育大會に北海道聯合青年團選士として、我國競技界の新種目にて純日本式農村競技優勝に出場第六位に入賞。青年團階上競技順位第七位にて十點の内貴重なる一點を獲得す。
- 7 昭和八年第七回神宮體育大會に北海道聯合青年團選士として、我國競技界の新種目にて純日本式農村競技優勝に出場第六位に入賞。青年團階上競技順位第七位にて十點の内貴重なる一點を獲得す。

小野寺芳雄 (スキー)

- 1 樺太豊原町大通南八ノ三六
- 2 函館市
- 3 明治三十八年
- 4 一七〇種 六〇近
- 5 札幌二中 明治大學
- 6 樺太廳
- 7 中學時代よりスキー部選手として活躍。明大にては山岳スキーヤーと

奥野文次郎 (柔道)

- 1 宇治山田市
- 2 同
- 3 明治四十四年 一月五日
- 4 一六四種 六六・五近
- 5 山田商業
- 6 青物乾物商
- 7 縣下青年柔道界の雄將。昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選士として出場力闘す。趣味映畫。

岡部惣内 (陸上)

- 1 津市相生町
- 2 同
- 3 大正五年 十一月二十八日
- 4 一六四種 五四・四近
- 5 津市知敬高等小学校
- 6 青山印刷所
- 7 縣下中距離界の猛者にして、昭和八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團選士となり四百米に出場奮戦す。趣味キネマ。

小栗昌夫 (陸上)

- 1 岐阜縣稲葉郡南長森村藏前
- 2 岐阜縣稲葉郡長森村
- 3 大正三年 八月十五日
- 4 一七三種 六六・五近

大場哲也 (陸上)

- 1 宮城縣増田町
- 2 仙臺市
- 3 明治四十五年 四月一日
- 4 一七六種 六四・六近
- 5 宮城師範學校
- 6 増田小学校
- 7 縣下短距離及跳躍界の雄。師範時代昭和六年北日本中等學校對抗競技百米(一一秒)に優勝。同八年第七回神宮體育大會に縣聯合青年團代表選士として走幅跳、千米瑞典走に出場力闘す。趣味地理麻雀。

カノ部

嘉納治五郎 (柔道)

東京小石川區大塚坂下町
講道館々長
萬延元年兵庫に生る。初め天神真流を學び、後起倒流を修め、此二流を基礎として各流に亘り取捨折衷、又自己の工夫考案を加へ、講道館柔道を創始す。明治十四年東大卒業。後學習院教授及文部省参事官、第二高等中學校々長等に歴任。大正十一年貴院に勤遷せらる。明治三十八年範士に列擧され、昭和四年御大禮天覽試合には御説明役を仰付らる。現講道館長、大日本體育協會名譽會長の要職にあり、専ら子弟の體育發展に努む。

河端廣益 (野球)

東京赤坂區青山町六ノ四一
フヂマ商會
明治十五年六月東京に生る。赤坂小學城北中學(現府立四中)を経て明治三十九年早大卒業。中學時代より野球部選手にて、早大に入りても野球部員として當時我國野球の草創時代に外野手を勤む。又早大野球部の創立に努め今日の盛衰を見る。卒業後も引續き球界の發展母校野球部の隆昌に意を注ぎ、常に後進の指導意を現。現門タラの理事たり。本邦球界のみならず早大野球部の功勞者たり。

加藤吉兵衛 (野球)

神戸市中山手通七ノ三〇ノ五
宇治川電氣會社
明治二十三年横濱に生る。横濱商業を以て大正六年早大商科卒業。大正初期早大軍の名譽選手として活躍。後推されて第十代主將の印綬を帯ぶ。同四年早大第二回比律賓、翌年市俄古大學の請特に應じ、第三回本國に遠征す。卒業後毎年都市對抗戦に全神戸軍の主將、遊撃手として壯者を凌ぐ元氣にて其職を盡し、現事處理事。昭和七年第六回には全国各地の俊鋭を退け見事覇權を掌握す。攻守走を兼ねたる名選手、現宇治川電氣運轉課係長兼貨物係長の要職にある外全神戸軍の顧問たり。

河本禎助 (馬術)

東京小石川區久堅町五八
東京大教授傳染病研究所技師
明治十五年兵庫縣に生る。同四十二年東大醫科卒業。講師助教授を経て、傳染病研究所技師に任命さる。現東大教授の外愛知醫大教授を兼任。大正十一年歐米に留學、歸朝後醫學博士の學位を授與さる。現日本國際馬術協會理事兼日本體操聯盟副會長及大日本體育協會理事等にて、又學生射擊聯盟理事長及全日本學生スキー競技聯盟會長の要職にあり。趣味乗馬スキー読書。

榊山愛輔 (ゴルフ)

東京品川區五反田六ノ二一五ノ六

加藤高茂 (野球)

名古屋市西區傳馬町二ノ六
名古屋生命保險會社同僚支部
明治三十二年愛知縣に生る。愛知一中時代より名外野手として鳴らし、大正六年第二回中等學校野球大會に甲子園に出場力闘す。早大入學後も依然外野手にて、大正十年三田稲門戦の復活試合及、同年三月第四回本國遠征の途に上り、布哇及米國本土の諸強チームと接戦し、十五勝二十三敗の成績にて歸朝。一世の家投手各口投手(現岩瀬)等に當時非常に健闘す。

嘉納健治 (拳闘)

東京本郷區元町
大日本拳闘會々長
兵庫縣出身。日本拳闘界の先驅者にして、大日本拳闘會を創設し自ら其

金栗四三 (陸上)

熊本縣玉名郡小田村小田池部
大日本體育協會評議員
明治二十四年熊本縣に出生。東京高等師範出身にて、聖明期にありし日本マラソン界に多大なる刺激を與へし恩人。同四十四年羽田のストックホルム國際オリムピック大會派遣選手兼選大會参加以來の先驅にて、一九二二年ストックホルムに於ける第五回オリムピックに我國代表選手として最初に出場。其他暹羅萬國等各オリムピック大會に出場。本邦マラソン界に活躍し當時マラソン王と稱さる。現全日本陸上競技聯盟評議員たり。

川崎肇 (ゴルフ)

東京赤坂區臺町一
博多銀行頭取

明治十七年十一月出生。東京高商卒業。現日本火災帝國火災各社長に...

加納友之助 (ゴルフ)

東京麻布區六本木町六七。第一銀行取締役。明治五年五月八日茨城縣に生る...

加藤武男 (ゴルフ)

東京牛込區市ヶ谷河田町九。三菱銀行常務取締役。明治十年六月五日栃木縣に生る...

現在朝霞ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)所属のゴルファーにて、日下ハンデー二十四。趣味は球。

加藤恭平 (ゴルフ)

東京品川區北品川六ノ三五〇。三愛商事。明治十六年一月二十五日神戸市に生る...

交野政邁 (スケート)

東京芝區白金三光町四五〇。大日本スケート競技聯盟會長。内藤政子爵の男。富主政邁氏の兄にて、明治二十六年七月出生...

加藤方吉 (野球)

両館市地蔵町二二。建築土木材料製造所經營。

舊姓横山、明治二十四年北海道に生る。大正五年早大商科卒業。大正初朝早大野球部の外野手として同四年比律賓に遠征、翌五年三月市俄古大の試合に上る。途中布哇にも上陸九回の試合、又米國各地に轉戦する事四ヶ月十勝十九敗の成績を挙げ大いに力戦す。

柏原孫右衛門 (ゴルフ)

東京赤坂區青山南町六ノ一〇四。柏原洋紙店主。明治三十年三月七日京都に出生。大正十年慶大理財科卒業。現黒江屋漆器店社長の外銀行會社の重役を兼任す。昭和五年歐米を巡遊す。アマチュアゴルフ界の調停として、朝霞程ヶ谷各木各ゴルフクラブ會員にて、日下ハンデー二十。趣味は球。

河合良成 (ゴルフ)

東京渋谷區神山町二一。日華生命保險會社事務取締役。明治十九年五月富山縣に生る。同十四年早大法律科卒業。後東京株式取引所常務理事兼支配人を經て現在帝國火災東京海運汽船會社取締役にて、又東大経済學部講師を勤む。現朝霞ゴルフクラブ所屬(東京ゴルフクラブ)のアマチュアゴルファーたり。日下ハンデー二十一。

鹿島精一 (ゴルフ)

東京小石川區瀧口町二〇七。鹿島組社長。

明治八年七月十一日盛岡市に出生。同三十二年早大工科卒業。現鹿島組の事業を統帥す。又東京府多額納税者たり。現在朝霞ゴルフクラブ(東京ゴルフクラブ)所屬のゴルファーにて、日下ハンデー十九。アマチュアゴルフ界の宿將。趣味は曲長唄併句。

川山一雄 (剣道)

鐵道大臣官房研究所内。鐵道省。鳥取縣に生る。東京物理學校出身。昭和四年劍道三段に昇進。昭和五年以來全國鐵道劍道大會に本省選手として出場活躍し昭和六年度同大會に個人優勝獲得。現在鐵道省劍道部の調停として知らる。

勝田永吉 (藤球)

大阪北區堂島濱通堂島ビル内。日本藤球協會副會長。明治二十年大阪に出生。同四十五年東大法律科卒業。學生時代より藤球部選手として當時の藤球界を風靡す。現在藤球協會副會長として藤球の普及発展に努むると共に衆議院議員内務委員官の要職にあり。

嘉納文治 (馬術)

兵庫縣御影町那家。日本國際馬術協會評議員。明治三十一年七月岡山縣に生る。關西學院高等商業部を経て、現に菊正宗鐵道元本事務所取締役たり。佛蘭西神國鐵道會社取締役及社団法人源

川上忠 (柔道)

馬術研究會副會長の要職にあり。東京府分寺町本新町。柔道教師。明治三十年十二月茨城縣に出生。幼少より斯道に志し警視廳及講道館にて修行す。後講道館より其技倆を認められ六段に昇進す。昭和四年の天覽試合には指定選手として出場の光榮に浴す。

海江田幸吉 (陸上)

東京目黒區下目黒一ノ五。侍從。維新の志士故海江田信義子爵の三男。明治十三年七月出生。同四十二年京大法律科卒業。同四十二年警備。現侍從兼式部官内事務官たり。在學中(學習院)は陸上選手として、當時競技界の搖籃時代に健脚を揮ふ。

川崎善三郎 (剣道)

高知市北新町井手。大日本武徳會劍道範士。萬延元年高知に生る。幼少より嚴父に無外流を學ぶ。明治二十一年宮内省濟寧館に於て皇太子殿下の台覽を賜る。後山岡鐵舟に付き無刀流を修行。同四十一年劍道教士受領、大正十二年範士號を授與さる。昭和四年御大禮記念武道天覽試合に審判員を仰付らる。

香山蕃 (ラグビー)

東京渋谷區千駄ヶ谷三ノ五四九。

大倉組。京都府出身。三高を経て大正十二年東大法律科卒業。我國ラグビー界の權威者にて、昭和七年カナダ代表日本チームの監督に推挙さる。現日本ラグビー協会の理事及關東ラグビーリーグ協会の評議員。又ラグビーのセオリストにて數多の著書を刊行す。

加藤寛治 (漕艇)

東京四谷區三光町一七。日本漕艇協會會長。明治三年東京府に出生。同二十七年海軍少尉任官。大正九年同中將。昭和二年同大將に昇任。日露戰役當時東郷司令官官坐乗の三笠艦の砲術長を勤め、歐洲大戦には伊吹艦長として南洋方面に出動。更に浦潮派遺艦隊司令官に轉じ、大正八年戰役の軍事觀察として洋行。同九年海軍大學校長、同十一年軍令部次長、同十二年第二艦隊、同十三年横須賀鎮守府、同十五年聯合艦隊司令官長官、昭和四年一月軍令部長となり。倫敦軍縮會議に關し強硬意見を主張し、海軍省對軍令部の確執を生じ、遂に同六年六月軍令部長の地位を去り軍事參謀官に補せらる。

片山兼吉 (水上)

東京中野區川添町八鈴木方。大正元年十月静岡縣掛坂砂町に生る。濱松一中を経て現明大水泳部の開將にして、昭和六年度ベストテン百米九位二百米八位、同七年度百米

鹿島房次郎 (馬術)

神戶仲山手通六ノ四〇。日本國際馬術協會評議員。明治元年廣島に生る。東京高商及米國メシガン大學を卒業。多年神戸市長の公職にあり、近年川崎造船所の事業不振に赴くや其整理に没頭、會て神戸市選出代議士たり。趣味は馬

加賀山辰四郎 (野球)

東京大森區南千束町九〇。帝國製糸會社社長。明治元年六月和井縣に生る。明治二十五年早大(農科大學)卒業。明治十八年我國野球技術の勃興時代駒場農學校野球部選手として熱球長棒を揮ふ。當時球界の顯者たり。卒業後農商務省に入り農業及製業技術を勤む。製業試験場長たる事多年。大正八年農學博士となる。昭和四年帝國製糸會社創立と同時に入社。現社長の要職にあり。

河石達吾 (水上)

東京芝區慶應大學水泳部内。大正元年廣島縣に生る。修道中學を経て現慶大水泳部の重鎮。昭和六年度ベストテンに百米自由型(一分〇六)の第三位を占む。又同七年第十回國際競技大會には日本水上代

河津憲太郎 (水上)

東京神田區河原町水泳部。大正二年廣島縣に生る。修道中學を経て現在明大水泳部の宿將。背泳界の顯者にて昭和六年度ベストテンに、百米背泳(一分二秒)の第一位を占め、日本新記録を作る。同七年第十回國際競技大會に日本水上代表選手として、ロスマンゼルスに於て一分十秒にて三等に入賞。同年ベストテン第三位。同八年九月第十二回インターカレッジには第一位を占めオリムピックの顯者の實績を示す。

河合鐵二 (ゴルフ)

東京麻布區六本木町一。川崎第一銀行常務取締役。明治二十七年三月富山縣に生る。大正七年東大法律科卒業。現川崎第一銀行常務の外日本火災保險博多銀行各取締役たり。又ゴルフを好み現在朝霞ゴルフクラブ所屬(東京ゴルフクラブ)のゴルファーとして健闘す。ハンデー十七。

香西勘平 (柔道)

京都府中舞町餘部二一。大日本武徳會柔道教士。明治十四年岡山に生る。武徳會及び講道館に於て斯道を修む。昭和二年七月武徳會より教士號を授與さる。

河合徳次郎 (柔道)

豊橋市中世古町前田
大日本武徳會柔道教士
明治三十一年愛知縣に生る。講道館
及び武徳會に於て斯道を修む。昭和
三年十一月武徳會より教士號を授與
さる。

改野五郎 (野球)

兵庫縣武庫郡精道村保都一
二
池田銀行本店
明治三十七年兵庫縣に生る。水戸高
校を経て昭和三年東大経済科卒業、
高校時代には投手として知られ、東
大に有りては一壘手にて、同部の強
打者を以て知らる。

川久保喜一 (野球)

大阪北區大阪鐵道局運輸課
大阪鐵道局
明治四十年長崎縣に生る。長崎商業
を経て昭和四年早大商科卒業、商業
時代より捕手として本壘を死守す、
昭和初期都下リーグ戦及其他の試合
に出場奮戦。

金丸伊三郎 (柔道)

朝鮮新義州府營野町
大日本武徳會柔道教士
明治二十九年宮崎に生る。昭和三年
五月武徳會より教士號を授けら
る。武徳會五段。現朝鮮新義州府營
郡勤務。

河原政武 (野球)

神戸市原田一〇

製菓業
兵庫縣出身。桃山中學を経て大正十
年明大商科卒業。捕手として満支方
面に遠征活躍。後選ばれて第十代主
將の重任に就きチーム統制を計り大
いに志す所あり。

加納軍次 (剣道)

熊本縣鹿野郡小島町上小島
大日本武徳會柔道教士
明治四年四月熊本に生る。武徳會本
部に於て二天一流を修む。昭和四年
五月本部より教士號を授與さ
る。

兼元藤兵衛 (柔道)

札幌市南一條四十七丁目
大日本武徳會柔道教士
明治二十七年香川縣に生る。武徳會
に於て修行。大正十三年五月武徳會
より教士號を授與せらる。昭和四年
大正紀念武道天覽試合には指定選手
として出場の光榮に浴す。

金光彌一兵衛 (柔道)

岡山市上石井一〇八
大日本武徳會柔道教士
明治二十五年岡山に生る。講道館及
び武徳會に於て柔道修行。大正九年
五月武徳會より教士號を授與せらる
六段。

金邊八三郎 (柔道)

甲府市櫻町一
大日本武徳會柔道教士

鹿嶋元年岡山に生る。講道館及び武

徳會に於て修行。大正九年五月武徳
會より教士號を授けらる。五段。

金丸教真 (柔道)

京都東中筋花屋町學林町増井方
大日本武徳會柔道教士
明治三十七年八月山形に生る。斯道
を武徳會に修む。昭和四年五月武徳
會より教士號を授與せらる。

加藤國武 (柔道)

臺北警務部警務課内
大日本武徳會柔道教士
明治二十七年宮崎に生る。昭和三年
五月武徳會より柔道教士の稱號を授
與せらる。武徳會五段。

柏原俊一 (柔道)

山口高等商業學校内
大日本武徳會柔道教士
明治三十七年香川に生る。武道専門
學校に於て修行。昭和四年五月武徳
會より教士號を授與せらる。現山口
高商柔道教師。

神田久太郎 (柔道)

東京向島區島島町二七八二
大日本武徳會柔道教士
明治三十年福島に生る。武徳會及び
講道館に於て修行。昭和三年六月武
徳會より教士號を授けらる。五段。

河野毅 (剣道)

淀橋區西大久保町
大日本武徳會柔道教士

金子藤三郎 (剣道)

東京四谷區谷町一ノ一六
大日本武徳會柔道教士
明治十三年九月栃木に生る。有信館
本部に於て神道無念流を究む。昭和
四年五月武徳會本部より教士號を授
與さる。

河西三省 (體育)

東京芝區東京中央放送局内
東京中央放送局
名スポーツアナウンサー。慶應を經
て慶大卒業。アナウンサーの權威松
内氏と共にスポーツアナウンサーと
して著名。慶大在学中三田新聞編輯
部員たり。又時事新報記者として健
筆を揮ひし事有り。

樺山丑二 (ゴルフ)

東京品川區五反田六ノ二二五ノ六
チプロエノミー聯合通信社
伯爵樺山愛輔氏の長男。明治三十四
年東京に生る。アマチュアゴルフ
アイ界の強豪にして、現在東京クラ
ブ所屬の名ゴルファーにて、各種大
會に數回出場奮闘す。目下ハンデー
八にして同ゴルフクラブ中の開將た
り。

上遠野秀忠 (剣道)

秋田市保戸野八丁新町

鈴木清方 (體育)

大日本武徳會柔道教士
安政元年秋田に生る。新天流開祖上
遠野源助守の末孫。幼より嚴父に就
き新天流を修行。後免許皆傳を受く
傍ら大坪流馬術、柔道、弓道、居合
術を研鑽。明治四十二年槍術、教士
大正四年劍道教士、同十四年槍術、
翌十五年劍道範士の稱號を授與さる。

片桐勝司 (野球)

東京牛込區東片町水越方
大日本體育協會審査員
本名健一。日本畫家の大家にて明治
十一年東京に生る。榮田眞哉水野年
方に學ぶ。二十二歳にて美術院に出
品、爾後毎年出品爲會、王成會、
金鈴社等にも關係す。文展で暫々賞
を得、帝國美術院設立と共に、審査
員に任命され浮世繪の大家として廣
く知らる。

河合君次 (野球)

年東北高専大會に優勝。東大入學後
も依然名捕手として六大學に其名聲
を博す。四番及一審打者として活躍
したる事今猶耳に新たり。昭和八年
リーグ審判員に就任す。昭和八年

加藤泰司 (柔道)

東京神田區上落合二ノ七二〇
神奈川縣三浦郡南大浦村
明治二十八年二月二十一日
一七〇〇 七六・九五
南大浦小學校
警視廳警務官 講道館 武徳會
大正七年朝鮮騎兵二七聯隊入隊
中馬術及軍刀術賞二回授與さる。
警視廳に入りては専心柔道を修練、

笠原巖夫 (柔道)

昭和二年度警視廳對峙試合には(全
勝)名譽ある金盃賞を獲得す。同四
年十月第一回全國警察官武道大會に
も出場優勝。昭和七年大日本武徳會
より柔道教士の稱號を授與され、同
年正月講道館五段に榮進す。現在柔
地署柔道教師として後進を指導す。
趣味馬術及軍刀術

河田新吉 (體育)

六大學唯一の關士にて如何なる難局
に際してもびく付かぬ度胸者にて名
遊撃手と稱はれ名聲を志し、獨歩
のブレイン振りを發揮す。昭和八年同
校卒業後東京クラブの遊撃手を守り
都市對抗戦に出場奮闘す。投打共右

河田新吉 (體育)

大日本武徳會柔道教士
明治二十七年一月三日
一七〇〇 七二・二二
日本體育會體操學校
陸軍備歩兵中尉。十六七歳の頃
より柔道及純日本流泳水泳を修め(現
在柔道講道館五段)親海流、水府流
の大家として知られ、大阪富田林中
學教諭當時同校プール設置に多大の
盡力をなす。又體操及陸上競技の權
威として母校、警視廳、東京工場協
會等の體育指導者として斯界に貢献
す。現在母校教諭兼監察長。趣味話
曲聞甚

河田新吉 (體育)

東京品川區大井北濱川町一一九三
岡山縣御津郡馬屋上村
明治二十七年一月三日
一七〇〇 七二・二二
日本體育會體操學校
陸軍備歩兵中尉。十六七歳の頃
より柔道及純日本流泳水泳を修め(現
在柔道講道館五段)親海流、水府流
の大家として知られ、大阪富田林中
學教諭當時同校プール設置に多大の
盡力をなす。又體操及陸上競技の權
威として母校、警視廳、東京工場協
會等の體育指導者として斯界に貢献
す。現在母校教諭兼監察長。趣味話
曲聞甚

優勝。日本新記録(三分三九秒)保持。八百米リレーにも(一分三八秒)の新記録を作る。マニラに於ける種東オリムピックに四百米選手として参加す。關東中距離界の古豪を以て鳴る。大正十五年東大工科卒業

加島 勇 (陸上)

- 1 東京小石川區大塚高等寄宿舎
- 2 愛知縣中島郡明治村
- 3 大正三年 八月二十二日
- 4 一七九種 七二・二種
- 5 明治小學 一宮中學 東京高等
- 6 明治小學 文理大競技部
- 7 中學時代より跳躍に其俊技を揮ふ。在学中インディッドルに三段跳に十三米七七、縣下中等學校大會にハイジャンプ一米八〇、八高主催全國中等大會に於て走幅跳六米四一を以つて何れも榮位を占む。現東京高等競技部の宿將にて、昭和八年關東陸上競技選手權大會にて、走高跳一米八〇を以つて第二位を獲得

川口平三郎 (柔道)

- 1 東京日本橋區濱町二ノ五二
- 2 埼玉縣入間郡山根村
- 3 明治二十三年 十二月十五日
- 4 一五九・五種 七八・八種
- 5 山根村小學校
- 6 警視廳警察官 講道館
- 7 講道館四段。大正六年警視廳巡査拜命。對署試合創立以來出場其怪體を揮ふ。其他講道館各試合に出場活躍。現在久松署刑事部長にて、又日本橋講道館有段者支部審議員たり、

巡査拜命當時日本橋浪花町失火事件の際、火中より老夫婦を救助難關より體狀を授與する。其他刑事事件の功績者として斯界に知らる。

神吉英三 (野球)

- 1 神奈川縣鎌倉町雪ノ下一八
- 2 東京市
- 3 明治十八年
- 4 一六四種 五二・五種
- 5 慶應普通部 慶應大學理財科
- 6 函館水電會社 三田クラブ
- 7 元慶大野球部三疊手兼第六代主將にて、初期早慶戦に健闘したる名内野手。明治四十一年六月布哇よりの招待に應じ、野球部創設以來最初の海外遠征をなす。又同四十四年第一回全國遠征に主將として波米名地に轉戦好成績を収め歸朝す。同部の大先輩にして慶大野球部の功績者。現在東京ゴルフクラブのゴルフアーツにて、日下ハンデー十の強豪アマチュアプレイヤー。

加藤芳雄 (陸上)

- 1 東京小石川區東京高等寄宿舎内
- 2 神奈川縣鎌倉町山比ヶ濱三一八
- 3 明治四十三年 八月二十二日
- 4 一七三種 七五種
- 5 鎌倉第一小學 鎌倉師範 高師
- 6 報知主催全國兒童大會(砲丸二位 七米二位)及インディッドル(砲丸三位 砲丸三位)近畿中等大會(百米砲丸投げ何れも一位)等に日曜しき奮闘をなす。現在文理大競技部投

戦す。同大會に於て打率(三割三分三厘)の好手を擧ぐ。

春日野 七五郎 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國一ノ十
- 2 栃木縣下都賀郡南摩村
- 3 明治二十五年 二月五日
- 4 一七六種 一〇六・四種
- 5 南摩村小學校
- 6 大日本相撲協會
- 7 本名中田守也、力士名栃木山。初土俵明治四十五年五月、大正四年入幕、大正六年大關、翌七年五月横綱に昇進、大正十五年一月引退して年寄春日野となる。大正六年より引退の前年迄に優勝額を上げること九回。入間川の弟子、昭和六年大日本選手權を獲得、近來稀なる名力士で非常に入氣があつた人。現大日本相撲協會理事検査役。趣味書畫

柏村五郎 (拳闘)

- 1 東京蒲田區蒲田町四〇一宮下方
- 2 福島縣本郷町
- 3 明治四十一年 八月一日
- 4 一五六・五種 一一二・二種
- 5 本郷町小學校
- 6 大日本拳闘會
- 7 フライ、ウェイト級の一人者。昭和二年六月全日本フライ級選手權獲得。同年十一月神宮體育會に於ても同級選手權を握る。同四年神宮大會に再度覇權を掌握す。昭和八年佛國選手對抗の全日本代表選抜試合に出場奮闘す。本邦拳闘界の老練家として知らる。

河西源吉 (漕艇)

- 1 東京牛込區東横町十八
- 2 長野縣上諏訪町
- 3 明治三十八年 八月三十日
- 4 一六七種 六一・九種
- 5 山吹小學 府立四中 商大
- 6 明治屋 商大四神會
- 7 我國漕艇界の第一人者。四中時代には體操を得意とし、又水泳部選手として鳴らす。商大に入るや、S組漕艇部主として活躍。昭和四年度明治宮神大會レースには五番手として出場奮闘す。東洋一を以て誇る同校艇庫は實に氏等の創立に係る。現在商大四神會並に漕艇協會の幹事にして又同校漕艇部の有力なる後援者なり。趣味スポーツ漫談

加賀一郎 (陸上)

- 1 東京澁谷區八幡通一ノ六
- 2 三重縣桑名町
- 3 明治三十一年 八月三十日
- 4 一七六種 六七・五種
- 5 兵庫縣立伊丹中學 明治大學
- 6 常磐生命保險會社 明大紫雲會
- 7 我國陸上短距離界の權威。明大在学中學生界の名スプリンターとして知られ、大正九年アントワープ第七回萬國オリムピックに我國短距離代表選手として遠征し、母校代表として奮闘し其面目を盡す。現在常磐生命會社社員の體育獎勵全日本陸上競技聯盟の役員として斯界に多大の貢獻を盡す。趣味ゴルフ

河野謙三 (陸上)

- 1 東京大森區北洗足町四四〇
- 2 神奈川縣足柄下郡豊川村
- 3 明治三十四年 五月十四日
- 4 一六四種 五四種
- 5 千代田小學 小田原中學 早大
- 6 大日本人體肥料會社
- 7 我國陸上長距離界の權威。縣下中等學校對抗レースに長距離選手として出場。早大競走部入部後も長距離選手にて大正十一年駒場時代の全國專門學校對抗レースに十回に出場優勝。又大正十一年、十二年の報知新聞社主催の錦標競走に早大選手として出場連続優勝の好記録を作る。現在早稲田アスレチッククラブ俱樂部員たり。

柏尾誠一郎 (陸球)

- 1 神奈川縣鎌倉町雪ノ下二四六
- 2 大阪市
- 3 明治二十五年 一月二十日
- 4 一七〇種 五七種
- 5 東京高等
- 6 三井物産會社
- 7 大正四年上海の第二回種東大會に熊谷一彌氏と我國最初の代表として出場同九年安府に開かれた第七回國際競技大會に出場。又デヴィス盃戦に日本代表として海外に活躍す。現日本庭球協會顧問。

川崎善佐 (陸上)

- 1 東京日暮區駒場町八三二
- 2 都城市上町
- 3 明治四十四年 五月十六日

郷部の新鋭にて、昭和八年第一回慶大との對抗戦に出場健闘を揮ふ。趣味園芸

川地實 (陸球)

- 1 東京麻布區三軒家町三四
- 2 同上
- 3 明治四十一年 八月七日
- 4 一七〇種 六〇種
- 5 曉星中學 早大
- 6 本邦庭球界の將。昭和五年關東庭球選手權シングルス選手權を占む。同六年ラッキンシングルス三位、同七年度日本庭球選手權シングルス七位、ダブルス一位、同年度日本學生庭球選手權シングルス三位、又デヴィス盃戦に日本代表として派遣せられし事あり。趣味音楽戶外スキー

川瀬進 (野球)

- 1 大阪市日本生命保險本店内
- 2 兵庫縣
- 3 明治四十三年
- 4 一六七種 六〇種
- 5 甲陽中學 慶應大學
- 6 日本生命保險會社
- 7 大學生リーグの花形選手として球界に其の名譽を博す。二疊捕手及投手等と其に至らざる所なく、稀有の天才選手たる。勇猛果敢なるプレーはリーグ隨一の稱あり。昭和八年卒業後日本生命に入社、同年第七回都市對抗戦に全大阪軍遊撃及二疊手として出場、東京クラブと準々決勝に善

各所に於て斯道の實地講演をなし歸國す。現講道館五段の猛者たり。

川島保雄 (野球)

- 1 臺北市臺北交通局内
- 2 下關市
- 3 明治四十一年
- 4 一六四種 五二・五種
- 5 下關商業 山口高商
- 6 臺北交通局
- 7 商業時代は下關商業黄金時代の投手及遊撃手を務め、高商時代は二疊手及投手として雄飛す。現在南海の豪華臺北交通局野球團の二疊手として、都市對抗戦には屢々出場し其活躍を誇る。日下鐵道部運轉課に勤務す。

川崎清 (野球)

- 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
- 2 西宮市
- 3 明治四十二年
- 4 一六七種 六〇種
- 5 中外商業
- 6 大阪鐵道局
- 7 商業時代より名二疊手として知られ、又前實業球團の古豪寶塚チーム選手たり。現大鐵吹田クラブの二疊手にて、昭和七年第六回及第七回都市對抗戦に大阪府代表となり神宮球場に出場、打守走揃った同部の三番打者たり。

飼手譽四 (ラグビー)

- 1 東京本郷區森川町七八富士見館
- 2 神戸兵庫區切戸町

3 明治四十年 一月三日
 一七〇〇 六・七・五近
 4 道場小學 神戶二中 一高 東大
 5 時事新報 學士ラガー
 6 中學時代野球、柔道部選手とし
 7 て奮闘し、一高に入りてはポイント部
 五番選手及蹴球部FRとして對三高
 戰全國高専大會等に活躍し、東大ラ
 ガー部マナーリヤーとして同部の
 發展に多大の貢獻をなす。現在學士
 ラガー委員。

川高 一夫 (野球)

1 富山縣野野町富山紡績會社内
 2 大阪市
 3 明治四十一年
 4 一六七〇 五・二・五近
 5 富山紡績會社
 6 北陸の雄富山紡績チームの外野手
 7 として、昭和八年第七回都市對抗戦に
 甲信越代表として神宮球場に第二回
 日の出陣をなす。其他北陸實業野球
 大會には四年連続覇業を達成し、
 昭和八年春創立せし中部日本紡績選
 抜野球大會に優勝せり。

片岡 二郎 (野球)

1 東京荏原區上神町二二二
 2 東京市
 3 明治三十三年 三月四日
 4 一六七〇 六〇近
 5 芝罘常高等小學校
 6 歌津校舎 明石屋クラブ
 7 本名小川富三。梨園野球團の強剛
 明石屋クラブの三疊手及遊撃手とし

て、昭和七年十月文士漫遊家、金五
 郎チームとのリーグ戦及同八年三月
 全新撰軍との對戦に優勝。同年五月
 東都演劇リーグに出場健闘す。

加納 克亮 (ラグビー)

1 東京杉並區大宮前五ノ二四二
 2 東京市
 3 明治三十六年 一月二十六日
 4 一六一〇 六〇近
 5 京華商業 立教大學
 6 東京朝日新聞 立教OB
 7 立大ラグビー部Hとして活躍。
 8 拔群の技術と氣魄は推されて昭和三年
 9 同部主將の印綬を帯び、昭和四年
 10 オール關東對抗戦に出場優勝し
 11 良くその重責を果たす。現在東朝日
 12 記者、立教OBに所属五大學OB戦に
 13 母校を代表して参加奮闘し又東朝日
 14 ラグビー部メンバーとして知らる。

川久保 貫一郎 (柔道)

1 東京本所區太平町二ノ一七
 2 新潟縣中頸城郡名山山村
 3 明治四十二年 一月二十六日
 4 一七三〇 七・二・二近
 5 高田師範
 6 警視廳警務官 警視廳
 7 高田師範柔道部の重鎮として縣下
 8 柔道界に鳴り響き、昭和三年三田
 9 警察柔道部代表選手として對署試
 10 合に出場すること數回常にその妙技
 11 を揮ふ。現在武徳會四段警察柔道界
 12 の新進者として知らる。

1 東京淀橋區戸塚町四ノ七〇一
 2 高田市上小町 五月十五日
 3 明治二十六年 五十近
 4 一五九〇 五〇近
 5 富士見小學 早稻田實業 早大
 6 日本實業共同販賣會社
 7 早實業投手として京濱中等野球大
 8 會に鳴らし、早大に入りては二疊手
 9 として大正四年對シカゴ大學野球戦
 10 に出場活躍し、翌五年米國に遠征す
 11 卒業後北海道オシヤン俱樂部の二
 12 疊手として對大毎戦に奮闘快なる
 13 プライと強打を以て知らる。現在稻
 14 門クラブ幹事、日本實業會社野球
 15 部主將名二疊手として有名なり。

川田 藤吉 (拳闘)

1 東京京橋區京橋二ノ四
 2 四山縣
 3 明治四十年 七月二日
 4 一六五〇 一四四〇近
 5 日本拳闘俱樂部
 6 我國拳闘界の古豪選手として知ら
 7 れ、大正十五年第一回米國遠征、
 8 昭和三年ワエムター級選手權獲得。
 9 同五年ハライ及同七年ヒリッピンに
 10 征戰好記録を印し現在日本拳闘俱樂
 11 部師範として後輩の指導に専心努力
 12 す。趣味は曲及野球。

片田 宣道 (野球)

1 東京下谷區仲御徒町二ノ六
 2 同上
 3 明治三十六年 十月十九日
 4 一六八〇 六・一・九近

5 立教中學 立教大學商科
 6 清水組 東京クラブ
 7 立教中學の名投手として鳴らし立
 8 大に入りては主戰投手としてリーグ
 9 に活躍強肩と強打を以て知らる。六
 10 大學リーグ審判員として定評あり。
 11 昭和六年都市對抗戦には東京俱樂部
 12 中堅手として出場大いに健闘す。趣
 13 味は新聞。

加茂 武末 (野球)

1 大阪市外千里山關西大學内
 2 大正二年
 3 一五八〇 五四・四近
 4 浪華中學 關西大學
 5 中學時代三疊手。現關西大學名三
 6 疊手として、昭和七年關西六大學リ
 7 ーグに出場優勝。昭和七年十一月末
 8 より同八年一月にわたり冬季練習の
 9 爲西下せる東京六大學リーグの各校
 10 と對戦。對慶大二回戦に一敗せるの
 11 みにて全部を擊破し、萬丈の氣を吐
 12 く。

加藤 一郎 (漕艇)

1 東京淀橋區飯田町三九榮樂館
 2 桐生市
 3 明治四十五年 七月二十六日
 4 一七三〇 六四・六近
 5 東武小學校 桐生中學 早大
 6 早大漕艇部選手。昭和七年インタ
 7 ーナショナルに三番漕手として出場
 8 同年復活第三回早慶戦に軸手を勤
 9 め、一シートの差を以て力漕優勝

同八年四月第四回早慶戦にも七番漕
 手として出場。趣味は新聞。

金野 一男 (野球)

1 東京澁谷區原宿一ノ七二
 2 仙臺市東二番町
 3 明治三十二年 九月二十一日
 4 一六四〇 六〇近
 5 東北學院
 6 安田生命保險會社 安田クラブ
 7 大正五年第二回朝日主催中等學校
 8 野球大會に東北學院野球部名投手と
 9 して出場。大正十一年東北野球大會
 10 には優勝の榮を擔ふ。現在安田クラ
 11 ブ選手一疊手として東都實業野球界
 12 に奮闘す。趣味は新聞。

1 一六四〇 五・七近
 2 廣陵中學 慶大商學部
 3 八幡製鐵所
 4 中學時代三疊手として大正十二年
 5 第九回全國中等學校野球大會甲子園
 6 原野に活躍。又慶大に入りては遊撃
 7 手として昭和初期リーグ戦に出場。
 8 同三年第三回米國遠征に参加二十四
 9 勝十五敗の戰績を得て歸朝、同五年
 10 卒業後都市對抗戦には九州代表八幡
 11 製鐵チーム二疊手として神宮球場に
 12 四回出場奮闘す。

1 東京荏原區上大崎四ノ二三九
 2 同
 3 明治三十八年 十一月二日
 4 一六四〇 六〇近
 5 福島附屬小學 立教中學立大
 6 三井信託會社 立教OB
 7 立教大學ラグビー部FWとして大
 8 に活躍す。一九二九年秋期五大學
 9 リーグに出場副權掌握。又山岳家と
 10 して知らる。現立教OBにてOB戦
 11 に健闘。日下關東ラグビー蹴球協會
 12 競技委員の要職にあり。

1 東京本郷區駒込曙町十
 2 福岡市三ツ木町 六月三日
 3 明治三十六年 六〇近
 4 一六四〇 六〇近
 5 修徳館 第五高専 東京帝大
 6 東京電燈會社工務課
 7 五高時代柔道部選手として全國高
 8 専柔道大會に出場奮闘し、東大に入
 9 りては柔道部の重鎮として關東學生
 10 柔道界に活躍す。現在講道館三段。
 11 東電體育會柔道部選手として知らる
 12 趣味はスキー。

1 東京小石川區第六天町四八
 2 三重縣鳥羽町
 3 明治四十年 八月六日
 4 一七三〇 五八・九近
 5 禮川小學 府立四中 一高 東大
 6 千代田生命保險會社
 7 高階母の權威。大正十五年第一回
 8 全國高校大會に優勝(十六秒四)同

加納 陽三 (陸上)

1 東京小石川區第六天町四八
 2 三重縣鳥羽町
 3 明治四十年 八月六日
 4 一七三〇 五八・九近
 5 禮川小學 府立四中 一高 東大
 6 千代田生命保險會社
 7 高階母の權威。大正十五年第一回
 8 全國高校大會に優勝(十六秒四)同

1 東京豊島區池袋二ノ一〇六六
 2 東京麹町區一番町
 3 明治二十三年 六月十七日
 4 一七〇〇 五八・九近
 5 二本松小學立教中學 二高 東大
 6 三井物産會社
 7 我國スケート界の權威。大日本ス
 8 ケート競技聯盟創立者にて、前常務
 9 委員。大正三年「スケイティング」同
 10 六年「氷滑」、昭和二年「パエンスケ
 11 ート」同五年「スケイティング」等幾
 12 度の著書を発表し、スケート界に盡
 13 せし、斯界の功者。

河久 保子郎 (スケート)

1 東京豊島區池袋二ノ一〇六六
 2 東京麹町區一番町
 3 明治二十三年 六月十七日
 4 一七〇〇 五八・九近
 5 二本松小學立教中學 二高 東大
 6 三井物産會社
 7 我國スケート界の權威。大日本ス
 8 ケート競技聯盟創立者にて、前常務
 9 委員。大正三年「スケイティング」同
 10 六年「氷滑」、昭和二年「パエンスケ
 11 ート」同五年「スケイティング」等幾
 12 度の著書を発表し、スケート界に盡
 13 せし、斯界の功者。

1 東京豊島區長崎中町二ノ三七一〇
 2 岐阜縣惠那郡三浪村
 3 明治四十年 十月二十五日
 4 一七〇〇 六〇・七近
 5 上野松板屋
 6 我國卓球界の名手。大正十五年よ
 7 り昭和四年迄、關東卓球代表選手た
 8 り。其間昭和三年度關東選手權を獲
 9 得し、同四年東京選手權大會に覇權
 10 を掌握す。我國卓球界の第一人者。

笠木 武史 (卓球)

1 東京神田區東船場町九
 2 東京市
 3 大正二年 六月四日
 4 一六四〇 六〇近
 5 芝罘川小學校
 6 歌津校舎 明石屋クラブ
 7 本名中野清。明石屋クラブ外野手
 8 昭和七年文士、漫遊家、金五郎チ
 9 ム等とのリーグ戦及同八年三月全新

派軍との對戦に副權獲得。同年五月
東都演劇リーグに出場興戦す。

金子福次 (陸上)

- 1 東京在野區戸崎町一二五〇
愛知縣
- 2 明治四十年 八月八日
- 3 一六四號 五七冠
- 4 東京植民貿易學校 法政大學
- 5 常務生命保險會社 法政大學
- 6 東都中等長距離界の兩勇、植民貿易の選手として、昭和四年より同八年迄毎回出場。其他關西大學との定期戦に五千及千五百米に健闘す。

管健二郎 (柔道)

- 1 東京小石川區丸山町四三
- 2 滋賀縣水口町
- 3 明治二十八年 五月六日
- 4 一七〇號 九五・六冠
- 5 水口小 京都中 三高 東大
- 6 鐵道省 鐵道省柔道部
- 7 東大柔道部の重鎮として、東都學生柔道界及東西兩大學對抗試合に鳴らし、現在講道館六段。鐵道省運輸局自動車課に勤務。同省柔道部の創立に頗る盡力せし、鐵道柔道界の功勞者として有名なり。趣味彫刻。

鐘江甚平 (漕艇)

- 1 東京品川區大井出石町五〇六二
- 2 久留米市
- 3 明治三十一年 三月二十五日
- 4 一七〇號 七五冠
- 5 久留米商業 明治大學商科

朝日新聞社 常務會
7 久留米商業柔道部の猛者として知らる。明大入學後大正九年編艇部五番手にて、インターカレッジ、レガッタに出場大いに奮闘。同十年卒業後朝日新聞に入る。現明大常務會員。趣味ゴルフ。

川上正藏 (陸上)

- 1 東京麻布區森元町三ノ四
- 2 高見島市
- 3 明治三十二年 三月三日
- 4 一五五號 四九・四冠
- 5 鐵道省 鐵道省柔道部
- 6 安田生命保險會社 安田クラブ
- 7 明大在學中創設部及陸上競技部選手として知らる。創設は渡邊昇先生の發願堂に入りて習得し、明大明創會役員として奮闘。競走部に於ては大正末期の驛傳競走に數回出場活躍す。

川口武倫 (ラグビー)

- 1 東京中野區上高田一ノ二三
- 2 同
- 3 明治四十年 五月十六日
- 4 一六四號 五七冠
- 5 錦城中學 立教大學
- 6 錦城中學 立教大學
- 7 錦城中學より立大に入る。立大ラグビー部バツコロとして活躍。昭和五年度關東六大學ラグビー戦に優勝す。マネージャーとしても奮闘し現在立大OBメンバーとして知らる

加藤一郎 (籠球)

- 1 東京麹町區平河町六ノ四
- 2 山形市諏訪町
- 3 明治四十一年 一月十二日
- 4 一六五號 六〇冠
- 5 山形工業 高千穂高商
- 6 帝國生命保險會社
- 7 工業學校在學中籠球部選手として縣下大會に出場活躍し、高千穂高商に入りては籠球部主將の印綬を帯び全國高專籠球大會に参加奮闘す。現在帝國生命ラグビーメンバーとして知らる。

加藤彰久 (ラグビー)

- 1 東京杉並區阿佐ヶ谷二ノ六三九
- 2 東京市
- 3 明治三十七年 一月二十九日
- 4 一六一號 六四・六冠
- 5 立教大學
- 6 正路會社
- 7 立教大學在學中は柔道及相撲部選手として知られ、現在正路會社に勤務。關東ラグビー蹴球協會に屬し同社ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に活躍す。趣味彫刻

川畑清一郎 (柔道)

- 1 東京小石川區西丸町二二
- 2 明治三十二年 四月二十八日
- 3 一五九號 五二・五冠
- 4 一五九號 五二・五冠
- 5 鐵道省 鐵道省柔道部
- 6 鐵道省 鐵道省柔道部
- 7 鐵道省 鐵道省柔道部

道中學柔道界に鳴らす。明大に入りても柔道部の開辦として、都下學生柔道界に活躍す。大正十四年商科卒業。現在松屋銀座支店に勤務。

川澄重雄 (野球)

- 1 東京大森區北千束町七〇七
- 2 金澤市小將町
- 3 明治三十五年 十月十日
- 4 一六四號 七五冠
- 5 金澤一中 四高 京大
- 6 安田生命保險會社 安田クラブ
- 7 金澤一中四高京大を一貫して、野球部主將を勤め、良くその重責を果たす。中學時代は好成績を挙げ、高専時代は全國高專大會に、京大に入りては東大との對抗試合に於ても健闘す。

鹿島一子 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體專内
- 2 愛知縣
- 3 大正四年 一月一日
- 4 一五九號 五四・四冠
- 5 愛知第一高女
- 6 女子短距離界の花形。昭和六年度全日本女子二百米に、二七秒を以つてベストテン一位を占む。其他神宮大會及關東選手權大會等に毎回出場好記録を印す。現日本女子體專の名スプリンターにて、同八年春の關東選手權大會には、四百二百各リレ二百米に何れも一等を得、百米にも二等に入賞せり。趣味生花茶道

柏倉喜代治 (野球)

- 1 内務省福島河川工事事務所内
- 2 福島縣
- 3 明治四十三年
- 4 一六一號 五七冠
- 5 福島中學
- 6 内務省河川工事事務所
- 7 前東北中等球界の強豪福島中學の捕手を務め、現在東北實業野球團の明星福島クラブの捕手として、昭和八年第七回都市對抗戦に見事仙臺を破り、同大會に初出場をなし多年の宿望を達す。

勝川政義 (野球)

- 1 東京蒲田區慶大野球部合宿所
- 2 愛知縣
- 3 明治四十五年
- 4 一六七號 六〇冠
- 5 慶應商業 慶應大學
- 6 商業時代遊撃手。現慶大野球部遊撃手として早慶戦六大学リーグ戦に活躍。リーグ中唯一名ショット。昭和七年春季打撃中守備率ベストテン第一位獲得。軽快なるプレーヤーとして知らる。

金子藤吉 (陸上)

- 1 東京小石川區東京文理大學内
- 2 新潟縣刈羽郡野田村
- 3 明治四十四年 四月二十四日
- 4 一七三號 七二・二冠
- 5 一七三號 七二・二冠
- 6 柏崎中學東京高師文理科大學

金子正文 (野球)

- 1 名古屋鐵道局内
- 2 長野縣
- 3 大正二年
- 4 一七〇號
- 5 長野中學
- 6 名古屋鐵道局
- 7 昭和七年第六回同八年第七回都市對抗戦に東海代表名鐵軍の三壘手及外野手として活躍。又鐵道省主催全國有線野球大會に優勝すること二回強打を以て知らる。

掛下五郎 (ラグビー)

- 1 東京澁橋區西大久保四一〇
- 2 明治三十五年 十月八日
- 3 一七〇號 七二・二冠
- 4 一七〇號 七二・二冠
- 5 高千穂小學 早稲田中學 早大
- 6 東京市役所 早大OB
- 7 早大ラグビー部先鋒。早稲田中學時代は同校野球部マネージャーとして努力。早大に入りてはラグビー部創設に盡力す。現東京市役所庶務課マネージャー。趣味旅行甚關廣。

神山正國 (拳闘)

- 1 麹町區山下町國際拳闘俱樂部
- 2 栃木縣河内郡胡島村

川角秋廣 (ラグビー)

- 1 東京牛込區市ヶ谷町二九和田方
- 2 水戸市外常盤西原
- 3 明治三十九年 十月十八日
- 4 一六四號 五二・五冠
- 5 水戸小學 水戸商業
- 6 川崎第百銀行
- 7 商業時代は野球選手として奮闘し現在川崎第百ラグビー部スタラムハーフとして活躍す。昭和七年度成績三十戦二十七勝二敗一分の輝しき戦跡を印す。趣味彫刻

龜岡勝雄 (拳闘)

- 1 東京淺草區今戶町一ノ一六
- 2 福島縣伊達郡伊達町村
- 3 明治三十八年 三月二十三日
- 4 一六四號 五八・九冠
- 5 伊達町小學 東亞商業 日本大學
- 6 帝國ホテル
- 7 フェザー級選手。試合回数四十五回にて三十八勝七敗の好記録保持者。昭和五年度全日本選手權大會、同六年關東學生選手權大會、第九回全東大會及同七年第十回國際競技大會に選拔され、ロスマンセルスに活躍せし名ボクサー。

海光山清次 (相撲)

- 1 東京世田谷區代田二ノ七一
- 2 徳島縣安鳴町
- 3 明治三十三年 三月十六日
- 4 一七六號 三十二貫
- 5 安鳴町小學
- 6 大日本相撲協會
- 7 大日本相撲協會。余川部屋力士。昭和七年春入幕。突張を得意とし、同八年春八勝三敗の好成績を収む。同年夏場所は、六勝五敗。四方の中堅力士として活躍す。

川合正夫 (野球)

- 1 東京大森區調布橋ノ木町五六九
- 2 山形市上町
- 3 明治四十年 三月十九日
- 4 一六一號 五四・四冠
- 5 山形中學 早稲田大學
- 6 安田生命保險會社 安田クラブ
- 7 大正十五年度朝日主催全國中等學校野球大會優勝選手として山形中學野球部主將名外野手として活躍。早大に入りても外野手としてリーグにその妙技を現はす。又水泳にも長ず。

鏡岩善四郎 (相撲)

- 1 本所區東兩國三ノ八
- 2 青森縣上北郡四和村
- 3 明治三十二年
- 4 一七四・五號 一一四・五冠
- 5 四和村小學
- 6 大日本相撲協會 國技館
- 7 本名佐々木善四郎、桑川部屋力士。昭和三年五月入幕。左四ツを得意と

し東四対抗撲に優勝。昭和三年三月名古屋本場所に於ては優勝選手たり。趣味讀書

加藤 茂 (野球)

- 1 横濱市龜井商店内
- 2 水戸市
- 3 大正元年
- 4 一七一號 五七冠
- 5 横濱高商
- 6 龜井生録商店
- 7 元横濱高商遊撃手として、全國高球大會等其輕快無比の好守を以つて知られ、昭和八年卒業と同時に現全横濱軍の遊撃手として、同年第七回都市対抗戦に其敏足を揮ふ。

掛川 マサト (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體事内
- 2 長野縣小諸町
- 3 大正三年 六月十五日
- 4 一六一號 六〇冠
- 5 上田實科高等女學校
- 6 女子走幅跳の雄高女時代縣下各大會に雄飛す。現女子體專の精華にて、昭和八年春關東陸上選手權大會に、走幅跳(四米五〇)一位、四百米リレー二百米リレーに何れも一等。又砲丸投には八米三六の記録を以つて三等に入賞す。

金木 房雄 (陸上)

- 1 東京小石川區高師寄宿内
- 2 千葉縣安房郡津田村
- 3 大正元年 十一月十二日

金湊 仁三郎 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國二ノ一〇
- 2 千葉縣東葛飾郡八榮村
- 3 明治四十一年 八月十一日
- 4 一六四號 八七・四冠
- 5 八榮村小學校
- 6 大日本相撲協會 海川部屋
- 7 本名石井仁三郎。海川部屋力士。押しを得意とし昭和八年春場所成績八勝三敗入幕候補力士として將來を非常に期待する。趣味讀書劇

香取 新之助 (柔道)

- 1 東京葛飾區本木根川町三三二
- 2 千葉縣香取郡新島村
- 3 明治三十三年 十月二十五日
- 4 一七六號 七五冠
- 5 新島村小學校
- 6 警視廳警察官
- 7 大正十二年巡査拜命。専ら柔道に盡心し、同十五年より、現在に至る迄上野警察柔道部の部長として、對署試合に出場奮闘。現在警視廳四級の中(二段相當)

加瀬 喜一郎 (野球)

- 1 東京牛込區市ヶ谷河田町六
- 2 千葉縣山武郡蓮沼村
- 3 明治四十二年 一月二十日
- 4 一五八號 六〇冠
- 5 早稲田實業
- 6 安田生命保險會社 安田クラブ
- 7 大正十五年全國中等學校野球大會並びに大毎選抜野球大會に東京代表早賞名捕手として出場奮闘す。現在

し東四対抗撲に優勝。昭和三年三月名古屋本場所に於ては優勝選手たり。趣味讀書

加藤 茂 (野球)

- 1 横濱市龜井商店内
- 2 水戸市
- 3 大正元年
- 4 一七一號 五七冠
- 5 横濱高商
- 6 龜井生録商店
- 7 元横濱高商遊撃手として、全國高球大會等其輕快無比の好守を以つて知られ、昭和八年卒業と同時に現全横濱軍の遊撃手として、同年第七回都市対抗戦に其敏足を揮ふ。

掛川 マサト (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體事内
- 2 長野縣小諸町
- 3 大正三年 六月十五日
- 4 一六一號 六〇冠
- 5 上田實科高等女學校
- 6 女子走幅跳の雄高女時代縣下各大會に雄飛す。現女子體專の精華にて、昭和八年春關東陸上選手權大會に、走幅跳(四米五〇)一位、四百米リレー二百米リレーに何れも一等。又砲丸投には八米三六の記録を以つて三等に入賞す。

金木 房雄 (陸上)

- 1 東京小石川區高師寄宿内
- 2 千葉縣安房郡津田村
- 3 大正元年 十一月十二日

- 1 一七五・五冠 六九・四冠
- 2 瀧田村小學校 安房中 高師文理大
- 3 走高跳の宿將。昭和四年縣下大會に優勝。同五年第一回東西中等大會に覇權掌握。高師時代よりインテリカレッジに四回出場。同八年關東陸上競技選手權大會に入賞す。

加藤 新次郎 (柔道)

- 1 東京淺草區小島町七三
- 2 同
- 3 明治三十八年 八月十九日
- 4 一五九號 五八・九冠
- 5 小島小學校
- 6 米穀商 修道館
- 7 早くより修道館主柴崎耕作師の門に入り新技を修め、昭和七年十二月講道館二段昇進。現在自營米穀商の傍ら、武道に精進す。趣味スポーツ

勝山 孝造 (剣道)

- 1 東京淺草區戸塚町一ノ六二六
- 2 茨城縣相馬町
- 3 明治二十二年 十二月十四日
- 4 一七〇號 七二・二冠
- 5 相馬町小學校
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 大正七年巡査拜命。大正八年より對署試合に出場せる間、同十五年には優勝を獲得。現在兩國署の宿將にて四級の下(二段) 趣味讀書

川又 惣一郎 (拳闘)

- 1 東京本郷區元町大日寺内
- 2 東京本郷區四片町

- 1 明治四十一年 四月十八日
- 2 一七日 第一小學
- 3 大日本拳闘會
- 4 ライオン・ウエイトクラス拳闘選手にて帝都拳闘界に鳴らし、現大阪高等醫學及關西大學拳闘部の名コーチヤリとして著名なり。趣味キネマスポーツ讀書

川崎 篤行 (庭球)

- 1 東京日暮區向原町三二七
- 2 東京下谷區金杉上町
- 3 明治二十八年 四月一日
- 4 一五六・五號 五二・五冠
- 5 日暮里小學校
- 6 鐵道省 本省運動部
- 7 鐵道本省庭球部及スキー部古參選手として後進を指導し本省運動部の發展に大いに貢献す。又歌人として名あり。大正十三年度勳章の譽選に與かる。趣味和歌

加藤 春枝 (弓道)

- 1 東京王子區十條町一二五九
- 2 同
- 3 明治四十五年二月十三日
- 4 一五二號 四九・四冠
- 5 小石川靜修女學校
- 6 簡易保險局 大日本弓道會
- 7 靜修高女在學中より女流弓道選手として知られ、現在弓道二段。大日本弓道會所屬新設女流弓術家として有名なり。現在簡易保險局に勤務。趣味讀書生花旅行

影浦 彰 (野球)

- 1 東京豊島區長崎立大合宿所内
- 2 愛媛縣
- 3 大正四年
- 4 松山商業 立教大學
- 5 4
- 6 5
- 7 中學時代超等級選手として、甲子園に屬々出場投手及三壘手を務め、昭和七年夏の全國中等野球大會決勝戦に中京商業と善戦す。現立教大學新進投手に推され昭和八年秋のリーグより第一戦に立ち好投健勝を以つて活躍、將來の名投手として期待する。因に同年新制度最初の覇權を十一勝七割六分六厘の好記録を以つて同六年秋以來再度の榮位を占む。

加月 秋芳 (ラグビー)

- 1 東京小石川區大塚高師寄宿會
- 2 久留米市外高良内
- 3 明治四十三年 九月五日
- 4 一六七號 六六冠
- 5 佐賀相知小 福岡師範 東京高師
- 6 福岡師範時代競技部(百二百四百)
- 7 選手にて九州日報主催九州中等學校競技大會に二百、四百、四百リレー一千六百リレーに何れも優勝。又昭和六年關東インカレッジに四百米ハードルに出場善戦す。現文理大ラグビー部TB及FWとして活躍す。趣味スキー

川上 壽雄 (スキー)

- 1 東京小石川區雜司ヶ谷町六九
- 2 栃木縣芳賀郡須藤村
- 3 明治三十二年 十二月二十八日
- 4 一七〇號 六一・九冠
- 5 須藤小學校 日本大學
- 6 鐵道省 東京スキー俱樂部
- 7 鐵道省旅客課に勤務し我國諸所のスキー地開拓者としてスキー界の發達に多大の貢献をなす。又登山家としても有名なり。趣味スポーツ

片桐 耕 (陸上)

- 1 東京中野區住吉町一八三越青年寮
- 2 福井縣坂井郡鷺村
- 3 大正四年 三月二十六日
- 4 一五八號 五一・三冠
- 5 鷺村高等小學校
- 6 三越本店 關東陸軍
- 7 三越競走部短距離選手として、昭和七年上井草に於ける、第五回關東實業團體對抗技大會に出場大いに活躍。總得點四一點にて三越優勝獲得。趣味讀書

片淵 昇 (陸上)

- 1 東京品川區大井倉田町三四五九
- 2 京都市
- 3 明治三十八年 六月十八日
- 4 一五九・五號 五二・五冠
- 5 大坂市立工業 明大
- 6 常務生命保險會社 明大OB
- 7 工業時代蹴球部、陸上部主將。關大在學中昭和三年報知主催の驛傳に

片倉 芳直 (柔道)

- 1 東京麻布區四町二三
- 2 神奈川縣厚木町
- 3 明治四十一年 六月四日
- 4 一六七號 六一冠
- 5 厚木中學 横濱高商
- 6 神電氣會社 神電氣體育會
- 7 厚木中學より横濱高商に入る。高商時代は柔道部選手として大いに活躍す。現在講道館二段。神電氣柔道部代表選手として奮闘す。趣味スキー

河上 一人 (籠球)

- 1 東京品川區大井體操學校
- 2 藤本縣天草郡佐津村
- 3 大正三年 五月五日
- 4 一七四・五號 六六・五冠
- 5 福岡中學 日本體育會體操學校
- 6 福岡中學 日本體育會體操學校
- 7 福岡中學體操部RGとして、各大會に出場。其間優勝する事前後三回榮冠を握る。現體操學校籠球部選手にて、同部の重鎮たり。

神山 勳 (ラグビー)

- 1 岩手縣和賀郡笹間村
- 2 同
- 3 明治四十三年 十二月十日

春日 井行雄 (野球)

- 1 東京蒲田區矢口慶大合宿所内
- 2 名古屋市
- 3 大正三年
- 4 愛知商業 慶應大學
- 5 4
- 6 5
- 7 商業時代よりの名投手として、中球界に其名を博す。現慶大の花形左投手にて、東都六大学リーグに出場奮闘す。

笠川 達治 (野球)

- 1 函館市
- 2 新潟縣
- 3 明治三十七年
- 4 一七〇號 六〇冠
- 5 長岡中學
- 6 米穀商 函館太平洋俱樂部
- 7 中學時代より外野手として知られ、現に太平洋クラブ外野手にて、都市対抗戦に同部の重鎮として屢々出場其強肩強打を以つて鳴る。

築時 雄 (野球)

- 1 横濱市スタンダード石油會社
- 2 米國カリフォルニア
- 3 明治四十年

4 一七三 七二・二 冠
5 加州大
6 スタンダード石油會社
7 全横濱軍の一農手として、又同軍の強打者を以て知られ、昭和七年第六回及翌八年第七回都市對抗戦に出場健闘す。

川添正美 (漕艇)
1 東京府下國立東京商科大学内
2 高知市
3 大正二年
4 一七三 六六・五 冠
5 高知中學 東京商科大学
6 東京商大端艇部五組一番漕手として昭和七年第十二回インターカレッジ及ロンドン盃等レース等に出場活躍す。

金井正喜 (野球)
1 京都市河原町立命館大内
2 京都市
3 大正三年
4 一七〇 六一・九 冠
5 東山中學 立命館大
6 中學時代右翼手。現立命館大學生選手として、昭和七年全國高等野球大會に出場健闘。關西六大学リーグに活躍す。趣味キヌメ。

川端嵩 (馬術)
1 東京大森區新井宿四ノ一〇五五
2 大正三年 十月八日

川口辰之助 (弓道)
1 東京下谷區御徒町一ノ三四
2 同
3 明治二十五年 六月五日
4 一六一 六七・五 冠
5 榎芝成蹊會
6 硝子鏡卸商 大日本弓道會
7 家業に轉職する傍ら大正六年弓道を修め、現在弓道五段。大日本武徳會弓道教士。下谷弓道俱樂部顧問にして新界の權威者。下谷區會議員。

金田秀雄 (野球)
1 東京花見川區戸越町六二
2 山口縣防府町三田尻
3 明治三十三年 一月三日
4 一六四 四九・四 冠
5 成城中學
6 品川製作所
7 成城中學野球部投手及遊撃手を務め、東都中等野球界の俊豪として鳴る。現在同所野球部監督の重職に就任 同部發達に努む。

片岡燕十郎 (野球)
1 東京港區觀音劇場内
2 大正市
3 明治二十六年 二月二十三日

金子松太郎 (剣道)
1 東京豊野川區中里町三七四
2 熊本縣天草郡大浦村
3 明治三十年 二月十九日
4 一六八 五六・五 冠
5 中央大學
6 東京市電氣局
7 幼時より武道を好み、柔道は大槻豊氏に付き修行。剣道は小野派一刀流を研鑽す。大正十五年同校卒業。

神藤徳一 (漕艇)
1 東京世田谷區代田町二ノ九〇二
2 東京小石川區小日向臺町
3 明治三十五年 六月七日
4 一七三 七二・二 冠
5 慶應大學法學部
6 帝國生命保險會社

加藤治郎 (庭球)
1 東京大森區大森五ノ二一〇三
2 岐阜縣中津町
3 明治三十八年 八月十四日
4 一六二 五二・五 冠
5 中津小學校 東京工專 日本大學
6 東京電燈會社
7 日大在學中は庭球選手として活躍。現在東電陸上、フクビ、庭球、各代表選手として健闘す。趣味観劇。

加藤廉 (柔道)
1 東京四谷區東信濃町二
2 群馬縣原町
3 明治三十九年 六月十五日
4 一六八 五六・五 冠
5 原町小學校 尚橋中學校
6 警視廳警察官 講道館
7 中學時代柔道部選手として縣下中等學校大會に出場優勝する事二回。在學中二段獲得。現在警視廳労働課に勤務。

河津博明 (野球)
1 東京蒲田區慶大野球部合宿内
2 米子市
3 大正三年
4 一六七 五七・七 冠
5 米子中學 慶大高等部
6 中學時代より捕手。慶大に入るや小川捕手と共に本塁を固守早慶戦六

大學リーグに活躍せる新進の名捕手

笠川治一 (野球)
1 函館市
2 函館市
3 明治四十三年
4 一六七 七二・二 冠
5 函館中學
6 醬油業 函館大洋俱樂部
7 中學時代より外野手。現在も大洋クラブ外野手にて、第六回及昭和八年第七回都市對抗戦に出場健闘す。

金谷一 (陸上)
1 秋田縣山本郡淺内村
2 同
3 明治四十五年 五月二十八日
4 一五八 六〇 冠
5 淺内村小學校
6 農業
7 縣下長距離界の俊豪にて、昭和八年第七回明治神宮體育大會に關聯合青年團一萬米選手として出場健闘を揮ふ。

加藤正雄 (漕艇)
1 東京本所區向島跡地一一七
2 東京
3 大正三年
4 一七六 六四・六 冠
5 京華中學 早稻田大學
6 早大端艇部四番手として昭和七年早慶戦に出場力漕。又インターカレッジには兼選手として活躍す。趣味讀書。

韓在鎬 (弓道)
1 東京小石川區大塚高師寄宿會
2 朝鮮金泉邑黃金町
3 大正二年 九月二日
4 一六四 五七・七 冠
5 金泉小學校 大邱中學 東京高師
6 東京高師弓道部新進選手にて、昭和八年對一高戦に出場優勝の榮位を占む。趣味ヒンボン。映畫。

鹿島正雄 (野球)
1 東京下谷區入谷町十三
2 八王子市
3 明治四十四年
4 一六二 五二・五 冠
5 八王子小學校 八王子織染學校
6 松葉屋洋服店 松葉屋チーム
7 東都軟式野球の俊豪松葉屋チームを組織し、外野手にて各賞賽野球大會に出場活躍す。

川崎秀二 (陸上)
1 東京品川區下大崎一ノ九四
2 三重縣上野町
3 明治四十四年 九月十四日
4 一七三 六〇 冠
5 品川小學校 芝中學 早稻田大學
6 本邦陸上競技界の王座早大競走部の名マナーギャーとして活躍。同部の發展に貢献す。

甲斐英夫 (陸上)
1 福岡縣八幡製鐵所

延岡市
1 明治四十三年 五月十日
2 一七〇 六九・四 冠
3 延岡小學校 同商業 大分高商
4 八幡製鐵所
5 延岡商業柔道部主將にして前大分高商陸上競技部主將たり。高商時代九州對縣競技大會砲丸投に優勝し、西日本高等大會等にも出場力戦す。昭和八年九州都市對抗戦走高跳、砲丸に優勝し走幅跳二位を占む。昭和八年北九州一般選手権(神宮操選)走幅跳一位、青年團選手権砲丸投に優勝。同八年第七回明治神宮體育大會關聯合青年團砲丸投選手として健闘。現柔道三段の巨匠。

加藤運治 (陸上)
1 秋田縣仙北郡四明寺村
2 同
3 明治四十二年 七月十五日
4 一七四 七二・二 冠
5 四明寺小學校 秋田師範
6 師範時代より縣下投擲界の強豪。昭和三年縣中等學校大會砲丸投新記録。同四年五回縣青年團神宮體育大會。同四年大分縣大會砲丸投新記録。同五年、槍投に何れも一等。昭和五年縣青年團大會砲丸投(一、二、三、四)一、二、三、四新記録。昭和六年第六回神宮體育大會に砲丸投三位を占め、同七年縣青年團大會砲丸投一、二、三、四(十六封度)新記録。昭和八年青年團大會神宮體育選一、二、三、四にて新記録を作る。同八年第七回明治神宮體育大會に關聯

香川純一 (陸上)
1 富山縣東礪波郡南野尻村
2 同
3 大正三年 三月二十二日
4 一七四 六六・五 冠
5 南野尻小學校 縣立野野農學校
6 信用組合
7 昭和四年北陸中等學校近縣中等學校大會の槍投に優勝。同四年十一月縣下槍投に新記録を作る。昭和四年十二月北陸中等學校スキー大會立野ヶ原に於て十八基米複合ジャンプに優勝。昭和五年槍投四六米に新記録。同年十月中部日本中等大會槍投一位及三段跳三位。昭和六年二月全日本スキー大會北陸選十八基米入賞。ジャンプ三十米四位。昭和八年第七回一級神宮北陸選槍投に優勝。現南野尻村販賣利用組合に勤務。

河野行雄 (陸上)
1 大分市船頭町一三七八
2 同
3 明治二十九年 八月二十五日
4 一六四 六七・五 冠
5 四都甲小學校 大分師範
6 大分中學校 講道館
7 師範時代陸上競技部、相撲部、柔道部の委員たり。現體道部初段を有し縣體育大會には常に陸上競技の發達に非常なる貢献を盡す。昭和八年第七回明治神宮體育大會には縣青

<p>年團選士の監督として二回目の出場をなす。縣體育界の功績者にて現大分中學教諭。</p> <p>菅野正雄 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 宮城縣白石町 同 大正四年 五月二十七日 一六五・五種 六一・九種 白石中學校 同 縣下中長距離界の強豪。昭和六年北日本中等學校陸上大會千五百米の記録保持者として知らる。昭和七年全國中等學校陸上大會千五百米四着を獲得。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣青年團四百及繼走選士として出場。趣味スキー登山 	<p>賀川國廣 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 福島縣飯坂町 同 明治四十三年 九月十九日 一六一種 六一種 坂下小學校 丸通運送店 昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣青年團優勝選士として出場し、青年團陸技我國最初の純日本式農村競技に力をつくす。趣味音楽 	<p>加藤伊三郎 (剣道)</p> <ol style="list-style-type: none"> 滋賀縣八日市町 同 明治四十三年 九月十六日 一七六種 六九・四種 八日市小學校 八日市中學 乾物商 武徳會 昭和七年六月初段。同八年十月二段に昇進し、同年第三飛行隊聯合選士として出場。同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團劍道選士として出場。趣味水泳、趣味野球、趣味映画 	<p>神村政太郎 (相撲)</p> <ol style="list-style-type: none"> 岐阜市忠節町三 同 明治四十二年 二月四日 一六四種 七五・五種 岐阜市京町小學校 商業小學時代より相撲選手として知られ、練習経験淺間相撲部選手として遠洋航海中各國に於て我國の國技を揮ふ。昭和八年十一月第七回明治神宮體育大會には、縣聯合青年團相撲選士となり奮戦す。
<p>健田滿壽雄 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 奈良市磯間 同 明治四十四年 十一月五日 一七〇種 六〇種 天王寺商業學校 大阪電氣鐵道會社 昭和六年第六回神宮大會に繼走選士として出場。同八年關西陸上選手權大會に百三三位。又全縣下青年團大會に(十一秒四)優勝。同年十一月第七回明治神宮體育大會には縣聯合青年團百米及繼走選士となり出場。趣味水泳 	<p>加藤鐵兒 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 福島縣石城郡内郷村 宮城縣 大正三年 二月十一日 一七二種 六〇・二種 双葉中學校 磐城炭礦會社 昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團千米瑞興繼走選士として出場。趣味スキー 	<p>桂忠夫 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 和歌山市 同 明治四十二年 八月十六日 	<p>柏木正一 (剣道)</p> <ol style="list-style-type: none"> 大阪府吹田町 大阪府東淀川區紫島町二九一 大正二年 二月六日 一六七種 六〇種 浪華商業 南海鐵道會社 前浪華商業劍道部顧問として關西中等學校劍道界に活躍。昭和八年第七回明治神宮體育大會に大阪府聯合青年團劍道選士として準決勝に奮闘す。現劍道三段

<p>加藤愛子 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 山形縣西村山郡高松村米澤 同 大正八年 三月十一日 一四八種 三五種 高松小學校 山形第二高女 同 我國女子中距離界の雄。昭和八年七月第四回全日本女子オリムピック大會八百米四着。同八年全縣女子選手權大會八百米二着及二百米三着を獲得す。昭和八年十一月第七回明治神宮體育大會八百米に四着を獲る。 	<p>垣田實取 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 熊本縣八代郡松高村 同 明治四十四年 一月六日 一六四種 六七・五種 松高小學校 農業 昭和八年第七回明治神宮體育大會に於て、我國陸技界の新種目純日本式特殊の儀禮競争に縣聯合青年團選士として四等を獲得し、總得點十九點の内貴重むる三點を得て、各縣對抗順位第二位を占む。 	<p>榊木惟則 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 石川縣羽咋郡千里濱村 同 明治四十一年 十二月六日 一七〇種 六四・六種 羽咋小學校 丸三織物商店 縣下體育大會には毎回短距離に優勝し、百米(二秒三)二百米(二秒三)記録を保持す。明治八年第七回明治神宮體育大會には三回目の出場にして縣青年團選士主將に就任なし、千米瑞興繼走に出場奮闘す。 	<p>角田正 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 札幌市豊平町 同 大正四年 十一月十日 一五九種 五八・九種 豊平小學校 製餅會社 昭和八年第七回明治神宮體育大會北海道聯合青年團千米瑞興繼走に出場活躍し、各縣對抗順位第七位を獲得す。
<p>加藤佐四郎 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 三重縣富田町蛭子町七六一 同 大正元年 十二月十四日 一七一・五種 六〇種 富田小學校 三重織布會社 昭和八年關西陸上競技大會三百米に優勝す。同八年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團千米繼走選士として出場奮闘す。趣味撞球、趣味映画 	<p>川崎金道 (相撲)</p> <ol style="list-style-type: none"> 大分縣津久見町 同 明治四十三年 六月四日 一六八・五種 八四・八種 青江小學校 同 昭和八年縣青年團相撲大會に優勝し、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團相撲選士として出場活躍。現白井中學校相撲部コーチとして、現道場の発展及後輩の指導に盡力す。 	<p>加藤正治 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 石巻市 同 明治四十二年 一月二十日 一六七種 六九・六種 石巻商業 講道館 酒造業 講道館 前石巻商業競技部及柔道部選手として縣下に活躍す。昭和四年講道館二段に昇進。昭和八年第七回明治神宮體育大會青年團砲丸投選士として力闘す。趣味柔道 	<p>川井田吉義 (陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 鹿児島縣志布志町 同 明治四十二年 三月二日 一六七種 六七・五種 志布志小學校 製米業 昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として、我國青年團競技新種目純日本式儀禮競争に二七秒三にて同種目最初の日本新記録を作り第一位を獲得す。各縣青年團順位二八點を以てて連戦覇權を握り、天晴勝摩準人の實績を示す。

キノ部

木下東作 (陸上)

大阪市住吉区住吉町一〇五二
全日本陸上競技連盟顧問
明治十一年京都府に生る。同三十七
年東大醫科卒業。在学中黎明期の日
本陸上競技界を飾る。東大陸上運動
會に活躍。同三十三年ヤード制を廢
しメートルを採用し同三十五年同氏
等の奮力にて競技規則を改訂す。同
三十五年の東大陸上運動會四百米に
出場優勝。卒業後大阪醫大教授とな
る。大正十一年大阪毎日新聞社編輯
顧問兼運動顧問となり同十二年巴
里に於ける萬國オリムピック大會に
出張隊を率ゐる。現全日本陸上競
技連盟顧問として新界に貢献する所
甚大なり。又日本女子スポーツ連盟
會長の要職にあり。

清川正二 (水上)

東京府下国立東京商科大学内
世界的背泳選手。名古屋高商時代よ
り其英才を現はし、昭和七年第十回
國際競技大會に於て、百米背泳に第
一位(一分八秒六)を獲得し水上王
國の地位を確保す。同年ベストファ
ーストとして、同八年のインターカレツ
チに五十米背泳に、三〇秒八の記録
を以つて日本新記録を作りオリムピ
ック覇者の實績を示す。

岸清一 (體育)

東京芝罘伊風子町七〇
前大日本體育協會會長
慶應三年七月松江市に生る。明治二
十二年東大英法科卒業と共に辯護士
となり、殊に當時としては外國語の
事件の辯護士等なく外人關係の訴訟
會長にも推舉され、同四十三年法學
博士の學位を授けられ、我國法曹界
の大御所で昭和七年貴族院議員法制
審議會委員、大阪瓦斯取締役日本電氣
證券監査役等を務め、大正十年嘉納
治五郎氏の後を受けて體協會長とな
り體育奨励普及に助力し、大正十二
年第六回博覽大會の會長となり、同
十三年巴里の第九回、昭和四年アム
ステルダム第九回、同七年ロスマ
ンゼルス第十回國際競技大會には
日本代表委員として参加我國スギイ
フ界の父として著名。

桐原真二 (野球)

兵庫縣武庫郡大社村字森其下前田
二
大阪毎日新聞社
明治三十四年大阪に生る。北野中學
を経て大正十四年慶大經濟科卒業。
慶大野球部第十七代主將兼遊撃手に
て、早慶復活には内海弘毅、武満國
雄、飛田忠昭氏等と幹旋盡力の結果
大正十四年秋季明治三十九年以來十
九年間の軋轡を一掃して歴史的復活
を見る。同氏は十四年春復活に先立
て卒業、輕快なる天才肌のプレーヤ

木瀬和吉 (ゴルフ)

東京小石川區原町一〇
三井礦山株式會社理事
明治九年八月二日京都市に生る。同
二十七年京都商會を経て、後一年志
願兵となり日露戰役に出征二等主計
に累進す。後三井礦山に入社なし、
南洋歐米各國を巡察。現同社理事の
外釜石鐵業會社の常務取締役たり。
又アマチュアゴルフアールとして、
東京ゴルフクラブ所屬のゴルフア
ー日下ハンデ一十八

木戸幸一 (ゴルフ)

東京赤坂區新坂町六二
宗秩齋總裁
維新の元勳木戸孝允より四代目にし
て、明治二十二年七月十八日出生。
學習院を経て大正四年京大法律科卒業
後農商務省に入り事務官參事官書記
官各課長等に歴任す。現在貴族院議
員にて、又アマチュアゴルフア
ーとして、朝霞ゴルフクラブ總務財務
各委員及東京ゴルフクラブに所屬す
日下ハンデ一十五

喜多壯一郎 (ホッケー)

東京杉並區天沼町二六四
早稻田大學教授
明治二十九年二月東京小石川區に生

木村一夫 (陸上)

東京澁谷區早稻田大學内
早大副走部主將。昭和八年(度)走高
陸の第一人者にて昭和六年全日本走
高跳ベストテン第一位を占む。個人
記録一米九六を保持。昭和七年第十
回オリムピック大會に日本代表とし
て渡米。同八年五月第十一回早慶對
抗陸上競技に主將として出場九回連
勝の榮冠を獲得す。

北折辰雄 (庭球)

東京豊島區西馬場三ノ九一三
桑澤ゴム工業所
明治二十六年長野縣に出生。大正七
年東大法律科卒業。大正十年前後の我
國軟球界の強風として新界を風靡
す。現桑澤ゴム工業所に勤務。従來
の庭球用ボール其他野球用ボール等
の製品に改良を加へ新界に貢献する
所餘からず。

木越安一 (野球)

東京中野區上ノ原町一四
陸軍造兵廠十條兵器製造所
明治四十二年東京に生る。學習院を
經て昭和七年東大工科卒業。身長(一
六七)體重(六〇)近(學習院時代

キノ部

一

より投手として高専大会等に奮戦。昭和四年前後帝大軍の投手にて依然其の重任を帯び主戦投手として、其怪腕を以てリーグに活躍同軍の志氣を鼓舞す。

木村象雷 (水泳)

東京京橋西區西區六
新開聯合通信社
明治四十一年岡山に生る。同志社中學を経て昭和六年早大経済部卒業。背泳自由型選手。殊に背泳は日本三羽鳥の人として二百の記録保持者。昭和三年第九回国際オリムピック大会に日本代表として渡航日本水泳界の爲めに萬丈の氣を吐く。

清瀬三郎 (ラグビー)

東京日本橋區江戶橋三ノ第一ビル内
關東ラグビー蹴球協會理事
兵庫縣出身。昭和四年東大法科卒業。我闘ラグビー界の古豪。東大ラグビー部選手として、同部の大成に努む卒業後も協同役員に推挙され、依然斯界の一人者としてラグビー界に貢献する所餘からず。現在新進辯護士辦理士たり。

岸一郎 (野球)

大連市瀋陽街
南滿洲鐵道會社
福井縣出身。大正七年早大商科卒業。大正初期早大野球部の投手として、同五年市俄古大學の招聘に應じ早大軍第三回米國遠征を舉行、途中布哇

に上陸回試合をなし、それより米國各地を轉戦十勝十九敗の戦績にて歸朝。

北村西望 (體育)

東京澁野川區四ヶ原町七一
大日本體育協會審査員
彫刻家。明治十七年長崎縣に生る。同四十二年京大工務學校彫刻科を卒業。同四十五年東京美術學校彫刻本科卒業。同四十年京大美術協會に出品受賞。文展には第二回より入選。大正十五年より帝國美術院會員に任命さる。

北豊吉 (體育)

東京牛込區矢來町二
大日本體育協會顧問
明治八年石川縣に生る。同三十三年東大醫科卒業。陸軍三等軍醫に任官。同三十九年大阪市衛生技師、次いで東京女子高等師範教授に轉任し、文部省學校衛生官兼體育研究所長を兼ね。大正七年醫學博士となる。

岸野助次郎 (剣道)

松江市外中原町
大日本武徳會劍道教士
安政四年二月島根に生る。高山峯三郎氏に就き直心影流を修む。昭和四年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

北島辰一郎 (剣道)

東京世田谷區代田六八一ノ二
大日本武徳會劍道教士

明治九年九月佐賀に生る。北辰一刀流を専究す。大正九年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

木村萩太郎 (剣道)

群馬縣群馬郡堤ヶ岡村棟高
大日本武徳會劍道教士
明治十二年三月群馬に生る。東京明信館に於て小野派一刀流を究む。昭和二年七月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

菊池毅 (柔道)

東京中野區橋場町一二
大日本武徳會柔道教士
明治三十年八月岩手縣に生る。講道館に於て修行。昭和七年五月武徳會より教士號を授與さる。

公文盛儀 (柔道)

津市外大河
大日本武徳會柔道教士
明治二十五年十月高知縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。武徳會五段。

北川艇二 (柔道)

兵庫縣水上郡柏原中學校内
大日本武徳會柔道教士
明治二十八年二月兵庫縣に生る。武徳會より教士號を授與さる。五段。

木ノ原辰夫 (柔道)

八幡市大道通町一丁目
大日本武徳會柔道教士

明治三十八年福岡縣に生る。武徳專門學校出身。昭和四年五月武徳會より教士號を授與さる。五段。

菊地揚二 (柔道)

東京澁谷區千駄ヶ谷町八〇八
明治三十九年茨城縣に生る。昭和六年中央大學卒業。昭和五年宮内省濟寧館主催武徳大會に出場優勝す。學生當時學生界の互星選手として都下に其強名を馳す。講道館五段。

岸本兼太郎 (馬術)

大阪市西區西區長堀南邊二ノ五
日本國際馬術協會評議員
明治七年九月大阪に生る。夙に船舶業に従事し岸本汽船會社を創立し社長となる。現在阪神急行電鐵、神戸海上運送火災保險會社各取締役にて又大阪府多額納稅者たり。

北島多一 (體育)

東京澁野川區大久保一ノ四三九
全日本體操聯盟顧問
明治三年東京府に生る。同二十八年東大醫科卒業。同三十七年博士號を拜受。多年傳染病研究所技師として奉職。大正四年北里博士と行動を共にして去り、北里研究所を創立す。現同所所長又傳々慶應病院學部長の要職にあり。

木越安彦 (スキー)

東京神田區區大木スキー部内
大正二年小樽市に生る。小樽中學を経て昭和六年四月明大に入學。同七

清岡邦之助 (體育)

東京芝區白金三光町四五
大日本體育協會評議員
文久三年高知縣に生る。慶應義塾出身にて、現小田原電機、鶴見臨港鐵道各取締役及紳紡、國際信託各監査役の要職にあり實業界に雄飛す。又現東京ゴルフクラブ所屬のゴルファにて日下ハンデー二十。

木村茂 (野球)

1 臺北市臺北交通局内
2 僑本縣
3 明治四十四年
4 一七〇種 六一・九種
5 臺北工業
6 臺北交通局
7 工業時代投手として甲子園に出場力闘し、臺北交通團に入りては投手を努む。現同チームの捕手に轉身し都市對抗戦には屢々出場南海の古豪の同局野球部の名譽を東都に示す。日下同局鐵道部工作課に勤務。

木村秀一 (野球)

1 神戸市鈴鹿商會内
2 香川縣

菊谷正一 (野球)

1 東京豊島區立大野球部合宿所
山口縣
明治四十二年
一六七種 六〇種
2 徳島中學 立教大學
3 中學時代投手。立教に入るや左腕投手として昭和六年秋期リーグに出場好投し、リーグ加盟以來十餘年始めて覇權を掌握す。昭和七年度打撃串ベストテン第一位獲得。同部の至寶投手。新制度リーグ最初の榮位を同六年秋以來再度把握せり。因に同年リーグ記録十一勝七割六分六厘。

木村元一 (水上)

1 東京品川區日本體操學校内
2 福島縣岩瀬郡牧本村
大正二年 八月二日
一六七種 七五種
3 大連商業 日本體育會體操學校
4 大連商業 日本體育會體操學校
5 大連商業 日本體育會體操學校
6 大連商業 日本體育會體操學校
7 大連商業 日本體育會體操學校

木島小彌太 (水上)

1 横濱中區本牧町原一〇八九

吉相金次郎 (野球)

1 東京豊島區池袋町九一五
兵庫縣
明治四十年
一六四種 六〇種
2 浪華商業 明治大學
3 浪華商業 明治大學
4 浪華商業 明治大學
5 浪華商業 明治大學
6 浪華商業 明治大學
7 浪華商業 明治大學

菊本耕作 (陸上)

1 東京小石川區大塚高師寄宿會
奈良縣添上郡原村
明治四十五年二月五日
一八二種 七五種
2 奈良師範 東京高師體育科
3 奈良師範 東京高師體育科
4 奈良師範 東京高師體育科
5 奈良師範 東京高師體育科
6 奈良師範 東京高師體育科
7 奈良師範 東京高師體育科

來島滿男 (野球)

1 大阪市外千里山關西大學内
山口縣
明治四十三年
一六一種 六一・九種
2 鴻城中學 關西大學
3 中學時代三壘手。現在黄金時代の關西大學野球部三壘手として、昭和七年秋季關西六大學リーグに活躍優勝。同七年十一月末より同八年一月に渡り冬季練習のため四下せる東京六大學リーグ各校と對戦、慶大の二回戦に一敗せるのみ、關西球界のために萬丈の氣を吐く。趣味音楽

菊田秀雄 (拳闘)

1 東京京橋二丁目四
大阪此花區四貫島町
明治四十一年 七月二十四日
一六一種 一一八種
2 日本拳闘俱樂部

木下光二 (馬術)
 1 東京東區區銀座二ノ三米井ビル内
 2 愛媛縣丹原町
 3 明治三十七年 四月九日
 4 一六五・五五五 六七・五五五
 5 丹原小學校 西條中學 慶應大學
 6 米井商店
 7 中學時代柔道部選手。慶大にありては馬術部選手となる。昭和三年野馬術大会に優勝選手として出場。同年東區東生代表となり、同四年學生馬術協會幹事に就任。翌年理事となる。同時に日本學生馬術協會理事。馬術界發展に努む。又スキーに長ず。趣味は曲技旅行。

北島辰藏 (ラグビー)
 1 東京牛込區市ヶ谷谷町三一
 2 同
 3 明治二十六年 十一月三日
 4 一六一・一四一 六九・四四一
 5 京橋泰明小學校 慶應普通部 慶大
 6 常務生命保險會社
 7 小學校當時運動部代表選手として知られ、普通部時代野球部内野手。慶大に入りては東都各大学先遣チムたる慶大ラグビー部監督時代のFWとして、YCAC、神戸外人チム等と対抗大いに活躍。現在都下實業ラグビー部の玉座常務生命ラグビー部監督として著名なり。本社收納課長。趣味は讀書散步。

北岡花實 (陸上)
 1 高知市細工町一ノ三
 2 高知縣中村町
 3 大正八年 三月十五日
 4 一五一・一四一 四八・四八
 5 高知市第三小學校
 6 縣下女子短距離界優等。昭和七年女子大會走高跳(一米二〇)五等及四百米リレーに一着。昭和八年縣下女子大會五十米三着を占む。同年十一月第七回明治神宮體育大會女子陸上競技短距離種目に高知第一高女選手として出場力関す。趣味は手藝。

清成透 (庭球)
 1 東京日原區上日原四ノ二二三一
 2 大分縣速見郡東山賀村
 3 明治三十六年 三月十日
 4 一五二・二四一 四九・五五五
 5 東山賀小學校 豊山中學 明大
 6 拓務省
 7 中學時代には庭球部選手として鳴らし、明大時代には庭球部選手及び野球部遊撃手として各試合に出場活躍す。昭和四年法科卒業。拓務省に入るや同省野球チム選手として官省運動界に活躍す。

岸勝夫 (ホッケー)
 1 東京渋谷區青葉町二〇
 2 同
 3 明治三十四年 十一月四日
 4 一六二・五五五 五二・五五五
 5 清水小學校 厚木中學 松本高校 東大
 6 太陽生命保險會社 帝大OB
 7 松高スケート及アイスホッケー部草創時代の選手及陸上ハードル選手としても知られ、大正十三年東大入

木村國雄 (陸上)
 1 岡山縣邑久郡本庄村
 2 同
 3 大正三年 一月九日
 4 一七三・三三三 六八・四四一
 5 本庄小學校 岡山師範
 6 教員 岡山師範
 7 師範時代より競技部顧問として、第三回中學學校東西對抗、昭和四年、五、六年度のインターミッドル、昭和四

北川英雄 (陸上)
 1 滋賀縣東浅井郡鹿原村
 2 同
 3 大正四年 七月六日
 4 一七〇・四四一 五四・四四一
 5 鹿原小學校 鹿原中學
 7 前鹿原中學野球部選手にて縣下中等野球界に活躍なし、昭和七年湖北中等リグ戦に優勝す。又同校競技部選手として知られ、昭和八年第七回明治神宮體育大會に滋賀縣聯合青年團千米競走選手として健闘す。趣味は野球音楽。

木村武雄 (柔道)
 1 島根縣安濃郡富山村
 2 同郡佐比賣村池田
 3 明治四十三年 六月十七日
 4 一六四・四四一 六九・四四一
 5 佐比賣小學校 島根師範
 6 教員 島根縣體育協會
 7 前島根師範柔道部部長。昭和四年御大禮記念天覽試合出場の光榮に浴す。同五年四月武徳會より三段に允許さる。昭和六年島根縣代表選手權大會に出場好成績を収め、同八年第七回明治神宮體育大會に縣青年團柔道選手として出場活躍。

木越勉 (野球)
 1 東京牛込區加賀町二ノ一六
 2 東京中野區上野原町
 3 明治四十年 九月廿九日
 4 一六七・四四一 六四・六四一
 5 學習院高等科 東北帝
 6 日本興業銀行 櫻友會
 7 學習院中等科及高等科時代野球部二番手として對一高戦に出場奮闘し東北帝大に入りては第一回二回三回四帝大リーグ戦に遊撃手として出場大いに活躍す。興快なるプレーヤーとして知らる。趣味は讀書觀劇。

木場貞博 (水上)
 1 東京渋谷區櫻ヶ丘町四
 2 同
 3 明治四十一年 三月十六日
 4 一六二・五五五 五七・五五五
 5 學習院初等科 府立一中 慶大
 6 臺灣製糖會社 三田水上クラブ
 7 慶大スケート部幹事として、昭和六年度關東選手権大會にも参加關東スケート界のナムバードンとして知らる。趣味は讀書。

菊地大三 (野球)
 1 東京本郷區駒込町六八清水方
 2 岩手縣遠野町
 3 大正三年 五月二十日
 4 一六五・五五五 六二・五五五
 5 遠野中學
 6 鐵道省建設局 鐵道省野球部
 7 遠野中學野球部捕手。中澤投手と共に縣下隨一の名バツテリイとして鳴らし、鐵道省に入りても依然捕手となり全國鐵道野球大會にも出場。強肩強打を以て知らる。趣味は音樂。

岸田隆基 (柔道)
 1 東京芝區三田小山町二五
 2 和歌山市
 3 明治三十四年 九月十日
 4 一六四・四四一 五四・三三三
 5 鳴尾小學校 豊山中學 慶大
 6 日本製粉會社 講道館
 7 慶大柔道部選手として東都學生柔道界に奮闘し、ラグビー部員B選手としても知らる。現在柔道初段、日本製粉本社に勤務。マイカイラグビー俱樂部主将として活躍す。趣味は音樂。

木村琴三郎 (柔道)
 1 東京芝區白金志田町六一
 2 埼玉縣
 3 明治三十二年 七月二十六日
 4 一六五・五五五 六七・五五五
 5 埼玉縣青柳小學校
 6 警視廳警察官
 7 二十歳より新道を修行。對策試合に出場する事前後九回。昭和六年同試合に、三段級四人、又同年方面試合に、同じく三段級四人を抜き、其怪腕を大いに發揮す。現警視廳四段の上(四段相當)にて芝高輪運動場

木村文一 (ラグビー)
 1 東京中野區水川町二八
 2 廣島市中島新町
 3 明治三十一年 九月十五日
 4 一六八・五五五 六八・五五五
 5 廣瀬小學校 修道中學 早大
 6 銀座玉屋商店 早大OB
 7 早大在学中はラグビー部選手FWとして大いに活躍し、昭和二年早大ラグビー軍遠征の際名コーチヤ

木村久 (拳闘)
 1 東京四谷區南寺町帝國拳闘内
 2 岩手縣花巻町
 3 明治四十五年 四月九日
 4 一六一・一四一 一八・ボンド
 5 花巻町小學校
 6 帝國拳闘會
 7 十八歳より拳闘修業。十九歳より前後三回渡米。其間九十六回對戦。渡米中カリホルニアに於て、剛雄フランキノーベリ及ホイアアレー等と十回對戦に何れも撃破。日下同會のボンドム級選手として、同級の優星たり。

木村岩雄 (弓道)
 1 東京在原區下神明町八一
 2 静岡縣堀の内町
 3 明治四十年 十月二十三日
 4 一七四・五五五 六六・五五五
 5 濱松高等工業學校
 6 明電會

木村岩雄 (弓道)
 1 東京在原區下神明町八一
 2 静岡縣堀の内町
 3 明治四十年 十月二十三日
 4 一七四・五五五 六六・五五五
 5 濱松高等工業學校
 6 明電會

木村岩雄 (弓道)
 1 東京在原區下神明町八一
 2 静岡縣堀の内町
 3 明治四十年 十月二十三日
 4 一七四・五五五 六六・五五五
 5 濱松高等工業學校
 6 明電會

木村岩雄 (弓道)
 1 東京在原區下神明町八一
 2 静岡縣堀の内町
 3 明治四十年 十月二十三日
 4 一七四・五五五 六六・五五五
 5 濱松高等工業學校
 6 明電會

木村岩雄 (弓道)
 1 東京在原區下神明町八一
 2 静岡縣堀の内町
 3 明治四十年 十月二十三日
 4 一七四・五五五 六六・五五五
 5 濱松高等工業學校
 6 明電會

1として知らる。現在關東ラグビー協理事として新界に貢献す。

木下敏男 (ラグビー)

- 1 東京大森區久々原町五四三
- 2 同
- 3 明治四十二年 六月二十九日
- 4 一六七種 五七・五冠
- 5 高千穂中學 早稲田大學
- 6 東洋キヤリヤ工業會社
- 7 中學時代よりラグビー選手として數多の試合に出場。早大ラグビー部に有りては第二主將として六大學ラグビーリーグに健闘。位置H.B.現在早大OB及全三井クラブに所属。趣味讀書

木村辨治 (剣道)

- 1 東京本郷區駒込千駄木町二七六
- 2 茨城縣猿島郡香掛村
- 3 明治三十八年 七月十九日
- 4 一六一種 六〇冠
- 5 香掛小學校
- 6 警視廳警察官 武徳會
- 7 水戸東武館主小澤登右衛門士につき修行。昭和四年選抜命懸年谷中署代表として對署試合に出場。同七年十月警視廳秋季武道大會に個人優勝の榮冠を占む。又同八年黒鷲演武大會に招待され、第一位を獲得せる開將。趣味園藝刀劍。

菊川佳雄 (野球)

- 1 宇都宮運轉事務所内
- 2 前橋市
- 3 明治四十二年

菊地太三郎 (柔道)

- 1 東京下谷區西町三
- 2 宮城縣田尻町
- 3 明治三十三年 十月三十日
- 4 一六四種 六四・六冠
- 5 小幡田農學 日本大學
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 宮城縣下青年相撲大會に於て優勝すること數回、アマチュア相撲選手として知らる。現在柔道三段。上野警察柔道部代表選手として、對署試合に出場活躍す。

喜多村保 (野球)

- 1 名古屋市 名古屋樓構内
- 2 松阪市
- 3 明治四十年
- 4 一六一種 六〇冠
- 5 松阪工業
- 6 名古屋鐵道局
- 7 名鐵軍の名捕手として昭和二年第一回關東大會(明中法日)百未四百里鐵走に優勝。同八年關東陸上鐵道選手權大會に於て、百未四位四百里鐵走(四四秒二)に優勝す。

清瀬正雄 (野球)

- 1 神戸市神戸生絲検査所内
- 2 神戸市
- 3 大正二年
- 4 一五二種 四九・四冠
- 5 神戶商業
- 6 神戸生絲検査所
- 7 全神戸軍の遊撃手にて、昭和七年第六回都市對抗戦に出場優勝の榮冠を握る。同八年第七回の同大會にも出場其結果果敢なる快プレーは好打と共に同軍の精華たり。

木原清孝 (剣道)

- 1 東京豊島區長崎町二ノ一〇三五
- 2 鹿兒島縣蒲生町
- 3 明治三十二年 六月十五日
- 4 一六七種 七八・八冠
- 5 蒲生小學 法政大學
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 昭和五年五月武徳會精練會を受け現在蒲生小學校警視廳劍道助手として後進を指導す。柔道にも秀いで現在劍道五段柔道二段警視廳内武道大家として有名なり。趣味讀書

木岡要之助 (庭球)

- 1 横濱中區花咲町四ノ一二七
- 2 廣島市木挽町
- 3 明治三十五年 七月二十九日
- 4 一七〇種 六四・六冠
- 5 廣島高師附小 日白中學 明大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 明大在學中は庭球部選手として奮闘。大正十五年學生トーナメント

木下勝幸 (柔道)

- 1 東京淺草區老松町
- 2 鎌本市
- 3 明治三十八年
- 4 一六七種 七四・一冠
- 5 中央大學
- 6 警視廳警察官
- 7 昭和三年警視廳に奉職。昭和七年十月柔道有段者會淺草支部大會に出場優勝。同十二月講道館二段に昇進す。現職前警視廳柔道代表選手として對署試合等活躍す。趣味讀書

北原廣男 (野球)

- 1 東京中野區塔ノ山三〇
- 2 長野縣下伊那郡
- 3 明治三十二年 一月五日
- 4 一六一種 五七・五冠
- 5 飯田中學 二高 東大
- 6 東京鐵道局 東鐵野球部
- 7 二高時代野球部外野手として、全國高校野球大會に出場優勝。東大に入りては名外野手として東西兩大會對抗戦に活躍し、現在東鐵野球部監督。趣味スキー

木元規矩男 (ラグビー)

- 1 東京淺草區西大久保一ノ五四
- 2 鹿兒島縣薩摩郡高江村
- 3 明治三十八年 十一月一日
- 4 一七三種 七五冠
- 5 明治大學

北野孝則 (野球)

- 1 名古屋市鐵道局内
- 2 松阪市
- 3 明治三十七年
- 4 一六二・五種
- 5 富田中學
- 6 名古屋鐵道局
- 7 名鐵野球部中堅手として全國鐵道野球大會に出場優勝すること二回。昭和七年第六回都市對抗戦には東海代表として出場活躍す。

菊地巖 (ラグビー)

- 1 横濱中區弘明寺町二六一
- 2 同
- 3 大正二年 四月十六日
- 4 一六二・五種 五四・四冠
- 5 神奈川商工實習所
- 6 東京瓦斯電氣工業會社
- 7 神奈川商工實習所を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在同社ラグビー部F.W.選手として東都ラグビー界に活躍す。趣味音樂

切東武夫 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原町一ノ一松原館
- 2 廣島縣及三郡和田村
- 3 明治四十四年 四月二十日

祇園 (陸上)

- 1 東京小石川區文理科大學内
- 2 岡山縣邑久郡今城村
- 3 明治四十二年 五月二十七日
- 4 一七〇種 六六・五冠
- 5 岡山師範 東京高師 文理科大學
- 6 昭和六年第七回關東選手權大會(四百里鐵走)及同年日本學生大會に同種目に大會新記録を作る。(四三秒)同七年神宮鐵道大會に於て、二百米四位四百里鐵走一位を獲得す。

清瀬二郎 (ラグビー)

- 1 神奈川縣藤澤町
- 2 兵庫縣神戶市神戶中寺村
- 3 明治三十三年
- 4 一六八・五種 六四・六冠
- 5 神戸二中 神戸高商
- 6 三菱信託會社 三菱クラブ
- 7 中學時代は柔道部選手として知られ、高商に入りてはサッカー選手に轉じ活躍す。現三菱ラグビークラブ主將として東都實業ラグビー界に出場活躍す。

木山和太郎 (ラグビー)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 高田市
- 3 明治三十七年 九月十七日
- 4 一六一種 五二・五冠
- 5 高田市第二小學校
- 6 木村屋本舗 木村屋チーム
- 7 昭和五年創立せられたる木村屋ラグビー部H.B.として七年時事新報主催實業團ラグビー大會に出場優勝す。輕快なるプレーヤーとして知らる。

木原俊子 (弓道)

- 1 東京蒲田區女塚町一八五
- 2 同
- 3 明治四十二年 十月二十五日
- 4 一五八種 五二・五冠
- 5 樺太豊原高等女學校
- 6 簡易保險局 大日本弓道會
- 7 樺太豊原高等女より簡易保險局に入る。現女流弓道選手として大日本弓道會並びに簡易保險局弓道部に活躍す。弓道初段。趣味音樂讀書生花

菊間芳次郎 (ラグビー)

- 1 東京淺草區西三筋町六九
- 2 東京淺草區小島町
- 3 明治四十五年 七月二十二日
- 4 一六一種 五二・五冠
- 5 東京專修工業學校
- 6 正路專修工業を経て正路專修社に入社。現在同社ラグビー部H.B.として東都實業ラグビー界に活躍す。現關東ラグビー球協會に所属。

清川太郎 (拳闘)

- 1 東京四谷區南寺町帝國學同内
- 2 東京本郷區
- 3 大正四年 一月十日
- 4 一七〇種 一三五・五冠
- 5 横濱市南太田町小學校
- 6 十八歳より修業。アマチュア時代オリズムヒックより歸朝せる龜岡野雄君に敗る。昭和三年比島の互屋、ダンスチワアイトと引分の好試合をなす。目下同會の新鋭選手にて、ライオンエイト級

菊地豊松 (柔道)

- 1 東京豊島區長崎町三四六
- 2 宮城縣伊具郡技野村
- 3 明治三十四年 二月二十四日
- 4 一六二種 六七冠
- 5 技野村小學校
- 6 警視廳警察官 講道館
- 7 昭和五年十一月講道館三段に昇進。現神田錦町警察柔道部選手として對署試合に出場する事前後八回。常に優秀なる成績を収む。趣味讀書

菊地源六 (野球)

- 1 仙臺鐵道局改良課内
- 2 仙臺市
- 3 明治四十年
- 4 一六四種 五七冠
- 5 仙臺工業
- 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部
- 7 工業時代遊撃手。仙臺に入りては二疊手として昭和六年全國鐵道野球

大会に出場優勝し、第六回都市対抗戦に仙臺代表選手として活躍す。

- 京谷昇二 (野球)
- 1 仙臺鐵道局經理課
 - 2 岩手縣
 - 3 明治四十年
 - 4 一六七回 六七・五回
 - 5 福岡中學 明治大學
 - 6 仙臺鐵道局 仙臺俱樂部
 - 7 舊姓中津川、明大野球部第十九代主将にて兩球投手としてリーグに鳴らし、仙臺野球部に入りても主将投手兼遊撃手として全國鐵道野球大會都市対抗戦に出場強肩と強打を以て知らる。

- 菊地 篤 (柔道)
- 1 東京豊島區西里町二ノ二四四一
 - 2 茨城縣筑波郡田水山村
 - 3 明治二十五年 十一月十一日
 - 4 一六一回 六四・六回
 - 5 田水山小學 北條町高等小學
 - 6 上野松坂屋 講道館
 - 7 現在講道館三段。松坂屋柔道部長として、體育獎勵に専心し、帝都デパート唯一の柔道部として、同部今日の隆盛を築く。又非常な多趣味な人として知らる。

- 木谷 潔 (庭球)
- 1 兵庫縣川邊郡立花村塚口吉野方
 - 2 山口縣大島郡神浦村
 - 3 明治四十三年 六月十二日
 - 4 一六七回 五八・九回
 - 5 關西學院

關西學院庭球部副将にて、昭和五年對神戸商大戦に出場優勝なし、又同年ランキンガダブルス八位を獲得す。趣味音楽。

- 錦華山兵藏 (相撲)
- 1 東京本所區東兩國一ノ三
 - 2 兵庫縣
 - 3 明治三十三年 六月六日
 - 4 一七六回 一〇二・六回
 - 5 紺屋町小學校
 - 6 大日本相撲協會 小野川部屋
 - 7 本名濱野兵藏。初土俵大正四年。入幕昭和六年一月。昭和八年春場所成績七勝四敗。突張りを得意とす。趣味麻雀撞球。

- 木村 正 (剣道)
- 1 東京深川區西森下町一
 - 2 茨城縣稻敷郡高田村
 - 3 明治三十五年 十一月十二日
 - 4 一六二回 六六・五回
 - 5 海軍機關學校 警視廳
 - 6 警視廳警察官 警視廳
 - 7 海軍機關學校練習科を卒へ警視廳に奉職。現警視廳警察官剣道部中堅選手として、警視廳武道大會對策試合等に出場活躍す。

- 木村五郎 (ラグビー)
- 1 東京澁橋區上落合二ノ六五三
 - 2 大阪東成區橋岡野町
 - 3 大正二年 八月一日
 - 4 一六四回 六一・九回
 - 5 東山中學 中央大學

中央大學ラグビー部バツタロイ及ハイフバツタとして、昭和七年高専大會等に出場。東郷學生ラグビー界の新星たり。

- 木村達三 (漕艇)
- 1 東京赤坂區青山南町五ノ三七
 - 2 小倉市日明上ノ原
 - 3 大正三年六月二十四日
 - 4 一七四回 六四・六回
 - 5 芥小學校 青山學院中學部 早大
 - 6 中學時代競球選手として、東郷中等學校界に雄飛す。現早大漕艇部主手として、昭和八年第四回早慶レースに出場力漕す。

- 北村一郎 (野球)
- 1 京都市上京區同志社大學内
 - 2 大阪市
 - 3 大正四年 五二・五回
 - 4 六一回 五二・五回
 - 5 天王寺中學 同志社大學
 - 6 中學時代より二壘手。駿足を以て鳴り、關西六大學リーグに活躍。球捌きの妙と好打を以て知らる器用な選手

- 菊地兼三 (野球)
- 1 栃木縣黒羽町田町
 - 2 栃木縣大田原町
 - 3 明治三十七年
 - 4 一六一回 五二・五回
 - 5 大田原中學 立教大學商科

中學時代三壘手として上毛地方に雄飛。立教大學野球部内野手として六大學リーグ戦初期の頃新興立教軍選手として萬丈の氣を吐く。

- 喜多政男 (相撲)
- 1 石川縣能美郡久富村
 - 2 同
 - 3 大正元年 十月十六日
 - 4 一六七回 七二・二回
 - 5 久富小學校
 - 6 製材業
 - 7 縣聯合青年團相撲選手として昭和八年第七回明治神宮體育大會に出場なし。勝選出の強豪と對戦活躍す。

- 木崎千代吉 (陸上)
- 1 京都市峰山町
 - 2 同府熊野郡津村
 - 3 明治四十四年 二月二十一日
 - 4 一七四回 六九・四回
 - 5 久美濱小學校
 - 6 峰山町吉村商店
 - 7 京都府聯合青年團短距離及跳躍選手として知られ、昭和八年第七回明治神宮體育大會走高跳に出場活躍す。

- 北村四郎 (陸上)
- 1 滋賀縣彦根町石ヶ崎町
 - 2 同
 - 3 明治四十三年 六月十四日
 - 4 一六一回 五四回
 - 5 彦根小學校
 - 6 滋賀縣聯合青年團短距離選手とし

て、昭和八年第七回明治神宮體育大會千米瑞典競走に出場奮戦す。趣味スポーツ音楽。

- 木村昇 (ラグビー)
- 1 東京小石川區小日向臺町一ノ四〇
 - 2 神奈川縣
 - 3 明治三十七年
 - 4 一七一・五回 六四・六回
 - 5 東京帝大工學部
 - 6 陸軍航空本部技術部
 - 7 東大ラグビー部選手として東西兩大學對抗戦リーグ等に活躍し、現學士ラガーとして健闘す。趣味讀書

- 木内幹衛 (ラグビー)
- 1 東京芝區今里町四五
 - 2 廣島縣
 - 3 大正四年 二月二十日
 - 4 一六七回 五七回
 - 5 明治學院高等部
 - 6 明治學院高等部
 - 7 明治學院ラグビー部サイドローとして昭和六年九月對水戸高校戦翌七月十一月對専修大學戦に出場活躍す。趣味登山

- 木野三郎 (漕艇)
- 1 東京府下國立 東京商科大学内
 - 2 福島縣若松市
 - 3 大正二年
 - 4 一七三回 六九・四回
 - 5 會津中學 東京商科大学
 - 6 商大漕艇部主手として昭和七年第十一回インターカレッジ及ロン

ドン派争奪レース等に出場活躍す。趣味將棋。

- 木村教治 (剣道)
- 1 埼玉縣浦和町本太八八二
 - 2 同
 - 3 明治二十四年 四月二十七日
 - 4 一五九回 五八・九回
 - 5 上野松坂屋
 - 6 松坂屋剣道部の先輩現在二段。弓道にも趣味を有し兩道に通じた人。上野松坂屋運動部の代表選手。

- 木内吉三 (柔道)
- 1 東京江戸川區通井一ノ二三
 - 2 千葉縣滑河町
 - 3 明治三十四年 一月一日
 - 4 一五五回 六〇回
 - 5 警視廳警察官 警視廳
 - 6 本所區橋本警察署柔道部代表選手として警視廳武道大會對策試合等に出場大いに活躍す。

- 菊地養之助 (野球)
- 1 東京豊島區立大野球部合宿所
 - 2 秋田縣
 - 3 明治四十二年
 - 4 一六七回 六七・五回
 - 5 秋田中學 立教大學
 - 6 中學時代外野手立教に入りても外野手としてリーグに活躍し、駿足好守を以て鳴る。

東京日本橋區三越内。大正三年 七月二十日

- 菊地政一郎 (水上)
- 1 東京日本橋區三越内
 - 2 茨城縣結城町
 - 3 大正三年 七月二十日
 - 4 一六四回 六〇回
 - 5 結城小學校
 - 6 三越本店 三越水泳部
 - 7 三越水泳部百来選手として、各種水泳競技に出場力泳す。短距離記録一分一二秒八。

- 來島秀男 (陸上)
- 1 東京小石川區東京文理大學内
 - 2 萩市北片河町
 - 3 明治四十四年 一月三十日
 - 4 一六七回 五七回
 - 5 東京文理科大學
 - 6 文理大陸上部中長距離選手。昭和三年インターカレッジには八百米に入賞す。

- 菊地 孝 (野球)
- 1 東京目黒區帝大野球部合宿所
 - 2 仙臺市
 - 3 明治四十二年
 - 4 一六四回 六〇回
 - 5 第二高校 東大農學部
 - 6 東大野球部外野手として、對京大戦、東京六大學リーグ戦に活躍強打を以て知らる。

大阪府豊能郡同町。明治四十三年 一月一日

- 大坂府豊能郡同町
- 1 大阪府豊能郡同町
 - 2 明治四十三年 一月一日
 - 3 一六四回 五一・三回
 - 4 豊中中學 慶應大學
 - 5 慶大庭球部マネージャーとして、複雑なる事務の處理に當り同部の俊豪山岸、西村君等の我國庭球界の明星選手を擁し同部の發展に貢献す。

- 桐原正光 (庭球)
- 1 東京澁橋區下落合四ノ一六〇五

クノ部

熊谷 一彌 (鹿球)

神戸市神戸区中山手通七ノ九一
三菱銀行三宮支店
大正五年慶大理財科卒業。大正四年
第二回種東大会に柏尾誠一郎氏と共に
本邦最初の国際代表として上海に
派遣される。更に同年三神八四郎氏と
マニラの東洋選手権試合に諸豪を見
事撃破優勝し日本鹿球界の名譽を一
躍世界に轟かす。同九年夏第七回國
際オリムピックに再び柏尾と遠征第
二位を掌握。翌十年清水善造氏と日
本最初のデグイス戦に参加強敵澳洲
のアンダーソンフオータスを破り、
テニ保持者米國に挑戦し世界一流選
手たる榮位を確保。我鹿球界の功勞
者にて現日本鹿球會顧問。

久保田 敬一 (野球)

東京牛込區市ヶ谷仲之町一七
鐵道次官
明治十四年四月十三日東京に生る。
明治三十八年東大工科卒業。向後全
盛時代を三疊手として参始す。數多
の試合に其の職名を顯はる。東大進
級後一層同野球部の爲め努力指
導。明治三十七年初期早慶戦に審判
として三田戸保原頭にも明瞭なる判定
を宣す。工科卒業後米研究を積み
歸朝。東鐵局長を経て、現鐵道次官

申田 萬藏 (ゴルフ)

久慈 次郎 (野球)

東京麹町區永田町一ノ一七
三菱銀行取締役會長
慶應三年二月十日東京に出生。同二
十二年米國ペンシルベニア大學を卒
業。同地の銀行に入り斯業の經驗を
積み歸朝三菱に入り、各地支店長と
り累進して今日に至る。其他三菱系
諸會社の重役たり。又東京ゴルフク
ラブ財務委員にして、アマチュア
ゴルフアリ。

久山 猛 (陸上)

大阪北區會根崎町上四ノ三三
運動具商
明治三十九年岡山に生る。昭和四年
早大専科卒業。我國中距離界の雄
者にて、昭和六年度全日本五千米ベ
ストラン第四位を占め、一六分の記
録保持者。現浪花クラブに所属なし
關西陸上競技界の發展に努め、傍ら
南部忠平氏と共に運動具店を經營す

久慈 次郎 (野球)

函館市惠比須町五五
久慈運動具店
明治三十一年盛岡市に生る。身長一
七七・五(五)體重(六七・五)近世の
名捕手として顯はれし人にて、在學
中大正十年早慶戦中止以來久しく中
絶して居た三田戸保原頭復活戦及同年三
月第四回米國遠征に参加す。因に同
七年秋米國三分八厘の高率を以て
首位打者の榮冠を握る。昭和六年十
月日米野球戦には全日本軍捕手に拔
推され、又都市對抗戦には函館太洋
クラブの統帥として毎回出場、往年

吳 建 (體育)

東京神田區駿河臺二ノ一〇
東大教授
本邦統計學の泰斗故吳文馳氏の長男
明治十六年十月東京に生る。同四十
年東大醫科内科を卒業。同四十四年
心臟病研究の爲め獨逸兩國に留學。
大正三年醫學博士號を授與さる。又
前九州帝大教授たりしが招かれて、
東大醫學部に勤務現在に及ぶ。我國
に於ける心臟病學界の權威として知
られ、スウェーデン醫學研究家としても
著名たり。

窪田 藤信 (弓道)

東京淺草區田島町三四
弓道師範
嘉永四年四月一日東京淺草に出生。
身長(一六七)體重(六四・六)近
青柳一松門下の逸材として小笠原流
を得意とす。現前科大學、慈惠會醫
科大學等の師範を兼ね、壯者を凌ぐ
元氣にて多數青年の指導調育に努む
趣味義太夫

黒木 三次 (ゴルフ)

東京赤坂區青山南町六ノ一六
貴族院議員
伯爵。明治十七年十二月出生。同四
十五年東大英法科卒業直ちに横濱正
金銀行に入る。後之を辭し大正十五
年貴族院議員に互選さる。又日下東
京ゴルフクラブ所屬のゴルフアに

栗谷 忠男 (水上)

てハンデー二十二。
横濱鶴見區鶴見町一九二〇
川崎市役所水道部長
明治二十五年一月川崎市に生る。在
原中學を経て大正五年明治大學法科
卒業。十七歳にて日本體育會水泳部
教師となり、明治四十五年より大正
三年迄鹿兒島縣下中學校及高校の水
泳部教師に就任。後川崎市に水泳部
を創設最新式水泳術を基とし子弟を
教養す。後川崎市役所に赴任するに
當り川崎流水泳術を考案幾多の選
手を養成す。又劍道に長じ斯界の大
家高野佐三郎氏の門に入り小野派一
流刀を修め現在四段。日下川崎體育
協會副會長、日本軟式協會關東聯盟
副會長及同協會顧問、川崎角力協會
會長等の要職にあり。

栗山 巍 (スキー)

東京淀橋區戸塚早大スキー部
明治四十四年小樽市に出生。小樽中
學を経て早大第一早高に入學す。現
在同校スキー部の重鎮として斯界に
其勇名を顯はる。昭和六年一月第四
回學生大會(一八基米)に五位、複
合五位、同七年一月第五回同大會(一
八基米)には第六位を占め、同年二
月第十回全日本大會成年組(一八基
米)三十二位、ジャンプ二十四位、
複合十位、同八年一月第六回學生大
會(一八基米)三位、ジャンプ六位
複合二位を獲得。同年二月第十一回
全日本大會複合四位、ジャンプ七位

を占めし世界の強豪スキーヤー。同九年二月第十回万国学生スキー大会には日本代表複合選手として活躍す

黒田長和 (ゴルフ)

東京赤坂區福吉町 貴族院議員 男爵。明治十四年一月三十日出生。著各峰太郎。同三十七年學習院高等科を卒業し東大に学ぶ。後留學大に留學なし歸朝す。現在東京クラブ所屬のゴルフアーにて日下ハンデ十四。

久留島武彦 (體育)

東京澁谷區澁田四 大日本軟式野球協會副會長 明治七年に出生。子爵久留島健郎氏の再従兄。著述家並に童話家として著名なり。現早稲田幼稚園長の要職にあり。

久保新吉 (柔道)

福岡縣築上中學校内 大日本武徳會柔道教士 明治十六年五月熊本縣に生る。武道専門學校出身昭和七年五月武徳會より教士號を授與さる。

久保田 廣太郎 (劍道)

茨城縣瀧町八〇八 大日本武徳會劍道教士 慶應三年七月茨城に生る。小澤一郎師に就き北辰一刀流を究む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

工藤次男 (劍道)

旅順市吉野町 大日本武徳會劍道教士 明治十九年七月大分に生る。武徳會大阪支部に於て心形刀流を修む。昭和四年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

工藤幸一 (柔道)

弘前市下向銀町一六 大日本武徳會柔道教士 明治二十八年十二月青森縣に生る。昭和四年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

工藤一三 (柔道)

東京世田谷區世田谷一丁目 大日本武徳會柔道教士 明治三十一年七月青森縣に生る。大正十三年七月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館六段。

黒山高慶 (柔道)

大阪天王寺區東高津北野町 大日本武徳會柔道教士 明治二十八年福島縣に生る。講道館及び武徳會より教士の稱號を授與さる。五段。

倉田太一 (柔道)

廣島市文理科大學内 大日本武徳會柔道教士 明治二十五年十月三重縣に生る。講道館及び武徳會に於て修行。大正九年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。

栗原民雄 (柔道)

京都左京區吉田中大路町三〇 大日本武徳會柔道教士 明治二十九年兵庫縣に生る。武道専門學校出身。大正十一年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。昭和四年天覽試合には指定選手として出場六段。

久保利雄 (劍道)

徳島縣名四郡浦庄町 大日本武徳會劍道教士 慶應三年一月徳島に生る。四國九州に於て柳生神影流を究む。大正十一年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

國末幸造 (柔道)

東京荒川區日暮里町金杉一三二六 大日本武徳會柔道教士 明治二十五年七月岡山縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

久保山 熊次郎 (柔道)

臺灣高雄市長町一ノ一 大日本武徳會柔道教士 明治二十三年七月岡山縣に生る。昭和四年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

桑原二郎 (柔道)

熊本市桑町本町一九八 年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。六段。

大日本武徳會柔道教士 明治三十四年熊本縣に生る。武専出身。昭和四年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。五段。

鯨井寅松 (柔道)

埼玉縣本庄町仲町 大日本武徳會柔道教士 明治二十三年埼玉縣に生る。昭和三年五月武徳會より教士の稱號を授與さる。講道館五段。

倉持福雄 (馬術)

東京小石川區雜司ヶ谷町一二七 教育玩具輸出商倉持商店主 明治三十一年京都市に生る。京都帝大經濟部を卒へ現に祖父の業を繼ぎ日本橋馬場町に於て玩具輸出商を經營す。在學中より馬術部員として同校馬術部の草創時代に奮闘し、各種乗馬大會に出場なし關西馬界に雄飛す。現在東京乗馬クラブ員として紳士馬術界に活躍す。

國廣清一郎 (ゴルフ)

大阪西區阿波野四ノ三五 羽二重輸出商 明治三十四年八月七日大阪市に生る。慶大に學び先代仰之助後家業を繼承して今日に至る。又茨木カンツリクラブ所屬のアマチュアゴルフアー。趣味音楽演奏。

久保田高行 (野球)

東京麹町區有樂町朝日新聞内 東京朝日新聞社

久邇邦久 (ホッケー)

東京澁谷區若木町十一 大日本ホッケー協會總裁 久邇宮邦彦王殿下第二王子。明治三十五年三月出生。府立第一中學を経て、陸軍士官學校卒業。大正十二年臣籍を降下して一家を創立し久邇の家號を賜はり華族に列し、侯爵を授けらる。

黒田武定 (庭球)

1 東京澁野川區田端町六三三 高田市西城町 明治二十一年 四月二十八日 一六二・八割 五八・九近 東京高師附小學 附屬中學 一高 東大

黒田武定 (庭球)

1 香川縣坂出町 明治四十一年 十一月二十五日 一五九・五割 五四・四近

楠好藏 (陸上)

明治三十六年東京に生る。早稻田實業出身にして、中等球界に同部代表選手として活躍。現在東京朝日新聞運動部に在り、スポーツ記事に先聲に伍して堂々たる健筆振りを揮ふ。

坂出西部小學校

7 我國の生んだ世界的長距離選手。二十一歳の際第一回關西聯合青年團大會一萬米に優勝(三二分三秒)せるを最初として、爾後陸上競技大會の主なるレースに出場活躍なし、昭和六年度マラソンベストラン四位を占め、昭和八年第七回明治神宮體育大會には連続三回目的の出場にて、縣青年團主將として健闘す。前記同體育大會最終日(一戦)には二時間三一分一〇秒の日本世界最高記録を破り(世界選手ザハラ(アルゼンチン)の保持する二時間三一分三六秒を破破せるもの)第十回のロスアンゼルス遠征に洩れたために發憤し、其後一年の研鑽努力は遂に躍進記録を生む。

栗本義彦 (陸上)

1 熊本市出水町 和歌山縣 明治三十二年 七月十八日 一六五・八割 六〇近 四ヶ郷小學校 和歌山師 東高師 熊本縣體育主事 師範時代より長距離選手として知られ、當時關西中等學校大會一萬米に優勝。東京高師在學中も競技部選手にて富士、淺間登山マラソンに健闘を以つて制覇。大正十三年東京高師卒業後五高教授となり現熊本縣體育運動主事。昭和七年第十回國際競技大會陸上選手役員囑託として渡米なし、歸路歐洲各國の體育觀察を経

紅林武男 (體操)

1 東京中野區宮里町一 東京市 明治四十二年 八月十二日 一六四割 五七近 府立六中 東京市教員講習所 教員 7 民衆體育の指導者。中學時代水泳及體操競技を研究す。卒業後文部省中等學校教員檢定試験に合格す。昭和五年深川區代表として、東京市教員體育大會に於て四百米リレーに出場榮位を占む。専ら一般民衆の體育増進及び普及に努む。現民衆體育の權威三橋體育研究所に於て研鑽中。又日下東京神田區練成小學校の指導たり。

桑島秀太郎 (陸上)

1 香川縣内 香川縣 明治十七年 一六四割 五七近 香川縣廳 7 香川縣廳社會課體育主事として明治神宮青年團大會に大正十三年(第一回)大正十五年(第三回)昭和八年(第七回)と三回縣青年團監督に就任し常に好成績を挙げ。特筆すべきは昭和八年第七回大會に楠好藏君のマラソンに於て其健脚を以つて見事世界最高記録(二時間三一分一〇秒)を作りて同氏等の多年懸下一般民衆の體育普及の賜物たり。

窪寺春夫 (野球)

1 東京中野區新井町五一五 神戸市 明治四十一年十二月二十日 一六八・五割 六四・六近 神港商業 法政大學 7 前姓久保春吉。中等球界の超等級神港商業内野手として甲子園に四回出場。法大にては名三壘手として其堅強を守り、六大學リーグに其勇名を轟かす。常に同部の強打者にて、昭和五年秋(大正六年リーグ)加盟以來離伏十四年、遂に諸校の強剛を一蹴し覇權を握り、翌年第一回全國遠征に参加任職す。同七年春季リーグに個人打撃率三割四分六厘を以て第二位を獲得。現東京クラブ三壘手として都市對抗戦に健闘。

國友正一 (野球)

1 臺北市臺北交通局通信部内 靜岡縣 明治四十三年 一七〇割 五七近 靜岡中學 立教大學 7 中學時代一壘手として東海中等球界に雄飛。立教にありては一壘手及び外野手を務め、東都六大學リーグに

活躍。昭和六年秋季リーグには六大...

栗原傳次郎 (陸上)

- 1 東京小石川區東京高師寄宿内...

熊崎省三 (陸上)

- 1 直方市直方町...

六)昭和八年三月門前管内競技大会...

栗佐五郎 (陸上)

- 1 大分縣宇佐郡和同村...

倉島多兵衛 (陸上)

- 1 長野縣水上内郡大島村...

體育大会には我國競技界の新種目に...

栗原太市 (陸上)

- 1 奈良縣磯城郡川東村...

信雄 (野球)

- 1 東京中野區法政野球部合宿所...

黒田敏郎 (野球)

- 1 東京中野區法政野球部合宿所...

1 東京町町區五番町一八...

黒田保次 (陸上)

- 1 東京杉並區西高井戸二ノ三七...

熊谷玄 (野球)

- 1 同石城郡大野村...

1 京城府京城電氣會社合宿所内...

黒川義雄 (野球)

- 1 東京四谷區左門町一〇ノ三關方...

桑原強 (陸上)

- 1 福井縣松岡町...

栗林貞吉 (相撲)

- 1 香川縣綾歌郡造田村...

草野仁 (陸上)

- 1 福島縣小名濱町...

久郷正行 (柔道)

- 1 富山縣神通町...

倉橋幸三郎 (拳闘)

- 1 大阪府千里山關西大學...

熊ヶ谷猪之助 (相撲)

- 1 東京江戸區小岩町三ノ一八六八...

黒川俊雄 (漕艇)

- 1 東京澁谷區下落合町一ノ三六七...

して、神宮製技會に母校代表選手となり出場。後同部の主將に就任。統帥の任に當りし同部の功績者。日下關東同志クラブVIOB俱樂部の發達に努む。

桑田 武夫 (陸上)

- 1 神奈川県大船町 富岡方
- 2 兵庫縣保保部保村
- 3 明治四十一年 一月二十七日
- 4 一七三號 六六・五冠
- 5 龍野中學 慶應大學
- 6 富岡徴兵保險會社
- 7 慶大路上競技部飛選手として、第七回早慶對抗競技に出場。走幅跳記録六米七七保持。昭和三年大連に於ける日佛對抗競技には日本代表三段跳又走幅跳選手として参加活躍。織田南部に次ぐジャムパーとして知らる。現在KOAスレックタムバ趣味觀劇

黒木 正巳 (野球)

- 1 東京杉並區阿佐ヶ谷五ノ八倉田方
- 2 福島縣相馬郡金房村
- 3 明治三十八年 五月十六日
- 4 一六四號 六一・九冠
- 5 相馬中學 早稻田大學
- 6 東京火災保險會社 全安田
- 7 前相馬中學投手。早大入學後井口新次郎氏の後を受けて三疊手としてリーグ戦に奮闘。後推されて第二十二代主將となる。昭和六年春季早慶戦に鐵腕投手伊達正男氏の三日連続等により優勝。現東京火災本社に勤務し、東京俱樂部に所属都市對抗戦

に出場。現東都實業團の巨敵全安田に属す。

黒田 龍馬 (陸上)

- 1 東京杉並區高井戸二ノ三七
- 2 同
- 3 明治三十七年 一月三日
- 4 一七六號 六四・六冠
- 5 慶應大學
- 6 東京日日新聞社 慶應OB
- 7 慶大路上競技部選手として早慶戦インナーカレッジ等に活躍。卒業後東日に入り専ら運動界を擔當し多年の蘊蓄を傾注して運動界の各方面を縦横に馳騁し競技の眼識を以て常に新界を啓發指導す。

黒木 豊助 (陸上)

- 1 東京品川區大井日本體操學校内
- 2 鹿兒島縣薩摩郡佐志村
- 3 明治四十年 五月五日
- 4 一五九・五號 六九・四冠
- 5 鹿兒島第一師範 日本體操學校
- 6 日本體育會體操學校
- 7 昭和三年名古屋體育會主催陸野大會十種競技に優勝。翌年新潟縣主催競技大會十種競技に第二位獲得。現在母校陸上競技部の指導者及武道部長(講道館三段)として努力す。

熊澤 茂勝 (ラグビー)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 群馬縣伊香保町
- 3 明治二十三年 十月六日
- 4 一六四號 六一・九冠
- 5 伊香保小學校

木村屋總本店 木村屋チーム 育獎勵の爲め昭和五年ラグビー部を創設し野球部と共に都下實業團チームの同好チームとして知らるゝに至る。現同店運動部總監督として同部の發展に盡力す。

倉上 美棟 (陸上)

- 1 東京中野區昭和通一ノ一
- 2 東京市
- 3 明治三十二年 二月十日
- 4 一七〇號 六七・五冠
- 5 仙臺二中 二高 東大
- 6 安田銀行 安田ラグビー
- 7 中學時代は野球部二疊手。二高に入りては端部整調手、陸上競技部短距離選手、馬術部選手として陸上競技は對水高戦に優勝。馬術は東北帝大主催馬術大會に入賞す。東大を経て安田本店に入社。現在全安田ラグビー部々長たり。趣味ゴルフ

倉島 謙吉 (ラグビー)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 上田市
- 3 大正三年
- 4 一六八・五號 五八・九冠
- 5 上田小學校
- 6 木村屋總本店 木村屋チーム
- 7 木村屋ラグビー部Hとして昭和五年創立以來活躍。同七年時事新報主催實業團ラグビー大會に出場優勝の榮冠を獲得し、又同店野球部投手として強肩強打を以て都下實業野球大會に奮闘す。

栗本圭輔 (柔道)

- 1 東京荏原區中延町七〇八
- 2 福岡縣若松市五反町
- 3 明治二十二年 五月十二日
- 4 一六五・五號 八九・三冠
- 5 若松小學校 東筑中學 明治大學
- 6 不動貯金銀行
- 7 中學時代柔道部選手として縣下各大會に出場。大正十一年初段、同十三年三段と果進し、昭和二年四段、現在五段に昇進し、明大在學中は柔道部監督として斯道の發展に盡す。大正十五年同校法科卒業。趣味麻雀

熊谷 二郎 (拳闘)

- 1 東京麹町區大坂ビル三階藤井方
- 2 青森縣
- 3 明治四十二年
- 4 一七〇號 一四七・センド
- 5 明大學同部師範
- 6 我國拳闘界の功勞者にてリエルト一級選手。日拳クラブに所属し昭和三年渡米研鑽同五年歸朝。當時新界を風靡せし殺人ボビーをKOし拳闘の神祕と稱され非常に人氣を博す。又斯界の急速なる發展は氏の活躍貢獻に依る所甚大なり。後臨海野球協會に屬せし之を辭す。

黒澤 悌三 (卓球)

- 1 東京京橋區木挽町一ノ八
- 2 函館市大森町
- 3 明治三十九年 一月二十九日
- 4 一五八號 五一・三冠

久原 義之 (柔道)

- 1 東京世田谷區野澤町一ノ二五〇
- 2 佐賀縣
- 3 明治三十九年
- 4 一六八・五號 七五冠
- 5 佐賀小學校
- 6 警視廳警察官 講道館
- 7 講道館四段。對稱試合に數回出場。其他警視廳より選抜選手として、神奈川県沼津及東京電燈會社等の各試合に出場健闘。現芝高輪警務所に及發進に盡力す。

久原 正安 (ラグビー)

- 1 東京芝區白金令里町九六
- 2 同
- 3 明治三十八年
- 4 一六一・一號 五七冠
- 5 慶應大學法學部
- 6 第一生命保險會社
- 7 舊姓堤。在學中低障礙選手及ラグビー部主將として、同軍を統帥東都ラグビー界を風靡す。現關東ラグビー蹴球協會所屬にて、同社ラグビー部Tとして實業ラグビー界に活躍す。

栗田 繁造 (野球)

- 1 富山縣野町富山紡績會社内
- 2 福井縣敦賀町
- 3 大正二年
- 4 一七〇號 六七・五冠
- 5 敦賀商業
- 6 富山紡績會社
- 7 富山紡績チームの一疊手。北陸實業野球大會に四年連続覇者の地位を保ち、昭和八年春創立せし中部日本紡績選抜大會に優勝す。同年第七回都市對抗戦には健勝強打を揮ひ、其守備の完璧を以て知らる。

久保 圭之助 (陸球)

- 1 東京澁谷區代々木四原八六四
- 2 東京市
- 3 明治二十八年 七月一日
- 4 一六二・五號 六〇冠
- 5 大阪福島工業 早稻田大學
- 6 日本蹴球協會
- 7 前早大蹴球部選手。大正十年同校専攻科卒業。後日本蹴球協會役員として斯界の發展に盡し、現在同協會主事に就任。本邦蹴球界をして國際的發展に大いに努めし我國蹴球界の功績者。

栗原 清一 (野球)

- 1 横濱中區尾上町六丁目
- 2 横濱市

栗田 繁造 (野球)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 栃木縣河内郡安川村
- 3 明治四十三年 十二月十五日
- 4 一五五號 五二・五冠
- 5 安川小學校
- 6 木村屋總本店 木村屋チーム

栗田 繁造 (野球)

- 1 東京中野區住吉町四二
- 2 神戶市中野
- 3 明治三十八年 三月二十四日
- 4 一六五號 五四・四冠
- 5 橋小學校 神戸二中 第六高 東京帝大
- 6 農林省實業課
- 7 中學時代二疊及遊撃手として扇港野球大會に出場優勝し、六高に入りては近畿野球大會に遊撃手及中堅手として参加優勝。東大を経て農林省に入る。青森警務局當時林業クラブ二疊手として活躍す。現在農林事務官。

栗原 清一 (野球)

- 1 東京下谷區入谷町一三
- 2 東京麹町區上六番町
- 3 明治三十一年 二月十七日
- 4 一五六・五號 五二・五冠
- 5 香町小學校
- 6 洋服商 松葉屋クラブ
- 7 松葉屋洋服店主。多数店員の體育獎勵の爲め昭和四年松葉屋チームを組織す。五年以來東京洋服商野球大

3 明治二十一年 五七冠
 4 一六四冠 七高 九州帝大
 5 櫻井一 七高 九州帝大
 6 栗原病院長
 7 大正二年九州帝大醫學科を卒業、スポーツを好み、現全横濱軍の監督として都市対抗戦に、同軍を引率出場同軍の信望篤き名監督たり。又醫學博士の學位を以つて同市に病院を經營す。

久保盛次 (柔道)
 1 佐賀縣小城郡青刈村
 2 同
 3 明治四十二年 一月三十一日
 4 一六七冠 六七・五冠
 5 青刈小 小城中學
 6 同
 7 前小城中學柔道部主將。現柔道四段。縣下柔道界を常に風靡なし、昭和八年第七回明治神宮體育大會に佐賀縣聯合青年團選手として出場總得點七點を獲得。

楠本忠次 (庭球)
 1 兵庫縣武庫郡住吉村高林
 2 支那香港
 3 大正元年十一月九日
 4 一六八・五冠 四九・四冠
 5 甲南高校文科
 6 同
 7 昭和六年度ジュニアインターナショナル(複)十位、同五年度第三回全日本ジュニア選手權大會に出場(複)優勝す。現甲南高校庭球部の第一人者。

黒田よね子 (山岳)
 1 東京麹町區平河町五ノ一七
 2 神奈川縣小田原町
 3 明治三十五年 十一月二十三日
 4 一五二冠 五二・五冠
 5 平塚小 跡見女學 東京女子大
 6 同
 7 婦人登山家として著名。黒田慎夫氏の妻。大正十三年夏女子登高隊の記録保持者。昭和六年四月(冬山)女子上地登高隊を率いてレコードホルダー。趣味スポーツ。

久世多賀之助 (相撲)
 1 宮崎市岡宮
 2 延岡市
 3 明治四十五年 二月四日
 4 一六八・七冠 七二・二冠
 5 延岡商業
 6 農業
 7 縣下青年相撲界の精銳にて、昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場活躍す。

黒田忠司 (野球)
 1 東京豊島區長崎立大野球場内
 2 兵庫縣
 3 大正二年
 4 同
 5 経路中學 立教大學
 6 同
 7 中學時代より内野手にて、現立教大學野球部新鋭三壘手として、昭和八年秋のリーグより出場其守備に將來を期待する。

國原和夫 (野球)
 1 濱松高等工業學校
 2 廣島縣
 3 大正三年
 4 一六七冠 六四・六冠
 5 吳中學 濱松高工
 6 同
 7 中學時代より外野手にて、現濱松高工右翼手として、高専大會關東選及其他諸大會に出場愉快を以つて誇る。

久米一二 (野球)
 1 濱松高等工業學校
 2 名古屋市
 3 大正元年
 4 一七四・五冠 五七冠
 5 愛知一中 濱松高工
 6 同
 7 東海の巨砲愛知一中の外野手として、中京に其名譽を高め、現濱松高工外野手を務め、全國高専會關東選等に出場活躍す。

隈本一雄 (排球)
 1 東京品川區大井日本體操學校内
 2 福岡縣八女郡長峰村
 3 大正二年 十二月二十五日
 4 一七〇冠 六〇冠
 5 八女中學 日本體育會體操學校
 6 同
 7 中學時代よりバレーボール選手として知られ、日本體操學校に入りては昭和七年リーグにセンターとして活躍優勝す。

楠本秀夫 (ラグビー)
 1 東京日原區上日原八ノ四〇六
 2 長崎縣東彼杵郡埴屋村
 3 明治四十四年 五月七日
 4 一六四冠 五七冠
 5 淺草小 府立七中
 6 第一生命保險會社
 7 中學時代ラグビー部及蹴球部選手として、東都中等學校ラグビー及蹴球界に雄飛。現在同社ラグビー部の名FWとして名譽を馳す。趣味スポーツ。

黒川平 (ラグビー)
 1 東京麹町區下二番町六八
 2 同
 3 明治三十八年 十二月四日
 4 一六七冠 六一・九冠
 5 東京中學 法政大學
 6 第一生命保險會社 法政OB
 7 法政大學在學中ラグビー部FW選手として活躍し、昭和四・五年度ラグビー部マネージャーを勤め同部の發展に盡力す。現在法政OB部々員並に第一生命ラグビー部セクレタリ。

黒澤吉二郎 (剣道)
 1 東京品川區千駄ヶ谷五ノ八五三
 2 茨城縣岩間町
 3 明治四十五年 六月一日
 4 一五九・五冠 五二・五冠
 5 水戸附屬小學校 水戸中學
 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
 7 南關東の雄水戸中學劍道部主將。

倉持仁 (ラグビー)
 1 東京芝區金杉川口町二二
 2 同
 3 明治四十二年 三月十五日
 4 一六七冠 六〇冠
 5 大倉高等商業
 6 帝國生命保險會社 帝生クラブ
 7 大倉高等商業部FWとして全國高等蹴球大會に出場大いに活躍す。現在帝國生命本社に勤務同社ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に奮闘す。趣味読書。

久保威草 (野球)
 1 仙臺鐵道局電氣庶務課内
 2 青森縣
 3 明治四十四年
 4 一六四冠 五七冠
 5 福岡中學
 6 仙臺鐵道局 仙臺野球部
 7 中學時代投手及遊撃手。仙臺に入りて昭和六年全國鐵道野球大會に優勝し第六回都市對抗戦には仙臺代表に選拔され華々しき戦跡を印す。

窪田武夫郎 (弓道)
 1 東京淺草區田島町三四
 2 同
 3 明治三十六年 一月二十五日
 4 一七〇冠 七六・九冠
 5 赤坂中學 東京農業大學
 6 弓道師範
 7 東京商大及慈惠醫科大學弓道部師範として多数學生の指導養成に盡力す。令兄眞太郎氏と共に弓道界の權威者として有名なり。

鐵頼造 (剣道)
 1 東京本所區江東橋四ノ二〇ノ一
 2 北海道禮文郡香深村
 3 明治三十二年 六月三日
 4 一五八冠 五八・九冠
 5 警視廳警察官
 6 昭和四年頃より劍道を修行同六年十二月四ノ下(武徳會二段相當)に昇進。現在本廳勤務。

桑江良藏 (野球)
 1 仙臺鐵道局運輸課
 2 東京市
 3 明治四十年 六七・五冠
 4 一七六冠 六七・五冠
 5 成城中學 國學院大學

日下部三紀 (籠球)
 1 東京横濱生命保險會社内
 2 埼玉縣南埼玉郡須賀村
 3 明治四十三年 二月十二日
 4 一六七冠 六四・六冠
 5 明治大學
 6 横濱生命保險會社 明大OB
 7 明大在學中は籠球部選手として神宮競技其他に活躍し技藝の精進と氣魄が推されて昭和六年同部の主將となる。現在明大OB及YMCAに所属。趣味読書。

栗田勳 (射撃)
 1 東京瀧野川區瀧野川町六六五
 2 同
 3 明治三十七年 六月四日
 4 一六四冠 五・三冠
 5 京都府立二中 三高 京大農学部
 6 東京警務局
 7 三高を経て京大に入る。京大射撃部創立者にして同部初期の選手として對東大戦に出場活躍し、個人最高得點四二保持、名射手として知らる。趣味寫眞。

熊谷武彦 (ラグビー)
 1 東京向島區香堀町四九ノ四五
 2 小倉市堺町
 3 明治三十七年 三月三十日
 4 一六一冠 七二・二冠
 5 慶應大學
 6 帝國生命保險會社
 7 慶大ラグビー部FWとして早慶戦神宮競技等に出場大いに活躍し、現在帝國生命ラグビー部マネージャーとして東都實業ラグビー界に知らる。趣味長唄。

工藤健六 (陸上)

- 1 東京神田區中央大學内
- 2 青森縣黒石町
- 3 明治四十一年 三月三十一日
- 4 一六七七 五七七
- 5 黒石小學校 青森商業 中央大學
- 6 7 中央大學農技部高跳選手にて、商業時代には全國中等學校農技大會等にも出場活躍す。

國方佐八 (陸上)

- 1 香川縣木田郡十河村
- 2 同
- 3 大正二年 五月十一日
- 4 一六二・五 六七・五
- 5 十河小學校
- 6 郵便局員
- 7 昭和八年第七回明治神宮體育大會に純日本式農村特種の競技界の新種目依撥競走に出場。

草野良夫 (柔道)

- 1 東京小石川區大塚高師寄宿舎
- 2 福島縣石城郡赤井村
- 3 明治四十五年 三月二十八日
- 4 一七〇 七二・二
- 5 赤井小學校 警城中學 東京高師
- 6 中學時代より柔道部選手として活躍す。現東京高師柔道部員にて目下三段の階級。趣味尺八編唄。

熊瀨鐵丸 (柔道)

- 1 東京豊島區長崎南三ノ三八五六
- 2 大分縣大野郡重岡村

倉田嚴美 (野球)

- 3 明治三十一年 九月七日
- 4 一六四 七四七
- 5 警視廳警務官
- 6 7 柔道四段。警務界に於ける期道の強豪闘士にて、現警務部に於いて警視廳警務課に勤務す。

熊城正 (野球)

- 1 東京中野區法大野球部合宿所
- 2 大阪市
- 3 明治四十五年
- 4 一七〇 五七七
- 5 甲陽中學 法政大學
- 6 7 法政大學野球部左翼手として、六大學リーグに活躍健勝を以て鳴る。

窪田真太郎 (弓道)

- 1 東京淺草區田島町三四
- 2 同
- 3 明治三十四年 二月二十四日
- 4 一五八 五四・四
- 5 日白中學
- 6 弓道師範

倉田浩 (野球)

- 7 中央大學弓道師範として、多数學生の指導養成に盡力す。令弟武次郎氏と共に弓道界の權威として著名。
- 1 東京荏原區戸越町三二二ノ一
- 2 千葉市
- 3 明治四十四年 二月十六日
- 4 一七三 六一・九
- 5 關東中學 國學院大學
- 6 7 中學時代中堅手。現五大學リーグの雄、國學院野球部左翼手として活躍。投打共右。

鍛形幸次郎 (柔道)

- 1 東京深川區白河町三ノ六
- 2 同
- 3 明治二十四年 一月五日
- 4 一五八 五七七
- 5 警視廳警務官 警視廳
- 6 7 深川四平野警務署柔道部選手として、警視廳武道大會對署試合等に出場大いに活躍す。趣味囲碁。

桑澤愛之助 (庭球)

- 1 東京豊島區眞鶴五丁目一〇五四
- 2 同
- 3 明治四十三年 二月十日
- 4 一六七 五八・九
- 5 第一高等學院
- 6 7 早大庭球部の開府。昭和八年第五回全日本學生選手權大會に出場健闘す。其他各大會及對校試合に出場活躍す。

倉富彌三郎 (柔道)

- 1 東京京橋區京橋警務署
- 2 佐賀縣小城郡多々村
- 3 明治三十三年 一月十五日
- 4 一五八 六〇七
- 5 警視廳警務官 警視廳
- 6 7 京橋警務署柔道部代表選手として對署試合に毎回出場活躍す。現在柔道三段、同署の精鋭たり。

コノ部

小池厚之助 (體育)

- 1 東京牛込區市ヶ谷神ノ町五
- 2 小池銀行頭取
- 3 明治三十二年三月十六日東京日本橋に生る。一高を経て大正十二年東大法科卒業。英國に留學後小池銀行重役となり今日に至る。國民體育向上身體鍛練の獎勵、健康の保持増進を計らんと、故小池國三氏の遺志に依り、同十四年六月獎健會を設立す。現に同會理事として國民の體力増進運動其他身體鍛練に關する思想の普及に貢獻する所多し。其他東京ゴルフクラブ總務委員にて同クラブ所屬のゴルフアー。目下ハンデ一十九。趣味旅行スポーツ。

古在由直 (弓道)

- 1 東京小石川區駕籠町一九七
- 2 生弓會名譽會長
- 3 明治元年京都に生る。明治十九年駒場農學校卒業。母校に教鞭を採り獨逸に留學す。歸朝後帝大農學部教授大正九年より昭和三年迄東京帝大總長たり。現在東大名譽教授にて明治三十三年農學博士號を授與さる。在學中(駒場農學)本邦球界の元始時代に強打者として有名なり。

小山松吉 (弓道)

- 1 東京赤坂區青山高樹町二〇
- 2 日本學生弓道聯盟代表者

小寺西二 (ゴルフ)

- 1 東京日黒區上日黒一ノ二六ノ五
- 2 慶應普通部教授
- 3 明治三十年十一月一日大垣市に生る。神戸一中を経て渡米しプリンストン大學に學ぶ。現在アマチュアゴルフアーとして、東京クラブ會員に屬し、目下ハンデ一七。同クラブの開府にて全日本アマチュア選手權大會等に出席し、昭和七年同大會の準優勝試合に善戦す。趣味繪畫登山。

小泉親彦 (體育)

- 1 東京澁谷區四落合一ノ一九八
- 2 近衛師範軍醫部長
- 3 明治十七年九月九日福井縣に生る。同四十二年東大醫科卒業。陸軍に奉職累進して軍醫となる。其間歐米に出張する事二回。大正十年商工省嘱託となりて、産業合理化に關する研究に從事。同九年醫學博士の學位を授與さる。現陸軍大學同軍醫學校教官にて又スポーツ醫學の専攻として著名。

小杉未醒 (體育)

- 1 東京品川區大井瀧王子町四五三九
- 2 早稻田大學野球部總務
- 3 明治十七年三月十一日石川縣に生る。横濱商業を経て同四十年早大商科卒業。初期早慶戦當時鐵腕投手として活躍。同三十八年本邦球界空前の壯舉早大第一回米國遠征の際の如きは連戦二十餘回の試合に連続し米人をして鐵腕投手の暁譽を發せしめし往年の名投手。現在早大野球部總務の重職に有り果斷智謀よくチームの大御所として著名。

近衛文麿 (ゴルフ)

- 1 東京麹町區永田町二ノ二六
- 2 貴族院議長
- 3 公爵。明治二十四年十月出生。大正六年京大法科卒業。翌年十二月調和會議に西園寺公に隨行を命ぜられ各國を視察す。又財團法人日本青年會理事長たりし事有り。現東京ゴルフクラブ財務委員にて、全日本アマチュア選手權大會にも出場奮闘す。目下ハンデ一十四にて、アマチュアIゴルフ界の俊將。

小池禮三 (水上)

- 1 東京芝區三田慶應義塾内
- 2 大正四年静岡縣沼津に生る。其國水泳界の至寶選手。沼津商業時代より其の天分を世界に輝かし、昭和七年第十回國際競技大會に日本代表として輝然たる記録を以て水上日本の名譽を高む。同年ベストテン二百米(二分四・九)に一位。同八年慶大に入學同年六月第七回早慶戦に二百米平泳(二分四・四秒二)に世界新記録を作。

小柴大輔 (野球)

- 1 東京麻布區材木町二〇
- 2 ベイスポール社
- 3 舊姓三宅。球界の權威者にて前慶大第七代主將。最初種代の怪投手菅瀧一馬氏の捕手として活躍後一壘手と二壘投手と轉じ、殊に捕手一壘手として名譽を博す。大正七年同校理財科卒業。後年早慶復讐戦當時の三田

軍の監督に就任す。又前六大學専屬審判員を勤め、現在自動車業を經營し月刊「ベニスボール」の編輯に従事す。

小橋 一太 (體育)

東京品川區上大崎町二ノ五三八
明治三年本市に生る。同三十一年東大法科卒業。内務省に入り衛生土木の諸局長より内務次官に歴任す。大正十三年一月清浦内閣成立に當り内閣書記官長に任ぜられ、同九年以來郷里より代議士に當選す。初め政友會に屬せしが同十三年政友會分裂に際し、政友本黨樹立に賛成し同幹事長となる。後憲政會に合流して民政黨を樹立。昭和四年濱口内閣成るや文部大臣に親任。

本 壽 (野球)

東京蒲田區矢口町七四二慶大合宿内
慶應大學野球部監督
東京出身。慶大普通部を経て大正八年慶大政治科卒業。三壘手及外野手として大正初期球界に力戰す。同三年三月三壘手にて第二回慶大全國遠征の爲め渡米し、三十一戦十四勝十五敗二分の好成績を以つて歸朝。同六年秋季には四割一分九厘の高率にて首位打者の榮譽を擲る。卒業後六毎野球團に入り後同十二年春季に第三代慶大野球部監督に就任。後數回渡米し又數多の名選手を調育輩出し六大學中の名監督。

九重 福馬 (相撲)

東京本所區大日本相撲協會内
大日本相撲協會會寄
本名高橋福馬。明治二十六年大分縣に生る。力士名等國と稱す。井筒の弟子となり。大正四年初土俵闘と改名。大正十年五月入幕。昭和三年一月大關となる。同五年一月九勝二敗の成績で優勝を掲げ同年引退す。又大日本相撲協會の検査役も務めし事あり。

小角 彌三 次 (柔道)

神戸市小野柄通八ノ五九
大日本武徳會柔道範士
明治元年八月徳島に生る。拾歳にして龜井吉衛氏に就き同二十三年天神眞流の背傳を受け、爾來郷里に於て子弟の教導に努む。同三十五年兵庫縣警察部に奉職。大正元年五月教士昭和二年範士の稱號を授與せらる。同四年五月武徳會武道鑑衡委員を囑託す。

小林 雅 一 (ゴルフ)

東京赤坂區青山北町六ノ四八
内外勸業株式會社常務取締役
明治二十一年十一月二十一日山梨縣に生る。夙に米國に渡りノーザン大學商科を卒業。直ちにオーバークラフ自動車社に入り、後歸朝後内外クラブ所屬のアマチュアゴルフクラブにして、目下ハンデ一十八。

小平 浪平 (ゴルフ)

東京本郷區駒込東片町一四〇
日立製作所専務
明治七年四月栃木縣に生る。同三十三年東大工務科卒業。現在日立製作所専務の外工業品規格統一調査會委員にて、昭和三年實業に精勵せし歴を以て勲章を賜ふ。又現在アマチュアゴルフクラブとして、東京クラブに所屬なし目下ハンデ一二十二

小關 政 (劍道)

大連市瀋陽區内瀋陽支那支部
大日本武徳會劍道範士
明治四年京都府龜岡に生る。幼より武道に志し明治二十四年劍豪龍手山安定氏に就き心形刀流無刀流の免許を受く。同三十八年教士號を、大正十三年範士號を授與せらる。昭和四年五月御大典記念武道天覽試合に指定選士及審判員の光榮に浴す。

古館 理 三 (野球)

東京日原區洗足一四六三
明治四十二年佐賀縣に生る。福岡高校を経て昭和七年東大經濟科卒業。高橋時代より投手として鳴らし、入部と同時に主戦投手の重任を帯ぶ。當時豪傑たりし帝大軍の主戦投手として氏獨特の武器スローカーブを以つて屢々帝大軍に勝因を作る。

古賀 浦 茂 (相撲)

東京本所區東兩國二ノ七
大日本相撲協會

明治二十七年十月福岡縣藤山村に生る。藤山小學を翹て力士となる。身長一七六釐、體重九〇斤。本名津上茂。大正八年一月宮城野部風力士として初土俵。昭和三年一月入幕。同五年大阪場所にて好成績を擧ぐ。現前頭。左四つを得意とす。

近藤 利兵衛 (ゴルフ)

東京麹町區下二番町四七
鎌倉酒造商店
舊姓白井六郎。明治十九年三月福島縣に生る。同四十二年慶大理財科卒業。先代の遺業を繼承して洋酒業を營み現多額納税者たり。又東京ゴルフクラブ所屬アマチュアゴルフクラブにて目下ハンデ一十三。

近藤 彌 一 (野球)

東京府北多摩郡三栗村下連雀
執筆家
明治二十九年兵庫縣に生る。大正八年早大英文科卒業。在學中野球部選手たりし事あり。野球及ゴルフに關する數多の著書あり。現に雜誌「ゴルフ」を編輯し、特に野球批評家としても知らる。

小西 得 郎 (野球)

東京中野區住吉町三〇
東京出身。日本中學を経て大正八年明大商科卒業。明大野球部黎明期の外野手及第八代主將として活躍す。大連市南滿工業專門學校内

小谷 澄 之 (柔道)

小島 久 太 (山岳)

東京杉並區阿佐ヶ谷三ノ五〇〇
豊年製油會社常任監査役
明治七年十二月二十九日高松市に生る。同二十五年横濱商業卒業。横濱正金銀行に入り各地副支配人、桑港支配人、本店秘書課長に歴勤。昭和五年現職に就任。又日本山岳會々長として新界の權威者。

後藤 長 一 (陸上)

東京城東區龜戸町五ノ一五
計理士
岐阜縣出身。大正十年明大商科卒業。マラソンの猛者として、大正九年駒場に於て、第八回全國陸上大會に二時間五七分一〇秒の記録を占め、長距離界に其健脚を誇る。

古賀 恒 吉 (劍道)

金澤市本町町三〇
大日本武徳會劍道教士
明治十六年四月佐賀縣に生る。武術教員養成所に於て戸田流を究む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授與せらる。昭和四年武道天覽試合には指定選士として出場。

兒 玉 伊 織 (馬術)

コノ部

宮崎市橋通四ノ一二一
日本國際馬術協會評議員
慶應三年九月宮崎縣に生る。夙に宮崎縣廳に奉職し、爾來宮崎縣廳會議員等を経て現在同議長となる。又議員クラブ理事長にて傍ら馬政委員會委員たり。曾て同縣政友會支部長たりし事あり。

小室 俊 夫 (ゴルフ)

東京赤坂區新坂町四二
三菱航空會社
明治三十年四月東京に生る。大正十一年東大工務部機械工學科を卒業。直ちに三菱に入り現同航空會社の技術たり。又ゴルフを好み東京ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルフクラブにて、目下ハンデ一二十四。

小島 三 郎 (體育)

東京芝區白金三光町四八六
東大教授傳染病研究所員
明治二十一年八月岐阜縣に生る。大正五年東大醫科卒業。同十三年醫學博士の學位を受け、同十五年歐米に留學す。現明治神宮體育會評議員、全日本スキー聯盟評議員にて又日本醫科大學教授等の要職にあり。野球に趣味あり。

小岩 井 貞 夫 (野球)

柳濱中區南太田町一七一九
縣會議員
明治二十六年神奈川縣出身。大正六年早大商科卒業。早大野球部選手に際して、同五年早大第三回全國遠征に際し、殘餘の第二選手として留守守チムを組織し、明大法政と對戦又破竹の勢を以て關西各學校と大いに善戰す。現早大評議員たり。

越川 助 三 郎 (柔道)

大阪住吉區阿部野筋四ノ五五
大日本武徳會柔道教士
明治二十三年六月千葉縣に生る。昭和三年五月武徳會より教士號を授與せらる。講道館五段。

近藤 茂 吉 (山岳)

東京麹町區元岡町一ノ二七
貿易商
明治十六年一月七日千葉縣に生る。大正四年大正大學を卒業。更に英國スコットランドグラスゴウ大學に學び、近藤合名會社に入る。現海外直輸出入商を營む。又日本山岳會評議員たり。

近藤 盛 一 (劍道)

高崎市堀江町
大日本武徳會劍道教士
明治十年十月愛知に生る。一心館及武徳會支部に於て小野派一刀流を究む。大正十一年五月本部より教士の稱號を授與せらる。

古賀 末 次 郎 (劍道)

大分市春日浦八二六
大日本武徳會劍道教士
明治十六年十二月福岡に生る。武徳會本部に於て山口流を究む。昭和四年五月教士の稱號を授與せらる。

明治二十七年十月福岡縣藤山村に生る。藤山小學を翹て力士となる。身長一七六釐、體重九〇斤。本名津上茂。大正八年一月宮城野部風力士として初土俵。昭和三年一月入幕。同五年大阪場所にて好成績を擧ぐ。現前頭。左四つを得意とす。

近藤 利兵衛 (ゴルフ)

東京麹町區下二番町四七
鎌倉酒造商店
舊姓白井六郎。明治十九年三月福島縣に生る。同四十二年慶大理財科卒業。先代の遺業を繼承して洋酒業を營み現多額納税者たり。又東京ゴルフクラブ所屬アマチュアゴルフクラブにて目下ハンデ一十三。

近藤 彌 一 (野球)

東京府北多摩郡三栗村下連雀
執筆家
明治二十九年兵庫縣に生る。大正八年早大英文科卒業。在學中野球部選手たりし事あり。野球及ゴルフに關する數多の著書あり。現に雜誌「ゴルフ」を編輯し、特に野球批評家としても知らる。

小西 得 郎 (野球)

東京中野區住吉町三〇
東京出身。日本中學を経て大正八年明大商科卒業。明大野球部黎明期の外野手及第八代主將として活躍す。大連市南滿工業專門學校内

小谷 澄 之 (柔道)

小泉 周 太郎 (劍道)

朝鮮總督府警察官講習所内
大日本武徳會劍道教士
明治十年七月長野縣に生る。武徳會流の劍道を修む。大正十四年六月本部より教士の稱號を授與せらる。

小玉 達 夫 (柔道)

宮城縣本町警察署内
大日本武徳會柔道教士
明治三十八年十一月大阪府に生る。講道館にて修行。昭和七年五月武徳會より教士號を授與せらる。

小島 松 壽 (柔道)

前橋市神明町
大日本武徳會柔道教士
明治二十一年一月群馬縣に生る。講道館に於て修行。昭和七年五月武徳會より教士號を授與せらる。

小柳 貫 之 (劍道)

京都左京區田中里町一一
大日本武徳會劍道教士
明治二十四年一月福岡縣に生る。武徳會流を修む。大正十三年五月本部より教士の稱號を授與せらる。

近藤 知 善 (劍道)

平壤府山手町三二
大日本武徳會劍道教士
明治十九年十一月岡山縣に生る。武道專門學校に於て武徳會流を修む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授與せらる。

古館徹郎 (柔道)

新潟市旭町二番町五二三〇
大日本武徳會柔道教士
明治二十一年青森縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士の稱號を授與する。講道館五段

小寺鹿次郎 (剣道)

福山市四町新馬場
大日本武徳會剣道教士
明治十六年三月岡山縣に生る。武徳會本部に於て天眞無想流を修む。昭和二年五月本部より教士の稱號を授與する。

小城滿陸 (劍道)

八幡市大藏山
大日本武徳會剣道教士
明治三年一月福岡縣に生る。武徳會本部に於て武徳會流を修む。昭和四年五月本部より教士の稱號を授與する。

兒山保之 (馬術)

大阪府東部東部東部村
日本國際馬術協會評議員
明治十九年三月大阪に生る。昭和二年家督相續をなし、現在富田林銀行泉州土地建物會社各取締役の要職にあり。趣味乗馬

兒玉博 (水上)

東京牛込區若宮町十五
東京に生る。昭和六年明治大學法科卒業。自由艇選手にて第七回種東大會千五百米に出場四等を得。當時學

後藤素直 (柔道)

生中距離界に大いに活躍す。
神戸灘區徳井一〇四
大日本武徳會柔道教士
明治三十二年大分縣に生る。昭和三年六月武徳會より教士の稱號を授與する。翌昭和四年四月天覽武徳會には光榮ある指定選手として出場。

近藤信勝 (劍道)

名古屋市中區東川端町二ノ七
大日本武徳會剣道教士
明治十三年五月愛知縣に生る。武徳會員養成所に於て念流を専攻す。大正十三年五月武徳會本部より教士の稱號を授與する。

小林秋野 (陸上)

1 東京世田谷區松原女子體專内
佐賀縣
大正三年 十一月一日
4 一五二種 四九・四種
5 佐賀縣立鳥橋高等女學校

小池トキ子 (陸上)

1 東京世田谷區松原女子體專内
2 秋田縣北秋田郡
大正四年 十一月十五日

隆 (滑艇)

1 神奈川県鎌倉町材木座掛ヶ谷
東京深川區
明治二十八年 十月二十六日
4 一七六種 七八・八種
5 府立一中 一高 東大醫科
6 日華生命保險會社
7 一高時代より編艇部四番手。其の他短距離に活躍す。東大にても四番手及二番手として大正八年國際的標準形ボートレースに早大との競漕は本邦の嚆矢とす。又一高野球部のマネージャーとしても敏腕を揮ひ、卒業後香山善氏等と學士ラグビークラブを創設ラグビー界に盡す處頗る多し。大正十五年東京對抗戦にセカンドロとして出場奮闘。一九二八年アマステルダム國際競技大會に編艇部監督、一九三二年第十回國際競技大會に大日本體育協會名譽主事として渡米す。インターカレッジレースには毎年名譽判員を以て著名。現大日本體育協會名譽主事。日本滑艇協會理事。明治神宮體育會評議員及文部省體育審議會委員等の要職にあり。醫學

郷

1 神奈川県鎌倉町材木座掛ヶ谷
東京深川區
明治二十八年 十月二十六日
4 一七六種 七八・八種
5 府立一中 一高 東大醫科
6 日華生命保險會社
7 一高時代より編艇部四番手。其の他短距離に活躍す。東大にても四番手及二番手として大正八年國際的標準形ボートレースに早大との競漕は本邦の嚆矢とす。又一高野球部のマネージャーとしても敏腕を揮ひ、卒業後香山善氏等と學士ラグビークラブを創設ラグビー界に盡す處頗る多し。大正十五年東京對抗戦にセカンドロとして出場奮闘。一九二八年アマステルダム國際競技大會に編艇部監督、一九三二年第十回國際競技大會に大日本體育協會名譽主事として渡米す。インターカレッジレースには毎年名譽判員を以て著名。現大日本體育協會名譽主事。日本滑艇協會理事。明治神宮體育會評議員及文部省體育審議會委員等の要職にあり。醫學

小林正男 (野球)

博士。
1 東京豐島區池袋三ノ一三四八柳澤方
高崎市藤澤町
大正元年 七月三十一日
4 一七〇種 六〇種
5 高崎小學 高崎商業 日本大學
6 東京鐵道局 東鐵野球部
7 上毛の雄高崎商業野球部遊撃手として昭和四年八月金澤市に於ける日本中等野球大會に優勝。現東鐵野球部遊撃。全國鐵道大會及昭和八年都市對抗東京第一選に、東都の強剛チームを破り、東京俱樂部と最後の對戦には、右翼手として出場。強打者を以て鳴る。趣味登山音楽

小林英雄 (柔道)

1 東京小石川區大塚高寄宿舎
松本市外岡田村
明治四十年 一月一日
4 一七〇種 七二・二種
5 岡田小學 松本一中 東京高師
6 岡田小學 講道館
7 中學時代柔道部主事として、長野縣下中等柔道大會に出場屢々優勝す。現東京高師柔道部の猛者にて、日下三段。

上妻弘道 (馬術)

1 東京牛込區市ヶ谷田町一ノ二
水戸市
明治三十三年 五月二十八日
4 一七〇種 六六・五種

小西重次 (柔道)

1 東京杉並區阿佐ヶ谷四ノ九六七
福井市佐佐木下町
明治三十二年 四月十日
4 一七六種 六七・五種
5 福井中學 第四高校 帝大
6 東京電燈會社
7 四高柔道部主事として、大正初期の全國高專柔道大會に出場奮闘し、同部黄金時代を築き、東大に入りては第一回東西兩大學對抗戦に副將として活躍優勝す。現在講道館五段。東電柔道部選手として知らる。趣味相撲

後藤久 (柔道)

1 東京杉並區阿佐ヶ谷四ノ九六七
福井市佐佐木下町
明治三十二年 四月十日
4 一七六種 六七・五種
5 福井中學 第四高校 帝大
6 東京電燈會社
7 四高柔道部主事として、大正初期の全國高專柔道大會に出場奮闘し、同部黄金時代を築き、東大に入りては第一回東西兩大學對抗戦に副將として活躍優勝す。現在講道館五段。東電柔道部選手として知らる。趣味相撲

小橋幸 (柔道)

1 東京本郷區駒込警察署内
同
明治三十三年 六月四日
4 一七〇種 七五種
5 警視廳警察官 講道館
6 大正十二年七月警察官拜命。駒込警察署勤務現警部補たり。講道館三段當に對峙試合に出場し躍しき戦績を印す。警察柔道界發展上の爲め専心盡力す。

後藤網男 (陸上)

1 京都府與謝郡日ヶ谷村
同郡中村
明治四十五年 一月一日
4 一六七種 五七種
5 府中小學 府農林 盛岡高農
6 日ヶ谷小學
7 前盛岡高農競技部選手として各諸大會に於て走幅跳優勝すること四回。昭和八年第七回明治神宮體育大會に京都府聯合青年團選手として走幅跳に活躍す。最高記録百米(二秒七)四百米(五七秒)走幅跳(六米八五)三段跳(一三米五二)等の記録を保持す。趣味スポーツ讀書

小泉多一郎 (陸上)

1 青森縣東郡田村
同郡田村
明治四十二年 八月十七日
4 一六四種 六二種
5 筒井小學 青森師範
6 廣瀬小學 青森縣協
7 縣下有数の跳躍選手にして昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場活躍す。最高記録走幅跳六米七五、走高跳一米七〇等の記録を保持す。青森縣體育協會及青森ノーマルクラブに屬す。趣味野球麻雀

小崎藤吉 (相撲)

1 熊本縣天草郡中村
同
明治四十二年 十二月二十五日
4 一七〇種 七八・八種
5 中村小學
6 昭和六年第六回明治大會相撲準決勝戦に善戦。同年九州相撲大會に優勝。昭和七年長崎縣下相撲大會に於ては優秀なる戦績を収む。昭和八

小林爲松 (野球)

1 東京淺草區阿部川町一四
同
明治二十四年 二月六日
4 一六七種 七二・二種
5 練馬小學 成城中學 明治大學
6 國際通運會社 駱駝クラブ
7 第一回明大野球部マネージャーとして、大正二年ヒリッピンに於ける極東大會に出場。ヒリッピン選拔軍と六對六對二のスコアにて捕手選權を獲得。カーニバル競技にも参加。三勝一敗の好成績にて凱旋す。又スキーヤーとしても知らる。大正四年法科卒業。

小山勝他 (陸上)

1 東京葛飾區金町四ノ二八四六
東京市
明治三十七年 十一月七日
4 一六一種 六四・六種
5 佐世保白南小學 岡山一中 早大
6 安田生命保險會社
7 岡山一中競技部の萬能選手としてボート、水泳、馬術部に關係し、陸上中長距離選手として全國中等陸上競技大會に参加入賞す。早大に入りては競走部の重鎮として早慶戦、神宮競技に出場活躍。報知主催獲得に昭和二、三、四、五年連続出場。昭和五年優勝獲得。又マナーチャイとして同部發展に貢献す。現在全日

丸一商店

7 前京都一商創道部主將時代各専門學校主催全國優勝大會に榮位を占むる事四回。其他健脚を以て知られ甲子園四大會京都府青年團八百米繼走選手として入賞す。明治神宮體育大會には第五回、六回、七回と連続青年團創道選手として出場奮闘す。趣味スポーツ讀書

丸一商店

7 前京都一商創道部主將時代各専門學校主催全國優勝大會に榮位を占むる事四回。其他健脚を以て知られ甲子園四大會京都府青年團八百米繼走選手として入賞す。明治神宮體育大會には第五回、六回、七回と連続青年團創道選手として出場奮闘す。趣味スポーツ讀書

河野一郎 (陸上)

- 1 東京芝区通新町一四
- 2 神奈川足柄下郡登川村
- 3 明治三十一年 六月二日
- 4 一六一〇 六一〇
- 5 豊川村千代小 小田原中 早大
- 6 衆議院議員
- 7 中學時代より中距離選手。早大時代は同校競走部委員として全国専門學校對抗競走大会に出場。大正十一年同十二年の報知新聞主催競走に同部代表選手として出場し二回優勝の栄冠を獲得。同部の重鎮として非常に活躍す。現政友會に屬し新人代議士として知らる。

小林定義 (ホッケー)

- 1 横濱中區南太田町二〇二
- 2 同
- 3 明治三十八年 二月十四日
- 4 一六七〇 六一・九
- 5 太田小 高輪中 明大
- 6 拓務省 競走クラブ
- 7 明大在學中一九二六年、全國學生選手權、第一回神宮競走大会より出場優勝。昭和三年明大商科卒業後母校ホッケー部監督に重任し指導の任に當る。昭和七年第十回國際競走大会に榮譽ある日本代表に推挙されR.Hとして各選手と競闘し遂に世界第二位掌握。同年秋全國選手權大会に競走クラブ員として出場優勝。現大日本ホッケー協會審判員。

五代正文 (水上)

- 1 東京小石川區竹早町九九
- 2 福島縣伊達郡牛田村
- 3 明治三十二年 二月二日
- 4 一七四〇 五五五 七二・二
- 5 早稲田中 二高 東大
- 6 日本光學工業會社
- 7 中學時代野球部選手。二高時代は遊球部及野球部一壘手として、全國高等大會に活躍。又大正十一年より第一回三回記念の全日本スケート競走大会に出場し、一回二回共に一等の榮冠を獲得當時の學生運動界を風靡す。大正十三年理學部卒業。一九三〇年洋行の傍ら、スケート發展の爲め各國を歴訪、歸國後新界に非常な貢獻を爲す。現在大日本スケート競走聯盟會會長として、新界の發展に努む。

小沼治作 (漕艇)

- 1 東京荒川區尾久町八ノ二七八〇
- 2 同
- 3 明治二十七年
- 4 一六五五 六四・六
- 5 長岡高工 東京工業大學
- 6 旭電氣化學工業會社
- 7 東京工業大學船艇部二番漕手として昭和五、六年度インターカレラデレガタに出席及東京外語との定期對抗等に奮闘す。現在藤前漕艇クラブに所屬。旭電氣化學工業會社に勤務。趣味園藝。

小山 著 (野球)

- 1 東京品川區五反田六ノ四五四
- 2 東京市
- 3 明治二十四年 一月五日
- 4 一七〇〇 五七七
- 5 都立中 早大商科
- 6 日本商科商社
- 7 中學時代より外野手及投手として當時東都中等野球界に活躍し、早大野球部入部後外野手及投手たり。飛田、大井、増田三氏三代の主軸時代の對戦に活躍。東北及關西地方に遠征。明治四十四年創立せし、明大野球部との對戦には外野手として健闘九對五にて勝利。投打共に右。

近藤逸男 (漕艇)

- 1 東京大森區新井沼ノ九五九
- 2 宮崎市黒迫町二丁目
- 3 明治二十八年 二月十八日
- 4 一七〇〇 七五五
- 5 鹿兒島附小 鹿兒島一中 慶大
- 6 太平火災保險會社 三田クラブ
- 7 三田俱樂部の先輩。中學時代より編輯部員として活躍。慶大在學中は柔道部選手たり。卒業後三田クラブ創立に努力し、三田俱樂部員にて、今尙同部に貢獻すること盼からず。

河野四郎 (漕艇)

- 1 東京市中野區塔ノ山一二
- 2 同
- 3 明治四十三年 九月六日
- 4 一七〇〇 六〇〇
- 5 慶應普通部 同大學

- 7 普通部時代よりポイント選手として活躍。大學に入るや昭和五、六の兩年對部レースに参加する外、フオア選手權レースに出場力漕す。同七年には早慶レースに出場。又オリオンヒツク豫選に出場して榮ある代表選手となり第十回國際大会に出場す。昭和八年度の早慶レースには整調の重任を帯びて出場す。趣味音楽登山

小泉正義 (野球)

- 1 東京中野區昭和通二ノ八
- 2 同
- 3 明治四十一年 八月十四日
- 4 一六四〇 六七・五
- 5 新津小 新潟商業 横濱高商
- 6 川崎百銀行
- 7 新潟商業時代三壘手として、大正十三年度甲信越大会に優勝し、鳴尾に出席活躍す。横濱高商に入りては三壘手及遊撃手として、昭和三年全國高等野球大会に参加奮闘し輝しき戦跡を印す。

小林治 (陸上)

- 1 福井縣吉田郡河合村
- 2 同
- 3 大正三年 五月二十日
- 4 一五九五 五二・五
- 5 河合小學校
- 6 農業
- 7 縣下中距離界の猛者にて、昭和七年度對抗四百米(五八秒)優勝。同八年同對抗四百米に再度榮冠を握り、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團競走選手として

出場

小松安衛 (陸上)

- 1 松本市
- 2 同
- 3 大正三年 三月二十一日
- 4 一六七〇 五七〇
- 5 松本中 學
- 6 同
- 7 中學時代より競走部將として常に縣下中等學校陸上大會に中距離選手として活躍。昭和八年全國青年團大會に百米に優勝し、同十一月第七回神宮大會に縣聯合青年團選手として出場す。

小湊未盛 (柔道)

- 1 鹿兒島縣枕崎町
- 2 同縣鹿兒島郡伊敷村
- 3 明治四十四年 五月十日
- 4 一六七〇 六七・五
- 5 玉江小 鹿兒島第一師範
- 6 同
- 7 師範時代より柔道部優等として全國師範柔道大會に優勝昭和七年度全國師範對抗試合にも榮冠を握る。現在二段にして昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として出場す。

小林作太郎 (野球)

- 1 東京荏原區下神明町二九八
- 2 札幌市
- 3 明治三十三年 五月十六日
- 4 一六八五 六四・八
- 5 東北小學校

中央亭

- 7 小學校當時より野球選手として知られ、神田アテネフアンセに學ぶ。昭和六年體育獎勵の爲他店に卒業野球部を創設し、オール東京軟式野球大會に主戦投手として華々しく活躍す。又同チーム主將兼監督として奮闘す。趣味相撲観戰

兒玉龍男 (馬術)

- 1 東京品川區大井町原町三七二
- 2 同
- 3 明治三十七年 十二月六日
- 4 一七〇〇 六一・九
- 5 大名小 修館中 中央大學
- 6 明治屋 學生馬術協會
- 7 障礙馬術選手。大正十二年以來習志野馬術大會に出場障礙物飛越競技に優勝し、オール關東四對抗馬術競技の創業者として知られ、同對抗戦には關東代表選手として數回出場す。現在關東學生OB俱樂部幹事として新界に貢獻す。趣味書道

國分國太 (柔道)

- 1 東京麹町區 海軍大臣官舎
- 2 福島縣田村郡飯豊村
- 3 明治二十九年 三月十六日
- 4 一五八〇 五八・九
- 5 日本大學法科
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 大正十二年十月講道館に入門す。昭和八年一月同館三段に列せらる。大正十五年五月には警視廳四段の地位に達す。現警視廳巡査部長にて警務部警務課警備係に勤務。趣味日

種術及尺八

小林悟一 (野球)

- 1 神奈川縣原町第一生命俱樂部
- 2 兵庫縣廣野郡廣村
- 3 明治三十九年 七月二十日
- 4 一六一〇 六七・五
- 5 姫路中 松山高 東大
- 6 第一生命保險會社 赤門クラブ
- 7 中學時代より捕手として知られ高校に入りては三年連覇全國高等野球大會に出場活躍。東大に入りても捕手として奮闘遂に主將の印綬を帶ぶ。卒業後昭和六年には東大野球部監督として盡力。現在赤門クラブに屬す。昭和八年度リク審判員に就任。趣味園藝

小林達郎 (野球)

- 1 東京品川區東大崎三ノ一九二
- 2 長野縣上伊那郡伊那宮村
- 3 明治三十九年 二月二十六日
- 4 一六七〇 五七〇
- 5 松本商業 明治大學
- 6 明電會
- 7 前甲信越の猛將松本商業三壘手。明大にては内野手として明大米國遠征中留守軍主將の印綬を帯びリーグに活躍。現在東都實業野球團の俊星明電會野球部三壘手にて、昭和八年都市對抗東京第一豫選に同部の三番打者の責務を發揮す。趣味撞球ゴルフ。

小石川哲藏 (ラグビー)

- 1 東京本郷區駒込吉野寺町一八

神奈川縣湯河原町

- 2 明治四十一年 五月十一日
- 3 一七〇〇 六七・五
- 4 成蹊中 同高校 東大
- 5 學士ラガー
- 6 成蹊高校ラグビー部の花形として全國高等ラグビー大會に出場奮闘し東大に入るや名T.Bとしてリーグに活躍す。技藝の技術と氣魄は推されてラグビー部主將の印綬を帶ぶ。現學士ラガーに所屬し活躍す。

小泉正義 (野球)

- 1 大阪市外千里山關西大學内
- 2 和歌山縣
- 3 明治四十五年
- 4 一六四〇 六〇〇
- 5 海南中 關西大學
- 6 同
- 7 中學時代投手。現關西大學野球部外野手として昭和七年秋季關西六大學リーグに優勝し、同年十月末より同八年一月にわたり冬期練習の爲四下せる東京六大學リーグの各校と對戦、對慶大二回戦に一敗せしむるのみにて關大野球部黄金時代を築く。趣味讀書

河野美代治 (野球)

- 1 福島市入山炭礦事務所内
- 2 同
- 3 明治四十四年
- 4 一七〇〇 六〇〇
- 5 入山炭礦所 福島高商
- 6 同
- 7 前東北球界の豪雄福島中學の投手

を勝り、現新通島クラブ投手兼二
塁手として、宿敵仙崎を破り昭和八
年第七回都市対抗戦に晴れの出場を
なす。初陣から攻守好成績を以つて健
闘す。

小林棟材 (漕艇)

- 1 東京豊島區池袋八ノ二四〇〇
- 2 同
- 3 明治三十五年 十月十四日
- 4 一六二・五五 五七冠
- 5 忍岡小 開成中學 商大
- 6 川崎百銀行 豊堤會
- 7 東京商科大学在學中、ラグビー部
Hとして、同部監督に大いに奮
闘す。又、同部監督に代り、イン
1 カレッジ、レガタム等に出席活躍
現四神會々員にして、豊堤會監事、
同行ラグビー部セクターリ等の要
職にあり。

小出秀世 (水上)

- 1 東京世田谷區三軒茶屋町
- 2 東京市
- 3 明治三十六年
- 4 一六四冠 五七冠
- 5 慶應中學 慶應大學
- 6 東京朝日新聞社
- 7 慶應中學野球部遊撃手として、關東
州中等野球界に雄飛し、慶大に入る
や、アイソホッケー部FW選手に轉じ
活躍。昭和六年以来同部監督とし
て努力、昭和八年インターカレッジ
に副監督を握る。現在東朝運動部記者
として健筆を揮ふ。

小竹菊三郎 (剣道)

- 1 東京荒川區日暮里町八ノ九四二
- 2 茨城縣鹿嶋郡上野村
- 3 明治二十七年 九月二十三日
- 4 一六七冠 六六・五冠
- 5 上野村小學校
- 6 警視廳警察官 武徳會
- 7 大正十年拜命。昭和五年下谷谷中
署創造助手に就任。同八年武徳會よ
り精進授與。第一回大阪警察
對抗戦及宮内省對抗戦等に、警視廳
代表選手として進出。趣味讀書

高野四方治 (ラグビー)

- 1 東京深川區富川町二
- 2 東京市
- 3 明治三十八年 九月二十五日
- 4 一六七冠 六七・五冠
- 5 慶應普通部 慶應大學法學部
- 6 東京海上火災保險會社
- 7 普通部時代ラグビー部TB。同大
學同部の主將に就任。二年間同部
主將の任に當り、TB及FWとして
活躍す。昭和四年同部卒業。現母校
黄旗會に關し、同東ラグビー蹴球協
會セクターの要職にあり。

興呂木盛藤 (柔道)

- 1 東京麻布區南日ヶ窪町六
- 2 宮崎縣小川町
- 3 明治十七年 十一月二日
- 4 一六一冠 八七・四冠
- 5 小林町小學校
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 多年新道に精通其技益々進み昭和

七年講道館五段に昇進す。其間昭和
五年全日本選手権大會に出場優勝。
又對講道館に於ては個人優勝する事
數回。現在日本橋講道館柔道部顧問
講道館有段者日本橋支部役員。日本
橋講道館會館館長等の要職にあり。

兒玉忠康 (漕艇)

- 1 東京赤坂區青山南町三ノ五三
- 2 東京四谷區神戶町
- 3 明治三十一年 七月二十九日
- 4 一七四・五冠 六九・四冠
- 5 學習院中等科 高等科 京大
- 6 日本郵船會社 郵船船艇部
- 7 中等科時代より漕艇を嗜み、柔道
部及野球部選手として活躍す。柔道
(初段)野球部に入りては左翼手た
り。後京大に入りて、對東大との漕
艇競技レースに二番手及七番手を務
む。あらゆるスポーツに趣味を持ち
活躍せる人。

兒島英一 (柔道)

- 1 東京江戸區小松川町二ノ四七
- 2 東京日本橋區
- 3 明治三十六年 一月十二日
- 4 一六四冠 六六・五冠
- 5 小松川小學校 錦城中學 早大
- 6 東京市役所 講道館
- 7 錦城中學柔道部主將として都下中
等柔道界に活躍。早大入學後も柔道
部の重鎮たり。大正十二年早大専商
科卒業。市役所に入りては、體育會
柔道部創設に際し、専ら力す。現
昭和六年講道館四段に昇進。現在同
部副主將として活動す。土木局勤務

小泉穆英 (相撲)

- 1 東京世田谷區北澤一ノ一一一五
- 2 靜岡市四番町
- 3 明治三十八年 六月二十五日
- 4 一七三冠 七八・八冠
- 5 海城中學 明治大學
- 6 東京日日新聞社 明大OB
- 7 明大在學中は相撲部選手とし都下
學生相撲界に知られ、大正十四年度
關東學生相撲大會、大毎主催全日本
學生相撲大會、名古屋に於ける東海
學生大會等に何れも副將として出場
優勝す。又ラグビーにも長じ昭和七
年三月六日大リーグに参加活躍す。
趣味讀書

小作光太郎 (剣道)

- 1 東京品川區大井立會町四四四
- 2 埼玉縣入間郡山口村
- 3 明治三十年 六月十八日
- 4 一五九・五冠 六〇冠
- 5 山口小學校
- 6 東京市役所 武徳會
- 7 十八歳にして範士齋藤義孝氏の門
に入り、眞流一刀流劍法を研鑽。後
推野先生に就き修行又歩兵第七十四
聯隊入營中は銃劍術聯隊代表選手と
り。現劍道四段信心館幹事として知
る。趣味讀書

小柴由三 (野球)

- 1 福島市第五小學校内
- 2 福島縣
- 3 明治四十二年
- 4 一六一冠 五二・五冠

7 新設福島クラブ左翼手として、昭
和八年第七回都市対抗戦に、多年同
地方にあつて大會開始以來出場権を
獨占せし仙崎軍を一蹴し、初出場の
榮譽を掌握す。攻守打を兼ねせる名
選手。

小西健一 (ホッケー)

- 1 東京豊島區尾井町三廻町會館
- 2 戸畑市千防町
- 3 明治四十一年 三月二十日
- 4 一七〇冠 六〇冠
- 5 奉天小學校 大連一中 早大
- 6 安川松本商店 早大OB
- 7 前早大ホッケー及スケート部選手
として知られ、昭和七年第十回オリ
ンピック大會にはホッケー日本代表
選手として出場(CF)遠征世界第
二位獲得。後母校スケート部主將と
して奮闘す。

小林幹 (ラグビー)

- 1 東京四谷區南伊賀町七〇
- 2 埼玉縣
- 3 明治三十年 一月九日
- 4 一五八冠 五四・三冠
- 5 早稲田大學
- 6 常磐生命保險會社 常磐クラブ
- 7 大正十一年早大獨法科を経て常磐
生命に入社。現在同社ラグビー部の
HBとして、東都實業ラグビー界に
活躍。實業ラグビー界の強剛チム
として知らる。趣味讀書

小藤二三 (相撲)

- 1 福島縣東白川郡高城村
- 2 栃木縣黒羽町
- 3 明治四十三年 十二月二十日
- 4 一六二冠 六七冠
- 5 材木商
- 6 縣下青年團相撲の雄者。昭和八年
都青年團相撲優勝なし。同年縣下大
會に入賞。同年十一月明治神宮體育
大會に縣聯合青年團選手として奮戦
す。趣味讀書

近藤利朗 (柔道)

- 1 秋田縣能代町
- 2 同
- 3 明治四十四年 三月十一日
- 4 一六七冠 六四・六冠
- 5 能代小學校 秋田師範
- 6 前秋田師範柔道部の猛將として縣
下中等學校柔道界に雄飛す。昭和八
年第七回明治神宮大會に縣聯合青年
團選手として出場健闘す。現在柔道
二段。

小坂橋新一 (陸上)

- 1 福島縣石城郡内郷村
- 2 同 岩瀬郡白戸村
- 3 大正二年 九月五日
- 4 一六〇・六冠 五〇・一冠
- 5 内郷小學校
- 6 磐城炭礦會社
- 7 縣下長距離界の猛者。昭和八年第
七回明治神宮體育大會には縣聯合青

河野太喜造 (陸上)

- 1 東京小石川區東京高師寄宿内
- 2 名古屋市中區上伸町
- 3 明治四十五年 一月三日
- 4 一六二・五冠 五八冠
- 5 上宿小學校 愛知一中 高師
- 6 文理大競走部長距離選手。昭和七
年度關東インターカレッジ及全國學
生選手権大會等に出場健足を以つて
鳴る。又同八年第一回對慶大會にも
参加活躍す。

小林清三郎 (馬術)

- 1 東京市淀橋區早稲田大學内
- 2 北海道根室町
- 3 明治四十三年 五月九日
- 4 一七〇冠 五八・九冠
- 5 府立八中 早稲田大學

近藤英男 (陸上)

- 1 東京小石川區東京高師寄宿内
- 2 京都府木津町江戶町
- 3 大正二年 四月一日
- 4 一七一・五冠 六〇冠
- 5 木津小學校 桃山中學 東京高師
- 6 昭和五年インターカレッジ大會に棒
高跳び活躍。現文理大競走部四百米
障礙の雄者。同八年關東陸上選手権
大會に出場三位。同八年對慶大會に
試合の第一回に出場力戦す。趣味洋
樂

7 早大馬術部選手として、早慶帝三
 大學馬術競技に出場活躍。昭和八
 年野馬馬術大會學生馬術團體回教
 競技に奮闘入賞す。

小林 政綱 (野球)

- 1 東京農務早稲田大學野球部
 東京市
- 2 明治四十四年
- 3 一六七番 六一・九冠
- 4 早稲田實業 早稲田大學
- 5 早稲田實業
- 6 早大野球部三疊手として、早慶戦
 六大學リーグに活躍。昭和七年度打
 撃率三割ベストラン第五位強打を以
 て知らる。

小安 重雄 (庭球)

- 1 千葉市北道場八九五
- 2 千葉縣長生郡東波見村
- 3 明治四十二年 九月二十九日
- 4 一七〇番 六〇冠
- 5 東波見小學校 長生中學
- 6 東波見小學校
- 7 長生中學庭球部選手として、東波見
 球部員として、千葉縣松戸町に於け
 る關東庭球選手権大會に優勝獲得す
 る事二回。現東波見庭球部選手。趣味
 スポーツ

小林 良英 (ラグビー)

- 1 盛岡市岩手醫專寄宿舎内
- 2 大阪住吉區王子町
- 3 明治四十四年 十一月十三日
- 4 一六四番 六〇冠
- 5 住吉中學 岩手醫專

7 岩手醫專ラグビー部バックローと
 して全國高等ラグビー大會に奮闘。
 昭和七年十月對東北學院及秋田鐵專
 との對戦に優勝。東北ラグビー界に活
 躍す。趣味音楽

小原川 勇 (ラグビー)

- 1 岩手縣稗貫郡八重畑村
- 2 同
- 3 明治四十二年 五月十日
- 4 一七〇番 六四・六冠
- 5 岩手醫專
- 6 岩手醫專ラグビー部Tととして、
 全國高等ラグビー大會に奮闘。昭和
 七年十月對東北學院戰、對秋田鐵專
 戰に優勝。東北ラグビー界に活躍す

小塚 三郎 (ラグビー)

- 1 東京品川區下大崎
- 2 靜岡縣
- 3 大正二年 七月八日
- 4 一六一番 四九・四冠
- 5 明治學院高等部
- 6 明治學院高等部
- 7 明治學院ラグビー部Tとして、
 全國高等ラグビー大會、昭和六年九
 月對水高戰、同七年十一月對專修大
 學戰に活躍す。趣味音楽

小保田 宮道 (ラグビー)

- 1 岩手縣國岡町五日町
- 2 同
- 3 明治四十二年
- 4 一六四番 五七冠

7 岩手縣新井町四ノ九七五
 東京大森區新井町
 明治三十五年 十月三十日

小嶋 弘 (弓道)

- 1 東京大森區新井町四ノ九七五
- 2 東京大森區新井町
- 3 明治三十五年 十月三十日
- 4 一六一番 五四・四冠
- 5 埼玉大宮町小學 築地工手學校
- 6 鐵道省
- 7 昭和三年埼玉縣代表弓道選手とし
 て神宮體育會に参加。同五年
 十一月第一回鐵道弓道大會に入賞。
 現在鐵道省工務局車輛課勤務。武德
 會弓道三段を保持す。又丸の内弓道
 聯盟及大森生弓會支部各幹事の要職
 にあり。

幸田 二夫 (剣道)

- 1 岐阜縣稲葉郡森原村
- 2 同
- 3 大正四年 二月十日
- 4 一六七番 五七冠
- 5 岐阜農林學校
- 6 右同
- 7 縣下劍道界の猛將にして、昭和七
 年十一月二段に昇進。中部日本劍道
 選手権大會に出場。昭和八年十一月
 第七回明治神宮體育大會に關聯會青
 年團選手として準決勝戦及個人優勝
 戦に何れも善戦し少壯劍士。趣味
 スポーツ

7 京都上京區野柳町六一
 神戸市
 明治三十七年 四月十四日

小林 武夫 (陸上)

- 1 京都上京區野柳町六一
- 2 神戸市
- 3 明治三十七年 四月十四日
- 4 一七三番 六七・八冠
- 5 兵庫縣南河内小 鳳鳴中 東高師
- 6 京都府體育主事
- 7 前東京高師體育部十種及五種選手
 として第一回明治神宮大會の十種に
 優勝。其他巴里國際競技大會十種十
 種一等、五種二等を占め、極東大會
 に参加する事三回の多きに及ぶ。陸
 上競技各種目に優れた名選手として
 大正十五年體育科卒業。現京都府體
 育主事として昭和八年第七回明治神
 宮體育大會に府聯合青年團選手監督
 に就任。最高記録百米(一一秒三)
 二百米(二三秒二)五百米(四分
 四八秒四)走幅跳(六米四九)走高
 跳(一米七七)三段跳(一三米九七
 四)圓盤投(四三米四三)等の好記録を
 保持す。趣味園芸、スポーツ

古藤 猪一 (野球)

- 1 東京杉並區阿佐ヶ谷四ノ四六五
- 2 福岡市
- 3 明治三十二年 一月三十日
- 4 一六八・五番 五七冠
- 5 廣本市壘球小學 東京中學 慶大
- 6 淺草松屋運動部理事。同店員の體
 育獎勵に盡力。又帝都百貨店唯一の
 運動部建設に専心する人として新界
 に知らる。

古賀 三子夫 (滑艇)

- 1 東京小石川區拓殖大學内
- 2 同山市
- 3 大正元年 十月四日
- 4 一七七・五番 六九・四冠
- 5 沼津中學 拓殖大學
- 6 中學時代ボート部選手、現拓大ボ
 ート部二番手として、インバーカレ
 ツチに出場活躍す。

後藤 春雄 (柔道)

- 1 東京本郷區千駄木町二七三
- 2 宮城縣桃生郡前谷地村
- 3 明治三十三年 二月九日
- 4 一六一番 七二・二冠
- 5 前谷地小學校
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 昭和二年四月柔道三段昇進。駒込
 警察署柔道部代表選手として、對署
 試合に大いに活躍。現在神田錦町警
 察署勤務。趣味讀書

小磯 幸 (剣道)

- 1 東京小石川區原町會館學院内
- 2 鹿兒島縣櫻井郡
- 3 明治四十一年
- 4 一五八番 五八・九冠
- 5 新巻小 赤坂中 早大 金鷲學院
- 6 幼時より大剣道剣道を修む。赤坂
 中學時代劍道部代表選手として昭和
 四年度神宮大會に出場活躍。早大に
 入るや劍道部の猛者として鳴らし現
 在金鷲學院在學。趣味讀書

小杉 廣藏 (ゴルフ)

- 1 東京世田谷區上馬町
- 2 同
- 3 明治三十八年 十二月二十八日
- 4 一五八番 五一・三冠
- 5 日原區八雲小學校
- 6 駒澤ゴルフ場
- 7 職業ゴルフブライ、一九三一年大阪
 茨木に於ける東西對抗關東選抜代
 表選手として参加。關東ゴルフ界の

小林 幹一 (馬術)

- 1 東京牛込區若松町
- 2 山梨縣南都留郡三吉村
- 3 明治三十四年 二月二十一日
- 4 一五八番 五七冠
- 5 三吉小學 正則中學 日大商科
- 6 安田銀行 乗馬聯盟
- 7 日大馬術部選手として關東學生馬
 術界に活躍し、現在安田乘馬會代表
 幹事として神宮馬術大會野馬馬
 大會に出場名手として知らる。趣
 味尺八園芸

小根澤 千代八 (庭球)

- 1 群馬縣利根郡水上村北澤
- 2 群馬縣利根郡水上村北澤
- 3 明治三十八年 七月十九日
- 4 一六一番 五二・五冠
- 5 松井田小學校 高崎中學
- 6 水上機關庫 水上野球場
- 7 高崎中學庭球部のナメバウソンと
 して大正十二年縣下中等學校庭球大
 會に出場優勝し、現在水上野球場タ
 ラ選手として群馬縣球界に活躍す
 趣味園芸

小宮 甲四郎 (庭球)

- 1 東京牛込區北町三〇
- 2 同
- 3 明治十七年 九月二十五日
- 4 一六五・五番 五八・九冠
- 5 開成中學 一高 東大
- 6 鐵道省

小林 秀 (柔道)

- 1 東京荒川區町屋二ノ三七九
- 2 茨城縣那珂郡長倉村
- 3 明治二十九年 五月十一日
- 4 一六四番 六五冠
- 5 日本大學經濟科 警視廳
- 6 警視廳警察官 警視廳
- 7 大正七年九月警視廳警察官昇進と
 同時に柔道を修行す。大正十一年三
 月四級の下位に進級。現在本廳警務
 部警務課勤務。趣味園芸

小柴 重吉 (野球)

- 1 神戸市神港商業學校内
- 2 神戸市
- 3 明治四十一年
- 4 一六七番 六〇冠
- 5 神港商業 神戸高商
- 6 神港商業教員
- 7 全神戸市軍の捕手として、昭和七年第
 六回都市對抗戦に優勝。其技捕堅實
 は投手を良くリードす。同八年第七
 回大會にも本壘を堅守し其好打と
 共に善闘す。

木庭 新 (籠球)

- 1 東京品川區大井日本體操學校
- 2 福岡縣山門郡東山村
- 3 大正元年 八月一日

後藤 正 (野球)

- 1 東京蒲田區慶大野球部合宿内
- 2 兵庫縣
- 3 明治四十四年
- 4 一七三番 六〇冠
- 5 神港商業 慶應大學
- 6 神港商業
- 7 神港商業一疊手として甲子園に健
 闘し、現慶大野球部員として活躍
 す。

小林 利藏 (野球)

- 1 東京杉並區明大野球部合宿内
- 2 福井縣
- 3 大正元年
- 4 一七〇番 六〇冠
- 5 教員商業 明治大學
- 6 同

- 7 敦賀商業時代投手。現明大野球部部長として活躍す。
- 近藤 正明 (野球)**
- 1 東京杉並區明大野球部合宿内
 - 2 長崎縣
 - 3 大正元年
 - 4 一六四號 五七冠
 - 5 平塚中學 明治大學
 - 6 平塚中學 明治大學
 - 7 平塚中學時代選手。現明大野球部部長として活躍す。
- 河野 岩三郎 (野球)**
- 1 東京杉並區明大野球部合宿所
 - 2 香川縣
 - 3 明治四十二年
 - 4 一六七號 五七冠
 - 5 坂出商業 明治大學
 - 6 明大野球部中堅手として、リーグに活躍打を以て知らる。
 - 7 現立教外野手としてリーグ其他に活躍。その快足は大いに同軍の意を強め強打を以て知らる。昭和八年新制度最初の榮冠を十一勝七割六分六厘の好記録を以て把握す。
- 小岩井 宇一郎 (野球)**
- 1 東京豊島區立大野球部合宿所
 - 2 臺灣
 - 3 明治四十四年
 - 4 一六四號 五七冠
 - 5 臺北一中 立教大學
 - 6 現立教外野手としてリーグ其他に活躍。その快足は大いに同軍の意を強め強打を以て知らる。昭和八年新制度最初の榮冠を十一勝七割六分六厘の好記録を以て把握す。
 - 7 現立教外野手としてリーグ其他に活躍。その快足は大いに同軍の意を強め強打を以て知らる。昭和八年新制度最初の榮冠を十一勝七割六分六厘の好記録を以て把握す。
- 小林 清吉 (野球)**
- 1 神戸市鈴鹿商會内
 - 2 長野縣
 - 3 明治四十年
 - 4 一五八號 五二・五冠
 - 5 鈴鹿商會
 - 6 昭和七年
 - 7 第六回都市對抗戦の覇者全神戸軍の外野手として、翌八年第七回同大會に出場奮戦す。
- 小役丸 進 (ラグビー)**
- 1 東京王子區上十條町
 - 2 同
- 五味川 八太郎 (野球)**
- 1 大連市國際運輪會社内
 - 2 大連市
 - 3 大正四年
 - 4 一六四號 五七冠
 - 5 大連商業
 - 6 國際運輪會社
 - 7 商業時代よりの外野手、現大連實業團の外野手として、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場力戦す。
- 兒島 俊之助 (漕艇)**
- 1 東京赤坂區青山町六ノ一〇八
 - 2 同
 - 3 明治十三年 六月三日
 - 4 一七三號 六七・五冠
 - 5 府立一中 早稲田大學専攻
 - 6 第一銀行 船門艇友會
 - 7 早大船艇部の先輩にて早大船艇部員として、明治四十三年より五年迄二番清手又調整手として、各大學對抗試合等に出場活躍す。
- 古藤 正夫 (野球)**
- 1 東京豊川區尾住町一ノ一五
 - 2 東京市
 - 3 明治四十年 二月十四日
 - 4 一七〇號 六一・九冠
 - 5 同
 - 6 松葉屋洋服店 松葉屋チーム
 - 7 帝都實業野球團の雄松葉屋チーム投手として、東都軟式野球大會に數回出場大に活躍す。
- 高禮源 (蹴球)**
- 1 東京品川區大井町五三三八
 - 2 東京小石川區竹早町
 - 3 明治四十三年三月二十三日
 - 4 一六八・五號 六〇冠
 - 5 攻玉社中學 法政大學
 - 6 中學時代より蹴球部員として知られ、法政入學後同部の副將となり昭和七年第八回對關西大學定期戦に優勝す。現東都學生蹴球界に其勇名を馳す。
- 兒島 俊之助 (漕艇)**
- 1 東京赤坂區青山町六ノ一〇八
 - 2 同
 - 3 明治十三年 六月三日
 - 4 一七三號 六七・五冠
 - 5 府立一中 早稲田大學専攻
 - 6 第一銀行 船門艇友會
 - 7 早大船艇部の先輩にて早大船艇部員として、明治四十三年より五年迄二番清手又調整手として、各大學對抗試合等に出場活躍す。
- 小林 正雄 (野球)**
- 1 大阪府吹田町大阪鐵道局内
 - 2 神戸市
 - 3 大正三年
 - 4 一六一號 五二・五冠
 - 5 中外商業
 - 6 大阪鐵道局
 - 7 實業球界に於て關西球團の獨家吹田クラブの外野手。昭和八年第七回都市對抗戦に出場活躍す。
- 小林 宗三郎 (漕艇)**
- 1 東京市芝區松本町四五
 - 2 同
 - 3 明治四十五年 五月二十六日
 - 4 一六五・五號 五二・五冠
 - 5 慶應普通部 慶大
 - 6 慶應普通部 慶大
 - 7 昭和七年まで分科レース船手として活躍す。現在マナーリヤーとして同船艇部の爲非常に努力す。趣味釣魚
- 駒ノ里 秀雄 (相撲)**
- 1 東京本所區小泉町三四
 - 2 東京世田谷區駒澤町
 - 3 明治四十二年
 - 4 一六四號 一〇六・四冠
 - 5 同

- 6 大日本相撲協會
7 本名桂巻秀雄。山分部屋所屬。昭和八年五月入幕現四方前頭の中堅力士として知らる。
- 小島 利男 (野球)**
- 1 東京淀橋區早大野球部合宿所
 - 2 名古屋市東區久屋町
 - 3 大正二年 十月十日
 - 4 一六九號 五七冠
 - 5 愛知商業 早稲田大學
 - 6 愛知商業 早稲田大學
 - 7 愛知商業投手として神宮球場に一回、甲子園に三度出場し華々しき戦跡を印す。早大に入りては二番手として東京六大學リーグ早慶戦に活躍す。昭和七年秋季打撃率三・七五。趣味音楽
- 小島 虎五郎 (柔道)**
- 1 東京小石川區興義館内
 - 2 米澤市東町
 - 3 明治四十四年 五月二十日
 - 4 一六七號 六九・四冠
 - 5 南部小學 米澤中學 早大
 - 6 南部小學 米澤中學 早大
 - 7 中學時代より柔道の副將として縣下に其勇名を馳す。又相撲部員を兼ね。現早大柔道部後進にて日下三段。趣味スポーツ
- 今野 惣三郎 (柔道)**
- 1 東京小石川區大塚高師寄宿會
 - 2 宮城縣黒川郡吉田村
 - 3 明治四十四年三月十九日
 - 4 一六七號 七五冠
- 小宮山 四郎 (漕艇)**
- 1 東京帝國大學
 - 2 長野縣野澤町
 - 3 明治四十一年 三月十八日
 - 4 一七〇號 六七・五冠
 - 5 野澤小學 野澤中學 一高 帝大
 - 6 野澤小學 野澤中學 一高 帝大
 - 7 中學時代柔道選手。一高在學中は漕艇部船手。東大に入りては二番清手として昭和六年度レガッタに優勝。同年インターカレッジ、ロンドン、セントリス等に出場力戦す。趣味園藝
- 小國 清孝 (蹴球)**
- 1 東京品川區大井町四一四七
 - 2 名古屋市外西區枇杷島町
 - 3 明治三十八年 八月二十二日
 - 4 一六四號 五九冠
 - 5 岩倉小學 育英商業學校
 - 6 岩倉小學 育英商業學校
 - 7 東海水泳界の雄育英商業水泳部日出型百米及二百米選手として、津市に於ける東海水泳大會に出場、百米第二位獲得(一分一三秒)又愛知遊泳會の精銳として活躍した人。趣味園藝
- 小出 大 宗 (水上)**
- 1 東京品川區大井町四一四七
 - 2 名古屋市外西區枇杷島町
 - 3 明治三十八年 八月二十二日
 - 4 一六四號 五九冠
 - 5 岩倉小學 育英商業學校
 - 6 岩倉小學 育英商業學校
 - 7 東海水泳界の雄育英商業水泳部日出型百米及二百米選手として、津市に於ける東海水泳大會に出場、百米第二位獲得(一分一三秒)又愛知遊泳會の精銳として活躍した人。趣味園藝
- 後藤 長 (蹴球)**
- 1 東京本郷區迫分町三一清月館内
 - 2 東京下谷區
 - 3 明治四十二年 十一月三日
 - 4 一六八・五號 五七冠
 - 5 大阪府中學 浪花高商 東京帝大
 - 6 東大蹴球部の強豪。昭和七年關東蹴球協會支部主催大會に於て、安部川地組を破る。同年日本蹴球選手順位第十六位、復六位。又日本學生選手順位第十一位、復五位を獲得す。
- 小松 仁郎 (野球)**
- 1 福島市東商會内
 - 2 福島縣
 - 3 大正元年
 - 4 一六一號 六〇冠
 - 5 福島中學
 - 6 生絲商東商店
 - 7 東北實業球團の新銳にして、多年同地方に君臨せし仙臺を一蹴し、昭和八年第七回都市對抗戦に初出場の榮を握り、又同クラブのスコアラ
- 小嶋 恒次 (劍道)**
- 1 東京板橋區板橋五ノ七二四
 - 2 栃木縣鹽谷郡大宮村
 - 3 明治三十六年 三月十五日
 - 4 一六二・五號 五二・五冠
 - 5 中央大學
 - 6 警視廳警察官 警視廳
 - 7 昭和五年六月劍道三段昇進。現錦
- 1として同チームの外野手をも兼任す。
- 小林 喜一郎 (蹴球)**
- 1 京都東山区山科町竹鼻六二
 - 2 京都東山区大和大路古門前
 - 3 大正三年 十月二十六日
 - 4 一七〇號 六三冠
 - 5 京都第一商業學校
 - 6 同
 - 7 ジュニアアテチヌマンとして、關西球界に活躍。同大主催ジュニア大會に於て、甲陽中學を破り優勝す。又京都高蹴主催蹴球大會に於ては御影師範を退け覇權を握る。趣味映畫
- 近藤 七郎 (ラグビー)**
- 1 東京品川區大井町二三四四
 - 2 久留米市
 - 3 明治三十九年 十月三日
 - 4 一七一・六號 六一・九冠
 - 5 福岡工業 東京高工
 - 6 東京瓦斯電氣工業會社
 - 7 東京高工を経て東京瓦斯電氣工業會社に入る。現在ラグビー部TB選手として、東都實業ラグビー界に活躍す。

町警察署剣道部代表選手として、對
部試合に出場活躍す。趣味讀書。

小松 一清 (柔道)

- 1 東京日風區上目黒八ノ四五二
- 2 福島縣平町
- 3 明治三十九年 三月二十日
- 4 一六八・五五 六九・四九
- 5 平小學校 警城中學 東大農學部
- 6 農林省畜産局 講道館
- 7 中學時代陸上部選手。東大入學後
柔道部選手として東都學生柔道界に
奮戦。大正十五年二段に昇進。對部
同高校及對浦和高校との對戦に力闘
す。趣味乗馬

小林 凱金 (スキー)

- 1 東京府布區仲ノ町九
- 2 東京四谷區東町
- 3 明治三十九年 四月二十四日
- 4 一七六・六六 六四・六九
- 5 四谷第三小學 麻布中學 早大
- 6 松屋百貨店 松屋運動部
- 7 麻布中學を経て早大入學。山岳部
員として活躍し、現在松屋百貨分店
に勤務。又スキーヤーとして知らる
趣味ゴルフ

近藤 八郎 (馬術)

- 1 東京中野區小池町三二
- 2 四日市市
- 3 明治二十九年 十一月二日
- 4 一六七・七九 七八・八九
- 5 三重縣富田中學
- 6 豆粕製造業
- 7 富田中學を経て四日市市豆粕製造

所東京出張所に入る。昭和八年四月
習志野乗馬大會に障飛越選手とし
て出場八等に入賞。現東京馬術研究
會員として活躍す。

小竹 兼三郎 (剣道)

- 1 東京荒川區日暮里町八ノ九四二
- 2 茨城縣鹿嶋郡上野村
- 3 明治二十七年 九月二十三日
- 4 一七六・六六 六六・五九
- 5 上野村小學校
- 6 警視廳警務官 武振會
- 7 大正十年警視廳巡査拜命。昭和五
年四月谷中警視廳道部選手となる。武
徳會より精練證を授與さる。第一回
對大戦に出場。又宮内省との對戦
にも出場奮闘。現四段の中(三段相當)

小林 世紀 (柔道)

- 1 東京品川區代々木上原町一・二一〇
- 2 新潟縣村上本町
- 3 明治三十四年 二月二十八日
- 4 一六八・五五 六七・三九
- 5 村上本町小學校 村上中學 水産講
習所
- 6 農林省水産局漁政課 講道館
- 7 村上中學柔道部選手として縣下中
學柔道界に奮闘し、水産講習所に入
りては同部の重鎮として全國高等柔
道大會に出場活躍す。現在講道館三
段。

後藤 守弘 (柔道)

- 1 東京淺草區河原町二八
- 2 新潟縣四重郡
- 3 明治四十二年

一六七・七九 六四・六九

小安 正利 (庭球)

- 1 千葉市向原一・二二五
- 2 千葉縣長生郡東波見村
- 3 明治四十三年 二月十二日
- 4 一六七・六〇 六〇・九二
- 5 東波見小學 長生中學
- 6 東京鐵道局
- 7 長生中學を経て東鐵千葉車掌所に
入る。中學時代庭球部選手として千
葉縣松戸に開催せられたる關東中等
學校庭球大會に出場優勝す。現在東
鐵庭球部代表選手として活躍す。趣
味將棋

小安 又平 (野球)

- 1 千葉市寒川片町
- 2 千葉縣東金町
- 3 大正元年 八月十六日
- 4 一七一・五五 六〇・九二
- 5 千葉第三小學 千葉中學
- 6 東京鐵道局 東鐵野球部
- 7 千葉中學野球部左翼手として關東
大會に優勝。關西鳴尾原に出場活
躍す。現在東鐵野球部左翼手として
鐵道野球大會及昭和八年度都市對抗
野球東京選に出場奮闘す。

小出 忠治郎 (柔道)

- 1 東京王子區上目黒町一二五九
- 2 長野市後町
- 3 明治三十年 二月三日
- 4 一六七・七九 六四・六九
- 5 長野師範附屬小學 長野中 中大
- 6 東京鐵道局 東鐵俱樂部
- 7 中央大學在學中柔道部主將として
東都學生柔道界に鳴らし、現在講道
館四段。東鐵柔道部代表選手として
知らる。日下秋葉原運動場。趣味尺
八

長野市後町

小向 三郎 (野球)

- 1 東京杉並區松ノ木町一・三三五
- 2 岩手縣福岡町
- 3 明治二十六年 五月二十日
- 4 一六七・六〇 六〇・九二
- 5 福岡中學校
- 6 東京電燈會社配電課
- 7 福岡中學野球部選手として東北中
等野球界に活躍し、現在東電體育會
草球部選手として健闘。現同社配電
課工事課に勤務。

小出 保 (柔道)

- 1 東京世田谷區北澤三ノ一〇七七
- 2 青森縣三本木町
- 3 明治三十年 五月十一日
- 4 一六一・七九 七八・八九
- 5 三本木小學 大成中學 中大
- 6 東京市電氣局 講道館
- 7 大成中學柔道部選手として活躍し
大正十四年初段。昭和七年二段昇進
中央大學を経て東京市電氣局に入り
電氣局柔道部創設に盡力す。

小出 喜三郎 (柔道)

- 1 東京下谷區四町二
- 2 千葉縣佐原町東關戸
- 3 明治三十七年 二月二十三日
- 4 一六二・五五 六四・六九
- 5 理髮店主 尚道館
- 7 十六歳の折上京淺草尚道館に入り
柔道を修め後陸軍主務藤原久太郎氏
に就く。昭和七年十一月二段に昇進
現在理髮店を經營の傍ら武道に精進
す。趣味讀書。

小曾 根幸雄 (野球)

- 1 名古屋市名古屋驛構内
- 2 名古屋
- 3 明治四十四年
- 4 一七〇・六〇 六〇・九二
- 5 明倫中學
- 6 名古屋鐵道局
- 7 昭和七年第六回、同八年第七回都
市對抗野球戦に名鐵東代表捕手及三
塁手として出場活躍す。

江 俊夫 (庭球)

- 1 東京王子區志茂町一ノ七五〇
- 2 埼玉縣浦和町一六
- 3 明治三十六年 九月十三日
- 4 一七六・六六 五四・四九
- 5 朝鮮鐵道小學校 善岡商業
- 6 東京市役所
- 7 商業時代より庭球部選手にて、現
在東京市役所庭球部の重鎮として東
都庭球界に活躍す。日下河津運動場

河野 通之 (漕艇)

- 1 東京荒川區尾久町一二九五
- 2 高知縣市四町
- 3 明治四十五年 一月十一日
- 4 一六四・四九 四九・四九
- 5 吳清水通小 神戸三中 日本醫大
- 6 中學時代水泳選手として關西水泳
界に活躍し、日本醫大に入りては編
艇部舵手として昭和八年インターカ
レシフレガッタに出場し輝しき戦跡
を印す。趣味水泳

河野 和夫 (庭球)

- 1 東京豊町區車町三七
- 2 愛媛縣東宇和郡中川村
- 3 明治三十六年 八月二十日
- 4 一七〇・六六 六四・六九
- 5 朝鮮群山小學 宇島中 立大
- 6 蓬来生命保險會社
- 7 立大在學中は庭球部選手としてオ
ルリヤパン及各种大會に出場健闘
又柔道部選手(講道館三段)ラグビー
選手としても活躍す。趣味スキー

越ノ海 東次郎 (相撲)

- 1 東京本所區東兩國一ノ六
- 2 新潟縣西頸城郡根知村
- 3 明治三十九年 七月一日
- 4 一七一・六六 八七・七七
- 5 根知村小學校
- 6 大日本相撲協會 國技館
- 7 本名加藤東次郎。若藤部屋力士。
初土俵大正十四年一月。昭和七年五

小松 榮 (漕艇)

- 1 東京品川區大井金子町六五七〇
- 2 金澤市
- 3 明治三十四年 九月三日
- 4 一七〇・六六 六四・六九
- 5 鳥取一中 東京商大
- 6 三菱鐵道會社 三菱クラブ
- 7 東京商大編艇部名譽選手として大
正十四年秋期インターカレシフレガ
ッタに出場優勝す。現在三菱編艇部
整調手として三井郵船等の三社對抗
レース其他に數回出場活躍す。

兒玉 政雄 (野球)

- 1 大連市信濃町一八
- 2 神奈川縣
- 3 明治三十六年
- 4 一七〇・六六 六〇・九二
- 5 旅順中學 早大専政科
- 6 大連汽船會社
- 7 中學時代より大正十五年早大卒業
迄投手として、大正末期六大學リ
グ創立當時に活躍。後滿洲クラブの
投手として都市對抗戦に出場諸都の
強豪を常に脅かす。

越野 幸次 (野球)

- 1 豊島區西里町一ノ二九二〇
- 2 石川縣美川町
- 3 明治四十二年 十二月二十一日
- 4 一六七・七九 五八・九二
- 5 美川町小學校 小松中學 明大

小島 甫 (スキー)

- 1 埼玉縣浦和町前地
- 2 岐阜縣羽島郡中屋村
- 3 明治三十三年 二月二十六日
- 4 一七〇・六六 六四・六九
- 5 岐阜中學 早大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 早大在學中スキー部選手。東鐵に
入りては、スキー山岳部創設に功績
あり、現同部幹事として發達に努
む。又山岳家にして、ペンネーム小
島一祐として著名。趣味登山

サノ部

齋藤兼吉 (水上)

滿洲國奉天奉天町乙ノ三ノ四
滿洲教育専門學校
新潟縣出生。大正八年東京高等師範教育
科卒業。同六年第三回同八年第四回
極東オリムピックに水泳代表として
征戦す。第三回記録五十碼(鹽水二
十六秒四)百碼(一分五秒)にて第
四回には僅か一人で九點を獲得。彼
我共に其奮戦に驚嘆す。因に記録
は五十碼(淡水二十七秒四)四百四
十碼(四分三十八秒六)一哩(二十
九分三十六秒)又我國最初の水泳選
手に選拔され大正九年第七回國際オ
リムピックのアントワープに遠征日
本水泳界に萬丈の望を吐いた自由型
の超人。更に第三回極東大會には陸
上の槍投等に出場好成绩を挙げ。水
陸共に優れた萬能選手にて又斯界
の先驅者。

佐々木久二 (ゴルフ)

東京淀橋區上落合三ノ一四六
京濱電力會社事務取締役
明治十一年二月福井縣に生る。同三
十八年東大法律科卒業。大倉喜八郎男
の秘書となり、又淺澤榮一子に隨行
して其米。昭和二年衆議院議員に當
選す。現京濱電力中央電力各社の取
締役。又柔道は二段の猛者にして、
現在東京ゴルフクラブ所屬のゴルフ
アーにて、日下ハンデー二十四。

佐伯喜三郎 (野球)

大牟田市
三井三池鐵山
明治四十二年姫路に生る。姫路中學
を経て昭和八年早大卒業。三壘手及
二壘手兼投手として其の天才的振りは
推されて第二十三代主將の印綬を帯
ぶ。走守攻三訓を兼ね又輕快を以て
盜塁王の名譽を博し屢々早大軍をし
て勝因に導き其の主將振りを遺憾な
き迄發揮した名選手。

阪谷芳郎 (體育)

東京小石川區原町一六六
明治神宮體育會々長
文久三年岡山に生る。明治十七年東
大政治科を卒業。大藏省に入り主計
局長及次官等を経て、同三十九年一
月四國寺内閣の大藏大臣に親任す。
日露戰役當時、大藏次官としての功
に依り男爵を授けられ、更に東京
市長に選出せらる。大正六年以來貴
族院議員に當選。故淺澤榮一翁の女
婿にして、數種會社重役並同族監
査役たり。尙中央統計委員會長及專
修大學長として子弟の教養に専心努
力す。又運動方面にも多大の理解を
持ち其發展に貢献なす所甚大にて大
明治三十二年法學博士號を授けら
る。

相良亮吉 (ゴルフ)

東京芝區高輪南町三〇
三昭自動車會社事務取締役

佐藤達次郎 (馬術)

東京四谷區尾張町七
日本國際馬術協會理事
男爵、順天堂病院院長。明治元年東京
府に出生。男爵佐藤進の養子となり
大正十年醫學。明治三十年東大醫科
卒業後爾後順天堂の經營に従事し其
病院長の位置にある傍ら東京醫學專
門學校々長となる。大正十四年以來
貴族院議員(男爵互選)となる。明
治三十八年醫學博士の稱號を授けら
る又我國馬術界の功勞者として著名
現に日本乘馬協會相談役の要職に有
り専ら斯界の發展に努力す。

佐野利器 (體育)

東京小石川區籠籠町一六〇
大日本體育藝術協會委員
建築界の權威。明治十二年山形縣に
生る。同三十六年東大工學部教授
校助教を経て。大正七年工學部教
授となる。明治神宮造營局委員、帝
都復興院建設局長、東京市建築局長
等を勤む。我建築界の奉斗にして神
宮外苑繪畫館を始め、其設計に成り
たる建物頗る多し。現在清水組副社

佐村嘉一郎 (柔道)

長、日本大學工學部長にて、大正四
年工學博士となる。
東京小石川區富坂町講道館
大日本武徳會柔道範士
明治十三年福岡縣に生る。幼にして
講道館に入り修行。同三十年武徳會
本部教師となる。後各地學校の柔道
教師となり、再び本部並に武專柔道
主任教師に就任。同四十一年教士、
大正十五年範士の稱號を授けらる。
昭和四年御大禮記念武道大覽試合に
は審判員を仰付けらる。現七段。

佐々木勝麿 (野球)

神戸市元町三ノ四七
宗道家
兵庫縣出身。慶應普通部を経て大正
二年慶大理財科卒業。遊撃手として
慶大最初の米國遠征(明治四十四年
四月)に點の大先輩櫻井備一郎氏引
卒の下に。米國本土及布哇に轉戦す
る事五十二戰。二十九勝二十敗一分
中止二、の好記録を以て歸朝。後推
されて第七代主將となる。同野球部
の功績者にて又我國球界に盡せし所
甚大。因に同氏は早大野球部大先輩
泉谷祐勝氏の實弟なり。

佐藤秀三郎 (陸上)

神奈川縣鎌倉町
鎌倉師範學校教諭
新潟縣出身。大正十五年東京高等師
範科卒業。第六回(大正十二年)極
東大會(大阪)に八百米四着、千五

サノ部

一

百米二着、同十四年マニラの第七回
種大大会に連続出場大いに其脚を
輝ふ。翌十三年神宮競技會に於て八
百米、千六百米リレーに優勝。我中
距離界の權威者を以て鳴る。

佐藤 東洋 (拳闘)

東京四谷區寺町帝室内
帝國拳闘俱樂部
明治三十八年茨城縣平潟町に生る。
大正十五年拳闘研鑽の爲め渡米。歸
朝後昭和四年神宮大会に於てフェザ
ー級拳闘選手権獲得。翌五年日比谷
公會堂に於て大日拳の田中氏及帝拳
平川氏と對戦華々しき戦績を収
む。後ライト級職業拳闘家に轉じ現
在帝拳師範として知らる。

佐藤 幸三 (漕艇)

仙臺市北四番丁
佐藤内科病院院長
明治二十二年三月宮城縣に生る。大
正五年東大醫科卒業。青山外科を經
て、東北帝大講師となり、同十二年
博士號を授與さる。現在同地に開業
し、日本漕艇協會理事及仙臺スケー
ト協會長。仙臺水泳協會副會長等の
要職にあり。學生時代より各種のス
ポーツを好む。

佐々美政 (野球)

千葉縣一宮町海岸通
東京出身。大正六年慶大理財科卒業
大正初期慶大野球部一塁手として鳴
る。同三年三月スタンプフォード大學
の招聘に應じ第二回米國遠征に參加

布哇及米西各地の強豪と對戦十四勝
十五敗二引分の戦績を得。其他米朝
軍等の互星チームとの試合に力戦。
野球部現今の隆昌に盡す所勝からず

櫻井彌一郎 (野球)

東京芝區白金猿町七一
帝國生命保險會社東京支店長
明治十六年長野縣に生る。上田中學
を経て同四十四年慶大理財科卒業。
早慶戦初期の投手及第四代主將。其
魁偉なる威風堂々たる強球は且つて
一軍の興衰を支配するものであつた
卒業後同四十四年慶大第一回米國遠
征に際し一軍を引率し五十二戦二十
九勝二十敗一引分二中止の好成績を
印す。慶大野球部の大先輩及我國球
界の功勞者にて球界の發展に關し絶
大なる貢獻者。

佐藤昌介 (スキー)

札幌市北一條東七ノ一
全日本スキー聯盟評議員
男爵、北海道大名譽教授。安政三
年岩手縣に生る。明治十三年札幌農
學校卒業後米國に留學し農政經濟を
研究す。歸朝後同校教授となり、明
治三十二年農學博士號を得。同三十
七年同校長に任ぜられ、大正八年北
海道帝大創立同時に總長となる。昭和
五年辭任同三年男爵となる。

齋藤 巍洋 (水上)

大阪北區堂島大阪毎日新聞社
日本水上競技聯盟常務理事
明治三十七年大阪に生る。岸和田中

學を経て昭和二年立教大學商科卒業
現大毎に勤務。大正十三年巴里に於
ける第八回國際オリムピック大會及
布哇遠征等に活躍。第八回國際オリ
ムピックには百米背泳(一分一九秒
八)にて六着を獲得。

坂本一角 (柔道)

東京本所區南二葉町四
大日本武徳會柔道教士
明治三十一年埼玉縣に生る。秀峯と
號す。苦學力行大成中學より明大を
經て、日本齒科醫專卒業。其間柔道
を修め昭和四年八月教士號を授けら
る。又政友會代議士として東京府よ
り立候補し當選。現政友會外閣理事
日本齒科醫專理事、日大講師等の職
にあり。講道館五段。

齋村五郎 (劍道)

東京世田谷區國士館合宅
大日本武徳會劍道範士
明治二十年福岡市豐巴町に生る。最
初吉留姓氏に就き武道を學ぶ。後武
徳會本部に於て研鑽。大正五年國士
館劍道教師に就任。同八年教士號を
授與さる。昭和三年五月範士號を受
け同四年五月御大禮記念武道天覽試
合には榮譽ある指定選士並に審判員
御付けらる。

佐伯達夫 (野球)

大阪東區區林寺町九
津田勝五郎商店
大正初期。大正六年早大商科卒業。
大正初期早大野球部三塁手にて同

四年一月比律賓遠征に參加。翌五年
市俄古大學の招聘にて第三回米國征
戰の途に際し依然體關サードベース
を固守す。其他布哇セントルイス野
球隊及市俄古大學等の米朝軍との試
合に大いに健闘。

坂上安太郎 (水上)

東京淀橋區早稻田大學水泳部
大正二年出生。自由型選手。昭和六
年度八百米ベストテン五位。(一〇分
四五秒二)四百米九位。千五百七位
を占む。同七年第十回國際競技大會
には水球日本代表としてロシアに
レに活躍す。同年二百米八百米リ
レーに好記録にて優勝。早大水泳部
の顧問にて、同八年全國學生水上大
會には八百米リレー一位、百米二
位、二百米リレー(一分四六秒六)
に日本新記録を作る。

酒井榮藏 (馬術)

東京品川區大井濱川町一〇三〇
代々木乗馬俱樂部會長
明治五年一月大阪に生る。同三十六
年分家して一家を創立。土木請負業
を營み、現に精進鐵道社長にて、東
京灣土地取替、其他諸會社重役を兼
ね、日本正義團盟主たり。乗馬を好
み斯界の發展に努む。

酒井忠正 (ゴルフ)

東京小石川區原町一
貴族院議員
伯爵。明治二十六年六月十日出生。
學習院を経て大正七年東大法律科卒業

後司法總道各大臣秘書官に任補せら
る。大正十二年以來貴族院議員にし
て研究会に屬す。現東京多額納稅者
にて、又東京ゴルフクラブ所屬のゴ
ルフアーにしてハンデ二二。

齋藤 一男 (漕艇)

東京王子區稻付町一〇二三
日本醫科大學教授
醫學博士。我國スポーツ醫學の泰斗
明治三十四年十月十日東京に生る。
大正十五年東大卒業。學生時代編艇
無選手たり。日下日本醫大附屬病院
整形外科部長の職にあり、傍らスポ
ーツ醫學研究會幹事としてスポーツ
醫學の重要性を力説す第八回九回の
編艇大會及第十回國際競技大會には
役員として出張。其學位論文も編艇
選手の足型に關し、深遠なる學識と
豊富なる體験に基き研究を發表し我
國スポーツ界に非常なる貢獻を盡す
又現に文部省體育研究所内スポーツ
醫學相談所主任技師の要職にあり。

財津 勝一 (劍道)

長崎市城山町北六條一一
大日本武徳會劍道教士
神陰流神道無念流の劍道教師として
新界に其名譽を顯はれて居る財津種
造教士の命息にして、多年親父より
武道を研鑽研鑽の練磨精神により其
技大いに進み武徳會より昭和五年劍
道教士號を授與せられし劍豪。

佐々木 等 (陸上)

東京世田谷區北澤三ノ九〇二

東京高師教諭
福島縣出身。大正八年東京高師體操
科卒業。陸上競技草創時代の長距離
界の猛者。第三回(大正六年)種東
大會に出場健闘す。現體育研究所技
師の要職にありてスポーツ獎勵に盡
力する所多し。

佐々木伴久 (馬術)

東京世田谷區太子堂町三二四
日本乗馬協會會員
明治十七年六月出生。明治四十五年
東大獸醫科卒業。大正元年馬政局技
師となり、福島鹿兒島各種馬所長を
經て、農商務技師に歴任す。現農林
省農林技師にて、又シベリヤ支那及
歐洲各國講堂等に出張す。

佐藤 謙之輔 (馬術)

新潟縣南蒲原郡新潟村小栗山
日本國際馬術協會評議員
明治十九年九月新潟縣に生る。大正
二年東大法律科卒業。現在新潟自動車
商會、新潟港灣倉庫等の當務取締役
にして、昭和五年二月代議士に當選
す。

坂本正治 (馬術)

東京四谷區區仲町三ノ三六
東山農事株式會社專務
明治十年四月高知縣に生る。同三十
五年商船學校を卒業し、日本郵船會
社に入り米國に留學。歸朝後三菱合
資に轉じ、三菱各事業會社に勤む。
又乗馬を好み現に日本國際馬術協會
評議員。

齋藤春太郎 (漕艇)

東京四谷區愛住町一九
昭和ビルプロカー取締役
明治十七年東京に生る。明治末期時
代早大編艇部の三番手として活躍。
同四十年商科卒業。後實業界に入る。
現在昭和ビルプロカー取締役の要
職にあり。稻門艇友會員。

佐藤 義江 (陸上)

仙臺市坊主町六九
宮城縣體育主事
福島縣出身。大正八年東京高師體操
科卒業。大正六年第三回種東大會に
ハンマー投日本代表選手に推舉され
大いに健闘す。現體育主事として體
育の普及及發達に努む。

櫻井 義祐 (劍道)

小樽市綠町
大日本武徳會劍道教士
明治十四年五月東京に生る。有信館
本部に於て神道無念流を修む。大正
十五年五月武徳會本部より教士の稱
號を授與さる。

櫻庭 武 (柔道)

東京豊島區區仲町ヶ谷旭出町
大日本武徳會柔道教士
明治十九年八月秋田縣に生る。東京
高師出身。大正十三年五月武徳會よ
り教士の稱號を授與さる。講道館六
段。斯界の大家なり。

佐々木 貞次郎 (柔道)

朝鮮咸鏡南道醫務部内
大日本武徳會柔道教士
明治二十三年鳥取縣に生る。昭和三
年十一月武徳會より教士の稱號を授
與さる。武徳會五段。

酒井 彦太郎 (劍道)

神戸市東須磨下中島町一ノ一二
大日本武徳會劍道教士
慶應三年四月茨城に生る。武徳會本
部に於て北辰一刀流を究む。大正八
年六月教士の稱號を授與さる。

齋藤 萌 (柔道)

山口市河原
大日本武徳會柔道教士
明治十六年十一月山口縣に生る。昭
和二年五月武徳會より教士號を授與
さる。講道館五段。

佐野 安太郎 (柔道)

富山市諏訪川原一三
大日本武徳會柔道教士
明治二十四年十二月富山縣に生る。
昭和三年七月武徳會より教士の稱號
を授與さる。

寒河江 由馬 (劍道)

鐵道省經理局内
鐵道省
山形縣出身。鐵道省劍道部の創立者
として知られ、昭和五年度以來全國
鐵道大會に司會者兼本省出場選手監
督として盡力す。現在劍道四段。趣
味野球。

佐藤喜久治 (柔道)

新潟市津波作場天明町
新日本武徳會柔道教士
明治二十一年宮城縣に生る。大正十三年五月武徳會より教士職を授けらる。講道館五段。現同地方に於ける柔道の發達普及に努む。

三枝守博 (山岳)

東京中野區文園町一八
東洋園藝會社
明治十九年四月二十九日東京に生る。同四十四年東京高商卒業。現東洋園藝會社監査役。又日本山岳會評議員として、新界の權威者として知らる。

財津種造 (剣道)

長崎縣五島郡江町東町
大日本武徳會劍道教士
文久三年八月長崎に生る。大林鐵之助氏に就き神道流及神道無念流を究む。大正八年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

佐藤義道 (剣道)

川崎市京町一ノ二〇七
大日本武徳會劍道教士
明治六年四月山形に生る。宮内省濟寧館に於て直心影流及北辰一刀流を修む。大正八年六月武徳會本部より教士の稱號を授けらる。

坂野秀夫 (野球)

兵庫縣川邊郡塚口住宅地
日本製粉製造所(大阪山口ビル)
會セレクターとして新界に貢獻す。

齋藤武 (野球)

山形市新築三島通二三八
日本勸業銀行山形支店長
明治二十三年千葉縣出身。大正三年早大商科卒業。早大野球部未だ黎明期に在りし當時同部のマネージャーとして多難なる事務及交渉等に非常に盡せる同部の躍れた功勞者。

佐々木道雄 (排球)

東京品川區大井水神町二一一二
東大助教授
明治三十年三重縣に出生。大正九年東大經濟部卒業。同十二年助教授に任命さる。此間陸軍に入營三等主計に任ぜらる。現大日本排球協會副會長にて新界の發展に盡力す。

佐藤信一 (陸上)

大阪市鶴野
大正十二年東京高商體育操科卒業。同年上海に於ける第五回遠東大會及同十二年大阪に於ける第六回遠東大會に陸上選手として非常に健闘す。現視察にて教育界に盡力す。

酒井忠克 (ゴルフ)

東京牛込區矢來町一
貴族院議員
明治十六年十一月出生。同三十九年學醫院高等科卒業後東大に學ぶ。宮内省に出仕式部官兼主議官たりしが大正十三年辭す。同十四年以來貴族院議員に互選せらる。現東京多額納税者。又東京ゴルフクラブ財務委員にて、日下ハンデ二一。趣味陸球。

佐田徳平 (水上)

大阪市外豊中町新免一九三
阪神銀行電氣會社運送課長
明治四十二年甲府市に生る。豊國中學出身にして昭和七年明大商學部を卒業。大正十四年濱名湖の大會に出世記録を出して新界に認められ、昭和三年第九回國際競艇大會に日本代表として出場力泳す。同六年ベストテン百米自由型(一分〇一秒四)八位を獲得す。在學中同部主將として各大會等に出場活躍す。

税所篤義 (柔道)

東京神田區猿樂町一二
鹿兒島縣出水町
明治三十八年 四月六日
一六五五 六一・九九
出水小學校 日本大學
東京電氣會社 講道館
中學時代より柔道部の猛者として知られ、日本大學柔道部の開府として東都學生柔道會に活躍す。講道館二段。後剣道を修め現在初段。東電ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に奮闘す。

佐藤維孝 (野球)

東京芝區白金三光町三七〇
東京芝區通新町
明治三十九年 五月十四日
一七四・五五 六九・四九
帝國生命保險會社
浦和高校
浦和高校全盛時代のラグビー部主將としてその威名を轟かせ、東大に入りても各地に轉戦すること前後百二十回昭和六年主將の印綬を帯ぶ。昭和七年十一月東西OB、昭和八年オールド東對オールド外人チーム等の各試合に出場優勝す。趣味散步。

佐藤正利 (漕艇)

東京日本橋區通二丁目
新潟縣刈羽郡千谷澤村
明治二十年 十月二十八日
一六二・五五 七三・三九
柏崎中學 明治大學
七 早大野球部外野手として早慶戦六大學リーグに活躍。昭和七年度打撃率二割八分五厘ベストラン第九位打撃打共在左。同四年秋季早慶決戦に劇的本塁打を飛ばし一躍球界のヒーローとなる。

澤栗清 (漕艇)

東京在野區小山町五五九
東京市
明治四十三年 八月廿日
一六八・五五 五八・九九
東北小學 慶應商工 慶大
七 商工學校時代柔道部及び漕艇部選手として活躍し、東關東中等學校漕艇大會には力漕優勝の榮冠を獲得。大學漕艇部選手としては昭和七年、ンドンズ獲得レウスに出場奮闘す。趣味散步讀書。

坂倉敏三 (ラグビー)

東京芝區白金三光町三七〇
東京芝區通新町
明治三十九年 五月十四日
一七四・五五 六九・四九
帝國生命保險會社
浦和高校
浦和高校全盛時代のラグビー部主將としてその威名を轟かせ、東大に入りても各地に轉戦すること前後百二十回昭和六年主將の印綬を帯ぶ。昭和七年十一月東西OB、昭和八年オールド東對オールド外人チーム等の各試合に出場優勝す。趣味散步。

佐藤惣八 (剣道)

東京芝區區町屋二ノ三九一
佐賀縣三養基郡中羽村
明治十八年 十一月三日
一六一・一五 八二・五五
中羽小學 松岡高等小學校
六 警視廳警務官 警視廳

齋藤達雄 (野球)

東京芝區區町屋二ノ三三八
同
明治三十六年 十月十九日
一六五・五五 五二・五五
函館中學 立教大學
清水組 東京クラブ
七 函館中時代外野手として健闘。大正十年北海道大會に優勝。又鳴尾球場に参加。立大在學中は名外野手としてその快足を以て鳴る。卒業後東京俱樂部選手として、東日主催第六回都市對抗野球戦に出場活躍し、昭和六年日米野球戦にはオール日本チームヒンナランナーとして出場す。現在リーグ審判員。趣味騎馬釣り。

佐藤正男 (野球)

東京杉並區馬橋一ノ四一
富山縣射水郡黒川村
明治三十八年 二月二十三日
一六一・一五 六〇・九九
黒川村小學 郡立補習學校
六 警視廳警務官
七 歩兵三十五聯隊入營中銃劍術代表選手として、警隊對抗戦に怪力を揮ふ。又都代表マラソン選手に選ばれ、縣下青年團對抗戦に健闘を以て鳴る。後警務界に入り、對署試合創立以來出場奮闘す。警視廳四段の中(二段相當)又剣道は大正十三年より對署試合に出場、同十五年試合には、優勝の榮冠を掌握。警視廳四段の下(三段相當)現本所兩國警務にて、柔剣兩道の猛者。

齋藤盈夫 (漕艇)

東京芝區區町屋二ノ二八五
栃木縣芳賀郡清原村
明治四十三年 四月十一日
一七三・三三 六七・五五
清原小學 宇都宮中學 早大
七 早大漕艇部四番手として昭和六年フオアオリムピック競選に参加力漕し、七年早慶對抗レースに優勝。第十回國際競艇大會には日本代表選手として遠征す。又昭和八年第一回フオアインターカレッジに出場健闘す。趣味音楽。

坂倉敏三 (ラグビー)

東京芝區白金三光町三七〇
東京芝區通新町
明治三十九年 五月十四日
一七四・五五 六九・四九
帝國生命保險會社
浦和高校
浦和高校全盛時代のラグビー部主將としてその威名を轟かせ、東大に入りても各地に轉戦すること前後百二十回昭和六年主將の印綬を帯ぶ。昭和七年十一月東西OB、昭和八年オールド東對オールド外人チーム等の各試合に出場優勝す。趣味散步。

佐藤惣八 (剣道)

東京芝區區町屋二ノ三九一
佐賀縣三養基郡中羽村
明治十八年 十一月三日
一六一・一五 八二・五五
中羽小學 松岡高等小學校
六 警視廳警務官 警視廳

7 警視廳剣道界の古豪。幼少より剣道を志し、槍山範士に入門修行。大正四年五段ノ下、大正十三年四段ノ中(武徳會四段相當)に達す。昭和二年年度對署試合に兩國代表として出場。健闘し名譽ある優賞を授けられ、現本所兩國署刑事部長。趣味園藝、将棋。

櫻井 義繼 (野球)

1 東京杉並區和泉明大合宿所内
2 兵庫縣
3 大正二年
4 明石中學 明治大學
5 前明石中學の名捕手として、數回甲子園に其剛勇剛打を揮ふ。現明大の新進捕手となり依然其の強靱を以て本壘を固守す。

佐野 浩三郎 (ラグビー)

1 東京本所區東兩國町一ノ三
2 同
3 明治四十年 一月一日
4 一六四號 六一・九冠
5 府立三中 商科大學
6 大倉組 商大OB
7 商大ラグビー部HBとして東都各大學リーグ對抗試合に活躍し、抜群の技術と氣概は推されて昭和二年同部主將の印綬を帯ぶ。現在商大OB大會組ラグビー部選手として實業ラグビー界に奮闘す。又日本ラグビー協會職員として斯界に貢献す。

1 東京荒川區尾久六ノ六〇八
2 栃木縣矢板町
3 明治四十一年 八月十六日
4 一五八號 六〇冠
5 矢板小學 矢板農學校
6 中央學
7 農學校時代庭球選手。卒業後暫く小學教師を務め、現在中央學に勤務す。同野球部右翼手として東都軟式野球界に活躍し、同チーム隨一の強打者として常に大物を打つて殊勳を立て、ゐる。趣味讀書、繪畫。

齋藤 泰男 (野球)

1 東京杉並區馬橋四ノ五六二邊藤方
2 福島縣相馬郡八幡村
3 明治四十年 六月二十四日
4 一六七號 六一・九冠
5 中央大學
6 東鐵道局 東鐵野球部
7 東鐵野球部外野手。全國鐵道大會に出場する事五回。都市對抗野球戰關東兼戦には五回出場健闘す。又スポーツ社主催の全國實業野球大會に二回出場。實業野球界の猛者たり。昭和八年都市對抗第一兼戦には、東都の剛勇チームを退け、東京俱樂部との對戦に大いに活躍。趣味山岳、スキー。

酒井 輝夫 (相撲)

1 大分縣北海部四浦村
2 同
3 明治四十一年 十一月十八日

六

4 一七三號 七七・五冠
5 仙水小學
6 漁業
7 縣下隨一の青年相撲界の雄。十九歳より斯道を研鑽し、下關第十五聯隊入會中相撲選手にして、昭和五年隊内大會に優勝。隊長より銀座時計を受領。其他横須賀重砲兵學校相撲部主將を務め、傍ら照學術に優れ恩賜の徽章を拜受せし模範兵士たり。昭和六、七、八年縣相撲選手にして昭和八年第七回明治神宮大會に縣聯合青年團選手として奮闘す。現仙水青團指導員を務む。

佐原 東三郎 (陸上)

1 東京杉並區阿佐ヶ谷六ノ二四〇
2 東京本區區
3 明治三十八年 九月二日
4 一六一號 五七冠
5 本郷小學 府立一中 明大
6 千代田火災保險會社 鐵道會
7 中學時代剣道主將又野球及ラグビー部選手。明大入學後水泳部(ダイビング)より陸上部に入部。大正十三年より東京箱根間驛傳走に出場。代表としてマラソンに出場。現母校鐵道會幹事。

坂田 守 (陸上)

1 熊本市市川小學校内
2 熊本縣熊本郡吉松村
3 明治四十二年 八月十三日
4 一六一號 五二・五冠
5 吉松小學 熊本中學 熊本師範

6 豊川小學
7 中學師範時代庭球部主將。昭和八年全縣下級員大會百米に優勝。同年南九州陸上大會百米に四着、全縣下神宮豫選に四百米三着となり、昭和八年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團千米競走選手として第二位(二分三秒三)を五點獲得し全國各府縣對抗位(十九點)第二位を占む。

佐藤 利 (漕艇)

1 東京杉並區上井草町一四六八
2 福岡縣京郡津川村
3 明治三十三年 十月十一日
4 一八一號 九五・六冠
5 津川小學 豊津中學 早大
6 東京市産業部 稻門艦友會
7 豊津中學剣道部主將として縣下に雄飛す。早大に入りては大正十三年編艦部七番清手としてインペリアルラダレガタに出場活躍す。早大卒業後渡米インペリアル大學に學位を得て歸朝す。昭和六年三月黒田洋行に依り創立された日本スポーツマンクラブ協會のメサセンチャーターとして再度渡米我國のスポーツ並にスポーツマンシップを彼地に紹介した人として有名なり。

齋藤 弘義 (野球)

1 東京牛込區北山伏町四
2 東京小石川區竹早町
3 明治三十八年 二月十七日
4 一六一號 五八・九冠
5 女師附小學 高師附中 一高 東

6 農林省畜産局 帝大クラブ
7 一高野球部黄金時代の名二壘手。對三高戰及高專大會第一回に出場優勝。東大にては依然二壘及三壘手として大成す。昭和初期の六大學リーグに健闘す。昭和四年農學部醫學科卒業。又乗馬を好み昭和七年東京乗馬クラブ主催の馬術大會に、農林省代表選手として出場。趣味自動車。

齋藤 善吉 (陸上)

1 山形縣東田川郡廣瀬小學校内
2 同郡渡前村
3 明治四十二年 三月二十八日
4 一六四號 六六・五冠
5 山形師範學校
6 廣瀬小學校
7 中學時代陸上競技部庭球部選手として活躍。昭和六年東北中學競技大會の低障礙に出場。同年第六回明治神宮大會の四百米に縣青年團選手として健闘す。昭和七年度の東田川郡青年團主將、昭和八年第七回明治神宮大會に縣青年團千米競走選手及主將として再度出場力戦す。趣味體育。

西條 善藏 (拳闘)

1 東京品川區大井立會町五八一
2 宮城縣
3 明治四十一年 九月四日
4 一六八・五號 六一・九冠
5 宮城農學校 明治大學
6 常務生命保險會社
7 中學時代庭球部選手。明大入學後拳闘に轉じ、昭和六年第一回六大學拳闘リーグ戦に優勝を獲す。其他第二第三關東學生選手權大會及全日本

崎岡 時義 (陸上)

1 鹿兒島縣垂水町
2 鹿兒島縣大島村
3 明治四十三年 二月十五日
4 一六七號 五八・九冠
5 鹿兒島縣農學校
6 垂水小學校
7 縣下中距離界の俊英。昭和六年第六回明治神宮大會の四百米準決勝に善闘し、同八年第七回神宮大會の千米準決勝に一位を占め、前回と共に各府縣對抗青年團競技に見事連続優勝を擧げ、薩摩半島の面目を擧ぐ。因に同記録二分一秒九、縣總得點數二八點。

佐藤 達夫 (陸上)

1 岡山縣鹿野郡庄内村八一八
2 岡山縣鹿野郡中庄村四六八
3 明治四十一年 十二月十六日
4 一七一・五號 六六・五冠
5 倉敷商業
6 鐵物業
7 縣下中距離界の猛者。第一回關西府縣大會、昭和四年第五回明治神宮大會、第三回關西府縣大會、昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團四百米選手として奮闘す。現倉敷オムニヒアクラブ所屬。

齋藤 シヅ (陸上)

1 山形市女子師範學校内
2 山形市
3 大正四年
4 一五八號 五二・五冠
5 山形第三小學 山形第二高女
6 縣下有数の女子走高跳選手。昭和七年度縣下女子新記録(一米三二)を作る。昭和八年全縣女子陸上大會(一米三七)に一位を占め、同年南興羽神宮大會豫選に優勝し、同十一月神宮(第七回)體育大會に出場奮闘す。

佐原 五郎 (漕艇)

1 東京本區區本郷一ノ一ノ一
2 本郷區東竹町

佐原 六郎 (剣道)

1 東京澁谷區諏訪町六八
2 福岡縣那珂郡加納村
3 明治四十三年 六月二十五日
4 一七一・五號 七二・二冠
5 喜多方中學 日本體操學校
6 日本體育會體操學校
7 中學當時剣道選手。體操學校に入りては、剣道部の重鎮として昭和四五年全縣學生剣道大會及駒澤大學明治體育、工大との四校學生聯合大會に出場大いに奮闘す。昭和六年母校及群馬縣太田中學剣道部のコーチ兼として活躍す。現在劍道四段。母校及在東京中學校剣道部として盡力す。趣味尺八。

坂井 與藏 (剣道)

1 東京小石川區千住町
2 茨城縣
3 明治三十三年 五月八日
4 一七一・七號 六六・五冠
5 警視廳警察官 警視廳
6 警視廳警察官 警視廳
7 昭和二年淺草藏前警察署勤務となり武道に精進同四年五月武徳會より

創造精神を授け、警視廳武道大會及對署試合等には同輩助手として常に活躍す。海軍出身新道の俊豪を以て知らる。

三部 徳次郎 (野球)

- 1 東京日本橋區本石町三ノ二
2 茨城縣太田町
3 明治三十七年
4 一六二・五五 五四・四七
5 太田小學校
6 リーガル商會
7 東都軟式野球界の俊豪リーガル商會の捕手にて、昭和七年時事新報主催全國選手権大會に、東京第二支部に出場優勝す。其他同年國民新聞及城東野球協會主催の各大會に見事諸豪を一蹴して榮冠を握る。

佐々木了英 (剣道)

- 1 熊本縣青北郡二見村
2 同
3 大正二年 十月三十日
4 一六一・一五 五七・七五
5 二見小學校 八代中學
6 中學時代剣道部主將を務め、常に全縣中等剣道大會には毎回出場好成績を収む。昭和八年縣下剣道大會に優勝し、同年十一月第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として出場活躍す。現在二段少壯壯士。

佐々木義茂 (柔道)

- 1 東京世田谷區北澤三ノ一〇〇四
2 秋田縣河邊郡和田村

- 3 明治三十六年 五月十五日
4 一七〇・五五 七五・七五
5 和田村小學校 攻玉社中學 明大 銀座松屋 講道館
6 攻玉社中學柔道部の副將として奮闘し、在學中初段。明大に入るや都下學生柔道大會に於て優勝し、代表選手として滿洲に征戦す。昭和四年同校法科卒業。現在講道館五段、銀座松屋格闘部顧問。

佐藤 徳太郎 (庭球)

- 1 東京府品川區六本木町竹間アパート
2 三重縣員辨郡久米村
3 明治三十七年 六月一日
4 一七一・五五 六六・五五
5 四日市第一小 四日市市商 關西學院
6 東京朝日新聞社
7 庭球界の權威者にて一九二八年全東大會に上海へ、一九三〇、一九三一年デグス五庭球戦に歐洲へ征戦す又一九三二年招聘されて印度へ何れも我國代表選手として遠征健闘す。一九二八年デグス第二二位、一九二九年及び一九三〇年デグス第二二位を獲得。我庭球界に非常なる奮闘をした人。現在東京テニスクラブ所属

佐藤 龍兒 (拳闘)

- 1 東京四谷區新宿二ノ二八
2 同
3 明治四十二年 十月三日
4 一七〇・〇〇 一二五・五〇
5 慶應大學
6 練馬拳闘俱樂部

酒井 喜一 (漕艇)

- 1 東京品川區大井町五九五七
2 富山縣中新川郡下條村
3 明治二十八年 二月二十八日
4 同
5 魚津中學 明治大學
6 愛國生命保險會社
7 明治大漕艇部草創時代の選手。大正四年始めて早大と對抗レースをなし同年横濱外人チームとの競争には一艇身の差にて優勝す。猛闘を以て鳴り常に三四番選手として活躍し輝き戰跡を印す。大正六年法科卒業。趣味園藝長頭釣

佐藤 茂 (陸上)

- 1 宮城縣若柳町
2 同
3 大正四年 八月二十四日
4 一七三・三〇 五八・七五
5 若柳小學校
6 商業
7 縣下陸上界の勇將にして、昭和八年縣青年團體育大會の走高跳に入賞し、同十一年第七回明治神宮大會に縣青年團選士として出場

堺 二一朗 (陸上)

- 1 福島縣喜多方町

櫻井 寅二 (野球)

- 1 東京蒲田區矢口慶大倉宿所内
2 名古屋市
3 大正三年
4 同
5 中京商業 慶應大學
6 中等球界の最高榮位の覇者となる事連續二回。甲子園に其強肩好守備を以てて聞ゆ。現慶應の新屋捕手として先輩と伍し強打剛肩を揮ふ。

佐久間 幸吉 (陸上)

- 1 福島縣田代郡野田村
2 同郡佐倉村
3 明治四十三年 七月二十八日
4 一六五・五五 六五・七五
5 福島師範
6 野田小學校
7 縣下投擲界の雄者にて、昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選士として、砲丸投五等(一六九・六九)に入賞す。従来棒高跳選手としても名聲を博す。趣味歌舞伎

阪本 奈良俊 (陸上)

- 1 奈良縣上市町
2 同
3 大正二年 一月五日
4 一六七・七五 五八・九七
5 上市小學校
6 同
7 縣下有数の中距離選手として毎回全縣陸上大會に其敏脚を揮ふ。昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團四百米及千米競走選手として出場

三瓶 謙之助 (野球)

- 1 東京日本橋區本石町三ノ二
2 茨城縣太田町
3 明治三十三年 十一月二十七日
4 一五八・〇〇 五一・三三
5 太田小學校
6 リーガル商會
7 帝都軟式野球界の明星リーガル野球部監督。昭和七年時事新報主催、全國選手権大會に東京第二支部に優勝同年國民新聞主催及城東野球協會大會に副將を握る。同軍の陣昌は氏の指導訓練の良しきによる。

財津 永康 (剣道)

- 1 東京杉並區東田町一ノ四〇
2 熊本市京町東町
3 明治三十年 五月二十八日
4 一六四・〇〇 六〇・〇〇
5 東京農業大學
6 農林省米穀課 武徳會
7 中學時代より剣道に精進し、農業

齋藤 秀雄 (籠球)

- 1 東京品川區日本橋操校内
2 朝鮮元山府
3 大正三年 一月八日
4 一六七・七五 六九・四七
5 元山公立中 日本體育會操操學校
6 中學時代籠球部選手。體操學校籠球部FWとして昭和七年全國高等籠球大會、全日本選手権大會にも出場活躍。同年全朝鮮スキーリレー選手権獲得。スキーヤーとしても知らる。同八年籠球部マネージャーに就任。

佐野 満明 (野球)

- 1 富山縣福野町富山紡績社内
2 濱松市
3 明治四十年
4 一六二・五五 四九・四七
5 濱松高工
6 富山紡績會社
7 北陸球界の大豪富山紡績チームの二壘手にて、北陸實業野球大會に連續四ヶ年覇者の地位を保ち、昭和八年春創立せし中部日本紡績選抜野球大會に優勝す。同年第七回都市對抗戦に同部の三番打者として、健特強打を放つ。

佐藤 嘉男 (野球)

- 1 福岡市天神町五五
2 新潟縣
3 明治三十八年 八月十二日

相良 八重子 (陸上)

- 1 東京世田谷區松原女子體育専内
2 千葉縣
3 大正二年 十一月二十七日
4 一六七・七五 五七・七五
5 土佐高等女學校
6 同
7 我國女子走高跳の權威。昭和七年第十回國際競技大會に、日本女子代表としてロンドンに善闘す。同年ベストテン二位(一米四八)を占む。現日本女子體育の指導員格にて後進と共に専心研鑽中。同八年春關東選手権大會には走高跳一等、四百二百各リレーに一等、槍投に二等を獲す。趣味映畫

佐藤 正雄 (庭球)

- 1 福岡市天神町五五
2 新潟縣
3 明治三十八年 八月十二日

坂戸 淺一 (野球)

- 1 八幡市八幡製鐵所内
2 吳市
3 明治三十七年
4 一七〇・〇〇 七二・二二
5 吳中學 法政大學
6 八幡製鐵所
7 舊姓田中。中學時代遊撃手にて、法政にありても遊撃手として活躍し現八幡製鐵軍の主將兼三壘手を務め都市對抗戦に出場健闘する事三回其互砲と共に同チームの重鎮選手。因に昭和八年度都市對抗戦の個人打撃率三割。

佐竹 壽徳 (柔道)

- 1 東京淺草區元島越町一七
2 高知縣幡多郡七郷村
3 明治二十八年 五月二十六日
4 一六四・〇〇 六七・五五
5 加持川尋常小學校
6 警視廳警察官
7 大正十二年政前代表選手として對署試合に奮闘、後東京より出場力開。同十五年四級の中(二段相當)となる。警視廳柔道界の古豪として

知られ、現豊島區長馬場憲吉部長の要職にあり。

佐藤富太郎 (陸上)

- 1 秋田縣山本郡神村
- 2 同
- 3 明治四十一年 十一月二十三日
- 4 一六四種 六〇種
- 5 納小學校
- 6 工業
- 7 縣下中距離界の雄者。都青年團大會四百米の覇者として縣下に雄飛す。昭和八年第七回明治神宮大會に縣聯合青年團四百米千米連続走選手として健闘す。

佐藤重雄 (馬術)

- 1 東京王子區王子町四七二
- 2 同
- 3 明治四十二年 八月十二日
- 4 一七三種 五二・五種
- 5 京北實業 中央大學
- 6 中央大學馬術部選手。習志野乗馬大會に障礙馬術選手として出場すること四回、常に入賞し昭和八年同大會學生甲種中障礙連續飛越競技に活躍第五位獲得。
- 7 同
- 8 秋田縣能代町
- 9 大正三年 一月一日
- 10 一七一・五種 六一・九種
- 11 秋田縣能代町
- 12 能代小學校

7 前秋田縣能代町主將として縣下中等學校劍道大會に於て常勝の記録を挙げ、現二段を有し昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手として奮闘す。

佐々木五郎 (陸上)

- 1 東京神田區中央大學内
- 2 青森縣西津輕郡川村町
- 3 明治四十年 五月十五日
- 4 一七九種 六一・九種
- 5 五所川原農學校 中央大學
- 6 元中央大學競技部選手にて、四百八百米を得意とす。其他大學専門學校傳レリスに三回出場。又日本學生陸上競技聯合會東學生陸上競技聯盟各役員を勤め、母校競走會委員たり。
- 7 元中央大學競技部選手にて、四百八百米を得意とす。其他大學専門學校傳レリスに三回出場。又日本學生陸上競技聯合會東學生陸上競技聯盟各役員を勤め、母校競走會委員たり。

澤田忠次 (柔道)

- 1 東京小石川區大塚高師寄宿舎
- 2 北海道利尻郡善形村
- 3 明治四十一年 一月一日
- 4 一七三種 八二・五種
- 5 善形小學校 札幌師範 東京高師
- 6 昭和二年大塚主催全國中等學校相撲大會に、札幌師範の大將として出場優勝。又全道柔道選手權大會に覇權を握る事二回に及ぶ。現東京高師柔道部選手にて、日下段三の強豪選手。
- 7 同
- 8 岩手縣盛岡市
- 9 盛岡市岩手醫專寄宿舎内

佐々木義廣 (ラグビー)

- 1 盛岡市岩手醫專寄宿舎内

才木克己 (野球)

- 1 臺北市臺北交通局内
- 2 廣島縣
- 3 明治三十七年
- 4 一七〇種 六四・六種
- 5 廣島一中 山口高商
- 6 臺北交通局
- 7 中學時代より外野手として其愉快なる好守を以て知らる。現臺北交通局外野手にて、都市對抗戦には臺灣代表となり屢々出場力闘す。日下同局鐵道部工作課勤務。

佐藤興喜男 (陸上)

- 1 樽太泊居町
- 2 新潟縣
- 3 明治四十三年 六月十七日
- 4 一六七種 六七・五種
- 5 新發田商業 大泊教員講習所
- 6 泊居町小學校
- 7 商業時代より競技部選手として縣下中等陸上競技界に雄飛。昭和六年第六回神宮大會、同七年同大會に縣聯合青年團選手として走幅跳及繼走に出場健闘。
- 8 同
- 9 吳市
- 10 明治四十一年
- 11 一六四種 六〇種
- 12 吳工業學校
- 13 吳工廠
- 14 全吳一級選手にて其確實無比の守備を以て同軍の十九年の榮ある傳統を

坂田格 (野球)

- 1 吳市工廠内
- 2 同
- 3 明治四十一年
- 4 一六四種 六〇種
- 5 吳工業學校
- 6 吳工廠
- 7 全吳一級選手にて其確實無比の守備を以て同軍の十九年の榮ある傳統を

誇る。都市對抗戦に出場する事前後三回、因に同氏命第は中等球界の古豪廣陵中學の投手たり。

坂本正一 (陸上)

- 1 仙臺市片平町
- 2 同
- 3 明治四十五年 七月二十一日
- 4 一五九・五種 五七種
- 5 仙臺工業學校
- 6 東北帝國大學
- 7 工業時代より競技部短距離選手として奮闘し、昭和八年第七回明治神宮體育大會に縣聯合青年團選手に推舉され百米及千米連続走に出場す。現東北帝國大學研究勤務。趣味麻雀登山

佐伯英雄 (庭球)

- 1 東京小石川區大塚高師寄宿舎
- 2 宮崎縣高千穂町三田井
- 3 明治四十三年 二月十一日
- 4 一六四種 五七種
- 5 宮崎師範 東京高師
- 6 昭和四年宮崎師範庭球部主將として縣下に活躍。全九州大會四日本大會團體に何れも優勝す。現東京文理大庭球部主將として健闘す。趣味文學

佐藤茂 (柔道)

- 1 東京小石川區東京高師寄宿内
- 2 千葉縣岩井町小浦一七一
- 3 明治四十四年
- 4 一六四種 六七・五種

7 前安房中學柔道部主將。現文理大柔道部主將にて、昭和八年六月滿洲對學生軍との試合に出場す。日下講道館四段。趣味尺八

佐々木健孝 (庭球)

- 1 東京京橋區銀座四二丁目五
- 2 熊本縣阿蘇郡白水村
- 3 明治四十三年 九月二十八日
- 4 一六四種 五四・四種
- 5 白水小學校 唐津中學
- 6 下谷區役所 區役所クラブ
- 7 北九州の雄唐津中學庭球部主將として活躍し、昭和二年北九州實業庭球大會に出場優勝す。現在下谷區役所庭球代表選手。

齋藤茂助 (柔道)

- 1 東京本所區東町三ノ三
- 2 長野縣上水内郡上郷村
- 3 大正二年 一月十二日
- 4 一六八・五種 六九・四種
- 5 長野商業 早稲田大學
- 6 講道館
- 7 長野商業柔道部主將として縣下に鳴らし、現在講道館二段。早大柔道部の猛者にて早慶戦各種大會に出場活躍す。趣味聲樂

佐藤藤 (ラグビー)

- 1 横濱中區西町三ノ五九
- 2 仙臺市五番町
- 3 明治三十五年 一月十日
- 4 一七六種 六一・九種

6 東京瓦斯電氣工業會社
7 日大鐵道部選手としてインマイカレツデレガタマに出場奮闘す。現在東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部FWとして東都實業ラグビー界に活躍す。

佐々木重夫 (野球)

- 1 東京杉並區高圓寺二ノ三八
- 2 鹿兒島市旭町
- 3 明治三十二年 五月十日
- 4 一七〇種 六六・五種
- 5 旭町小學校 鹿兒島工業
- 6 サツボロビル會社
- 7 鹿兒島工業野球部投手として九州中等野球界に活躍はれ、現在大日本麥酒本社に勤務。同社野球部主戰投手として強肩と強打とを以て知らる。趣味園藝尺八

佐藤正雄 (野球)

- 1 東京澁野川區田端町六一五四段會内
- 2 米澤市
- 3 大正二年 六月二十七日
- 4 一六一種 六〇・七種
- 5 米澤北部小學校 米澤商業
- 6 上野驛
- 7 米澤商業野球部投手。東北の古豪として、全國中等野球大會獲選、選抜中等學校東北選等に出場、中にも俊星秋田中學との對戦に非常なる善戰す。又スキーパーとして知らる。

佐伯四郎 (野球)

- 1 東京下谷區谷中初音町四丁目
- 2 山口縣岩國町
- 3 明治三十六年 二月二十日
- 4 一六五・五種 六九・四種
- 5 岩國小學校 東京中學
- 6 淺草松屋 松屋運動部
- 7 中學時代自由型百及二百米水泳選手として奮闘。又野球部名捕手として

1 東京本郷區駒込四片町八
2 山形市
3 明治二十五年 七月六日
4 一六四種 五七種
5 早稲田大學
6 帝國生命保險會社 帝生クラブ
7 大正五年早大政科卒業。現在實業陸上競技團の互星帝國生命陸上競技部々長、同社ラグビー部々長にて、同社重役秘書及早稲田大學々友會幹事の要職にあり。趣味スキー

坂田顯次 (庭球)

- 1 東京本郷區駒込四片町八
- 2 山形市
- 3 明治二十五年 七月六日
- 4 一六四種 五七種
- 5 早稲田大學
- 6 帝國生命保險會社 帝生クラブ
- 7 大正五年早大政科卒業。現在實業陸上競技團の互星帝國生命陸上競技部々長、同社ラグビー部々長にて、同社重役秘書及早稲田大學々友會幹事の要職にあり。趣味スキー

佐々木善三郎 (野球)

- 1 東京豊島區池袋一〇五三
- 2 廣島縣三次町
- 3 明治四十年 九月九日
- 4 一六二・五種 六一・九種
- 5 三次小學校 三次中學 日本大學
- 6 東京鐵道局 東鐵野球部
- 7 前三次中學野球部捕手。昭和七年東鐵入り、二塁手として活躍。同八年都市對抗東京第一獲選に、東都の強豪チームを破り、東京俱樂部と對戦す。趣味スキー山岳麻雀

佐伯四郎 (野球)

- 1 東京下谷區谷中初音町四丁目
- 2 山口縣岩國町
- 3 明治三十六年 二月二十日
- 4 一六五・五種 六九・四種
- 5 岩國小學校 東京中學
- 6 淺草松屋 松屋運動部
- 7 中學時代自由型百及二百米水泳選手として奮闘。又野球部名捕手として

ても活躍す。現在松屋草分店文房具部に勤務、松屋野球部捕手兼三塁手にて強肩と強打を以て鳴る。趣味、園芸讀書

佐々竹忠義 (庭球)

- 1 東京淀橋區下落合二ノ六一四
- 2 福島縣中村町
- 3 明治三十七年 三月十一日
- 4 一五九・五五 五四・四九
- 5 中村第一小 相馬中 明大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 相馬中學を経て明大に入る。明大庭球部選手として活躍。昭和二年同校尚科卒業。現在東鐵鐵道俱樂部に屬し、軟球聯盟理事。趣味、剣道、書

齋藤達次郎 (馬術)

- 1 東京豊島區西馬場二ノ二四〇〇
- 2 埼玉縣秩父町
- 3 明治三十七年 十一月七日
- 4 一六八・五五 五八・九九
- 5 山形高校 京都帝國大學
- 6 東京市電氣局 銀行會
- 7 山高時代より馬術の妙手として知られ、京大に入りては馬術部主將として、大いに活躍す。現在市電電線課に勤務。趣味、書、馬術、趣味園芸

齋藤一雄 (水上)

- 1 東京小石川區西古川町一七
- 2 新潟市東大畑通一番町
- 3 明治三十七年 十一月十六日
- 4 一六八・五五 六〇・九

7 早實野球部の名捕手として東都中學に其の強豪を知られ、關西、北海道及び奥羽地方に數度征戰大いに活躍す。投打共に右。目下川崎銀行本店勤務

坂本誠吾 (陸上)

- 1 東京杉並區和泉町三四〇
- 2 兵庫縣龍崎町
- 3 明治三十二年 九月十四日
- 4 一七〇・三二 六〇・九
- 5 青山小學 麻布中學 法大
- 6 愛國生命保險會社 法友クラブ
- 7 大正中學の中華界の雄。大正九年駒場に於ける、國際體技大會選に出場。三段跳(一・二米七六)の當時日本新記録を獲得。同十年第五回極東大會には上海に征戰し、四百米及光臨跳に日本代表に選出され、渡航趣味、野球

齋藤政廣 (ラグビー)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 山梨縣北巨摩郡大泉村
- 3 明治四十三年 十月一日
- 4 一六一・九二 六一・九九
- 5 泉常小學校
- 6 木村屋總本店 木村屋チム
- 7 昭和五年創立せられたる木村屋ラグビー部として昭和七年時事新報主催實業ラグビー大會に出場優勝す。又野球部捕手として強肩を以て知らる

佐藤匡雄 (野球)

- 1 東京中野區沼袋町南二ノ二〇三
- 2 同
- 3 明治三十七年 四月九日
- 4 一六二・五五 五一・三九
- 5 餘町小學校 早稲田實業
- 6 川崎銀行

7 早實野球部の名捕手として東都中學に其の強豪を知られ、關西、北海道及び奥羽地方に數度征戰大いに活躍す。投打共に右。目下川崎銀行本店勤務

佐藤登夫 (陸上)

- 1 東京豊島區西馬場二ノ二四〇八
- 2 麹町區上六番町
- 3 明治四十年 三月三十一日
- 4 一六二・五五 五七・九
- 5 海城中學 明治大學
- 6 常磐生命保險會社 明大業文會
- 7 明大在學中は體技部の重鎮として學生短距離界に活躍し、大正十五年度關東インターカレッジに於て百五十秒九の記録を保持。昭和三年大連に開かれたる日佛體技、朝日主催東西對抗體技等にも百・二百に出場優秀なる成績を挙げ母校の爲萬丈の氣焔を擧ぐ。趣味、ゴルフ

齋藤重廣 (ラグビー)

- 1 東京王子區上十條二ノ二四村山方
- 2 佐賀市末松町
- 3 明治四十年 九月十五日
- 4 一六七・七五 五二・五九
- 5 臺南中學 日本大學
- 6 東京市水道局
- 7 中學時代體技部長距離選手として奮闘し、日大に入りてはポイント及庭球選手として健闘し、後ラグビーF部として活躍す。現在市役所ラグビー部に屬す

佐藤嘉長 (柔道)

- 1 東京芝區通新町二〇
- 2 東京
- 3 明治三十九年 六月・六九
- 4 一七〇・三二 六四・六九
- 5 東京帝國大學
- 6 東大ラグビー部Dとして、東西兩大學對抗戦に活躍し、昭和七年卒業以來學生ラグビーとして奮闘す。趣味、讀書

ても活躍す。現在松屋草分店文房具部に勤務、松屋野球部捕手兼三塁手にて強肩と強打を以て鳴る。趣味、園芸讀書

佐々竹忠義 (庭球)

- 1 東京淀橋區下落合二ノ六一四
- 2 福島縣中村町
- 3 明治三十七年 三月十一日
- 4 一五九・五五 五四・四九
- 5 中村第一小 相馬中 明大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 相馬中學を経て明大に入る。明大庭球部選手として活躍。昭和二年同校尚科卒業。現在東鐵鐵道俱樂部に屬し、軟球聯盟理事。趣味、剣道、書

齋藤達次郎 (馬術)

- 1 東京豊島區西馬場二ノ二四〇〇
- 2 埼玉縣秩父町
- 3 明治三十七年 十一月七日
- 4 一六八・五五 五八・九九
- 5 山形高校 京都帝國大學
- 6 東京市電氣局 銀行會
- 7 山高時代より馬術の妙手として知られ、京大に入りては馬術部主將として、大いに活躍す。現在市電電線課に勤務。趣味、書、馬術、趣味園芸

齋藤一雄 (水上)

- 1 東京小石川區西古川町一七
- 2 新潟市東大畑通一番町
- 3 明治三十七年 十一月十六日
- 4 一六八・五五 六〇・九

7 早實野球部の名捕手として東都中學に其の強豪を知られ、關西、北海道及び奥羽地方に數度征戰大いに活躍す。投打共に右。目下川崎銀行本店勤務

坂本誠吾 (陸上)

- 1 東京杉並區和泉町三四〇
- 2 兵庫縣龍崎町
- 3 明治三十二年 九月十四日
- 4 一七〇・三二 六〇・九
- 5 青山小學 麻布中學 法大
- 6 愛國生命保險會社 法友クラブ
- 7 大正中學の中華界の雄。大正九年駒場に於ける、國際體技大會選に出場。三段跳(一・二米七六)の當時日本新記録を獲得。同十年第五回極東大會には上海に征戰し、四百米及光臨跳に日本代表に選出され、渡航趣味、野球

齋藤政廣 (ラグビー)

- 1 東京京橋區木挽町五ノ二
- 2 山梨縣北巨摩郡大泉村
- 3 明治四十三年 十月一日
- 4 一六一・九二 六一・九九
- 5 泉常小學校
- 6 木村屋總本店 木村屋チム
- 7 昭和五年創立せられたる木村屋ラグビー部として昭和七年時事新報主催實業ラグビー大會に出場優勝す。又野球部捕手として強肩を以て知らる

佐藤匡雄 (野球)

- 1 東京中野區沼袋町南二ノ二〇三
- 2 同
- 3 明治三十七年 四月九日
- 4 一六二・五五 五一・三九
- 5 餘町小學校 早稲田實業
- 6 川崎銀行

7 早實野球部の名捕手として東都中學に其の強豪を知られ、關西、北海道及び奥羽地方に數度征戰大いに活躍す。投打共に右。目下川崎銀行本店勤務

佐藤登夫 (陸上)

- 1 東京豊島區西馬場二ノ二四〇八
- 2 麹町區上六番町
- 3 明治四十年 三月三十一日
- 4 一六二・五五 五七・九
- 5 海城中學 明治大學
- 6 常磐生命保險會社 明大業文會
- 7 明大在學中は體技部の重鎮として學生短距離界に活躍し、大正十五年度關東インターカレッジに於て百五十秒九の記録を保持。昭和三年大連に開かれたる日佛體技、朝日主催東西對抗體技等にも百・二百に出場優秀なる成績を挙げ母校の爲萬丈の氣焔を擧ぐ。趣味、ゴルフ

齋藤重廣 (ラグビー)

- 1 東京王子區上十條二ノ二四村山方
- 2 佐賀市末松町
- 3 明治四十年 九月十五日
- 4 一六七・七五 五二・五九
- 5 臺南中學 日本大學
- 6 東京市水道局
- 7 中學時代體技部長距離選手として奮闘し、日大に入りてはポイント及庭球選手として健闘し、後ラグビーF部として活躍す。現在市役所ラグビー部に屬す

佐藤嘉長 (柔道)

- 1 東京芝區通新町二〇
- 2 東京
- 3 明治三十九年 六月・六九
- 4 一七〇・三二 六四・六九
- 5 東京帝國大學
- 6 東大ラグビー部Dとして、東西兩大學對抗戦に活躍し、昭和七年卒業以來學生ラグビーとして奮闘す。趣味、讀書

ても活躍す。現在松屋草分店文房具部に勤務、松屋野球部捕手兼三塁手にて強肩と強打を以て鳴る。趣味、園芸讀書

佐々竹忠義 (庭球)

- 1 東京淀橋區下落合二ノ六一四
- 2 福島縣中村町
- 3 明治三十七年 三月十一日
- 4 一五九・五五 五四・四九
- 5 中村第一小 相馬中 明大
- 6 東京鐵道局 東鐵クラブ
- 7 相馬中學を経て明大に入る。明大庭球部選手として活躍。昭和二年同校尚科卒業。現在東鐵鐵道俱樂部に屬し、軟球聯盟理事。趣味、剣道、書

齋藤完治 (柔道)

- 1 東京下谷區入谷町一五〇
- 2 酒田市
- 3 明治三十年 九月二十六日
- 4 一五八・三三 六〇・九
- 5 酒田小學校
- 6 警視廳警察官 講道館
- 7 大正九年巡査科。同十二年より現在下谷上野實業柔道部代表選手として、大いに健闘す。現講道館二段。警視廳四級の中。同署の主戦闘士。

佐藤政治 (陸上)

- 1 東京市市出雲町一三
- 2 福岡縣
- 3 明治二十三年 九月二十七日
- 4 一七一・七五 六四・六九
- 5 東大工科
- 6 三井三池鐵業所
- 7 學生時代より庭球部選手として活躍し、大正十五年度全九州トーナメントに出場健闘。同四年東大工學部探検科卒業。現日本庭球協合理事及九州支部幹事たり。目下三交クラブ所屬

坂倉敏三 (ラグビー)

- 1 東京芝區通新町二〇
- 2 東京
- 3 明治三十九年 六月・六九
- 4 一七〇・三二 六四・六九
- 5 東京帝國大學
- 6 東大ラグビー部Dとして、東西兩大學對抗戦に活躍し、昭和七年卒業以來學生ラグビーとして奮闘す。趣味、讀書

警視廳代表選手として出場優勝す。又創造にも勝れ現在二段。警視廳武道大家として著名。趣味將棋。

7 現在警視廳警部補深川四平野警察署勤務。同署創造部代表選手として對署試合警視廳武道大會等に活躍す。

道二段。東京瓦斯電氣工業會社ラグビー部Dとして都下實業ラグビー界に活躍す。

に入りてはラグビー部FW選手として活躍す。趣味キヌマ。

齊藤 徳一 (野球)
1 東京中野區榮町一ノ一
2 東京牛込區原町
3 明治四十二年 三月十二日
4 一六七番 五四・四冠
5 市ヶ谷小學 成城中學 明大
6 拓務省官房會計課 拓務クラブ
7 中學時代陸上部長距離選手。後アイド選手となる。明大入學後野球部に入部外野手たり。昭和六年商科卒業現在拓務省野球部右翼手として知らる。

坂下 秀次 (柔道)
1 東京市葛飾區宮土見町五ノ一六
2 岐阜縣益田郡朝日村
3 明治三十七年 九月十四日
4 一六七番 七四・二冠
5 早稲田大學政經部
6 帝國生命保險會社 九ノ内柔道會
7 早大柔道部の重鎮として東都學生柔道界に活躍し現在帝國生命本社に勤務。九ノ内柔道會員として知らる。趣味讀書、講道館四段。

櫻井 眞二 (ラグビー)
1 東京芝區二本榎町明治學院内
2 臺南市港町
3 明治四十四年 一月十五日
4 一六五・五冠 五七冠
5 明治學院高商部
6 明治學院ラグビー部セタレタリ
7 後日Bとして、全國高專ラグビー大會、昭和六年九月對水高專、同七年十一月對專修大學等に出場活躍す。趣味油畫、アイオリン。

佐々木 利彦 (體操)
1 東京品川區大井日本體操學校
2 長崎縣福江町
3 明治四十四年 十一月二日
4 一五八番 五八・九冠
5 福江小學 五島中學 日本體育會體操學校
6 日本體育會體操學校
7 昭和七年第十回オリムピク大會に我國體操代表選手として出場日本選手として最高の記録を獲得す。現在母校の教授たり。昭和八年第七回神宮大會には機械體操全日本選手權を獲得す。

佐藤 義夫 (野球)

1 東京東區明治屋ビル八階
2 東京港區上通四ノ二七
3 大正三年 四月一日
4 一五六・五冠 四八冠
5 大和田小學 成城中學
6 中央學
7 中學時代創造選手。現在中央學野球チーム名二疊手として東都軟式野球大會に出場活躍球捌きの妙と好打を以て鳴る。趣味撞球。

佐藤 常雄 (柔道)

1 東京牛込區若松町一三一
2 三重縣一志郡小野江村
3 明治三十四年 五月二日
4 一六二・五冠 五八・九冠
5 小野江小學 三重中學 中央大學
6 警視廳警察官 警視廳
7 九ノ内警察署勤務。同署柔道部代表選手として對署試合に出場優勝し武道大會には個人賞を獲得し常に華々しき戦跡を印す。趣味書畫

佐藤 忠男 (野球)

1 東京中野區法政大學部合宿内
2 東京市
3 大正元年
4 一七〇番 六〇冠
5 早稲田實業 法政大學
6 早稲田實業
7 早實野球部名一疊手として關西鳴尾に健闘し、現法政野球部々員として活躍す。

佐々木 鐵郎 (野球)

1 東京淀橋區早稲田大學野球部
2 北海道
3 明治四十五年
4 一七〇番 六〇冠
5 室蘭中學 早稲田大學
6 室蘭中學
7 中學時代投手。早大に入りては投手としてリーグに活躍。昭和七年秋には十割の守備率と(二割八分六厘)の打率を挙げ。

三枝 喬 (劍道)

1 東京葛飾區本田藤原町三三二
2 山梨縣東山梨郡諏訪村
3 明治十八年 六月十一日
4 一六七番 六四・六冠
5 山梨縣諏訪村小學校
6 警視廳警察官 警視廳

佐藤 孝 (ラグビー)

1 東京蒲田區六郷町三六一
2 盛岡市
3 明治三十四年 三月六日
4 一六二・五冠 六一・九冠
5 岩手工業 東京高工
6 東京瓦斯電氣工業會社
7 高工在學中は柔道及相撲部選手柔

佐々木 竹直義 (ラグビー)

1 東京淀橋區下落合二ノ六一四
2 福島縣中村町
3 明治四十三年 十月十六日
4 一六八・五冠 七六・九冠
5 中村第一小學 相馬中學 明大
6 仙臺鐵道局 鐵道クラブ
7 相馬中學時代野球部外野手。明大

才野 進 (野球)

1 吳市吳工廠内
2 廣島縣
3 明治三十五年
4 一六二・七冠 五七冠
5 吳海城中學

6 吳工廠
7 中學時代より捕手にて、現全吳の捕手として、都市對抗戦に中國四國代表となり出場する事二回、同軍の柱石選手たり。

7 岩手縣ラグビー部TBとして、昭和七年十月對東北學院戦、對秋田鐵道戦に優勝。東北ラグビー界に君臨す。趣味讀書

7 昭和五年村松中學卒業。在學中競技選手たり。現東京高師籃球部選手として健闘す。

3 明治四十三年 九月四日
4 一六四番 六四・六冠
5 興讓小學校 米澤商業 日大
6 元米澤商業柔道部主將として、縣下に其勇名を轟はる。現日本大學柔道部猛者に目下三段。

佐藤 來四郎 (野球)
1 宇都宮運輸事務所内
2 栃木縣那須郡上江川村
3 明治二十九年 九月二十六日
4 一六五・五冠 六七・五冠
5 上江川小學校 下野中學
6 宇都宮縣
7 宇都宮クラブマネジャーであり一疊手。十五年間主將として宇都宮クラブを今日斯くあらしめたる人。趣味釣

坂田 全 (野球)
1 函館市税關内
2 函館市
3 明治四十一年
4 一六四番 五七冠
5 小樽商業 小樽高商
6 函館税關 函館太平洋俱樂部
7 高商時代二疊手。現北海の雄太平洋クラブ外野手にて、第六回及昭和八年第七回都市對抗戦に出場健闘す。

榊 末久 (野球)
1 東京豊島區立大野球部合宿内
2 沼津市
3 大正元年
4 一七三番 六一・九冠
5 村松中學 東京高師
6 沼津市
7 沼津中學外野手として縣下大會に健闘。現立教大學野球部員。

廻口 伸三 (野球)
1 東京杉並區明大野球部合宿所
2 和歌山縣
3 明治四十五年
4 一六七番 六〇冠
5 和歌山商業 明治大學
6 和歌山商業
7 明大野球部外野手としてリーグに活躍。愉快なるプレーヤーとして知らる。

澤本 仁行 (野球)
1 東京豊島區立大野球部合宿所
2 千葉縣
3 明治四十四年
4 一六四番 五七冠
5 千葉中學 立教大學
6 千葉中學
7 千葉中學の三疊手で縣下中等野球大會に活躍。立大に入りては二疊手としてリーグに健闘。球捌きの妙と好打を以て鳴る。

三瓶 忠 (ラグビー)
1 盛岡市岩手醫專寄宿舍内
2 盛岡市置賜町
3 明治四十二年 六月十日
4 一七〇番 六四・六冠
5 會津中學 岩手醫專
6 岩手醫專ラグビー部Fとして昭和七年十月對東北學院對秋田鐵道戦に優勝。東北ラグビー界を風靡す

笹尾 綾太郎 (野球)
1 東京中野區法政大學部合宿所
2 德島縣
3 明治四十四年
4 一六一番 五七冠
5 德島商業 法政大學
6 德島商業
7 商業時代投手。現法政大學野球部二疊手として、六大學リーグに活躍。愉快なるプレーヤーとして知らる。

佐藤 五郎 (柔道)
1 東京府下青梅町倍直海野方
2 米澤市立町

坂本 正雄 (ラグビー)
1 盛岡市加賀野新小路
2 同
3 明治四十三年 六月十三日
4 一六七番 六一・九冠
5 盛岡中學 岩手醫專

佐渡 理三郎 (庭球)
1 臺北市古亭町一八七津田方
2 富山縣小杉町
3 明治三十六年 九月十四日
4 一六七番 六四・二冠
5 北海道帝大農科 臺北帝大
6 大正十三年秋對小樽高商戦に主將として出場活躍。趣味讀書撞球

佐藤 五郎 (柔道)
1 東京府下青梅町倍直海野方
2 米澤市立町

シノ部

獅子内 謙一郎 (野球)

盛岡市志家第六割内加賀小路
對手縣出身。盛岡中學を経て明治四
十二年早大商科卒業。同三十六年早
慶第一回戦に中堅手として出場。五
番打者に抜擢され強打を揮ふ。第三
回戦には三疊手。第四回右翼手リ
フティングマンとなる。當時早大全
盛時代に明治三十七年春秋兩季を
通じて全勝。雲山萬里を隔つる米國
遠征に向ふ壯圖と化せる淵源となる
翌三十八年球界空前の壯舉に上り七
勝十九敗の成績なるも、我球界創業
期に多大の効果を収む。本邦野球界
の先驅者たると同時に早大野球部の
功績者。

清水 善造 (庭球)

兵庫縣御影町上ノ山一六七
三井生命大阪支店
明治二十四年群馬縣其輪町に生る。
箕輪小學高崎中學を経て東京高商卒
業。日本の生んだ世界的選手にて、
大正六年印度カカツタの三井物産
社員としてベンガル選手権を獲得
後英國に轉勤。一九二六年世界最古
の歴史を持つウィンブルトン大會に
出場米國の大立物ナルデンと準決勝
に大接戦を演じ一躍世界庭球家の列
に加はる。同十年熊谷一彌柏尾誠一
郎氏と共に日本代表としてデヴィス
戦に参加。デ孟所有者米國に挑戦世

庄司 彦雄 (レスリング)

東京澁谷區戸塚町三一三
早稲田大學講師
レスリング選手として著名。大正九
年早大商科卒業。講道館柔道五段。
ロサンゼルスに南加道場を創立。
海外に我武道の眞髓を普及。母校レ
スリング部創設と同時にコーチチャ
ーとして斯道發達に努む。同競技の權
威者にて著書「レスリング」は斯界
の好資料として重寶さる。

島蘭順次郎 (體育)

東京本郷區駒込千駄木町五〇
東大教授
明治十年和歌山に生る。舊姓須藤。
同三十八年東大醫科卒業。翌年陸軍
二等軍醫に任ぜられ、同四十四年内
科醫學研究に邁進し留學。大正二年同
山醫學教授となり、同五年醫學博士
となる。同年東大醫科教授となり、
同十三年東大教授に就任。島蘭内科
として廣く社會に名譽を以て知らる
又スポーツ醫學の權威者たり。

清水 楊之助 (ゴルフ)

東京麹町區一番町二七
三河セメント會社社長
明治三十年十月十五日千葉縣に生る
同四十五年慶大理財科卒業。現清水
組有限社員及日本耐火スレート社長
又程ヶ谷武藏野各カンツリクラブ
員にして、現東京ゴルフクラブ所屬

鹽澤 昌貞 (滑艇)

東京澁谷區戸塚町七二六
早稲田大學政治經濟部部長
明治三年十月茨城縣に生る。同二十
四年早大農政科卒業。米國各國に遊
學し明治四十二年法學博士の學位を
受く。現早大總務部庶務課の副課長
及滑艇協會副東支部長にて母校教授
専門學校教授、早大理事、維持員、
評議員等の要職にあり只管學園向上
に盡力す。稲門親友會員

清水 鱗一 (スキー)

東京澁谷區戸塚早大スキー部
大正元年新潟縣妙高に生る。高田中
學を経て早大商學部に在學。中學時
代昭和四年二月第一回全國中等學校
スキー大會(十基米)に第二位、同
五年二月大野の第八回全日本大會に
も入賞す。同年四月早高に入學。同
六年一月第四回學生大會(四十基米)
に第二位、ルベチャカツプ學堂滑降
レースに優勝同年二月第九回全日本
大會(五十基米)第三位を占む。此
時第三回冬季オリムピック大會に選
出されしも年齢不足の爲め保留。同
七年一月第五回學生大會(五十基米)
第二位、同八年一月第六回學生大會
(五十基米)第二位、同年二月第十一
回全日本大會(五十基米)に優勝マ。
同九年二月スイス國ウィングンに開
催されし第十回萬國學生スキー大會

正力 松太郎 (柔道)

東京芝區三田四國町二ノ一
講道館評議員
明治十八年富山縣に生る。同四十四
年東大文科卒業。後警視廳に入り多
年刑事方面に携り、官房主事に昇進
其敏腕を揮ふ。大正十三年職を辭し
讀賣新聞社に入り、新鋭讀賣の基礎
を築き今同社社長の職にあり。最近
特にスポーツ記事に目醒しき發展振
りを示す。昭和六年秋米國一流野球
選手を招聘し、又同八年佛國三疊豪
を聘し我學園界に不尠貢獻を盡す。
只管我國のスポーツ向上發達に専心
す。又柔道は講道館五段。

下村 海南 (體育)

兵庫縣西宮市吉樂園大
日本體育協會監事
本名宏。明治八年和歌山縣に生る。
同三十一年東大文科卒業。後逕信行
に入り貯金局長を経て大正五年臺灣
總督府總務局長官に進み、同十年辭職
す後大阪朝日新聞に入社海南と稱し
頗る著書多し。同八年法博號を得。
現朝日新聞副社長の要職にあり。

鹽谷 温 (劍道)

東京小石川區久野町七四
全日本學生劍道聯盟顧問
明治十一年七月東京に生る。同三
十五年東大文科卒業。舊獨支各國に
留學し歸朝後東大教授に任命され文
學博士の稱號を受く。現在學習院講

シノ部

一

師及東大教授の要職にあり。又明治神宮體育會評議員をも兼ね。我國に於ける國文學の泰斗。趣味武道を嗜む。

斯波孝四郎 (ゴルフ)

東京牛込區納戸町二六。日本光學工業會社長。明治八年一月石川縣に生る。野波忠三郎男爵の弟。同三十二年東大工科(造船科)卒業。三菱造船に入所現に其當務取締役たり。又東京ゴルフクラブ所屬のゴルフアー、目下ハンデ一二十五。

莊田達彌 (陸上)

東京小石川區林町五〇。三菱造船研究所長。東京出身。明治三十七年東大工學部造船科卒業。同三十四年我國陸上競技界の草創期に於ける東大運動會にて、四百米(五八秒)に出場榮位を獲す。本邦競技界に於ける先覺者又當時野球王國帝大野球部選手として活躍す。

清水健太郎 (野球)

東京京橋區木挽町九ノ三二。東大附屬病院青山外科。昭和四年東大醫科卒業。大正十四年秋季にリーグ加盟當時名投手東武雄氏の捕手として活躍。同部の強打者にてリーグ加盟最初に本塁打を飛ばし同部の重鎮として健闘す。

篠崎仁平 (劍道)

京城市西大門町一ノ一六四

大日本武徳會劍道教士。元治元年五月埼玉に生る。警視廳に於て小野派一刀流及武藏流を究む。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

重松秀一 (劍道)

佐賀市水之江町。大日本武徳會劍道教士。明治十五年八月佐賀に生る。範士納富教雄氏に就き戸田流を究む。昭和三年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

志賀矩 (劍道)

大阪市住吉區住吉町二五八。大日本武徳會劍道教士。明治十四年六月鹿児島に生る。武徳會に於て新陰流を修む。大正十二年六月本部より教士の稱號を授與さる。

繁田武平 (劍道)

埼玉縣豊岡町黒澤五三。大日本武徳會劍道教士。慶應三年二月埼玉に生る。小野派一刀流を専攻す。大正十年九月武徳會本部より教士の稱號を授與せらる。

島崎千里 (野球)

東京京橋區柏木三ノ三八六。日本生命保險會社に出生。七高を経て昭和四年東大經濟科卒業。高校時代進撃手にて東大に入りては内野手として大正末期より昭和初期に帝大軍の爲めに健闘す。

め宮内省皇族警察劍道教士として轉進。大正十四年武徳會劍道教士として其技を認めらる。

柴田勸 (劍道)

東京市四谷區南信濃町四。大日本武徳會劍道教士。明治二十年六月東京に生る。範士柴田衛守氏に就き鞍馬流の奥儀を究む。大正十四年六月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

島田喜之助 (劍道)

甲府市元町一三五。大日本武徳會劍道教士。明治十二年六月栃木に生る。有信館本部に於て神道無念流を修む。大正十四年六月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

島田兵記 (劍道)

福島縣信夫郡清水村森合。大日本武徳會劍道教士。明治元年十二月福島に生る。有信館本部に於て北辰一刀流及神道無念流の兩流を究む。昭和二年五月武徳會本部より教士の稱號を授與さる。

志田三郎 (劍道)

栃木縣足尾町中才宿所内。古河鐵業會社足尾鎮山。明治三十六年千葉縣に生る。昭和四年早大經濟部卒業。前早大劍道部大將として、東都學生劍道界に雄飛す。又武徳會より精練證を授與せられし創豪。

道專門學校教師に任命さる。同十五年五月範士の稱號を授與せらる。昭和四年五月御大禮試合には榮譽ある指定選手並に審判員として出場の光榮に浴す。

白石琢二 (ゴルフ)

東京芝區三田功進町一。山元オブライト會社事務取締役。明治三十年七月十一日出生。大正七年小樽高商に入學。翌年米國ハーバート大學に留學。歸朝後大正十二年小樽高商卒業。現白石同族有限社員及東京ゴルフクラブ所屬のゴルフアー。趣味野球柔道。

鹽崎觀三 (ゴルフ)

東京中野區小瀧町三七。英國大使館附。明治二十七年四月三日兵庫縣に生る。大正七年東京高商卒業。外交官となり上海香港各總領事館に歷任。後米國大使館附に累進。昭和三年外務書記官に任補され現英國大使館附一等書記官又東京ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルフアー。ハンデ一十七。

下遠英三郎 (スキー)

東京品川區大井體操學校。秋田縣大館町。大正二年一月十六日。一五八釐。五七釐。大館中學。日本體育會體操學校。小學五年生よりスキーを研究。全縣小學校、全縣中等學校スキー大會

四戸泰助 (劍道)

京都市川端九太町下ル東入。大日本武徳會劍道教士。明治二十六年三月岩手縣に生る。武徳會本部に於て北辰一刀流を修む。大正十五年五月教士の稱號を授與さる。

清水庸三郎 (劍道)

滿洲國新京町二ノ十二號官舎。大日本武徳會劍道教士。明治十九年四月大分に生る。武徳會本部に於て心形刀流を専攻す。昭和三年五月教士の稱號を授與さる。

志甫周平 (柔道)

富山市千石町。大日本武徳會柔道教士。明治三十三年十月富山縣に生る。武徳會及講道館に於て修行。昭和三年七月武徳會より教士號を授與さる。五段。

下河邊行敬 (劍道)

朝鮮羅南本町八九。大日本武徳會劍道教士。明治元年十二月秋田縣に生る。武徳會本部に於て武藏九二刀流を修む。大正十五年七月本部より教士の稱號を授與さる。

島利吉 (柔道)

高松市古新町。大日本武徳會柔道教士。明治二十七年七月香川縣に生る。昭

篠原秀吉 (柔道)

和四年五月武徳會より教士號を授與さる。武徳會五段。前橋市曲輪町一〇五。大日本武徳會柔道教士。明治十九年一月群馬縣に生る。昭和二年五月武徳會より教士號を授與さる。講道館五段。

十文字信雄 (野球)

京城市大宮區電氣會社内。京城電氣會社。明治三十八年宮城縣に出生。山形高校を経て昭和五年東大經濟科卒業。高校時代より外野手にて昭和初期の六大學リーグに健闘す。

柴田享一 (馬術)

神戸市下山町三ノ一〇。日本國際馬術協會評議員。明治二十五年六月神戸に生る。大正五年關西學院高等部卒業。亡父の遺業を繼承し馬具製造販賣に従事し、現に同縣の多額納稅者たり。趣味乗馬。

白石多士良 (ゴルフ)

東京麻布區飯倉町四ノ二二。小松製作所取締役。明治二十年十月出生。同四十五年東大工科(土木科)卒業。諸會社の重役及東大工學部講師等を歴勤し現在に至る。又東京ゴルフクラブ所屬のゴルフアーにて、目下ハンデ一十三

莊清彦 (ゴルフ)

東京麻布區外町一〇六。三愛商會社。明治二十七年十一月出生。大正九年東大經濟部卒業。後三愛造船社長時造船所より現三愛商會に轉ず。又ゴルフを好み現在東京ゴルフクラブ所屬のアマチュアゴルフアー。目下ハンデ一二十三。

城川ひさ (陸上)

北海道江別町字野幌兵村。北海道人。明治四年北海道に生る。札幌市北海高女在學中昭和六年六月北海道選手權大會砲丸投に九米三七の記録を作す。同七年第二回北海女子陸上競技選手權大會に九米四六の好記録を占め、昭和七年砲丸投女子ベストテン第二位を獲得。

篠崎兼二 (漕艇)

兵庫縣武庫郡住吉村大藏。兵隊會社社地所課長。住友會社社地所課長。明治十五年鹿児島に生る。早大船艇部創草時代の同部六番手として活躍。同四十二年早大商科卒業實業界に入り目下大阪住友會社社地所課長たり。船門艇友會員。

島谷八十八 (劍道)

奈良市油木町二五。大日本武徳會劍道教士。明治三年鹿児島に出生。村井光智、佐瀬政春氏に就き北辰一刀流を究む。大正五年教士號受領、同九年一月武